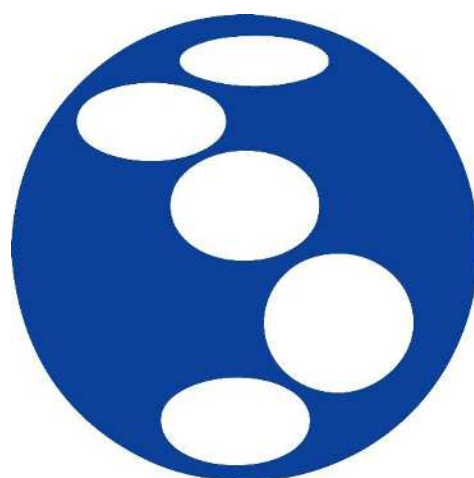


西海市 一般廃棄物処理基本計画 (改定版)



令和8年3月

西海市

<目次>

| | |
|----------------------------------|----|
| 第1部 計画の概要 | 1 |
| 第1章 計画の概要 | 1 |
| 第1節 計画策定の趣旨..... | 1 |
| 第2節 基本計画の位置付け..... | 3 |
| 第3節 計画の期間..... | 4 |
| 第4節 計画の範囲..... | 5 |
| 第5節 用語の定義..... | 6 |
| 第2章 地域の概要と将来構想 | 7 |
| 第1節 位置及び地勢..... | 7 |
| 第2節 沿革..... | 8 |
| 第3節 人口及び世帯数..... | 9 |
| 第4節 産業..... | 10 |
| 第5節 西海市の将来構想..... | 11 |
| 第2部 ごみ処理基本計画 | 15 |
| 第1章 国・県のごみ処理行政の動向 | 15 |
| 第1節 国の関係法令・計画・方針等..... | 15 |
| 第2節 全国のごみ処理の状況..... | 23 |
| 第3節 長崎県の関連計画..... | 26 |
| 第4節 長崎県のごみ処理の状況..... | 30 |
| 第2章 ごみ処理・処分の現状と課題 | 33 |
| 第1節 管理・運営体制..... | 33 |
| 第2節 収集・運搬状況..... | 35 |
| 第3節 排出抑制・リサイクルへの取組み状況..... | 38 |
| 第4節 ごみ処理・処分施設の状況..... | 40 |
| 第5節 ごみ処理・処分状況..... | 43 |
| 第6節 ごみ処理の課題..... | 58 |
| 第3章 人口及びごみ排出量等の将来予測 | 60 |
| 第1節 人口の将来予測..... | 60 |
| 第2節 ごみ排出量の将来予測..... | 62 |

| | |
|----------------------------------|------------|
| 第4章 ごみ減量化等目標 | 64 |
| 第1節 ごみ減量化等目標..... | 64 |
| 第2節 国等の目標値..... | 66 |
| 第5章 ごみ処理基本計画 | 67 |
| 第1節 基本方針..... | 67 |
| 第2節 ごみの処理主体..... | 68 |
| 第3節 排出抑制・再資源化計画..... | 69 |
| 第4節 ごみの排出量の見込み..... | 75 |
| 第5節 収集・運搬計画..... | 76 |
| 第6節 中間処理計画..... | 78 |
| 第7節 最終処分計画..... | 80 |
| 第8節 広域化計画..... | 81 |
| 第9節 その他の計画..... | 81 |
| 第3部 生活排水処理基本計画 | 86 |
| 第1章 国・県のし尿処理行政の動向 | 86 |
| 第1節 国におけるし尿処理行政の動向..... | 86 |
| 第2節 長崎県におけるし尿処理行政の動向..... | 92 |
| 第2章 生活排水処理の現状と課題 | 96 |
| 第1節 水環境の現況..... | 96 |
| 第2節 生活排水処理の現状..... | 98 |
| 第3節 生活排水処理の課題..... | 110 |
| 第3章 人口及びし尿・汚泥量の将来予測 | 111 |
| 第1節 生活排水処理形態別人口の将来予測..... | 111 |
| 第2節 し尿・汚泥量の将来予測..... | 112 |
| 第4章 生活排水処理基本計画 | 114 |
| 第1節 生活排水処理計画..... | 114 |
| 第2節 し尿・浄化槽汚泥の処理計画..... | 121 |
| 資料編 | |
| 第1編 ごみ編..... | 資料一 1 |
| 第2編 生活排水編..... | 資料一20 |
| 第3編 市民アンケート調査報告書（概要）..... | 資料一33 |

第1部 計画の概要

第1章 計画の概要

第1節 計画策定の趣旨

これまでの廃棄物処理は、廃棄物を適正に処理することにより、生活環境を保全し、公衆衛生の向上を図ることに主眼を置いてきました。しかし、私たちの生活が豊かになるとともに、ごみは質的に多様化し、その排出量は増加し続け、適正処理の困難性や最終処分場の確保難、自治体財政の逼迫等、市町村レベルでの問題が深刻化し、ひいては、資源の枯渇や地球温暖化といった地球規模での環境問題にも影響を及ぼしています。そこでこれらの問題を解決するため、私たちのライフスタイルや経済活動の見直し等、資源を大切にす循環型社会の実現を目指す動きが活発になっています。

また、生活排水は、人が日常生活を行う過程で発生する汚水であり、大きく分けてし尿又は水洗便所排水と、台所や洗濯、風呂場等からの生活雑排水があります。その処理は公共下水道、コミュニティ・プラント、農業・漁業・林業集落排水施設、浄化槽等の処理施設を整備することによって進められており、これらの施設の利用人口(汚水衛生処理率)は、全国値で90.4%(令和5年度実績)となっています。

しかし、これらの施設が未整備で処理が行われていない地域においては、生活雑排水が直接河川等に流出し、公共用水域の主要な汚濁源となっている状況です。

このような状況を踏まえ、西海市では、ごみの発生抑制や再資源化によって極力ごみの減量化を図り、西海市の実情に適した循環型社会の実現を目指すとともに、生活排水処理の適正化を推進し、排出されるし尿や汚泥を適正に処理することを目的として、西海市一般廃棄物処理基本計画(平成18年4月)(以下、「第1期計画」という。)を策定し、平成23年2月、平成25年3月、平成27年3月、平成28年3月に改訂を行いました。その後、第1期計画が最終目標年度を迎えることに伴い、西海市一般廃棄物処理基本計画(令和3年3月)(以下、「第2期計画」という。)を策定し、それに基づき廃棄物処理を行ってきました。

第2期計画における計画期間は令和3年度から令和17年度までの15年間であり、令和7年度及び令和12年度を中間目標年度としています。

本計画(第2期計画の改定版)は、令和7年度の中間目標年度までの計画の実施状況の検証や新たな取組、社会状況の変化を踏まえ、令和8年度から令和17年度までの計画の見直しを行ったものです。

本計画は、西海市の一般廃棄物（し尿処理・ごみ処理）に関し、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」第6条第1項の規定に基づき、西海市が定める一般廃棄物処理基本計画です。

一般廃棄物処理基本計画とは、長期的・総合的視野に立って、計画的な一般廃棄物処理を推進するための基本方針を立案し、一般廃棄物の発生から最終処分に至るまでの、基本的事項、具体的な施策、処理・処分施設の位置づけを策定するものです。

第2節 基本計画の位置付け

本計画は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律（以下、「廃棄物処理法」という。）第6条第1項」に基づいて策定するものであり、西海市における一般廃棄物処理事業の最上位計画となります。

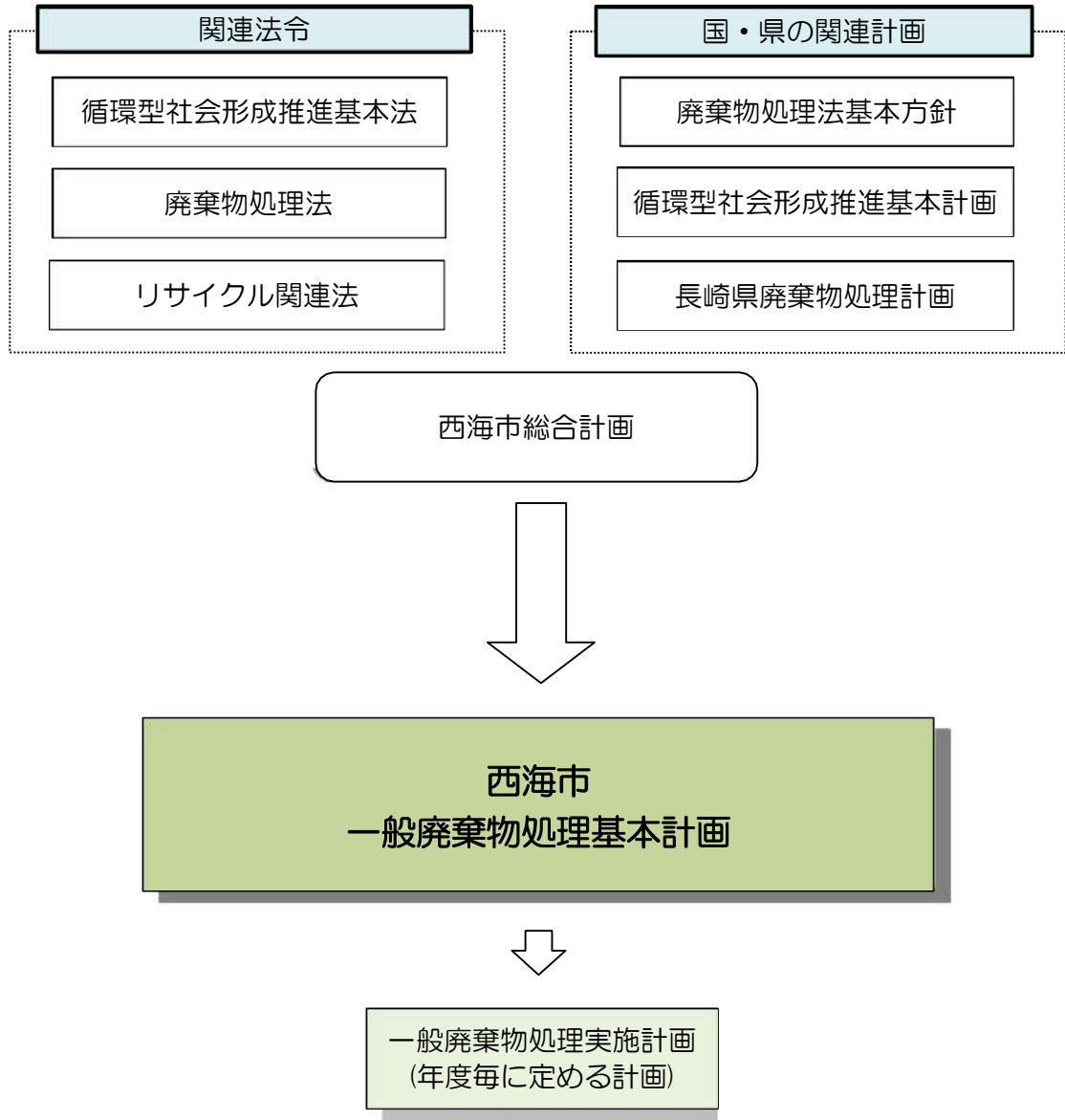


図 1-1-1 一般廃棄物処理基本計画の位置付け

第3節 計画の期間

第2期計画は、令和3年度を初年度とし、令和17年度までの15か年を計画期間とします。なお、概ね5年ごと、又は、ごみ・し尿等の処理・処分に係る諸条件に大きな変化があった場合など、必要に応じて見直しを行うものとします。

本計画は、令和7年度の間目標年度までの計画の実施状況の検証や新たな取組、社会状況の変化を踏まえ、令和8年度から令和17年度までの計画の見直しを行うものとします。

| 項目\年度 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 |
|--------|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 計画策定年度 | ☆ | | | | | ◆ | | | | | | | | | | |
| 計画の期間 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 中間目標年度 | | | | | | ● | | | | | ● | | | | | |
| 最終目標年度 | | | | | | | | | | | | | | | | ● |

☆：第2期計画の計画策定年度、◆：本計画の計画策定年度

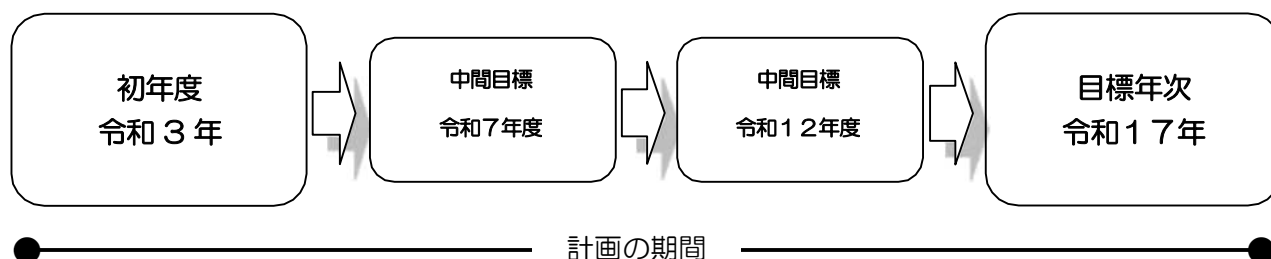
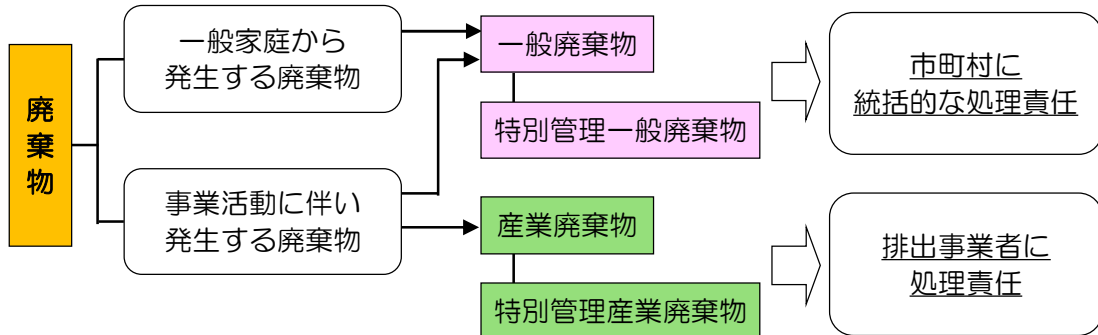


図 1-1-2 計画の期間

第4節 計画の範囲

1. 計画対象の廃棄物

本計画では、市町村の統括的な処理責任に位置づけられている「一般廃棄物」を対象とします。



産業廃棄物（20種類）

①燃え殻 ②汚泥 ③廃油 ④廃酸 ⑤廃アルカリ ⑥廃プラスチック類 ⑦紙くず（建築業、パルプ、紙製造業、新聞業等） ⑧木くず（建設業、木材・木製品製造業等） ⑨繊維くず（建設業、繊維工業等） ⑩動植物性残さ（医薬品製造業等） ⑪動物系固形不要物（と畜場等） ⑫ゴムくず ⑬金属くず ⑭ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず ⑮鉱さい ⑯がれき類 ⑰動物のふん尿 ⑱動物の死体（畜産農業） ⑲ばいじん ⑳①～⑱を処分するために処理したものであって、これらの廃棄物に該当しないもの

（資料）環境省

図1-1-3 計画対象の廃棄物

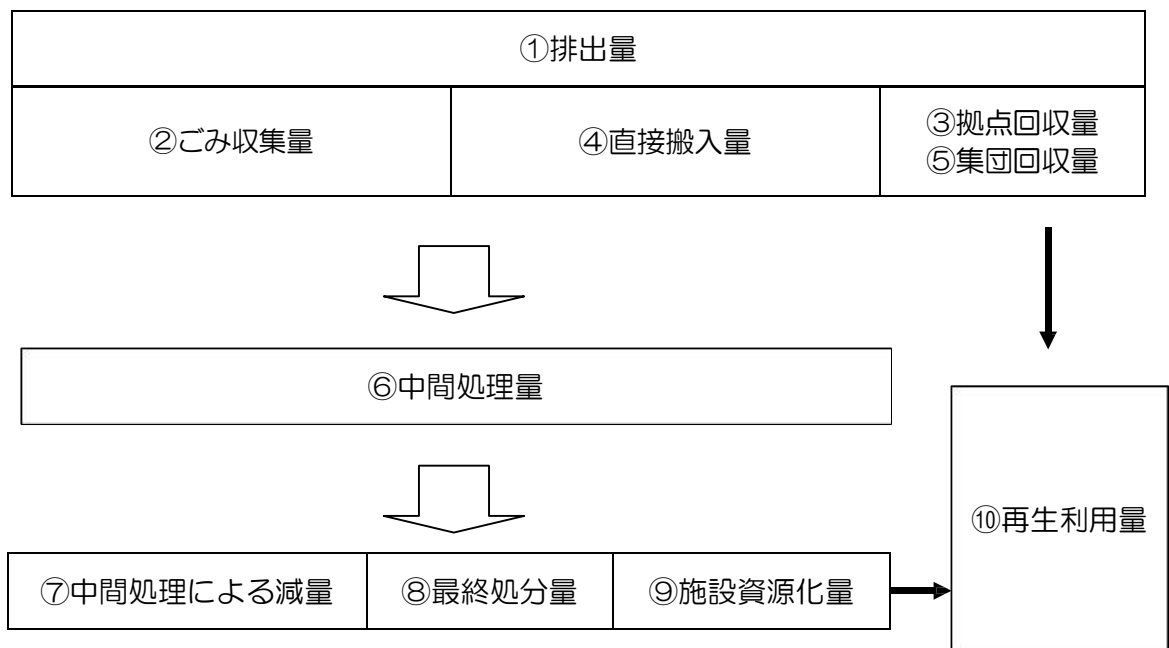
2. 計画対象区域

計画対象区域は、西海市の行政区域内全域を対象とします。

第5節 用語の定義

本計画で用いる用語の定義は、以下のとおりとします。

| | |
|------------|--------------------------------|
| ①排出量 | ごみ収集量、直接搬入量、拠点回収量、集団回収量の合計 |
| ②ごみ収集量 | ごみ収集車で市が収集するごみの量 |
| ③拠点回収量 | 拠点に排出され、自治体の中間処理を経ることなく資源化される量 |
| ④直接搬入量 | 自家用車や会社の車で、直接市の施設に持ち込まれるごみの量 |
| ⑤集団回収量 | 自治会等の集団回収活動により回収される資源の量 |
| ⑥中間処理量 | 中間処理施設で処理するごみの量 |
| ⑦中間処理による減量 | ごみを炭化することにより減るごみの量 |
| ⑧最終処分量 | 最終処分場に埋め立てる処理残渣や不燃残渣の量 |
| ⑨施設資源化量 | 市の施設において回収する資源の量 |
| ⑩再生利用量 | ⑩再生利用量 ÷ ①排出量 |
| ⑪リサイクル率 | ⑩再生利用量 ÷ ①排出量 |
| ⑫最終処分量 | ⑧最終処分量 ÷ ①排出量 |



第2章 地域の概要と将来構想

第1節 位置及び地勢

西海市は、長崎市と佐世保市の間である西彼杵半島北部に位置しており、市の東岸部は波静かな大村湾に、西岸部は五島灘と角力灘に面しており、崎戸町の江島・平島、大瀬戸町の松島などの有人島を有しています。

本土は、美しいリアス式海岸を有しており、西海国立公園、大村湾県立公園、西彼杵半島県立公園の3つの自然公園にも指定されています。

西海市の面積は、241.84 km²（令和6年1月1日現在）で長崎県全体の5.9%を占めています。

地目別で見ると、農用地が30.7%、山林地が48.1%、宅地が5.9%、原野11.7%、その他3.6%となっています。

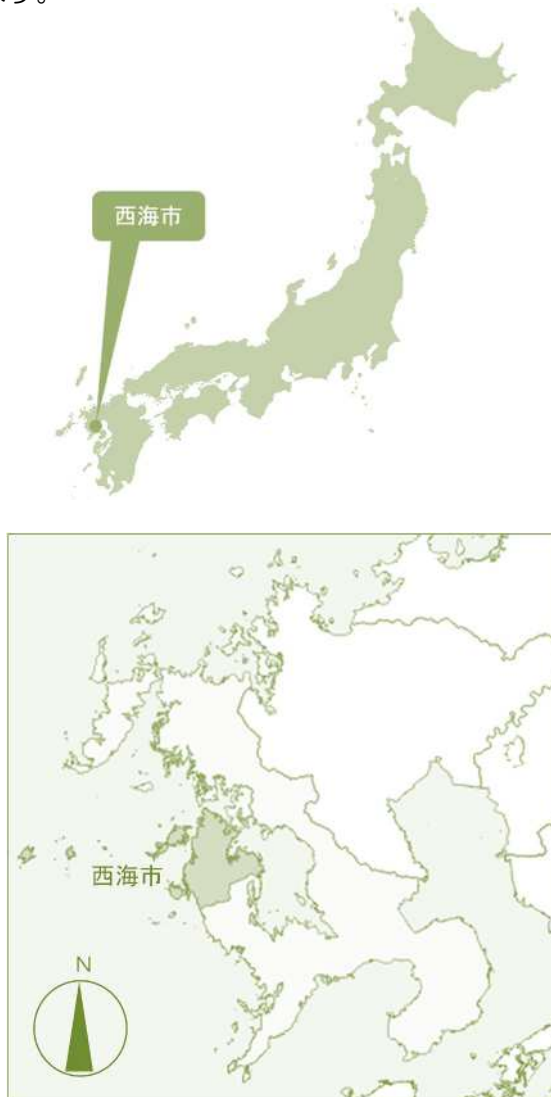


図 1-2-1 西海市位置図

第2節 沿革

西海市は、西彼町、西海町、大島町、崎戸町、大瀬戸町の5つの町が合併し、平成 17 年 4月 1 日に誕生した自治体です。

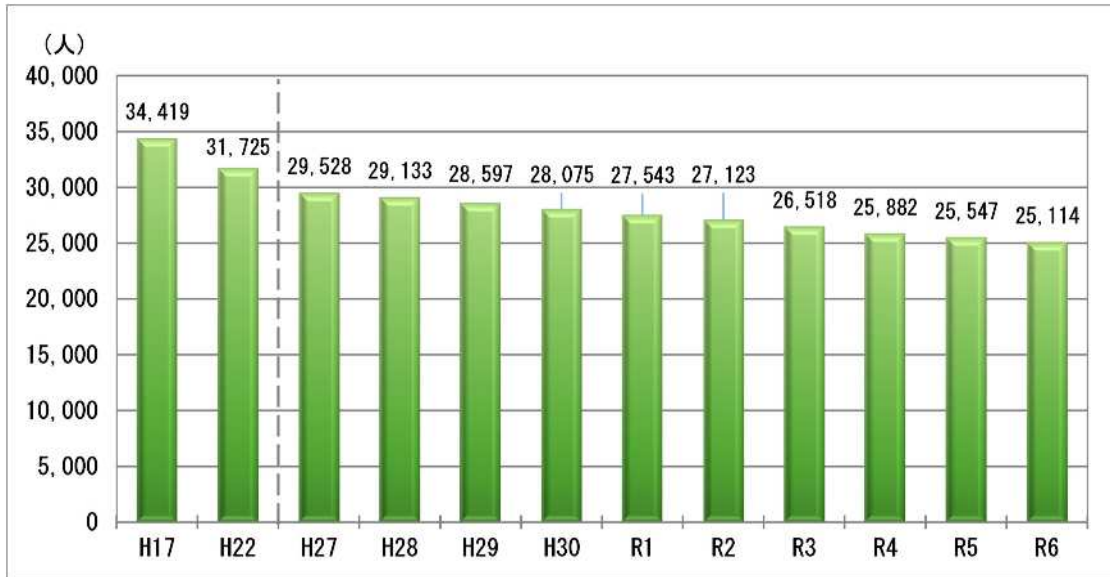
西彼北部の5つの町では、西彼北部5町による新市発足に向け、平成 14 年 12 月 2 日に西彼北部地域合併協議会(それまでは任意合併協議会)を設置し、合併に向けた本格的な合併協議を幾度となく行い、平成 16 年 6 月、5町の合併協定調印式を県知事立ち会いのもと行いました。

その後、5 町すべての議会で配置分合、合併関連議案が決議され、県知事への合併申請、総務大臣の合併了承の回答、県議会の可決を経て、平成 16 年 10 月、総務大臣に対し、廃置分合の届出を行い、正式に西彼北部地域5町の合併が決定。平成 17 年 4 月 1 日に西海市が誕生しました。

第3節 人口及び世帯数

西海市の人口の推移をみると、経年で減少傾向にあり、令和6年度の人口は25,114人です。

世帯数は外国人住民基本台帳登録が始まったことから、平成22年度から27年度にやや増加し、以降はほぼ横ばいで推移しています。また1世帯当たりの平均人員は経年的に減少傾向にあります。令和6年度の世帯数は12,466世帯、1世帯当たりの平均人員は2.0人/世帯です。

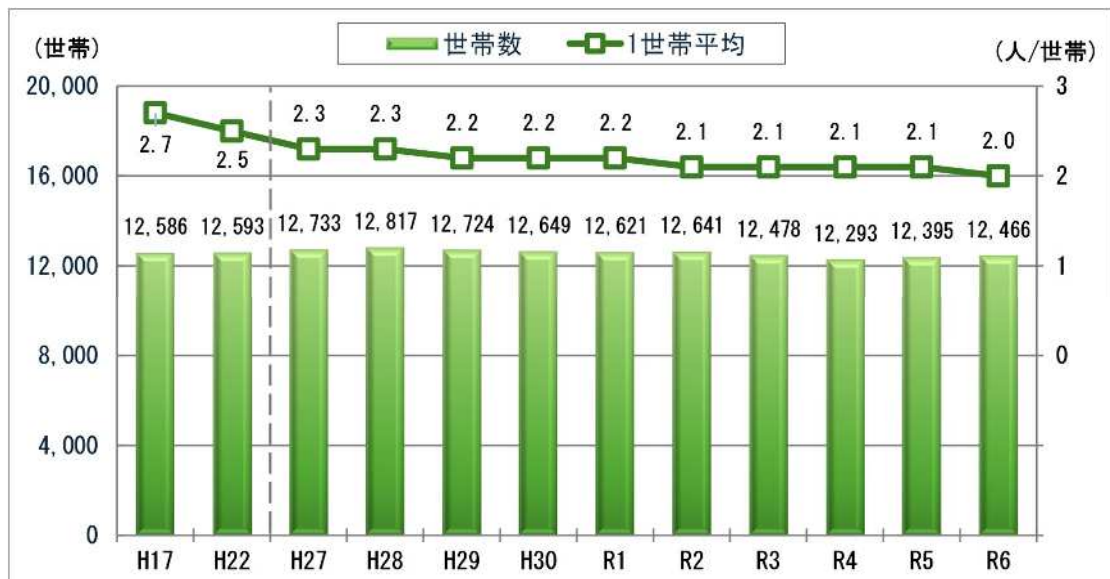


(資料) 西海市HP 統計データ

(備考) 9月30日現在での人口

平成24年以降は外国人を含めた集計。以前は外国人を含まない集計

図 1-2-2 人口の推移



(資料) 西海市HP 統計データ

(備考) 9月30日現在での人口

平成24年以降は外国人を含めた集計。以前は外国人を含まない集計

図 1-2-3 世帯数の推移

第4節 産業

産業別の就業者数は、第1次産業就業者が1,989人（14.9%）、第2次産業就業者が4,052人（30.4%）、第3次産業就業者が7,126人（53.5%）であり、長崎県の平均と比較すると、第1次産業及び第2次産業の就業者数が高い割合となっています。

表1-2-1 産業別従業者数

| 産業分類 | 西海市 | | 長崎県 | |
|-------------------|--------|--------|---------|--------|
| | 実数(人) | 割合 | 実数(人) | 割合 |
| 総数 | 13,310 | 100.0% | 617,707 | 100.0% |
| 第1次産業 | 1,989 | 14.9% | 40,802 | 6.6% |
| 農業・林業 | 1,669 | 12.5% | 31,358 | 5.1% |
| 漁業 | 320 | 2.4% | 9,444 | 1.5% |
| 第2次産業 | 4,052 | 30.4% | 116,363 | 18.8% |
| 鉱業、採石業、砂利採取業 | 10 | 0.1% | 255 | 0.0% |
| 建設業 | 1,315 | 9.9% | 51,035 | 8.3% |
| 製造業 | 2,727 | 20.5% | 65,073 | 10.5% |
| 第3次産業 | 7,126 | 53.5% | 446,057 | 72.2% |
| 電気・ガス・熱供給・水道業 | 163 | 1.2% | 3,426 | 0.6% |
| 情報通信業 | 37 | 0.3% | 6,265 | 1.0% |
| 運輸業、郵便業 | 524 | 3.9% | 26,629 | 4.3% |
| 卸売業、小売業 | 1,227 | 9.2% | 91,680 | 14.8% |
| 金融業、保険業 | 104 | 0.8% | 14,266 | 2.3% |
| 不動産業、物品賃貸業 | 38 | 0.3% | 8,267 | 1.3% |
| 学術研究、専門・技術サービス業 | 138 | 1.0% | 15,551 | 2.5% |
| 宿泊業、飲食サービス業 | 578 | 4.3% | 35,003 | 5.7% |
| 生活関連サービス業、娯楽業 | 433 | 3.3% | 20,961 | 3.4% |
| 教育、学習支援業 | 395 | 3.0% | 31,804 | 5.1% |
| 医療、福祉 | 1,953 | 14.7% | 111,692 | 18.1% |
| 複合サービス業 | 220 | 1.7% | 6,901 | 1.1% |
| サービス業（他に分類されないもの） | 842 | 6.3% | 38,092 | 6.2% |
| 公務（他に分類されるものを除く） | 474 | 3.6% | 35,520 | 5.8% |
| 分類不能の産業 | 143 | 1.1% | 14,485 | 2.3% |

（資料）令和2年国勢調査（総務省）

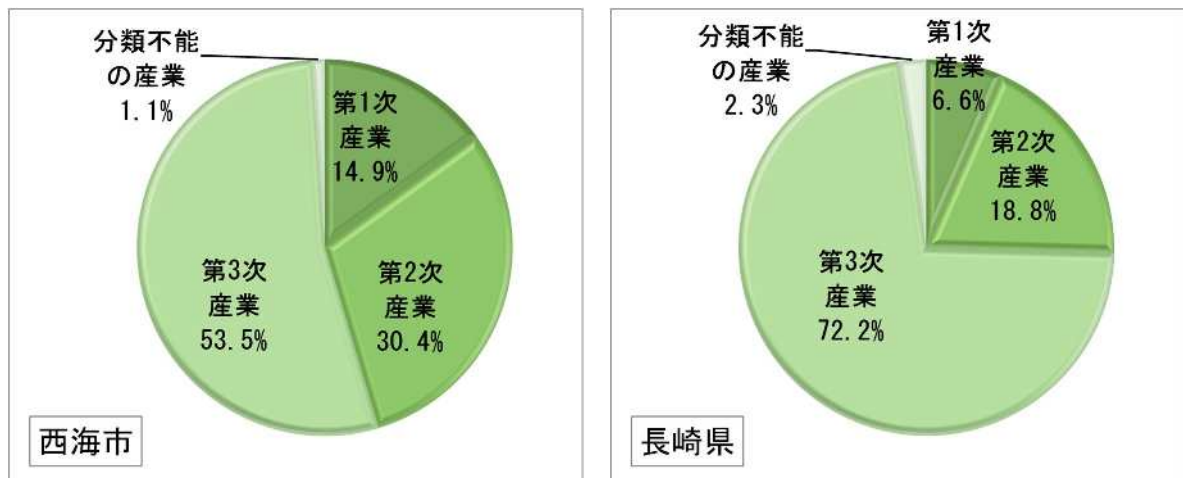


図1-2-4 産業別就業者数の割合

第5節 西海市の将来構想

1. 基本構想

西海市は、まちづくりの目標である将来都市像を掲げ、それを実現するための施策を明らかにするための計画として、第2次西海市総合計画を策定しました。同計画の計画期間は平成29年度から平成38年度の10年間となっています。

将来像を「活躍のまちさいかい」と定め、市民、市内産業、地域が誇りを持ち活躍することによって様々な課題を解決し、移住、定住、起業、就職、進学、観光などあらゆる場面で「選ばれる」地域となることを目指しています。

【基本目標】

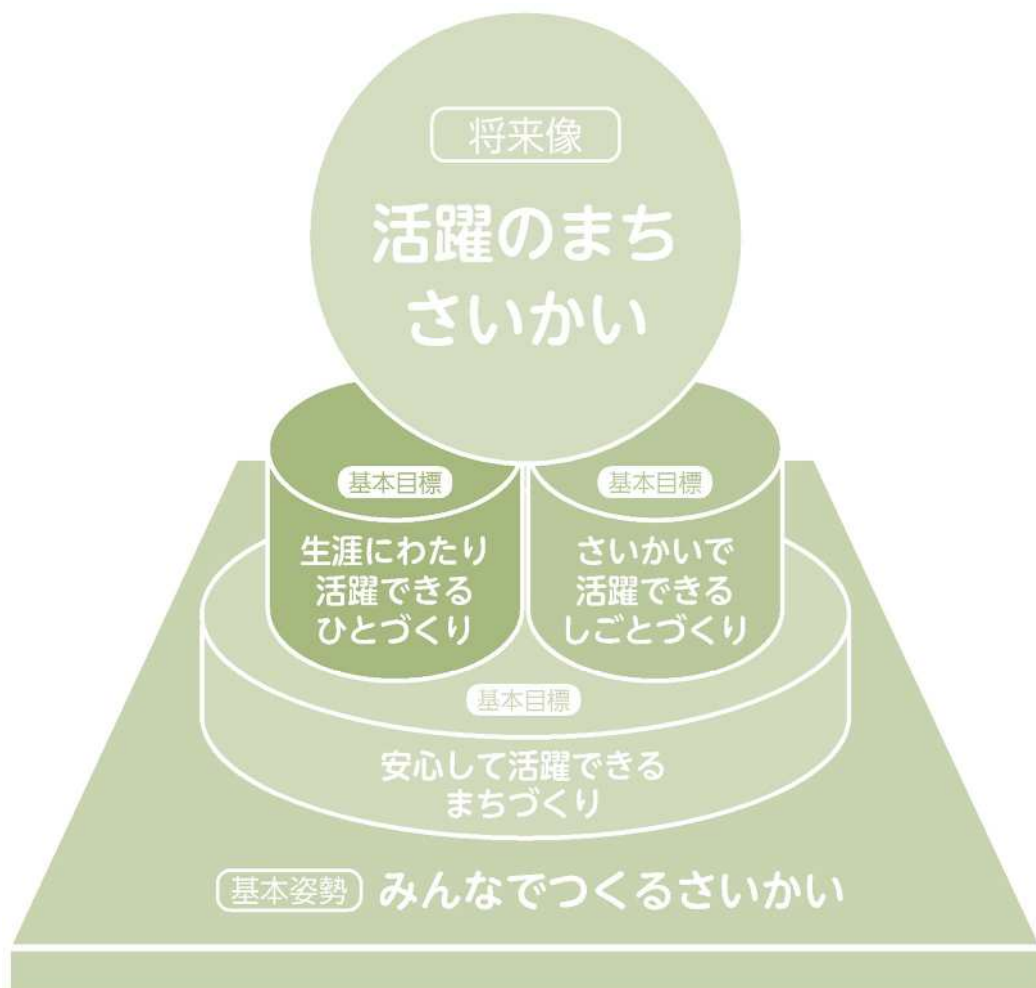
「生涯にわたり活躍できるひとづくり」

「さいかいで活躍できるしごとづくり」

「安心して活躍できるまちづくり」

【基本姿勢】

「みんなで作るさいかい」



(資料) 第2次西海市総合計画（平成29年度～平成38年度）

図1-2-5 総合計画の体系

2. 廃棄物等関連施策

第2次西海市総合計画に定められた施策の中から、廃棄物や資源循環、生活排水対策に関連する内容を次に示します。

※第2次西海市総合計画 後期基本計画（令和4年度～令和8年度）より抜粋

※現在、第3次西海市総合計画策定中

表1-2-2 総合計画における廃棄物等関連施策（その1）

| 基本政策 3-8 適正な下水処理による安全で快適な環境づくり | | |
|--|----------|-----------------------|
| 施策 3-8-1 下水処理施設の整備・普及促進 【下水処理施設の整備】 ●汚水処理構想に基づき、特定環境保全公共下水道、農業集落排水、漁業集落排水、コミュニティ・プラント、浄化槽など、地域の実情に応じた下水処理施設の整備を推進します。 【水洗化率の向上】 ●水洗化率の向上を図るため、市民に対する汚水処理の必要性や効果についての意識啓発を行うとともに、助成制度の周知を図り、下水道の処理施設への接続及び浄化槽の普及を促進します。 【施設の更新・統廃合の推進】 ●下水処理施設の維持管理コストの低減及び機能強化を図るため、老朽施設の更新・統廃合を推進します。 | | |
| 成果指標 | 現状値 (R2) | 目標値 (R8) |
| 水洗化率 | 75.5% | 92.7% (17.2 ポイント増) |
| 下水処理施設数 (削減目標) | 21 箇所 | 18 箇所 (3 箇所減) |
| 施策 3-8-2 健全な経営への取組 【下水道への接続の推進】 ●下水道処理区域内の未接続世帯に対する戸別訪問や通知による接続勧奨を行います。 【下水道使用料金の改定】 ●収支シミュレーションにより財源不足額を算出し、下水道使用料の改定に向けた検討を行います。 【維持管理費の削減】 ●既存施設の維持管理費のさらなる削減を検討します。 | | |
| 成果指標 | 現状値 (R2) | 目標値 (R8) |
| 下水道処理区域内の接続率 | 87.76% | 94.3% (6.54 ポイント増) |
| 経費回収率 | 57.7% | 62.2% (4.5 ポイント増) |

表1-2-3 総合計画における廃棄物等関連施策（その2）

| 基本政策 3-9 循環型社会の実現を目指すまちづくり | | |
|--|----------|--------------------|
| 施策 3-9-1 ごみの減量化と適正処理 【ごみ処理体制の確立】 ●効率的なごみ処理を実現するため、西海市一般廃棄物処理基本計画に基づき、持続可能なごみ処理体制の確立を図ります。また、災害が発生した場合にも、西海市災害廃棄物処理計画に基づき、適正に処理を図ります。 【適正な維持管理】 ●ごみ処理施設の適正な維持管理を行い、処理能力の維持に努めます。 ●新しい処理施設の整備については、検討を行うほか、合併前の旧施設等は適正に処理します。 【市民の意識啓発と活動支援】 ●市民や事業者に対して、ごみの減量化や再資源化に関する意識啓発に努めるとともに、関連する市民活動に対する支援を図ります。 | | |
| 成果指標 | 現状値 (R1) | 目標値 (R8) |
| ごみの排出量 | 842g/人・日 | 834g/人・日 (8g/人・日減) |
| ごみのリサイクル率 | 31.0% | 31.8% (0.8ポイント増) |
| 最終処分率 | 3.6% | 2.6% (1.0ポイント減) |
| 施策 3-9-2 生活排水の適正処理 【維持管理体制の確立】 ●し尿及び浄化槽汚泥の適正、かつ効率的な処理を図るため、一般廃棄物処理基本計画に基づき、持続可能な生活排水処理体制の確立を図ります。 【適正な維持管理】 ●し尿等処理施設の適正な維持管理を行うとともに、計画的な施設の補修を図り、処理能力の維持に努めます。 ●合併前の旧施設等は必要に応じて撤去を検討します。 | | |
| 成果指標 | 現状値 (R1) | 目標値 (R8) |
| 汚水衛生処理率 | 73.9% | 92.7% (18.8ポイント増) |
| 施策 3-9-3 不法投棄の対策 【不法投棄の防止対策】 ●不法投棄を防止するため、関係機関をはじめ市民や事業者などとも連携しながら、監視体制の強化を図るとともに、情報発信による意識啓発に取り組みます。 | | |
| 成果指標 | 現状値 (R2) | 目標値 (R8) |
| 不法投棄の発生件数の減少 | 9件 | 7件 (2件減) |

表1-2-4 総合計画における廃棄物等関連施策（その3）

| 基本政策 3-9 循環型社会の実現を目指すまちづくり |
|--|
| <p>施策 3-9-4 自然環境の保全・活用</p> <p>【官民協働による環境の保全・活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●個人、家庭、民間団体、事業者等からの協力、また、支援を行い、官民協働による、自然環境、地域環境の保全を目指します。 <p>【市民参加による環境保全活動の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●引き続き市民参加の必要性と市民協働意識の醸成及び制度の周知徹底を図り、積極的な活動参加を呼びかけることで、市内全域にわたり良好な河川・港湾施設の環境維持を図っていきます。 <p>【河川や海岸の保全・活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●今後の事業において、親水性や生態系などに配慮した多自然型工法等の積極的な導入を図ります。 <p>【美しい海岸の保全】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●海岸管理者等と連携して、海岸漂着物や海岸漂着ごみを撤去し、次の世代のために美しい海岸の保全に努めます。 <p>【大村湾の水質改善】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●関係市町や関係団体等と連携し、二重閉鎖性水域である大村湾の水質改善を推進します。 <p>【公害の防止】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●大気汚染や水質汚濁、騒音、振動、悪臭などの公害を防止するため、市民や事業者に対する意識啓発に取り組むとともに、事業所等に対しては監視・指導体制の強化を進めます。 <p>【自然環境を活かした人づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●環境教育・環境学習を行うなど、自然環境を活かした人づくりと地域活性化を目指します。 |

表1-2-5 総合計画における廃棄物等関連施策（その4）

| 【豊かな自然環境のPR促進】 | | |
|--|----------|----------|
| ■自然環境の保全に地域社会全体で取り組むため、市民や事業所等に対し、自然にやさしい生活や事業活動などに関する情報発信を図ります。 | | |
| 成果指標 | 現状値 (R2) | 目標値 (R8) |
| 海岸漂着ごみ回収参加者 | 1,063人/年 | 1,070人/年 |

(資料) 第2次西海市総合計画 後期基本計画 (令和4年度～令和8年度)

第2部 ごみ処理基本計画

第1章 国・県のごみ処理行政の動向

第1節 国の関係法令・計画・方針等

1. 循環型社会形成推進基本法

大量生産、大量消費、大量廃棄型の社会のあり方や国民のライフスタイルを見直し、社会における物質循環を確保することにより、天然資源の消費が抑制され、環境への負荷の低減が図られた「循環型社会」を形成するため、平成12年6月に「循環型社会形成推進基本法」が公布され、平成13年1月に施行されました。

この法律では、対象物を有価・無価を問わず「廃棄物等」として一体的にとらえ、製品等が廃棄物等となることの抑制を図るべきこと、発生した廃棄物等についてはその有用性に着目して「循環資源」として捉え直し、その適正な循環的利用（再使用、再生利用、熱回収）を図るべきこと、循環的な利用が行われないものは適正に処分することを規定し、これにより「天然資源の消費を抑制し、環境への負荷ができる限り低減される社会」である「循環型社会」を実現することとしています。

2. 第五次循環型社会形成推進基本計画

循環型社会形成推進基本法では、政府において、循環型社会の形成に関する基本的な計画として、循環型社会形成推進基本計画を策定することを規定しています。この計画は、循環型社会の形成に関する政策の総合的、計画的な推進を図るための中心的な仕組みとなるものであり、令和6年8月に閣議決定した第五次の循環型社会形成推進基本計画では、循環経済への移行を国家戦略として位置づけ、以下を5つの柱（重点分野）としています。

| 5つの柱（重点分野） | 目指すべき将来像 |
|---|--|
| 1. 循環型社会形成に向けた経済への移行による持続可能な地域と社会づくり | <ul style="list-style-type: none"> ◇循環経済への移行により循環型社会が形成され、持続可能な社会が実現 ◇環境への負荷が低減するだけでなく、人々は豊かな暮らしを送り、企業も利益を得て成長 |
| 2. 資源循環のための事業者間連携によるライフサイクル全体での徹底的な資源循環 | <p>【廃棄段階】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇技術的及び経済的に可能な範囲で再利用し、再利用できないモノで再資源化可能なモノは再資源化し、再資源化できないモノでエネルギー回収できるモノはエネルギー回収し、再資源化もエネルギー回収もできないモノのみ減量化等の中間処理を行った上で最終処分 ◇住民の利便性の高い廃棄物回収体制の構築 |

| 5つの柱（重点分野） | 目指すべき将来像 |
|-------------------------------------|--|
| 3. 多種多様な地域の循環システムの構築と地方創生の実現 | <ul style="list-style-type: none"> ◇人口減少・少子高齢化の進む状況下においても循環資源が各地域・各資源に応じた最適な規模で循環 ◇持続可能な農林水産業が地域産業として確立、地域コミュニティの再生、雇用の創出、地場産業の振興や高齢化への対応等地域課題の解決や地方創生が実現 ◇自然環境の管理、循環システムの構築による生態系の保全 ◇循環分野の経済活動による地域の経済社会の活性化等の先行地域の取組に係る情報の全国的横展開のための整理・共有 ◇施設整備、廃棄物処理の広域化・集約化、特性に応じた効果的なエネルギー回収技術導入などの実施 |
| 4. 資源循環・廃棄物管理基盤の強靱化と着実な適正処理・環境再生の実行 | <ul style="list-style-type: none"> ◇3Rを促進する新たな技術開発、企業による情報開示等の仕組みが整えられ、ESG投資が拡大 ◇リユースや、循環資源・再生可能資源を用いた製品の利用拡大 ◇災害廃棄物処理の加速化、地域レベル及び全国レベルでの広域連携体制の構築 ◇電子マニフェストやITを活用したトレーサビリティの強化等による排出事業者責任の徹底等により、廃棄物の不法投棄や不適正処理が改善 ◇放射性物質によって汚染された廃棄物及び除染等の措置に伴い発生した土壌等について、国民の理解の下、適正かつ安全に処理を進めている |
| 5. 適正な国際資源循環体制の構築と循環産業の海外展開の推進 | <ul style="list-style-type: none"> ◇環境上適正な国際的な資源循環体制の構築 ◇我が国の資源循環に係る技術やインフラの国際展開、国内外で資源効率性や循環性が向上 |

出典) 環境省HP：第五次循環型社会形成推進基本計画 ～循環経済を国家戦略に～ 概要

この基本的方針に基づき、2030年に向けた具体的な数値目標を設定し、気候変動対策や生物多様性保全などの環境課題だけでなく、産業競争力強化や経済安全保障、地方創生といった社会課題の同時解決を目指しています。また、デジタル技術の活用やグリーンファイナンスの推進など、横断的な施策も重視しています。

循環型社会の形成を通じて、環境・経済・社会の統合的向上を図り、持続可能な社会の実現に貢献することを目指しています。

3. 廃棄物処理法

廃棄物処理法は、正式名称を「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」といい、廃棄物の排出を抑制し、及び廃棄物の適正な分別、保管、収集、運搬、再生、処分等の処理をし、並びに生活環境を清潔にすることにより、生活環境の保全及び公衆衛生の向上を図ることを目的として昭和45年12月に施行されました。

4. 廃棄物の減量その他その適正な処理に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るための基本的な方針（基本方針）

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第5条の2第1項の規定に基づき定められている「廃棄物の減量その他その適正な処理に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るための基本的な方針」（以下「基本方針」という。）について、令和6年8月に決定された第五次循環型社会形成推進基本計画と整合させる形で、目標値が改定されました。（令和7年2月公布）

| 指標 | 実績（令和4年度） | 目標値（令和12年度） |
|-------------------|-----------|----------------------------|
| ①一般廃棄物の排出量 | 40百万トン | 約37百万トン 令和4年度比約9%削減 |
| ②一人一日当たりの家庭系ごみ排出量 | 496グラム | 約478グラム |
| ③一般廃棄物の出口側循環利用率 | 約20% | 約26% |
| ④一人一日当たりごみ焼却量 | 679グラム | 約580グラム |
| ⑤一般廃棄物の最終処分量 | 約3.4百万トン | 3.2百万トン 令和4年度比約5%削減 |
| ⑥産業廃棄物の排出量 | 約370百万トン | 約374百万トン 令和4年度比約1%増加に抑制 |
| ⑦産業廃棄物の出口側循環利用率 | 約37% | 約37% |
| ⑧産業廃棄物の最終処分量 | 約8.7百万トン | 7.8百万トン 令和4年度比約10%削減 |

②、③、⑥、⑦については、現行よりも低い目標値となっているが、過去の実績や経済活動の見通しなどを基にしつつ、各取組を進めた場合の効果を現時点で最大限見込んだ値として設定。

（出典）環境省HP：「廃棄物の減量その他その適正な処理に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るための基本的な方針」の変更について（参考）

5. 廃棄物処理施設整備計画

廃棄物処理施設整備計画は、廃棄物処理施設整備事業の計画的な実施を図るため、廃棄物の処理及び清掃に関する法律第5条の3に基づき、5年ごとに策定されるものです。

令和5年6月30日に閣議決定された「廃棄物処理施設整備計画」（計画期間：令和5年度～令和9年度の5ヶ年）は、人口減少等の社会状況の変化に鑑み、ハード・ソフト両面で、3R・適正処理の推進や気候変動対策、災害対策の強化に加え、地域に新たな価値を創出する廃棄物処理施設整備を進めるとしています。

■ 廃棄物処理施設整備計画

| 基本的理念 |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ①基本原則に基づいた3Rの推進と循環型社会の実現に向けた資源循環の強化 ②災害時も含めた持続可能な適正処理の確保 ③脱炭素化の推進と地域循環共生圏の構築に向けた取組 |
| 廃棄物処理システムの方向性 |
| <ul style="list-style-type: none"> ①市町村の一般廃棄物処理システムを通じた3Rの推進と資源循環の強化 ②持続可能な適正処理の確保に向けた安定的・効率的な施設整備及び運営 ③廃棄物処理・資源循環の脱炭素化の推進 ④地域に多面的価値を創出する廃棄物処理施設の整備 ⑤災害対策の強化 ⑥地域住民等の理解と協力・参画の確保 ⑦廃棄物処理施設整備に係る工事の入札及び契約の適正化 <p><ポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物の排出抑制、循環的利用、適正処分の確保を推進しつつ、Renewableの取組や循環経済への移行の重要性も踏まえ、資源循環の取組を強化し、循環型社会の実現を目指す。 ・施設の長寿命化・延命化、広域化・集約化、老朽化した施設の適切な更新・改良等を推進し、地域単位で一般廃棄物処理システムの強靱性を確保する。人口減少を見据え、将来にかかるコストを可能な限り抑制するよう計画的に進める。 ・廃棄物分野は他分野も含めた温室効果ガス排出量の削減に貢献可能。2050年カーボンニュートラルに向けてさらなる排出抑制の取組による焼却等に伴う温室効果ガスの削減、熱回収の高度化、将来的にはCCUS等の技術の導入により、脱炭素化の推進が期待される。 |

(出典) 環境省HP：「廃棄物処理施設整備計画の概要」

6. 各種リサイクル法

個別物品の特性に応じた各種リサイクル法が制定されており、概要を次に示します。

資源有効利用促進法（資源の有効な利用の促進に関する法律）

事業者による製品の回収・リサイクルの実施などリサイクル対策を強化するとともに、製品の省資源化・長寿命化等による廃棄物の発生抑制（リデュース）対策や、回収した製品からの部品等の再使用（リユース）対策を新たに講じ、また産業廃棄物対策としても、副産物の発生抑制（リデュース）、リサイクルを促進することにより、循環型経済システムの構築を目指す。

（資料）環境省ホームページ「各種リサイクル法」より（以下、同）

容器包装リサイクル法（容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律）

家庭から排出されるごみの重量の約2～3割、容積で約6割を占める容器包装廃棄物について、リサイクルの促進等により、廃棄物の減量化を図るとともに、資源の有効利用を図る。この法律では、容器（商品を入れるもの）、包装（商品を包むもの）のうち、中身商品が消費されたり、中身商品と分離された際に不要になるものを「容器包装」と定義して、リサイクルの対象としている。

家電リサイクル法（特定家庭用機器再商品化法）

使用済み廃家電製品の製造業者等及び小売業者に新たに義務を課すことを基本とする新しい再商品化の仕組みを定めた法律。この法律では、家庭用エアコン、テレビ（ブラウン管式・液晶式・プラズマ式）、電気冷蔵庫・電気冷凍庫、電気洗濯機・衣類乾燥機の家電4品目について、小売業者による引取り及び製造業者等（製造業者、輸入業者）による再商品化等（リサイクル）が義務付けられ、消費者（排出者）には、家電4品目を廃棄する際、収集運搬料金とリサイクル料金を支払うことなど、それぞれの役割分担を定めている。

食品リサイクル法（食品循環資源の再生利用等の促進に関する法律）

食品の売れ残りや食べ残しにより、又は食品の製造過程において大量に発生している食品廃棄物について、発生抑制と減量化により最終的に処分される量を減少させるとともに、飼料や肥料等の原材料として再生利用するため、食品関連事業者（製造、流通、外食等）による食品循環資源の再生利用等を促進する法律。

建設リサイクル法（建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律）

特定建設資材（コンクリート（プレキャスト板等を含む。）、アスファルト・コンクリート、木材）を用いた建築物等に係る解体工事又はその施工に特定建設資材を使用する新築工事等であって一定規模以上の建設工事（対象建設工事）について、その受注者等に対し、分別解体等及び再資源化等を行うことを義務付ける法律。

自動車リサイクル法（使用済自動車の再資源化等に関する法律）

使用済自動車のリサイクル・適正処理を図るため、自動車製造業者を中心とした関係者に適切な役割分担を義務付ける法律。

小型家電リサイクル法（使用済小型電子機器等の再資源化の促進に関する法律）

使用済小型電子機器等に含まれる金属その他の有用なものの相当部分が回収されずに廃棄されている状況に鑑み、使用済小型電子機器等の再資源化を促進するため、主務大臣による基本方針の策定及び再資源化事業計画の認定、当該認定を受けた再資源化事業計画に従って行う事業についての廃棄物処理業の許可等に関する特例等について定めた法律。この法律では、市町村が回収を行い、認定を受けた事業者が再資源化を行うなど、それぞれの役割分担を定めている。

プラスチック資源循環法（プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律）

製品の設計からプラスチック廃棄物の処理までに関わるあらゆる主体におけるプラスチック資源循環等の取組（3R+Renewable）を促進するための措置を講じている。

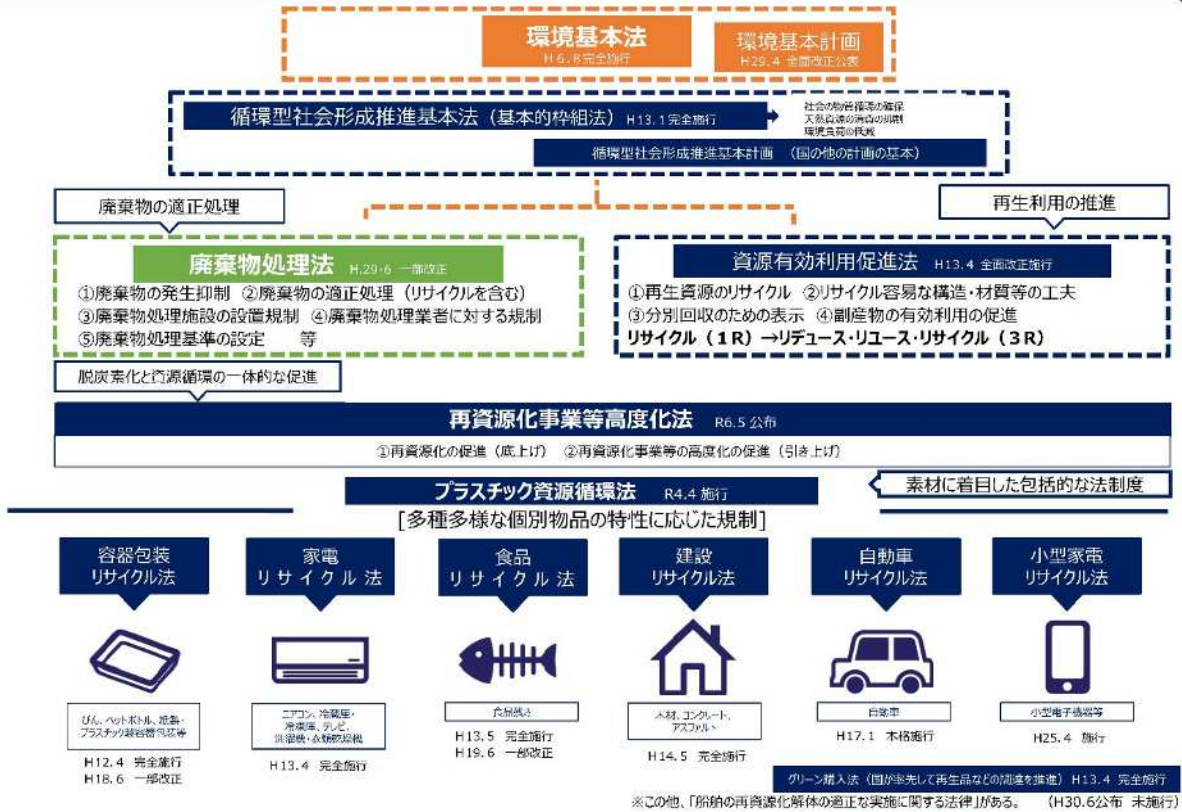
プラスチックの資源循環の促進等を総合的かつ計画的に推進するため、以下の事項等に関する基本方針を策定する。

- ・プラスチック廃棄物の排出の抑制、再資源化に資する環境配慮設計
- ・ワンウェイプラスチックの使用の合理化
- ・プラスチック廃棄物の分別収集、自主回収、再資源化 等

以上の関係法令、計画、方針等に基づく循環型社会形成推進のための法体系は、図 2-1-1 のとおりとなります。



循環型社会を形成するための法体系



(資料) 環境省

図 2-1-1 循環型社会形成のための法体系

7. ごみ処理の広域化及びごみ処理施設の集約化

国は、各都道府県廃棄物行政主管部（局）長あてに、「中長期における持続可能な適正処理の確保に向けたごみ処理の広域化及びごみ処理施設の集約化について」を令和 6 年 3 月に通知し、管内市町村と連携し、令和 9 年度を目途に、2050 年までの持続可能な適正処理の確保に向けた長期的な広域化・集約化に係る計画を各都道府県が策定し、これに基づき安定的かつ効率的な廃棄物処理体制の構築を推進することを求めています。

1. 広域化・集約化の必要性

- (1) 持続可能な適正処理の確保
- (2) 気候変動対策の推進
- (3) 資源循環の強化
- (4) 災害対策の強化
- (5) 地域への多面的価値の創出

2. 長期広域化・集約化計画の策定

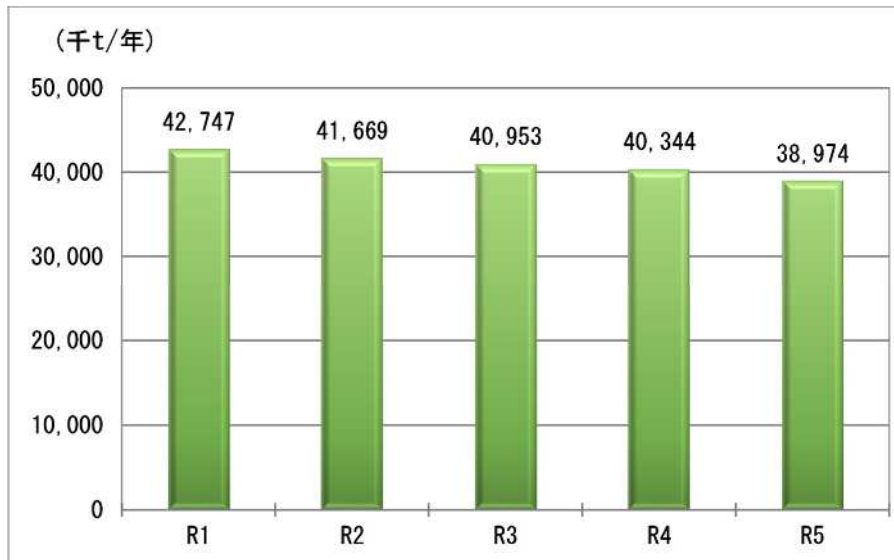
- (1) 計画策定主体
- (2) 現時点での広域化状況の評価
- (3) 広域化ブロック区割りの設定見直し
- (4) ブロックごとの廃棄物処理体制の検討

第2節 全国のごみ処理の状況

1. ごみの排出状況

1) ごみ総排出量の推移

全国におけるごみの総排出量は、近年、高齢化や人口減少、市民の3R（リデュース、リユース、リサイクル）活動への積極的参加により緩やかな減少傾向で推移しており、令和5年度は38,974千t（前年度比3.5%減少）となっています。



(資料) 環境省一般廃棄物処理実態調査結果（各年度版） 以下同じ

(備考) ごみ総排出量＝計画収集量＋直接搬入量＋集団回収量

図2-1-2 ごみ総排出量の推移（全国）

2) 1人1日当たりごみ排出量の推移

1人1日当たりのごみ排出量は、近年緩やかな減少傾向で推移しており、令和5年度は851g（前年度比3.3%減少）となっています。

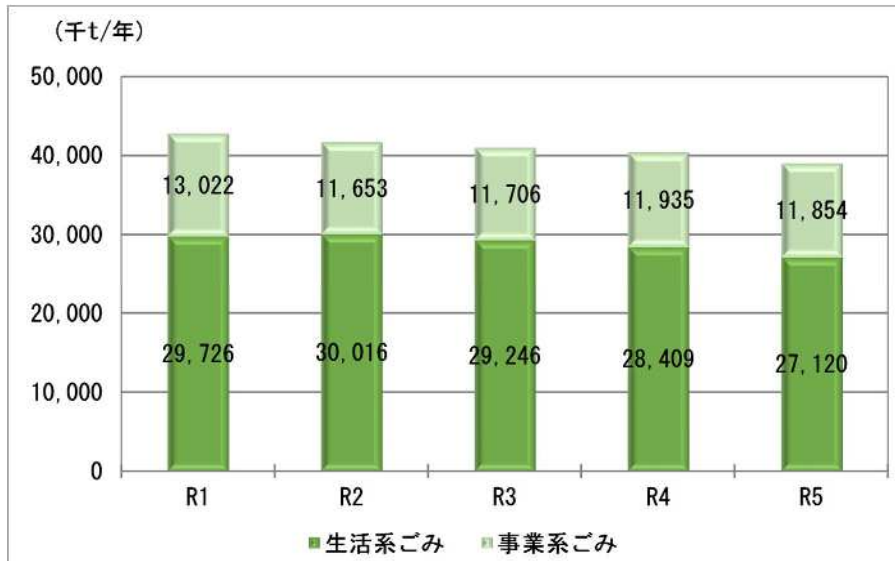


(備考) 1人1日当たりごみ排出量＝ごみ総排出量÷総人口÷年間日数（365日または366日）

図2-1-3 1人1日当たりごみ排出量の推移（全国）

3) 生活系ごみと事業系ごみの推移

ごみの総排出量のうち生活系ごみと事業系ごみの排出割合を見ると、令和5年度は生活系ごみが27,120千t（約70%）、事業系ごみが11,854千t（約30%）となっています。

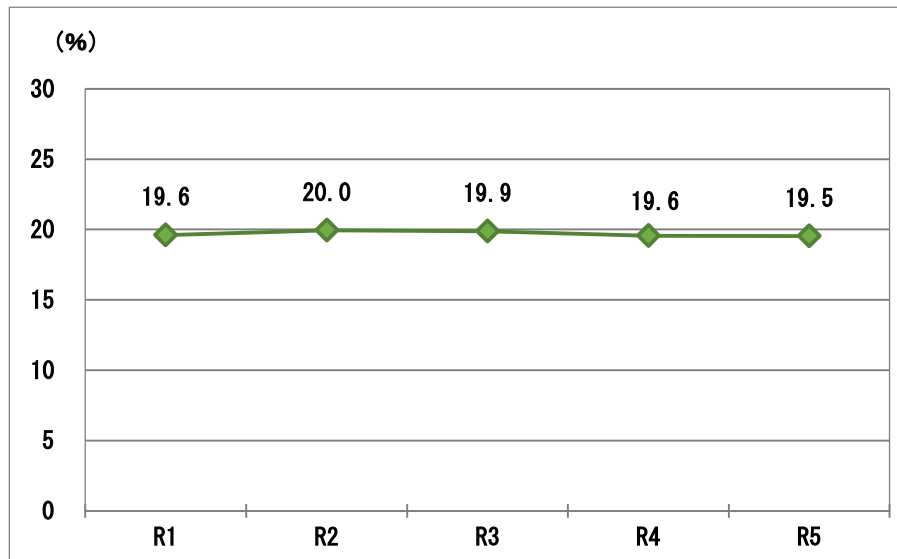


(備考) 集団回収量は生活系ごみに含む

図 2-1-4 生活系ごみと事業系ごみの排出量の推移（全国）

2. 資源化の状況

全国のリサイクル率は、近年は横ばいで推移しており、令和5年度は19.5%（前年度比0.1ポイント減）となっています。

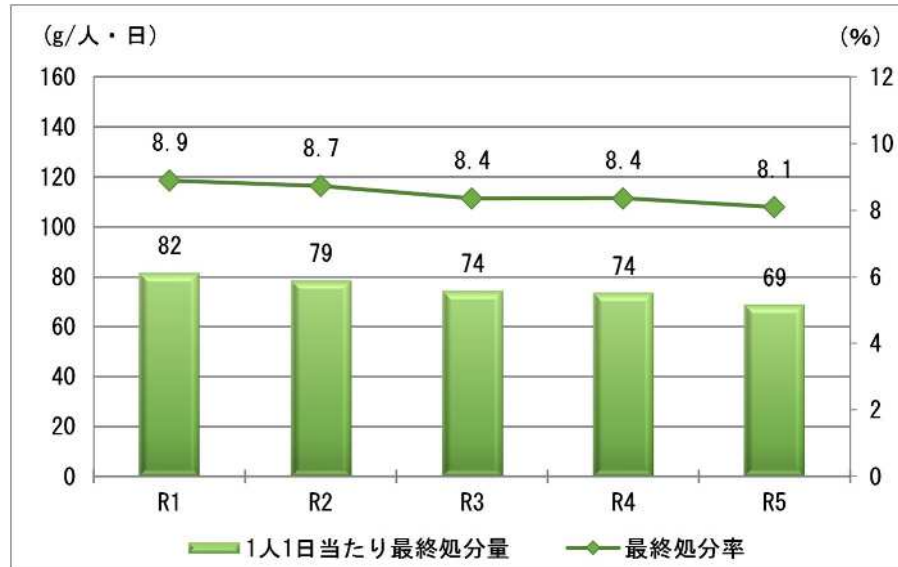


(備考) $\text{リサイクル率} = \frac{\text{直接資源化量} + \text{中間処理後再生利用量} + \text{集団回収量}}{\text{ごみ総処理量} + \text{集団回収量}} \times 100$

図 2-1-5 リサイクル率の推移（全国）

3. 最終処分の状況

最終処分の状況は、1人1日当たりの最終処分量、最終処分率とも減少傾向で推移しており、令和5年度は1人1日当たり69g、最終処分率8.1%（前年度比0.3ポイント減）となっています。

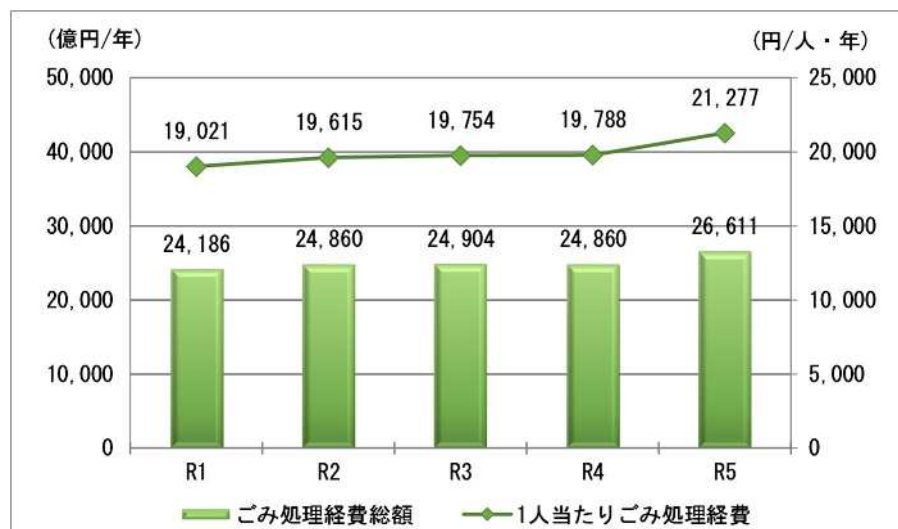


(備考) 1人1日当たり最終処分量＝最終処分量÷総人口÷年間日数(365日または366日)
 最終処分量＝直接最終処分量＋中間処理後最終処分量(焼却残渣・処理残渣)
 最終処分率＝最終処分量÷ごみ総排出量×100

図2-1-6 最終処分の状況(全国)

4. ごみ処理経費の状況

全国におけるごみ処理経費の総額は、令和5年度で2兆6,611億円であり、国民1人当たり換算すると約21,277円となっています。国民1人当たりのごみ処理経費は、近年は19千円程度で横ばい推移していましたが、令和5年度は建設改良費の増加(前年度比17.3%増)に伴い、ごみ処理経費も増加(前年度比7.0%増)となっています。



(備考) ごみ処理経費総額＝建設改良費＋処理及び維持管理費等＋その他
 1人当たりごみ処理経費＝ごみ処理経費総額÷総人口

図2-1-7 ごみ処理経費の推移(全国)

第3節 長崎県の関連計画

1. 長崎県廃棄物処理計画

長崎県では、『ゴミゼロながさき』の実現のため、令和8年3月に令和12年度を目標年度とする第6次の「長崎県廃棄物処理計画」が策定されています。

本計画は、県内で発生する廃棄物の減量化、再生利用及び適正処理を推進するために必要な目標や施策等を次のように定めるとともに、県内における循環型社会の形成を推進していくための基本的な方向を示すもので、県民、事業者、NPO、大学、行政など全ての主体が協働・連携していくための指針となるものです。

| 項目 | 課題 |
|-----------|---|
| ①ごみの排出状況 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 事業系ごみにおいては、食品ロスの削減、食材の使い切りなど、各事業所においてできる取組を徹底し、排出量を削減する必要があります。 ○ 家庭系ごみにおいては、循環型社会の構築を推進し、食品ロスの削減や生ごみの水切り・堆肥化、雑がみの適切な分別回収などの取組に加え、ライフスタイル全般の見直しを通じて排出量を削減する必要があります。 |
| ②再生利用状況 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 全国平均と比べて再生利用率が低く、継続して横ばいで推移しているため、再生利用率向上に向けて施策の見直し検討の必要があります。 ○ 再生利用率が全国と比べて低い品目である紙類の再資源化を推進する必要があります。再生利用率が低い理由として、再資源化できる雑がみ類が可燃ごみとして排出されていることが考えられるため、雑がみを適切に分別し回収する必要があります。また、市町が直接関与していない紙類のリサイクル業者が行っている再資源化についても、推進する必要があります。 |
| ③中間処理状況 | <ul style="list-style-type: none"> ○ ダイオキシン類の発生量が少なく、熱回収や発電機能を併せ持ったごみ焼却施設の整備のほか、不燃物、プラスチック等の再資源化施設等の整備により、廃棄物の再生利用や減量化の促進につながる適切な中間処理を推進する必要があります。 ○ ダイオキシン類対策を継続していくとともに、引き続きごみの減量化やごみ処理施設の広域化などを進める必要があります。 |
| ④最終処分状況 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 循環型社会を形成するため、ごみの排出量削減や再生利用を推進し、可能な限り最終処分量を抑制する必要があります。 |
| ⑤ごみ処理事業経費 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 一般廃棄物処理に係るコスト分析及び効率化を推進し、ごみ処理にかかる経費を抑制する必要があります。 |

| | |
|-------------------|---|
| <p>⑥ごみ処理施設の状況</p> | <p>【ごみ焼却施設】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 国の交付金などを活用し、ダイオキシン類の発生量が少なく、熱回収や発電機能を併せ持ったごみ焼却施設の整備（更新）を推進する必要があります。 ○ 廃止されたごみ焼却施設は、ダイオキシン類の周辺環境への影響が懸念されることから、早期に解体する必要があります。 <p>【再資源化施設等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ さらに廃棄物のリサイクルを推進するため、不燃物、プラスチック等の再資源化施設の整備など、市町の状況等に応じた再資源化施設の整備を一層推進する必要があります。 <p>【最終処分場】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 最終処分場の延命化を図るため、廃棄物の発生・排出抑制、再使用、再生利用、熱回収を推進することが必要です。 ○ 廃棄物の処理を、できる限り発生地域内又は県内で完結させるため、最終処分場の計画的な整備が求められています。 ○ 災害時などは一時的に大量の廃棄物进行处理する必要が生じるため、最終処分場を整備する際には、残余容量に余裕を持たせることが必要です。 |
|-------------------|---|

(資料) 長崎県廃棄物処理計画 (令和8年3月、長崎県)

長崎県は、環境への負担が少ない循環型社会形成に向けた3つの施策を示しています。

| 環境への負担が少ない循環型社会に向けた3つの施策 | |
|--------------------------|---|
| ①食品ロス削減などの4Rの推進 | <ul style="list-style-type: none"> (1) 実践型4Rの推進 (2) 多チャンネル連携型による普及啓発強化 (3) 従来 of 取組 (4) 食品ロス削減の推進 (5) 各種リサイクル法等に関する取組 (6) その他の取組 (7) ネットワーク形成の推進 |
| ②プラスチックごみの発生抑制・再資源化の促進 | <ul style="list-style-type: none"> (1) プラスチック資源循環促進法 (2) 海岸漂着物対策の推進 |
| ③廃棄物の適正処理の推進 | <ul style="list-style-type: none"> (1) 各主体による適正処理の推進 (2) 一般廃棄物の適正処理の推進 (3) 産業廃棄物の適正処理の推進 (4) 散乱ごみ対策の推進 |

(資料) 長崎県廃棄物処理計画 (令和8年3月、長崎県)

2. 長崎県ごみ処理広域化計画

長崎県では、国の指導のもと、市町（一部事務組合を含む）が整備するごみ処理施設の広域化に関する計画である「長崎県ごみ処理広域化計画」を平成 11 年 3 月に策定し、市町と連携しながらごみの広域処理に取り組んでいます。この計画では、長崎県を7つの広域ブロックに分けてごみ処理を広域化することとされ、西海市は「長崎・西彼ブロック」に位置付けられています。

最新の計画では、長崎県廃棄物処理計画の中で、令和 3 年度から令和 12 年度を計画期間とした見直しが行われており、西海市が属する長崎・西彼ブロックの焼却施設は、令和 7 年度現在の 4 施設を維持することとなっています。（長崎市：2 施設、西海市：1 施設（西海市炭化センター）、長与町・時津町：1 施設）

長崎県廃棄物処理計画におけるごみ処理広域化の取組み（抜粋）

（1）ごみ焼却施設の集約化

ごみ焼却施設を令和 7 年度の 16 施設から令和 12 年度に 15 施設以内に集約化することを基本とし、ごみの広域処理を図ります。ただし、各ブロックで適用可能な集約化の計画が策定された場合は、その達成に向けて技術的支援を行います。

（2）マテリアルリサイクル、サーマルリサイクル（熱回収：発電等）の推進

ごみ処理施設の更新時におけるマテリアル・サーマルリサイクル設備の導入を推進します。その導入にあたっては、国の循環型社会形成交付金の利活用を促し、整備条件等について技術的指導、助言を行います。

（3）ごみ処理延命化の推進

長期広域化・集約化計画に沿った集約化を行う場合に、集約化に向けた既存施設の更新時期の同期化を図る目的で、既存施設における老朽化した機械及び装置等の延命化を行うものについては、国の循環型社会形成交付金の利活用を促し、整備条件等についてこれに対し技術的な指導・助言を行う。

（資料）長崎県廃棄物処理計画（令和 8 年 3 月、長崎県）

長崎・西彼ブロックごみ処理広域化計画（抜粋）

■計画の目標年次と計画期間

計画の目標年次は、令和 12 年度とし、計画期間は令和 3 年度から目標年次までの 10 年間とする。

■市町の広域ブロック割り（西海市が含まれるブロックを抜粋）

| 広域ブロック名 | 構成市町村名 |
|-----------|-----------------|
| 長崎・西彼ブロック | 長崎市、西海市、長与町、時津町 |

■長崎・西彼ブロックごみ処理広域化計画

【ごみ焼却施設】

| 広域ブロック名 | 令和 2 年度 | 令和 12 年度 | 増減 |
|-----------|---------|----------|----|
| 長崎・西彼ブロック | | | |
| ごみ焼却施設 | 4施設 | 4施設 | ±0 |

（資料）長崎県廃棄物処理計画（令和 8 年 3 月、長崎県）

3. 長期広域化・集約化計画策定

国は令和 6 年 3 月に「中長期における持続可能な適正処理の確保に向けたごみ処理の広域化及びごみ処理施設の集約化について」を通知しました。

長崎県は、国の通知を踏まえ、県が主体となり、現在の長崎県広域化計画の各ブロックを基本単位とし、令和 8 年度に「ごみ処理広域化・集約化協議会」を設置し、市町等と連携して、令和 9 年度を目処に 2050 年度までの「長期広域化・集約化計画」を策定する予定です。

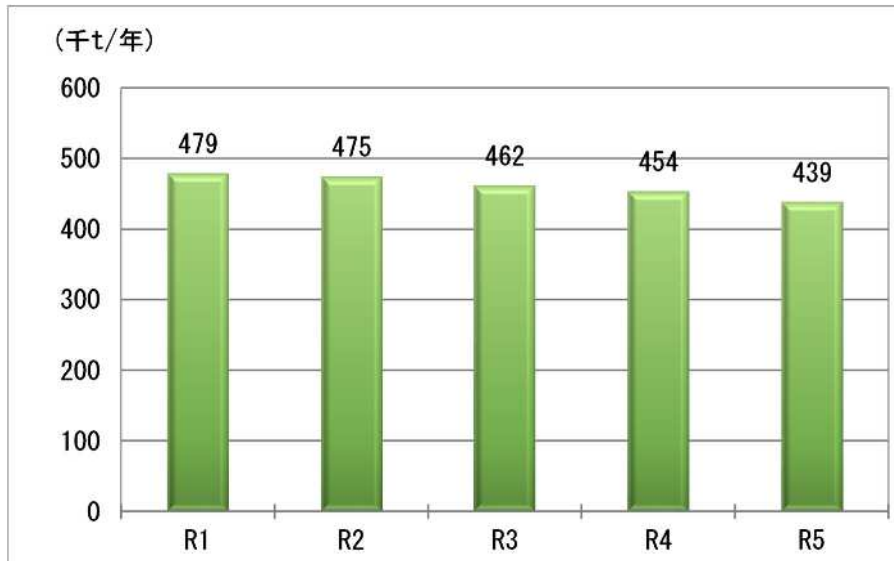
今後、持続可能な適正処理の確保に向け、市町等としっかり連携を図りながら取組を進めていくとしています。

第4節 長崎県のごみ処理の状況

1. ごみの排出状況

1) ごみ総排出量の推移

長崎県におけるごみの総排出量は、全国のごみ排出状況と同様に、高齢化や人口減少、県民の4R（リフューズ、リデュース、リユース、リサイクル）活動への積極的参加により、減少傾向で推移しており、令和5年度は前年度より減少し439千t（前年度比3.4%減）となっています。

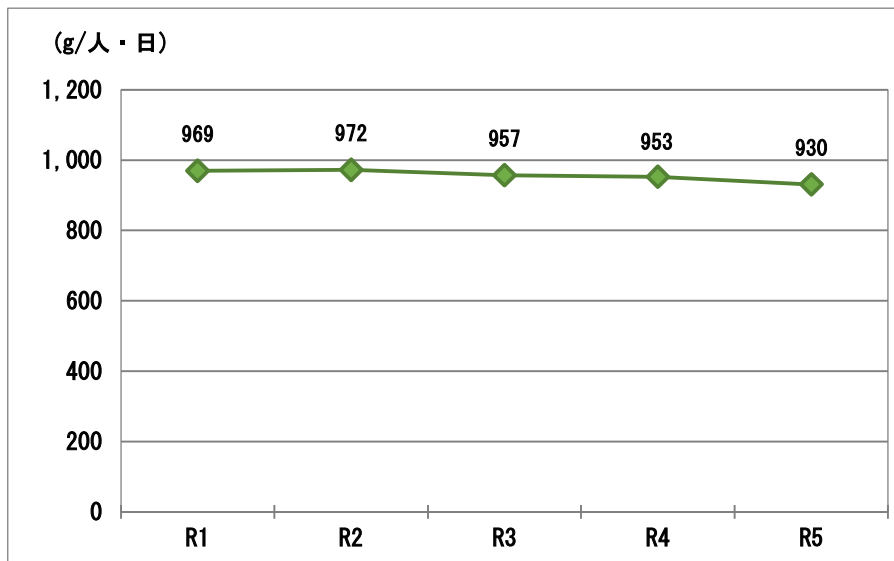


（資料）環境省一般廃棄物処理実態調査結果（各年度版）長崎県 以下同じ
（備考）ごみ総排出量＝計画収集量＋直接搬入量＋集団回収量

図2-1-8 ごみ総排出量の推移（長崎県）

2) 1人1日当たりごみ排出量の推移

長崎県における1人1日当たりのごみ排出量は、近年、緩やかな減少傾向で推移しており、令和5年度は930g（前年度比2.4%減）となっています。

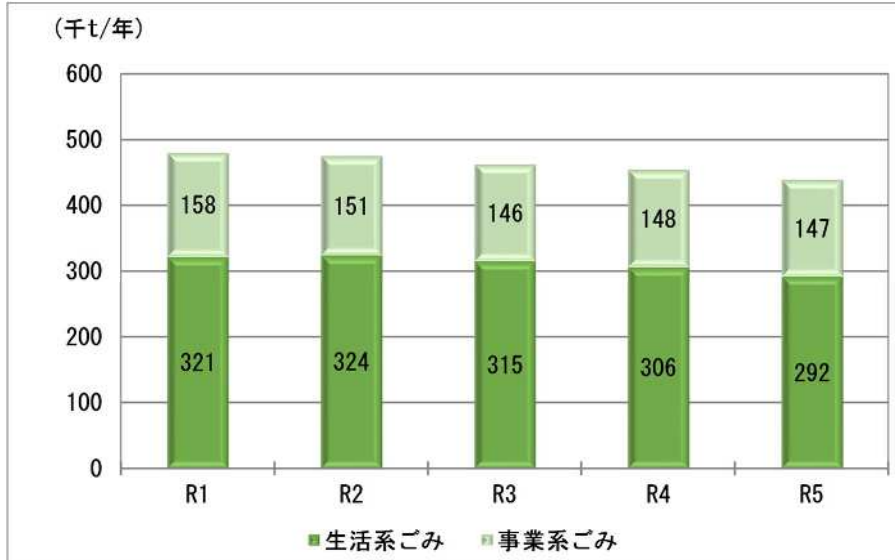


（備考）1人1日当たりごみ排出量＝ごみ総排出量÷総人口÷年間日数（365日または366日）

図2-1-9 1人1日当たりごみ排出量の推移（長崎県）

3) 生活系ごみと事業系ごみの推移

長崎県におけるごみの総排出量のうち、生活系ごみと事業系ごみの排出割合を見ると、令和5年度は生活系ごみが292千t（約66%）、事業系ごみが147千t（約34%）となっています。

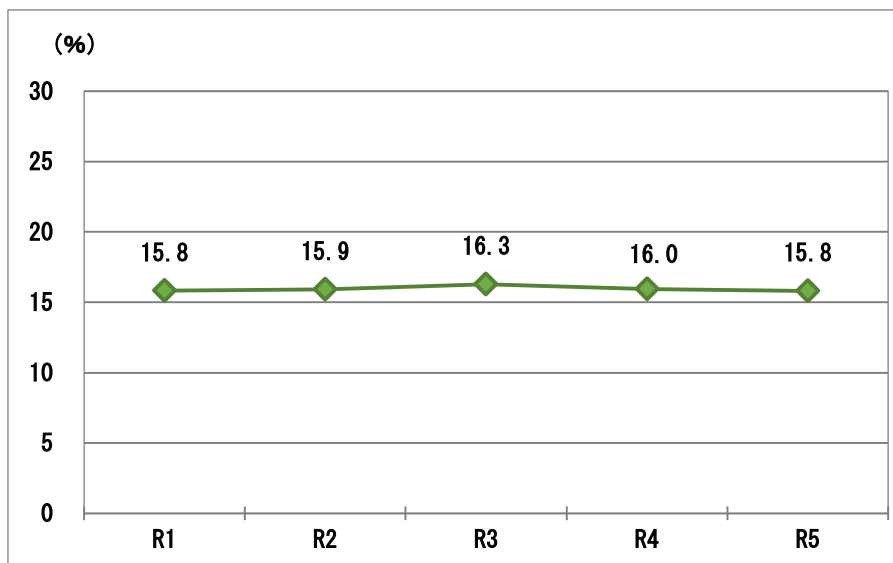


(備考) 集団回収量は生活系ごみに含む

図 2-1-10 生活系ごみと事業系ごみの排出量の推移（長崎県）

2. 資源化の状況

長崎県におけるリサイクル率は、近年は横ばいで推移しており、令和5年度は15.8%（前年度比0.2ポイント減）となっています。

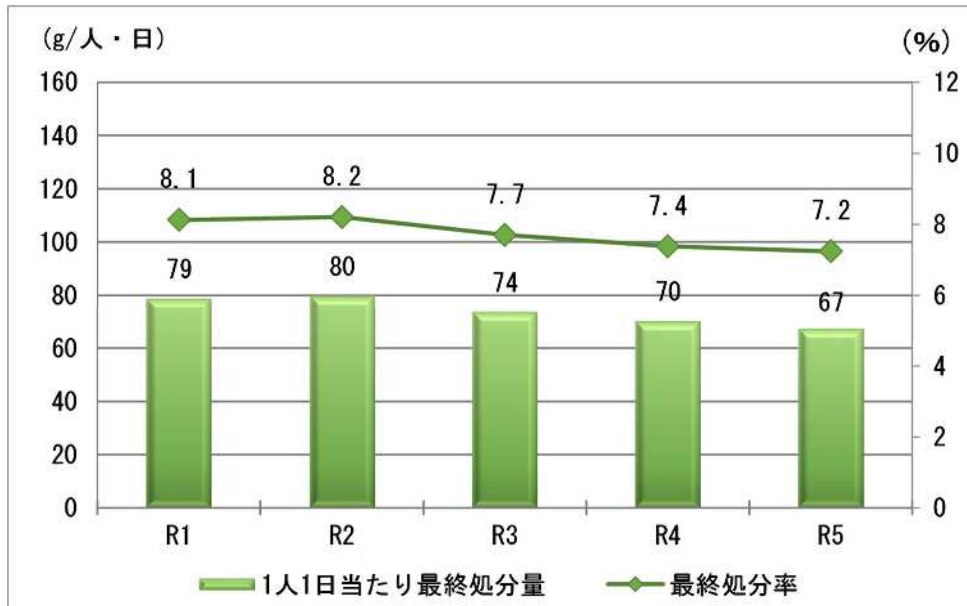


(備考) $\text{リサイクル率} = \frac{\text{直接資源化量} + \text{中間処理後再生利用量} + \text{集団回収量}}{\text{ごみ総処理量} + \text{集団回収量}} \times 100$

図 2-1-11 リサイクル率の推移（長崎県）

3. 最終処分の状況

長崎県における最終処分の状況は、1人1日当たりの最終処分量、最終処分率とも減少傾向で推移しており、令和5年度は1人1日当たり67g、最終処分率7.2%（前年度比0.2ポイント減）となっています。

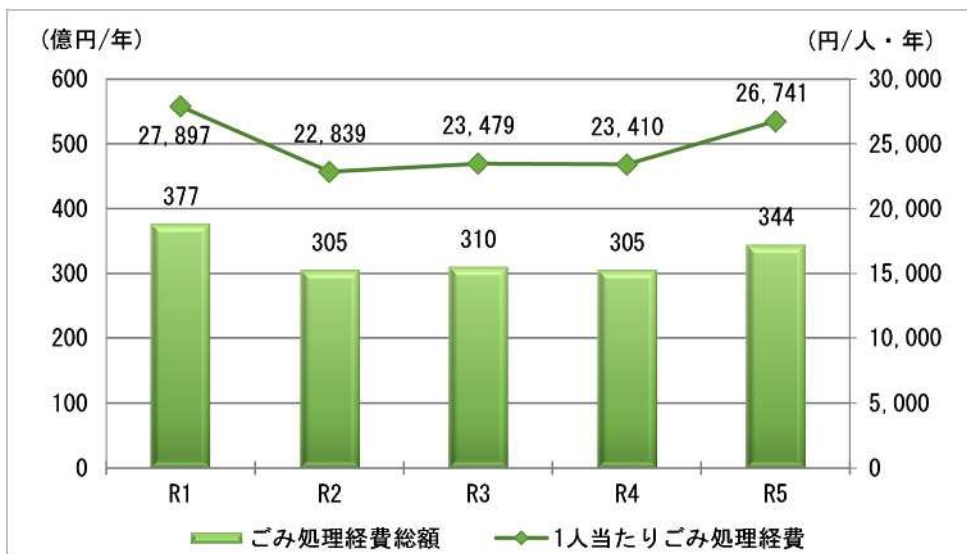


(備考) 1人1日当たり最終処分量＝最終処分量÷総人口÷年間日数(365日または366日)
 最終処分量＝直接最終処分量＋中間処理後最終処分量(焼却残渣・処理残渣)
 最終処分率＝最終処分量÷ごみ総排出量×100

図 2-1-12 最終処分率の推移(長崎県)

4. ごみ処理経費の状況

長崎県におけるごみ処理経費の総額は、令和5年度で344億円であり、県民1人当たりには換算すると約26,741円となっています。令和元年度と令和5年度のごみ処理経費総額が高価なのは、建設・改良費が他の年度より高額になっているためです。



(備考) ごみ処理経費総額＝建設改良費＋処理及び維持管理費等＋その他
 1人当たりごみ処理経費＝ごみ処理経費総額÷総人口

図 2-1-13 ごみ処理経費の推移(長崎県)

第2章 ごみ処理・処分の現状と課題

第1節 管理・運営体制

ごみ処理に関する現在の管理・運営体制は、次のとおりです。

生活系ごみに関する収集・運搬は西海市が実施主体となって委託により実施しています。事業系ごみについては排出者が自ら又は西海市が許可した収集運搬業者に依頼して中間処理施設へ搬入することとなっています。

中間処理及び最終処分については、西海市が実施主体となって実施しています。

可燃ごみの中間処理は、西海市炭化センターにおいて運営に係る業務を民間業者に委託して処理を行います。

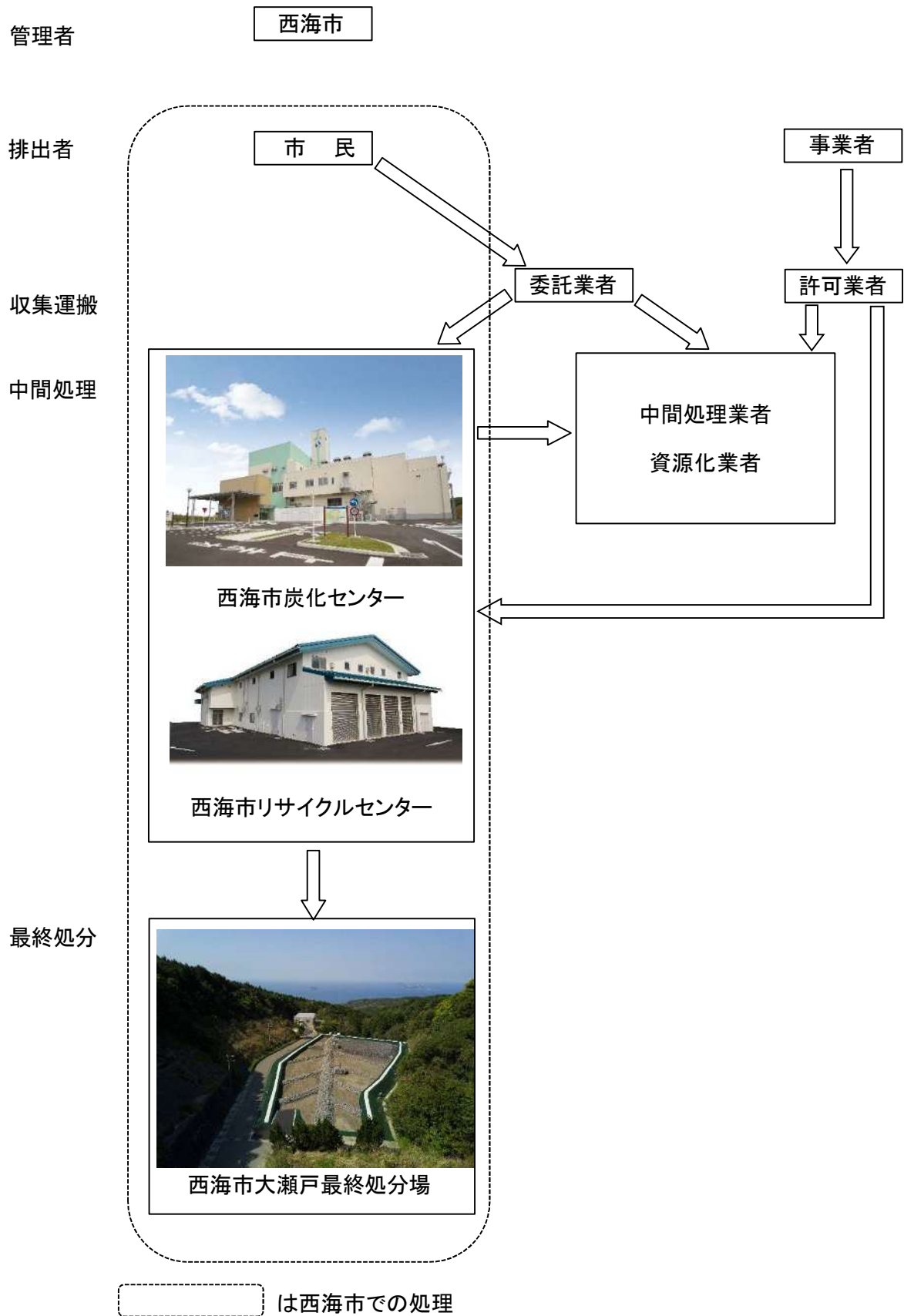
不燃ごみ、粗大ごみ及び資源物は、西海市リサイクルセンターにおいて選別・圧縮・保管を行い民間業者に委託して処理を行います。

最終処分は、西海市が有する西海市大瀬戸最終処分場で適正に埋立処分を行います。

表 2-2-1 ごみ処理に関する管理・運営体制

| 区分 | 種類 | 実施主体 | 運営 |
|-------|-------|-----------------------|----------|
| 収集・運搬 | 可燃ごみ | 西海市 | 委託 |
| | 不燃ごみ | | |
| 粗大ごみ | | | |
| 資源物 | | | |
| 生ごみ※ | | | |
| | 事業系ごみ | 排出者 (直接搬入又は許可業者) | — |
| 中間処理 | 可燃ごみ | 西海市 (西海市炭化センター) | 委託(運営委託) |
| | 不燃ごみ | 西海市 (西海市リサイクルセンター) | 直営 |
| | 粗大ごみ | | |
| | 資源物 | | |
| 生ごみ※ | 西海市 | 直営 | |
| 最終処分 | | 西海市 (西海市大瀬戸最終処分場) | 直営 |

※生ごみは平島のみ



※江島及び平島については、中継施設を経由し中間処理を行っている

図 2-2-1 西海市におけるごみ処理の流れ

第2節 収集・運搬状況

1. 収集・運搬体制

生活系ごみの収集・運搬は、次の体制で行われています。なお、事業系ごみについては、排出者による自己搬入又は許可業者による収集・運搬となっています。

西海市の収集地区は、AからCの3つ地区に分割されており、A地区は西彼町・大瀬戸町（松島地区を除く）、B地区は西海町・大島町・崎戸町（江島・平島地区を除く）・大瀬戸町（松島地区）、C地区は崎戸町（江島・平島地区）となっています。

西海市では、家庭から排出されるごみを「可燃ごみ」、「不燃ごみ」、「資源物」、「有害ごみ」、「粗大ごみ」、「その他のごみ」の6種類に分類しています。

可燃ごみについては「もえるごみ」、不燃ごみは「もえないごみ」、資源物は「缶」、「びん」、「ペットボトル」、「プラスチック製容器包装」、「白色トレイ」、「その他のプラスチック」、「布類」、「古紙類（新聞紙、雑誌、段ボール、紙パック、紙製容器包装）」、有害ごみは「電池」と「蛍光管」、他に「粗大ごみ」の17分別^{*1}に区分し、収集しています。

「その他のごみ」のうち、臨時排出一般廃棄物（建築物の解体等に係るもの）^{*2}については、排出者からの申込制にて収集を行っています。また、臨時排出一般廃棄物（建築物の解体等に係るもの）に該当しない、引っ越し等でごみが大量に発生した場合などは、排出者自らがリサイクルセンター等に直接搬入し、処理しています。

なお、感染のおそれがある医療系一般廃棄物、ガスボンベやガソリンなどの危険物、土砂やがれき、イノシシ成獣等大型動物などの処理困難物、エアコンやテレビなど個別の法律に定めのあるものなどは、生活系ごみであっても収集・運搬及び処理を行っていません。

※1：図2-2-2 西海市でのごみの出し方参照

※2：臨時排出一般廃棄物（建築物の解体等に係るもの）は、次のいずれにも該当するものをいう。

- (1) 空き家の建築物の解体前から当該空き家の敷地内又は屋内に残置されている廃棄物
- (2) 空き家に残置した自ら処理することが困難な廃棄物（引っ越しごみを除く。）

表 2-2-2 ごみの収集・運搬体制

【A地区、B地区（C地区を除く西海市内）】

| ごみの種類 | | 排出容器等 | 収集形態 | 収集方法 | 収集頻度 |
|-------|-----------------|--------------------------------|------------|----------|------|
| 生活系ごみ | もえるごみ | 指定袋(白) | 委託 直接搬入 | ステーション方式 | 2回/週 |
| | 缶 | 指定袋(緑) | | | 2回/月 |
| | ペットボトル | 指定袋(緑) | | | 2回/月 |
| | びん | 指定袋(緑) | | | 1回/月 |
| | もえないごみ | 指定袋(黄) | | | 1回/月 |
| | 粗大ごみ | 指定シール | | | 1回/月 |
| | 古紙類※ | ひもで縛る | | | 2回/月 |
| | 布類 | 透明な袋 | | | 2回/月 |
| | プラスチック製 容器包装 | コンテナ | | 地区拠点方式 | 2回/月 |
| | 白色トレイ | コンテナ | | | 2回/月 |
| | その他の プラスチック | コンテナ | | | 2回/月 |
| | 電池・蛍光管 | コンテナ | | | 2回/月 |
| 事業系ごみ | | 排出者が自ら直接搬入、 又は許可業者へ収集・運搬を依頼 | | | |

※古紙類は、「新聞」「雑誌」「段ボール」「紙バック」「紙製容器包装」

【C地区（江島、平島）】

| ごみの種類 | | 排出容器等 | 収集形態 | 収集方法 | 収集頻度 |
|-------|--------|--------------------------------|------------|----------|------|
| 生活系ごみ | もえるごみ | 指定袋(白) | 委託 直接搬入 | ステーション方式 | 3回/週 |
| | 生ごみ | 指定袋(白) | | | 3回/週 |
| | 缶 | 指定袋(緑) | | | 1回/週 |
| | ペットボトル | 指定袋(緑) | | | 1回/週 |
| | びん | 指定袋(緑) | | | 1回/週 |
| | もえないごみ | 指定袋(黄) | | | 1回/週 |
| | 粗大ごみ | 指定シール | | | 1回/月 |
| | 電池・蛍光管 | コンテナ | | 地区拠点方式 | — |
| 事業系ごみ | | 排出者が自ら直接搬入、 又は許可業者へ収集・運搬を依頼 | | | |

表 2-2-3 ごみステーション、地区拠点等の設置数

| 種類 | 西彼町 | 西海町 | 大瀬戸町 | 大島町 | 崎戸町 (江島・平島を除く) | 崎戸町 (江島・平島) | 合計 |
|-----------------------|-----|-----|------|-----|-------------------|----------------|-------|
| ごみステーション | 150 | 222 | 204 | 202 | 68 | 24 | 870 |
| 地区拠点(コンテナ) | 80 | 61 | 50 | 25 | 16 | 0 | 232 |
| 指定拠点(市が 指定した古紙回収庫) | 0 | 0 | 20 | 0 | 0 | 0 | 20 |
| 合計 | 230 | 283 | 274 | 227 | 84 | 24 | 1,122 |

保存版

西海市

ごみの分別と出し方



ステーション収集 西海市指定ごみ袋
(午前8時まで)

① もえるごみ

- 生ごみ (よく水洗いを切ってください)
- てんぷら油 (紙袋に絞りせて)
- 紙くず、貝がら、乾麺
- 布 (洗濯物以外のもの)
- ビデテープ、カセットテープ など
- 汚れがこびりついたプラスチック類

② もえないごみ

- 資源ごみを除く燃えないもの
- 金属類 ○陶磁器類
- ガラス類 ○小型の電化製品
- 金属とプラスチックがいっしょになったもの

③ 缶

- ビール缶
- ジュース缶
- スプレー缶
- 刃を削りての刃を鋭く など

④ びん

- 飲料水用びん
- 食料品用びん
- 化粧品用びん など

⑤ ペットボトル

- 清涼飲料水
- しょうゆ類 など
- フタ、ラベルはプラスチック製容器包装へ出してください。

ステーション・拠点収集

⑥ プラスチック製容器包装

- 洗剤、シャンプー容器
- 油、ソース容器 ○カップラーメン容器
- レジ袋 ○色付きトレイ など
- ゆもを洗い、洗って出してください。

⑦ 白色トレイ

- 食料品用白色トレイ
- 汚口を洗い、洗って出してください。

⑧ その他プラスチック

- プラスチック製ハンガー
- プラスチック製バケツ
- CD等のケース など
- 清潔を奪わないものを大切にしてください。

⑨ 布類

- 綿製品に限る
- 綿製品ではないもの、汚れがひどいものはもえるごみに出してください。
- 化学繊維は含まれません。●綿100%製品に限る。

⑩ 電池

⑪ 蛍光灯

- できるだけ購入時の箱や袋に入れて出してください。

ステーション収集

⑫ 新聞

- 新聞紙
- 手拭などは折り畳み紙類と一緒にまとめて出してください。

⑬ 雑誌

- 雑誌
- 本
- チラシ など
- ひもでまとめて出してください。

⑭ 段ボール

段ボールの見分け方
紙の裏面に数字の積りかたの記号が印刷されているものを回収対象とします。

- 段ボール
- ひもでまとめて出してください。

⑮ 紙パック

- 牛乳やジュースの紙パック など
- 洗って、乾かして、ひもでまとめて出してください。

⑯ 紙製容器包装

- お菓子の箱
- ティッシュの箱
- たばこの箱 など
- フィルムはプラスチック製容器包装へ出してください。

ステーション収集

⑰ 粗大ごみ

- 家具
- ふとん
- ストーブ
- 自転車 など
- ※粗大ごみシールを貼ってください。

市では収集しないごみ

- 家電4品目 (①テレビ、②冷蔵庫・冷凍庫、③洗濯機・衣類乾燥機、④エアコン)
- パソコン ○産業廃棄物
- 腐臭の恐れのあるもの ○医療器具 ○薬品
- 農薬 ○ブロック ○かわら ○レンガ ○タイヤ
- オイル ○バッテリー ○ガスボンベ ○消火器 など
- ※販売店または、専門業者へ依頼してください。

事業系ごみ

市で収集するのは、一般家庭のごみだけです。事業所(店舗、事務所、工場など)から出るごみは自己処理が原則です。自己処理できない場合は民間の許可業者へ委託してください。

図2-2-2 西海市でのごみの出し方(説明パンフレット)

第3節 排出抑制・リサイクルへの取組み状況

西海市では、ごみの排出抑制・再資源化の推進に向けて、次のような取組みを行っています。

表 2-2-4 排出抑制・再資源化への取組み、その1

| 項目 | 取組み | 内容 | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|-------------------------------|---|------------------------|--|--------|-------------------------------|---------|-------------------------------|------|-------------------------------|-------------|--|-----------------------------------|--|----------------------|--|---|--|
| ごみ減量 対策 | ごみ処理の有料化 | <p>ごみ処理手数料並びにごみ処理施設への直接搬入手数料については次のとおりです。</p> <table border="1"> <tr> <td colspan="2">① 生活系ごみに係るごみ処理手数料（指定袋）</td> </tr> <tr> <td>もえるごみ袋</td> <td>大：20円/枚 中：15円/枚 小：10円/枚</td> </tr> <tr> <td>もえないごみ袋</td> <td>大：25円/枚 中：20円/枚 小：15円/枚</td> </tr> <tr> <td>資源ごみ</td> <td>大：15円/枚 中：12円/枚 小：10円/枚</td> </tr> <tr> <td colspan="2">※20枚セットでの販売</td> </tr> <tr> <td colspan="2">粗大ごみシール：200円/枚 ※粗大ごみ1個につきシール1枚</td> </tr> <tr> <td colspan="2">② 直接搬入に係るごみ処理手数料：60円</td> </tr> <tr> <td colspan="2">③ 臨時排出一般廃棄物（建築物の解体等に係るもの） 27,860円/2トン積載貨物自動車1台 13,930円/軽貨物自動車1台</td> </tr> </table> <p>※金額は令和7年4月1日現在</p> | ① 生活系ごみに係るごみ処理手数料（指定袋） | | もえるごみ袋 | 大：20円/枚 中：15円/枚 小：10円/枚 | もえないごみ袋 | 大：25円/枚 中：20円/枚 小：15円/枚 | 資源ごみ | 大：15円/枚 中：12円/枚 小：10円/枚 | ※20枚セットでの販売 | | 粗大ごみシール：200円/枚 ※粗大ごみ1個につきシール1枚 | | ② 直接搬入に係るごみ処理手数料：60円 | | ③ 臨時排出一般廃棄物（建築物の解体等に係るもの） 27,860円/2トン積載貨物自動車1台 13,930円/軽貨物自動車1台 | |
| | ① 生活系ごみに係るごみ処理手数料（指定袋） | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| もえるごみ袋 | 大：20円/枚 中：15円/枚 小：10円/枚 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| もえないごみ袋 | 大：25円/枚 中：20円/枚 小：15円/枚 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 資源ごみ | 大：15円/枚 中：12円/枚 小：10円/枚 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ※20枚セットでの販売 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 粗大ごみシール：200円/枚 ※粗大ごみ1個につきシール1枚 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ② 直接搬入に係るごみ処理手数料：60円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ③ 臨時排出一般廃棄物（建築物の解体等に係るもの） 27,860円/2トン積載貨物自動車1台 13,930円/軽貨物自動車1台 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 家庭用生ごみ処理機等購入費補助金交付制度 | <p>西海市では、ごみの排出抑制の取組みの一つとして、生ごみ処理容器(電気式を含む)の購入費補助を行っています。</p> <p>[補助金額]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生ごみ処理容器・・・購入費の1/2で限度額1万円 ・電気式生ごみ処理機・・・購入費の1/2で限度額2万円 <p>※処理機の導入実績は下表を参照</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |

■生ごみ処理機及び処理容器購入数

| 年度 | 生ごみ処理容器 (コンポスト) | 生ごみ処理機 (電気式) |
|-------|--------------------|-----------------|
| 令和元年度 | 0 | 5 |
| 令和2年度 | 5 | 5 |
| 令和3年度 | 8 | 4 |
| 令和4年度 | 0 | 0 |
| 令和5年度 | 10 | 6 |
| 令和6年度 | 5 | 4 |

表 2-2-5 排出抑制・再資源化への取組み、その2

| 項目 | 取組み | 内容 |
|--------|---|---|
| 資源化促進 | 拠点回収事業 | 西海市（崎戸町江島・平島を除く）では資源物の一部の拠点回収をコンテナで行うことにより、ごみ袋を使用しない方式を採用し、ごみ量の削減に努めるとともに、市民自らがごみの出し方について相互チェックすることで、資源物の分別（3分別）を徹底しています。 |
| | 資源物の分別収集 | <p>「資源有効利用促進法」に基づいて、西海市では、分別収集や拠点回収を行うことで、これまでは「ごみ」として処理されていたものを「資源」として活用しています。</p> <p>また、西海市は独自に「その他のプラスチック」についても積極的にリサイクルを行っています。このほか、ごみ分別事典を作成し、市民への周知も行っています。</p> <p>【資源物分別収集対象品目】</p> <p>①缶、②びん、③ペットボトル、 ④プラスチック製容器包装、⑤白色トレイ、⑥布類、 ⑦その他のプラスチック、⑧新聞、⑨雑誌、 ⑩段ボール、⑪紙パック、⑫紙製容器包装</p> |
| 各種啓発事業 | 啓発看板の作成・配布 | 環境美化、散乱ごみ抑制の看板を作成し、配布しています。 |
| | 各種イベントでの啓発 | 西海市主催のイベントにブースを出展し、ごみ減量とリサイクル推進についての理解と協力を求め、市民意識の向上を図っています。 |
| | 西海市炭化センター、西海市リサイクルセンター及び西海市汚泥再生処理センター見学の受入れ | ごみ処理及びし尿・汚泥処理の流れやリサイクルの現状について、西海市炭化センター、西海市リサイクルセンター及び西海市汚泥再生処理センターの見学・体験学習等を通じて、市民意識の向上を図っています。 |
| | 3きり運動 | <p>食材の「使いきり」、料理の「食べきり」、ごみの「水きり」を推進し、食品ロスの削減、ごみの減量化を図っています。</p> <p>具体的には、広報誌での周知、イベントの来場者等を対象に水切りネットと啓発用チラシを配布し、市民意識の向上を図っています。</p> |
| | 事業系一般廃棄物の出し方指導 | 事業所における正しいごみ処理の方法や減量化の方策、それぞれの立場で取組むべき事項等について意識の向上を図っています。 |

第4節 ごみ処理・処分施設の状況

1. 中間処理施設

1) 可燃ごみ処理施設

可燃ごみの処理は、市内の可燃ごみ全てを西海市炭化センターで処理しています。

表 2-2-6 西海市炭化センターの概要

| | |
|---------|--------------------------|
| 施設名 | 西海市炭化センター |
| 施設所管 | 西海市 |
| 所在地 | 西海市西海町太田和郷 4454 番地 18 |
| 設計・建設年度 | 平成 24 年 11 月～平成 27 年 6 月 |
| 運営開始 | 平成 27 年 7 月 |
| 処理方式 | 間接外熱キルン炭化方式 |
| 処理能力 | 30 t/日 (15t/24h×2 炉) |
| 処理対象 | 可燃ごみ |



■ 西海市炭化センター

2) 不燃ごみ・資源物・粗大ごみ処理施設

西海市で収集した資源物のうち、ペットボトル、プラスチック製容器包装及び白色トレイについては、市内の民間業者に委託して選別・圧縮と保管を行っています。その他のプラスチックについては、市内の民間業者に委託して資源化しています。それ以外の資源物、不燃ごみ、粗大ごみについては、西海市リサイクルセンターで中間処理した後、民間業者において資源化しています。

表 2-2-7 西海市リサイクルセンターの概要

| | |
|---------|---------------------------|
| 施設名 | 西海市リサイクルセンター |
| 施設所管 | 西海市 |
| 所在地 | 西海市大島町 3384 番地 3 |
| 設計・建設年度 | 平成 26 年 6 月～平成 27 年 3 月 |
| 稼動開始 | 平成 27 年 4 月 |
| 処理設備 | 磁選機、破砕機、プレス機 |
| 処理能力 | 2.5 t / 5h |
| 処理対象 | 不燃ごみ、資源物、有害ごみ、粗大ごみ、その他のごみ |



■ 西海市リサイクルセンター

2. 最終処分場

1) 最終処分場

西海市には、大瀬戸町に焼却残渣及び不燃残渣を埋立処分することができる一般廃棄物最終処分場（管理型）があり、西海市炭化センターの焼却残渣・不燃残渣、西海市リサイクルセンターの処理残渣及び西海市汚泥再生処理センターの処理残渣を処分しています。

表 2-2-8 西海市大瀬戸最終処分場の概要

| | |
|------|-----------------------|
| 施設名 | 西海市大瀬戸最終処分場 |
| 施設所管 | 西海市 |
| 所在地 | 大瀬戸町雪浦小松郷 1440 番地3 |
| 埋立開始 | 平成7年度 |
| 埋立面積 | 3,300 m ² |
| 埋立容量 | 20,946 m ³ |
| 埋立対象 | 処理残渣 |
| 埋立方法 | 準好気性埋立構造 |



■ 西海市大瀬戸最終処分場

表 2-2-9 その他の最終処分場の概要

| 施設名 | 埋立開始年度 | 全体容量 (m ³) | 埋立地面積 (m ²) | 備考 |
|---------------|--------|------------------------|-------------------------|----------|
| 西海市西彼クリーンセンター | S50 | 17,600 | 2,300 | H17 埋立終了 |
| 西海市崎戸菅峰埋立地 | S48 | 17,403 | 700 | H17 埋立終了 |
| 西海市崎戸江島埋立地 | S59 | 1,021 | 422 | H17 埋立終了 |
| 西海市崎戸平島埋立地 | S52 | 9,569 | 500 | H17 埋立終了 |

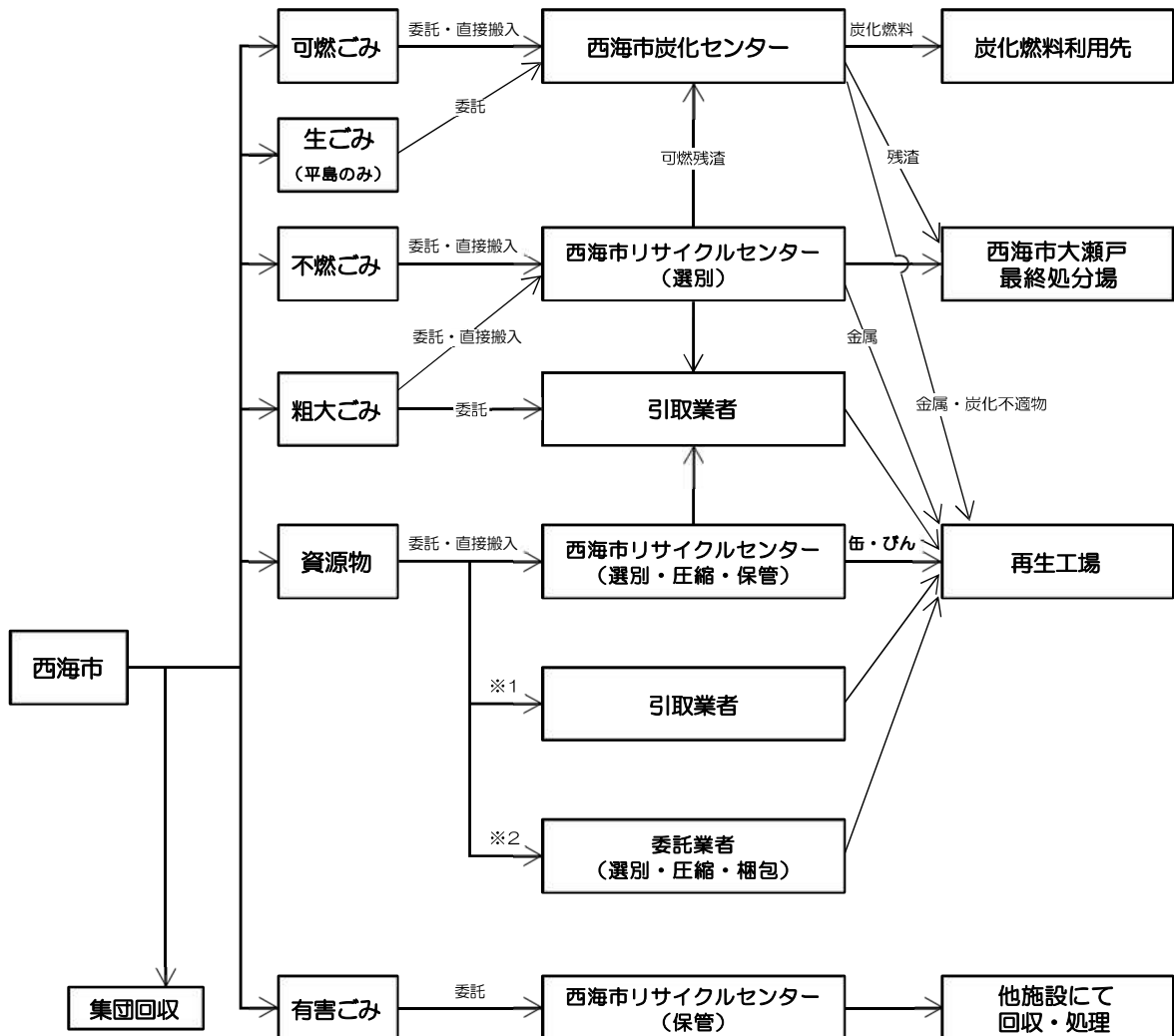
2) 焼却灰仮保管庫

旧崎戸町が設置した崎戸町灰仮保管施設（容量 455 m³）に焼却灰を保管しています。

第5節 ごみ処理・処分状況

1. ごみ処理・処分体制

- 1) 可燃ごみは、西海市炭化センターにおいて炭化方式で処理を行い、製造された炭化燃料は、石炭の代替燃料として有効利用されています。
- 2) 不燃ごみ、粗大ごみ、資源物及び有害ごみは、西海市リサイクルセンターでの選別・圧縮処理、また、民間業者への委託等による資源化が行われています。西海市リサイクルセンター等での処理の過程で生じる可燃残渣は、西海市炭化センターで処理されています。
- 3) 西海市炭化センター及び西海市リサイクルセンターでの処理により発生した残渣は、西海市大瀬戸最終処分場で埋立処分しています。



※1:新聞・雑誌・段ボール・紙パック・紙製容器包装・布類

※2:ペットボトル・プラスチック製容器包装・白色トレイ・その他のプラスチック

図 2-2-3 ごみ処理・処分フロー

2. 事業系一般廃棄物（事業所ごみ）の処理と処分

「廃棄物処理法」及び「西海市廃棄物の処理及び清掃に関する条例」に基づき、事業所から排出されるごみは、事業者自らが適正に処理することとなっています。

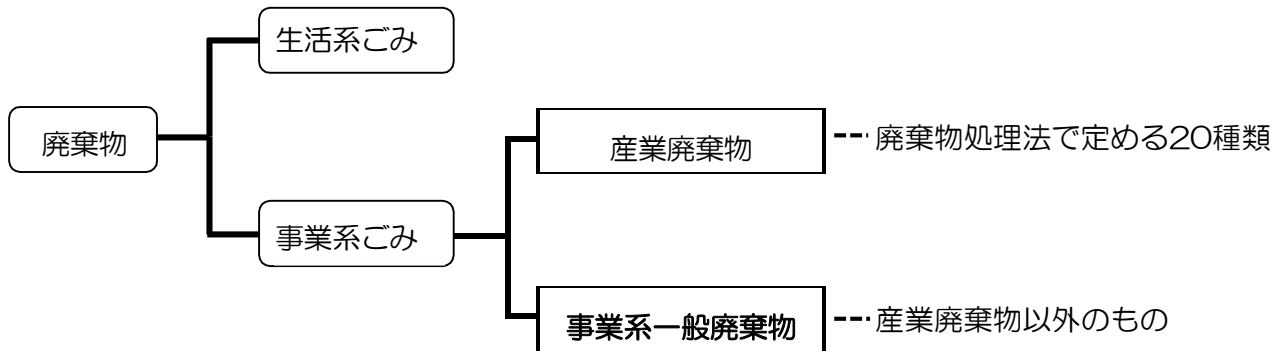
事業系ごみには、産業廃棄物と事業系一般廃棄物の2種類があり、このうち、産業廃棄物は、排出者が産業廃棄物処理業者に委託して処分することとなっています。事業者が事業系一般廃棄物をごみステーションに出すことはできないので、西海市炭化センター、西海市リサイクルセンター及び市の許可を有する事業系一般廃棄物処分許可業者に直接搬入するか、事業系一般廃棄物収集運搬許可業者に依頼して搬入するかのいずれかの方法で処理することになり、市の施設に直接搬入する場合は処分料として、ごみ処理手数料を徴収しています。

なお、事業系一般廃棄物は、市内の事業所で排出されたもののみ搬入可能で、市外の事業所から排出されたものは対象外となります。

事業系一般廃棄物とは

産業廃棄物を除く廃棄物で、生活系ごみと同じような性状のお茶の葉や紙コップ、雑誌などの一般廃棄物は、事業所から排出されれば、「事業系一般廃棄物」となります。

事業所とは、会社や商店、飲食店、病院、学校など、事業が営まれているところをいいます。



■ ごみ処理手数料

| 搬入車両 | 金額 |
|-------------------------------|----------|
| 計量により 10kg まで | 60 円 |
| 計量により 10kg を超える分について 10kg ごとに | 60 円（加算） |

■ 事業系一般廃棄物の搬入ができる市のごみ処理施設

| 施設名 | 所在地 | 対象廃棄物 |
|--------------|-----------------------|---------------|
| 西海市炭化センター | 西海市西海町太田和郷 4454 番地 18 | 可燃ごみ |
| 西海市リサイクルセンター | 西海市大島町 3384 番地 3 | 不燃ごみ、粗大ごみ、資源物 |

（備考）産業廃棄物、処理困難物等は対象外となる

3. ごみ排出状況

1) ごみ排出量

西海市におけるごみ排出量は、近年は減少傾向で推移しており、令和6年度は7,386 tとなっています。なお、1人1日当たりのごみ排出量も減少傾向を示しており、令和6年度は1人1日当たり806 gのごみを排出しています。

なお、1人1日当たりのごみ量について、全国及び長崎県の平均値（令和5年度値）と比較した場合は、西海市の同ごみ量（806 g/人・日）は、全国（851 g/人・日）と比較すると45 g、長崎県（930 g/人・日）と比較すると124 gそれぞれ少ない状況です。

ごみの総排出量のうち、生活系ごみと事業系ごみの排出割合をみると、共に減少傾向で推移しており、令和6年度は生活系ごみが5,081 t（69%）、事業系ごみが2,287 t（31%）となっています。

表 2-2-10 ごみ総排出量の推移

（単位：t/年）

| 項目 | | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 |
|---------------------|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 総排出量 | 計画収集量 | 7,304 | 6,947 | 6,831 | 6,465 | 6,403 |
| | 直接搬入量 | 394 | 331 | 341 | 408 | 299 |
| | 集団回収量 | 26 | 24 | 24 | 23 | 18 |
| | 汚泥・し渣等 | 756 | 758 | 745 | 649 | 666 |
| | 排出量（合計） | 8,480 | 8,060 | 7,941 | 7,545 | 7,386 |
| | 生活系ごみ | 5,931 | 5,624 | 5,525 | 5,277 | 5,081 |
| | 事業系ごみ | 2,523 | 2,412 | 2,392 | 2,245 | 2,287 |
| 集団回収 | 26 | 24 | 24 | 23 | 18 | |
| 人口（人） | | 27,123 | 26,518 | 25,882 | 25,547 | 25,114 |
| 1人1日当たりごみ排出量（g/人・日） | | 857 | 833 | 841 | 807 | 806 |

（備考）ごみ排出量＝収集量＋直接搬入量＋集団回収量

1人1日当たりごみ排出量＝排出量（収集量＋直接搬入量＋集団回収量）

÷年間日数（365日または366日）÷計画収集人口×10⁶

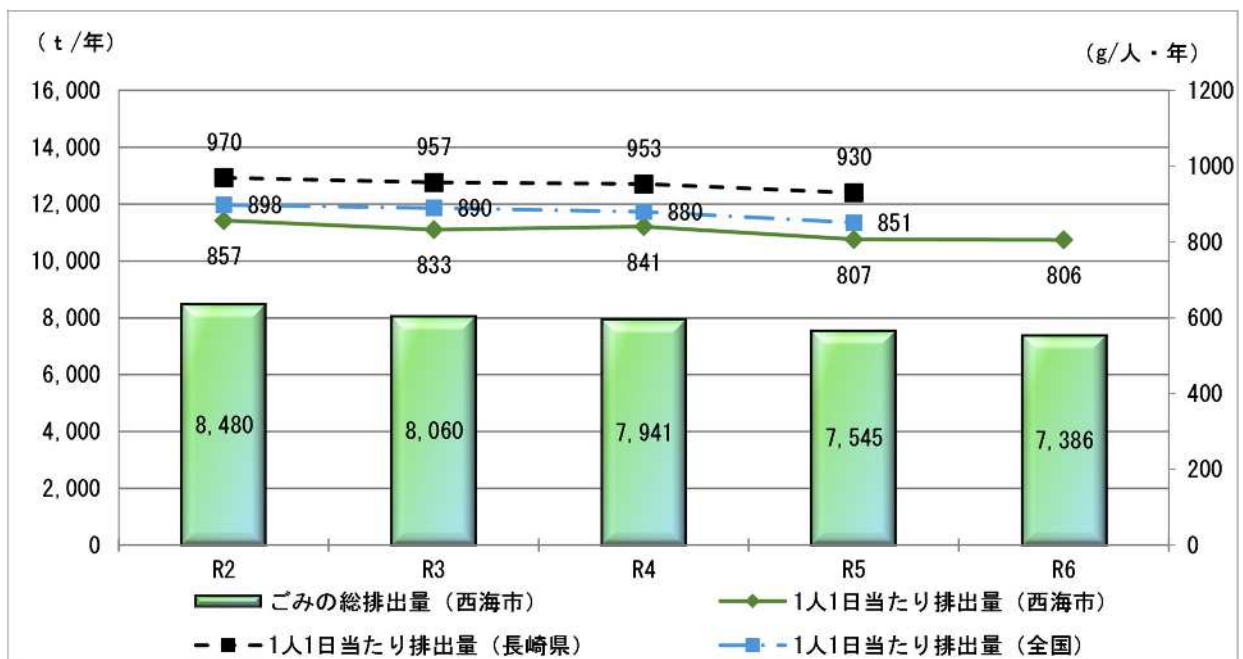


図 2-2-4 ごみ排出量の推移

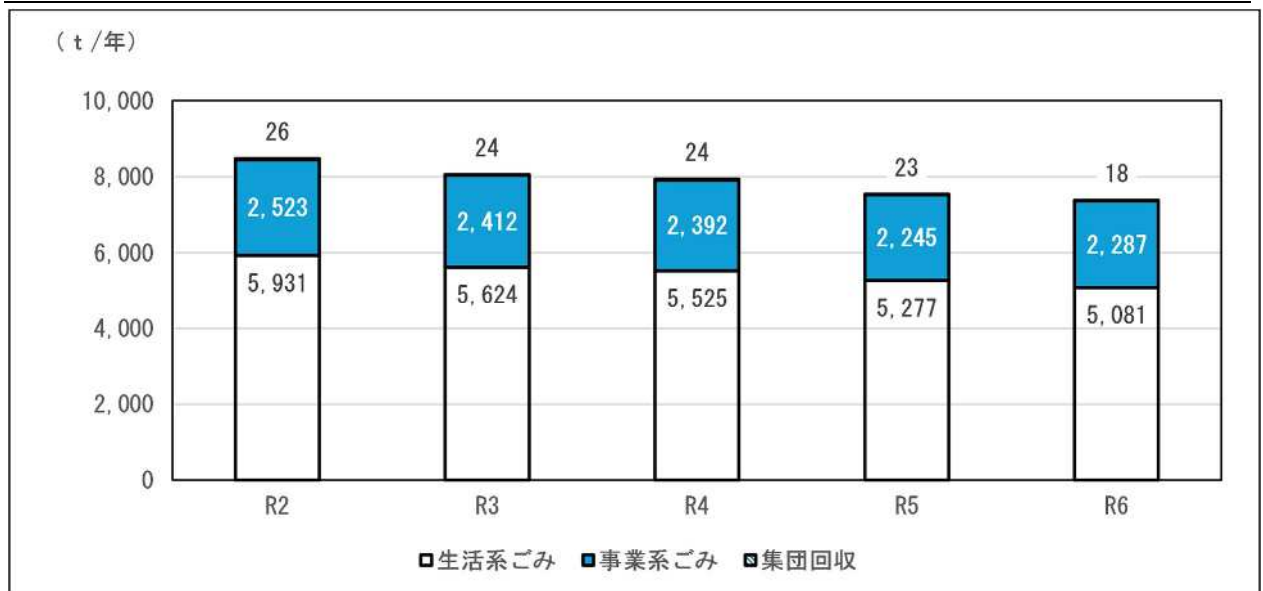


図 2-2-5 ごみの収集別排出量の推移

2) 種類別ごみ排出量

種類別にごみ排出量をみると、可燃ごみ、不燃ごみ、資源物及び集団回収は減少傾向、粗大ごみは令和3年度に減少して以降はほぼ横ばいで推移しています。

表 2-2-11 種類別ごみ排出量の推移 (単位：t/年)

| 区分 | | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 |
|------------|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 形態別 排出量 | 生活系ごみ | | | | | |
| | 可燃ごみ | 4,373 | 4,273 | 4,185 | 4,006 | 3,823 |
| | 不燃ごみ | 152 | 81 | 83 | 77 | 89 |
| | 粗大ごみ | 418 | 344 | 304 | 314 | 329 |
| | 資源物 | 985 | 926 | 953 | 880 | 840 |
| | その他 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 生活系ごみ(合計) | 5,931 | 5,624 | 5,525 | 5,277 | 5,081 |
| | 事業系ごみ | | | | | |
| | 収集・搬入 | 1,767 | 1,654 | 1,647 | 1,596 | 1,621 |
| | 汚泥・し渣 | 756 | 758 | 745 | 649 | 666 |
| 事業系ごみ(合計) | 2,523 | 2,412 | 2,392 | 2,245 | 2,287 | |
| 集団回収 | 26 | 24 | 24 | 23 | 18 | |
| 排出量 | 可燃ごみ | 6,896 | 6,685 | 6,577 | 6,251 | 6,110 |
| | 不燃ごみ | 152 | 81 | 83 | 77 | 89 |
| | 粗大ごみ | 418 | 344 | 304 | 314 | 329 |
| | 資源物 | 1,011 | 950 | 977 | 903 | 858 |
| | その他 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 総排出量 | 8,480 | 8,060 | 7,941 | 7,545 | 7,386 |

(備考) 事業系ごみは、汚泥・し渣等を含む、全て可燃ごみ
 排出量の可燃ごみは、汚泥・し渣等を含む
 排出量の資源物は集団回収を含む。

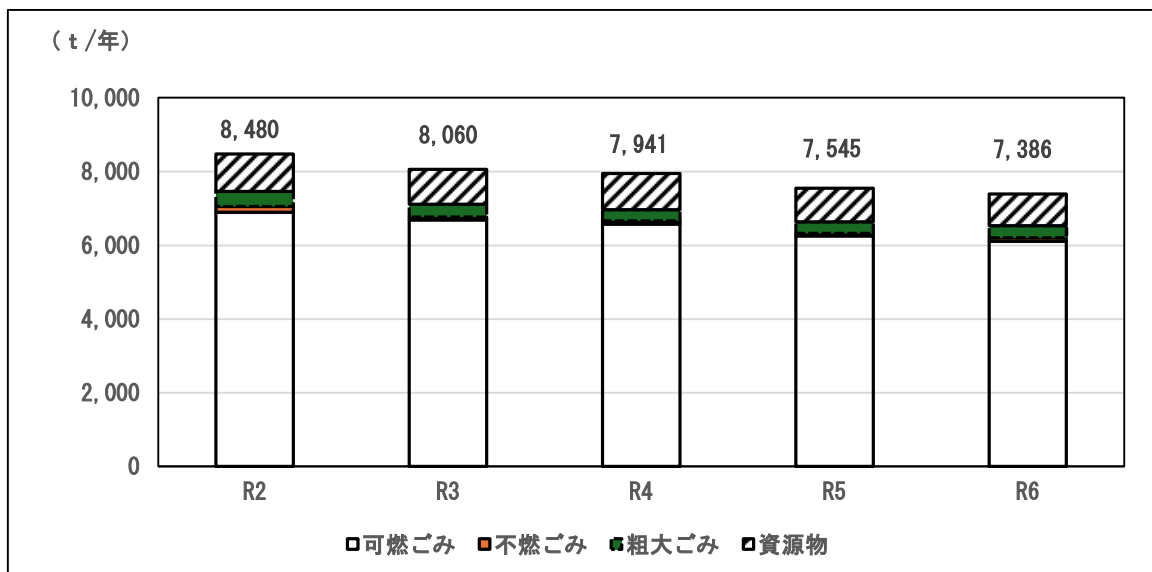


図 2-2-6 種類別ごみ排出量の推移

4. 中間処理の状況

西海市において排出されたごみは、市の中間処理施設（西海市炭化センター、西海市リサイクルセンター）で中間処理され、減量化、資源化がなされています。

炭化処理量及び不燃ごみ、粗大ごみの資源化等処理量は減少傾向を示しています。令和6年度の炭化処理量は 6,110 t です。不燃ごみ、粗大ごみの資源化等処理量は 840 t で、中間処理量は 6,950 t となります。

表 2-2-12 ごみの中間処理量の推移 (単位：t/年)

| 項目 | | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 |
|-------------|----------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 処 理 量 | 直接処理量 | 6,858 | 6,660 | 6,538 | 6,200 | 6,063 |
| | 処理残渣の処理量 | 38 | 25 | 39 | 51 | 47 |
| | 処理量合計 | 6,896 | 6,685 | 6,577 | 6,251 | 6,110 |
| 資源化等の中間処理量 | | 1,025 | 895 | 878 | 850 | 840 |
| 中間処理量合計 | | 7,921 | 7,580 | 7,455 | 7,101 | 6,950 |

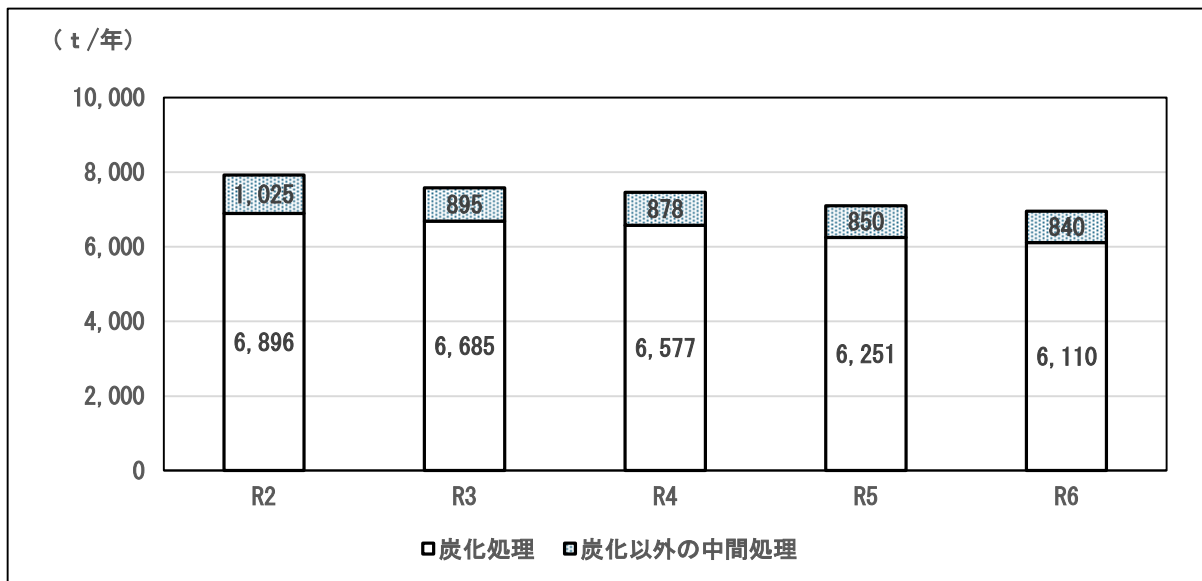


図 2-2-7 ごみの中間処理量の推移

5. 資源化の状況

西海市の令和6年度のリサイクル率は30.9%です。令和2年度の32.5%から1.6ポイントの減少となっています。

令和5年度のリサイクル率の全国平均値をみると19.5%であり、これを西海市の令和6年度値と比較すると西海市は全国平均値を11.4ポイント上回っています。長崎県のリサイクル率は15.8%であり、西海市はこれを15.1ポイント上回っています。

令和6年度の資源化量を品目別にみると、炭化物が1,095tで最も多く、続いて紙類が336t、以下、固形燃料、金属類、ガラス類、プラスチック類と続きます。各品目での推移状況を見ると、ペットボトルは増減がありますが、ペットボトル以外は減少傾向にあります。

令和6年度における西海市の1人1日当たりの資源化量は249gであり、全国及び長崎県の実績（令和5年度値）と比較してみると、国（167g）と比較して82g、県（146g）と比較して103g多くなっています。

表 2-2-13 品目別資源化量の推移

(単位：t/年)

| 項目 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 |
|-----------------------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 紙類 | 387 | 385 | 390 | 354 | 336 |
| 金属類 | 274 | 228 | 220 | 215 | 211 |
| ガラス類 | 150 | 139 | 150 | 143 | 138 |
| ペットボトル | 62 | 62 | 78 | 68 | 61 |
| プラスチック類 | 122 | 123 | 127 | 111 | 102 |
| 布類 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 肥料 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 飼料 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 固形燃料 | 418 | 344 | 304 | 314 | 329 |
| 燃料 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 炭化物 | 1,328 | 1,325 | 1,235 | 1,168 | 1,095 |
| その他 | 17 | 14 | 12 | 12 | 9 |
| 資源化量合計 | 2,758 | 2,620 | 2,516 | 2,385 | 2,281 |
| リサイクル率(%) | 32.5 | 32.5 | 31.7 | 31.6 | 30.9 |
| 資源化量合計 (炭化物を除く) | 1,430 | 1,295 | 1,281 | 1,217 | 1,186 |
| リサイクル率(%) (炭化物を除く) | 16.9 | 16.1 | 16.1 | 16.1 | 16.1 |

(備考) リサイクル率=(直接資源化量+中間処理後再生利用量+集団回収量)/(ごみ処理量+集団回収量)*100

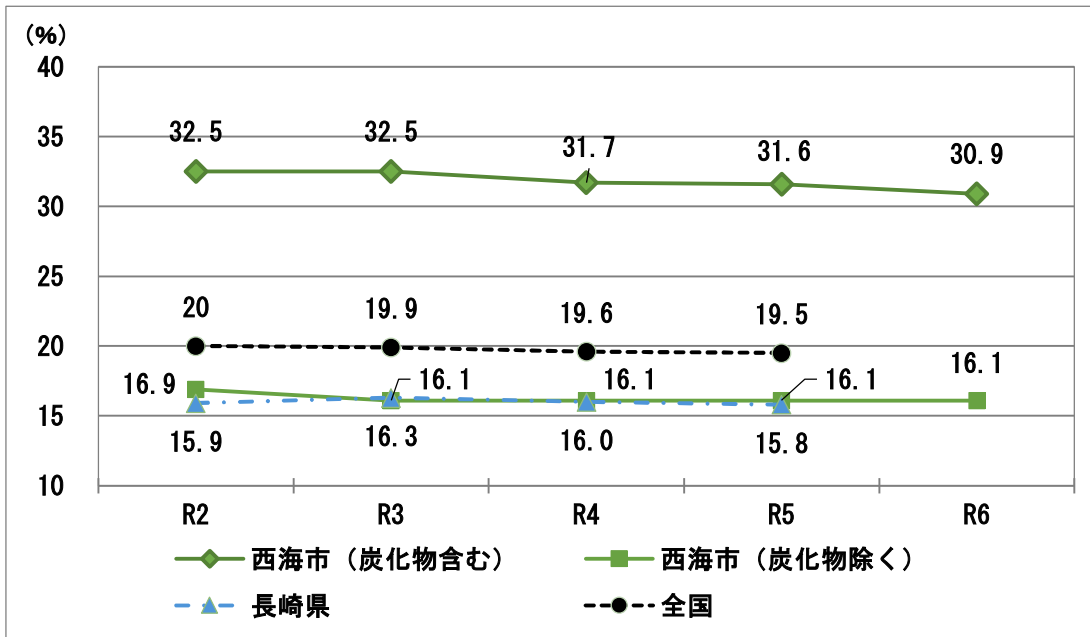


図 2-2-8 リサイクル率の推移

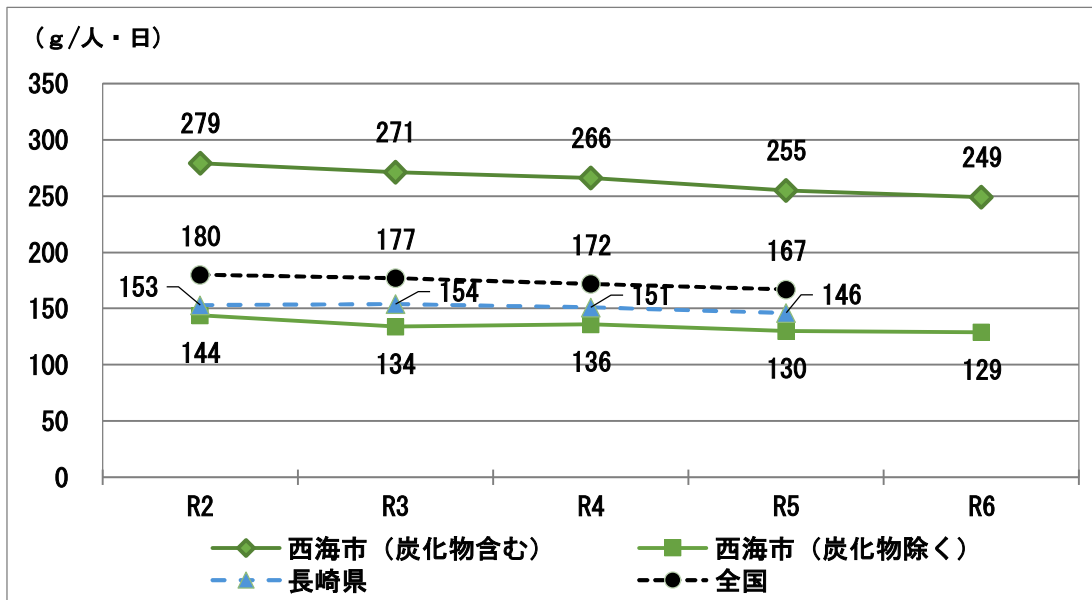


図 2-2-9 1人1日当たり資源化量の推移

6. 最終処分の状況

西海市の令和6年度の最終処分率は3.9%です。令和2年度の4.4%から0.5ポイント下回っています。最終処分量は289t/年、1人1日当たりの最終処分量は32gとなっています。最終処分量は、令和3年度に減少して以降は横ばいで推移しています。

令和6年度における西海市の最終処分率について、全国及び長崎県の実績（平令和5年度値）と比較してみると国（8.1%）より4.2ポイント、長崎県（7.2%）より3.3ポイント下回っています。同様に、1人1日当たりの最終処分量では、国（69g）より37g、長崎県（67g）より35g少なくなっています。

なお、令和2年度の直接埋立量が、他の年度と比較して多くなっているのは、令和2年に発生した台風9号及び台風10号による災害廃棄物を埋め立てたことによるものです。

表 2-2-14 最終処分量の推移 (単位：t/年)

| 項目 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 |
|----------------------|-----|-----|-----|-----|-----|
| 直接埋立 | 152 | 81 | 83 | 77 | 89 |
| 処理残渣 | 222 | 204 | 227 | 208 | 200 |
| 最終処分量 | 374 | 285 | 310 | 285 | 289 |
| 1人1日当たり最終処分量 (g/人・日) | 38 | 29 | 33 | 30 | 32 |
| 最終処分率 (%) | 4.4 | 3.5 | 3.9 | 3.8 | 3.9 |

(備考) 最終処分率=最終処分量÷排出量(収集量+直接搬入量+集回回収量)

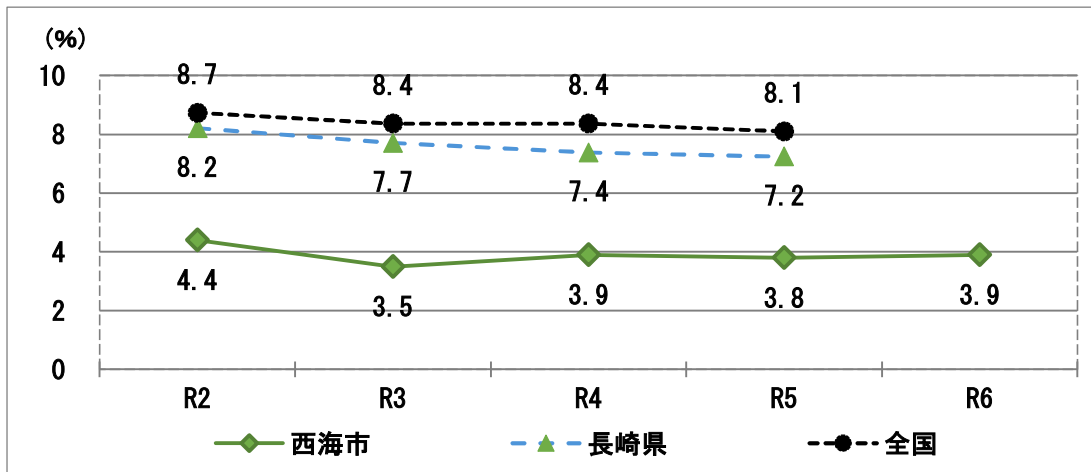


図 2-2-10 最終処分率の推移

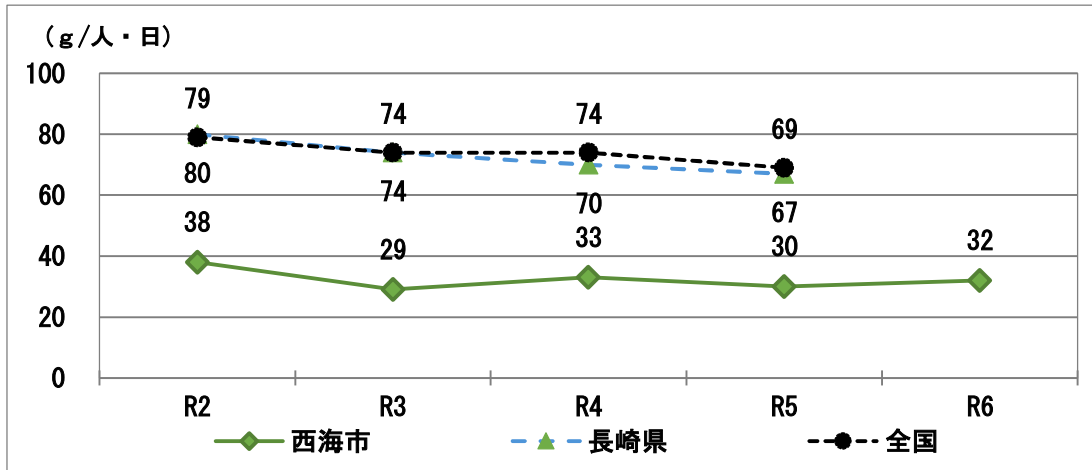


図 2-2-11 1人1日当たりの最終処分量の推移

7. ごみ処理フロー

西海市の令和6年度におけるごみ処理・処分の流れは以下のとおりです。

令和6年度のごみの排出量は7,386 tです。排出量の30.9%にあたる2,282 tが資源化されており、3.9%にあたる289 tが最終処分されています。

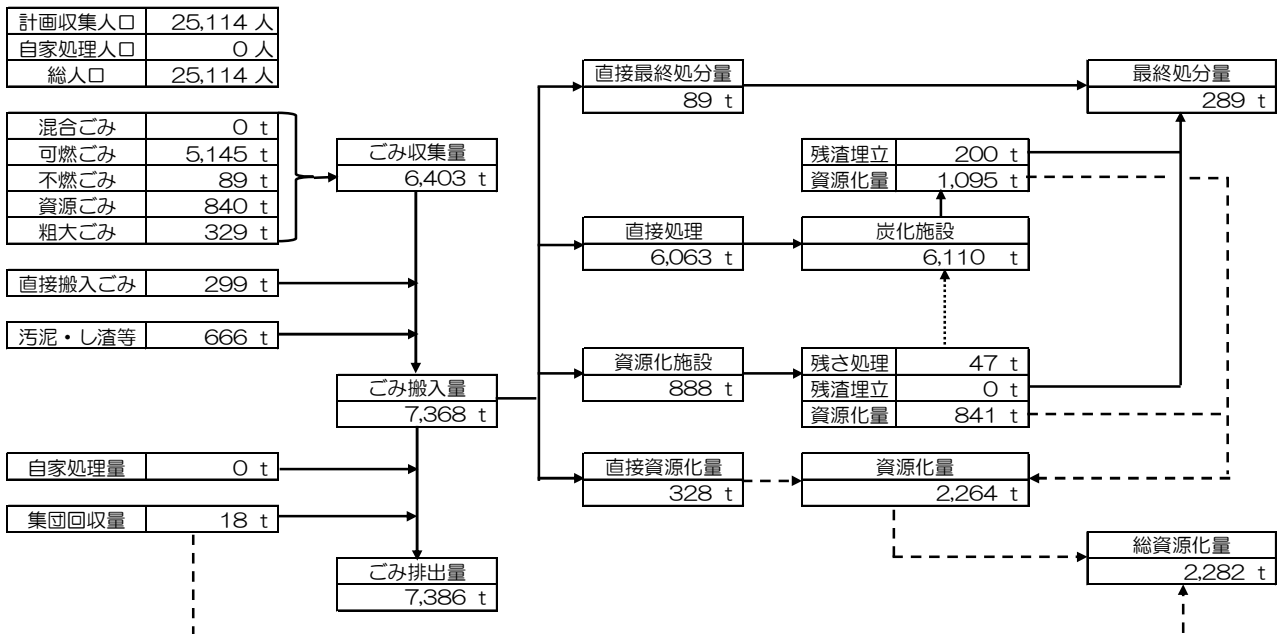


図 2-2-12 ごみ処理フロー (令和6年度実績)

8. ごみの性状

可燃ごみの性状（種類組成）は、「紙・布類」が最も多くを占める傾向にあります。他には、「ビニール、合成樹脂、ゴム、皮革類」、「厨芥類」も多く排出されています。

表 2-2-15 可燃ごみの性状（西海市炭化センター）

| | | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 |
|----------------------------|----------------------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 種類組成（％） | 紙・布類 | 43.7 | 42.3 | 45.2 | 47.6 | 44.7 |
| | ビニール、合成樹脂、 ゴム、皮革類 | 20.2 | 24.3 | 19.5 | 24.3 | 23.1 |
| | 木、竹、わら類 | 6.9 | 3.5 | 4.6 | 4.4 | 4.1 |
| | 厨芥類 | 24.8 | 22 | 27.2 | 19.2 | 21.9 |
| | 不燃物類 | 1.3 | 4.9 | 0.8 | 1.8 | 3.5 |
| | その他 | 3.1 | 3.0 | 2.7 | 2.7 | 2.7 |
| 単位容積重量(kg/m ³) | | 248 | 277 | 289 | 279 | 239 |
| 三成分（％） | 水分 | 58.2 | 58.9 | 60.9 | 57.7 | 58.1 |
| | 可燃分 | 35.7 | 36.4 | 36.3 | 38.5 | 37.5 |
| | 灰分 | 6.1 | 4.7 | 2.8 | 3.8 | 4.4 |
| 低位発熱量(kJ/kg) | 計算値 | 5,830 | 5,390 | 5,320 | 7,090 | 5,610 |
| | 実測値 | 6,680 | 6,310 | 6,100 | 6,880 | 7,010 |

（備考）種類組成は乾物基準

9. ごみ処理経費

西海市の令和6年度のごみ処理経費の合計は、約6億5千万円です。その内、ごみ処理及び維持管理に係る経費は、約6億3千万円です。また、1人当たりでの年間のごみ処理及び維持管理費用は、約2万5千円となっています。

表 2-2-16 ごみ処理経費の推移

| 項目 | | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 |
|--------|-------------------------|---------|---------|---------|---------|---------|
| ごみ処理経費 | 処理及び維持管理費（千円） | 598,647 | 589,106 | 596,157 | 599,230 | 626,345 |
| | 建設・改良費（千円） | 142,753 | 176,501 | 12,405 | 0 | 25,641 |
| | その他（千円） | 861 | 0 | 0 | 0 | 592 |
| | 合計（千円） | 742,261 | 765,607 | 608,562 | 599,230 | 652,578 |
| | 1人当たりごみ処理及び維持管理費（円/人・年） | 22,072 | 22,215 | 23,034 | 23,456 | 24,940 |

（備考）1人当たりごみ処理及び維持管理費＝処理及び維持管理費÷総人口

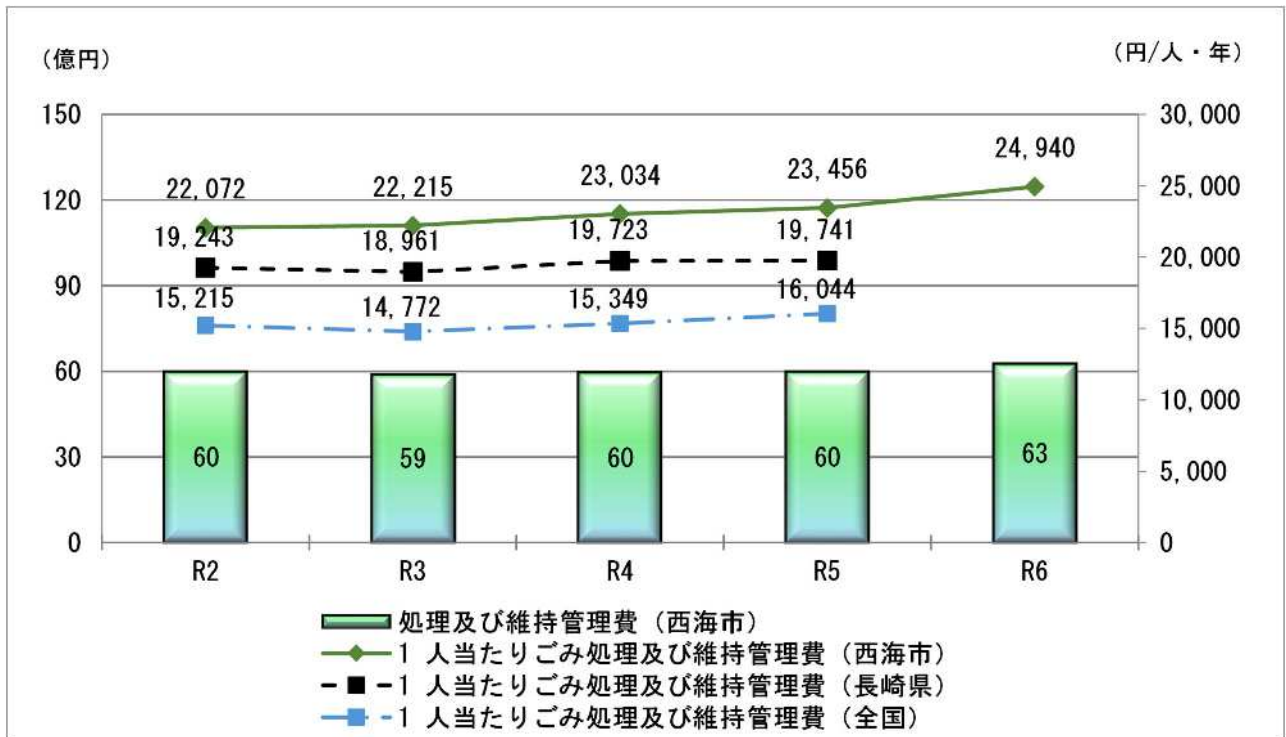


図 2-2-13 1人当たりごみ処理及び維持管理費の推移

10. 市町村一般廃棄物処理システム比較分析表

市町村一般廃棄物処理システム比較分析表は、「市町村における循環型社会づくりに向けた一般廃棄物処理システムの指針」（平成19年6月環境省）に示されている市町村の廃棄物処理システムを客観的に評価するための手法であり、人口規模や産業構造が類似している市町村間で、統一的な手法で算出した指標値を比較することにより、当該市町村の廃棄物処理システムを評価するというものです。

本報告書で示す市町村一般廃棄物処理システム比較分析表のうちレーダーチャートについては、偏差値指数により比較を行った結果を示しており、数値が高いほど良好な状態を示しています。なお、分析欄の評価については、以下のとおり行いました。

偏差値が65以上で取組みが非常に進んでいる、55以上65未満で取組みが進んでいる、45以上55未満でほぼ平均、35以上45未満でやや取組みが遅れている、35未満で取組みが遅れているとしています。

※本システムのデータは令和5年度実績となる。

※西海市と人口規模、産業構造が類似した市町村は全国に23

表 2-2-17 標準的な評価項目の算出方法

| 標準的な評価項目 | | 算出式 |
|----------|-----------------|---|
| 廃棄物の発生 | 人口1人1日当たりごみ総排出量 | $= \text{ごみ総排出量} \div \text{年度日数} \div \text{計画収集人口} \times 10^3$ |
| 廃棄物の再生利用 | 廃棄物からの資源回収率 | $= \text{資源化量} \div \text{ごみ総排出量}$ |
| 最終処分 | 廃棄物のうち最終処分される割合 | $= \text{最終処分量} \div \text{ごみ総排出量}$ |
| 費用対効果 | 人口1人当たり年間処理経費 | $= \text{処理及び維持管理費} \div \text{計画収集人口}$ |
| | 最終処分減量に要する費用 | $= (\text{処理及び維持管理費} - \text{最終処分費}) \div (\text{ごみ総排出量} - \text{最終処分量})$ |

西海市の令和5年度の廃棄物処理の概況は次のとおりであり、他市町村の実績と比較すると、人口1人1日当たりごみ総搬出量は平均的ですが、廃棄物からの資源回収率が高く、また、最終処分される割合は低くなっています。ただし、費用は他市町村より高額となっています。

表 2-2-18 西海市の廃棄物処理の概況

| 標準的な指標 | 人口1人1日当たりごみ総排出量 (kg/人・日) | 廃棄物からの資源回収率 (t/t) | 廃棄物のうち最終処分される割合 (t/t) | 人口1人当たり年間処理経費 (円/人・年) | 最終処分減量に要する費用 (円/t) |
|----------------------|--------------------------|-------------------|-----------------------|-----------------------|--------------------|
| 平均 | 0.869 | 0.159 | 0.095 | 15,125 | 49,414 |
| 最大 | 1.100 | 0.262 | 0.227 | 24,946 | 87,320 |
| 最小 | 0.615 | 0.048 | 0.005 | 8,182 | 25,686 |
| 標準偏差 | 0.133 | 0.054 | 0.051 | 4,696 | 17,269 |
| 当該市町村実績 (西海市) | 0.807 | 0.275 | 0.038 | 23,456 | 80,847 |
| 偏差値 | 107.1 | 171.9 | 160.0 | 44.3 | 35.4 |

(備考) 1.表中の値は令和5年度実績

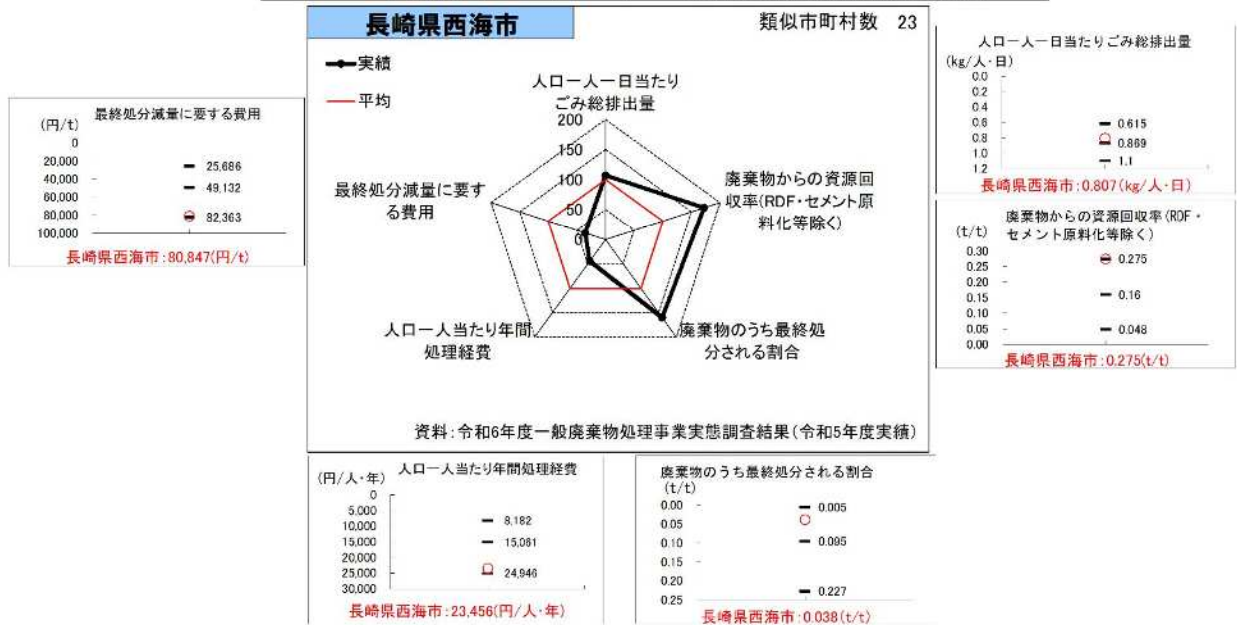
2.表中で集計した市町村数は23

1.1. 西海市

標準的な指標1 (指標値によるレーダーチャート)

| | | | | | |
|------|--------|-----------|---------|--------|-------|
| 市町村名 | 長崎県西海市 | 人口 | 25,547人 | | |
| 産業 | | Ⅱ次・Ⅲ次人口比率 | 84.9% | Ⅲ次人口比率 | 54.1% |

| | | | |
|---------|------|----|--------------------------|
| 類型都市の概要 | 都市形態 | 都市 | |
| | 人口区分 | I | 50,000人未満 |
| | 産業構造 | 0 | Ⅱ次・Ⅲ次人口比95%未満、Ⅲ次人口比55%未満 |



【分析欄】

- 人口1人1日当たり排出量
人口1人1日当たり排出量は 0.807g/人・日であり、類似団体の中ではやや少なめです。
※順位は 23 団体中 7 位
- 廃棄物からの資源回収率
廃棄物からの資源回収率は 0.275t であり、類似団体の中では取組みが非常に進んでいます。
※順位は 23 団体中 1 位
- 廃棄物のうち最終処分される割合
廃棄物のうち最終処分される割合は 0.038/t であり、類似団体の中では取組みが進んでいます。
※順位は 23 団体中 4 位
- 人口1人当たり年間処理経費
人口1人当たり年間処理経費は23,456円/人・年であり、類似団体の中では高額となっています。
※順位は 23 団体中 22 位
- 最終処分減量に要する費用
最終処分減量に要する費用は 80,847 円/t であり、類似団体の中では高額となっています。
※順位は 23 団体中 22 位

表 2-2-19 西海市の類似市町村における廃棄物処理の概況

| 都道府県 | 市町村名 | 人口一人一日当たり ごみ総排出量 (kg/人・日) | 廃棄物からの資源 回収率(RDF・セメ ント原料化等除 く) (t/t) | 廃棄物のうち最終 処分される割合 (t/t) | 人口一人当たり年 間処理経費 (円/人・年) | 最終処分減量に要 する費用 (円/t) |
|------|---------|---------------------------------|--|------------------------------|------------------------------|---------------------------|
| 青森県 | 青森県つがる市 | 0.842 | 0.154 | 0.149 | 13,232 | 30,447 |
| 青森県 | 青森県平川市 | 0.881 | 0.112 | 0.112 | 13,075 | 42,676 |
| 岩手県 | 岩手県遠野市 | 0.851 | 0.195 | 0.042 | 16,269 | 51,339 |
| 岩手県 | 岩手県八幡平市 | 1.094 | 0.098 | 0.138 | 20,198 | 50,722 |
| 宮城県 | 宮城県角田市 | 0.898 | 0.201 | 0.043 | 8,550 | 27,034 |
| 秋田県 | 秋田県にかほ市 | 0.980 | 0.131 | 0.155 | 17,295 | 51,656 |
| 山形県 | 山形県村山市 | 0.750 | 0.097 | 0.106 | 8,992 | 35,845 |
| 山形県 | 山形県尾花沢市 | 0.880 | 0.151 | 0.111 | 24,946 | 80,823 |
| 福島県 | 福島県田村市 | 0.818 | 0.211 | 0.084 | 22,991 | 82,363 |
| 茨城県 | 茨城県行方市 | 0.790 | 0.048 | 0.157 | 15,099 | 61,963 |
| 茨城県 | 茨城県鉾田市 | 0.705 | 0.168 | 0.087 | 13,005 | 45,780 |
| 群馬県 | 群馬県富岡市 | 0.952 | 0.152 | 0.105 | 12,940 | 38,190 |
| 新潟県 | 新潟県小千谷市 | 1.100 | 0.159 | 0.104 | 16,844 | 41,685 |
| 新潟県 | 新潟県五泉市 | 1.078 | 0.122 | 0.113 | 9,644 | 25,686 |
| 新潟県 | 新潟県胎内市 | 1.070 | 0.101 | 0.121 | 13,953 | 37,189 |
| 長野県 | 長野県駒ヶ根市 | 0.636 | 0.237 | 0.034 | 8,182 | 34,947 |
| 長野県 | 長野県中野市 | 0.730 | 0.097 | 0.048 | 9,857 | 36,373 |
| 静岡県 | 静岡県御前崎市 | 0.864 | 0.206 | 0.032 | 15,304 | 49,011 |
| 静岡県 | 静岡県菊川市 | 0.615 | 0.204 | 0.227 | 13,987 | 76,269 |
| 静岡県 | 静岡県牧之原市 | 0.825 | 0.223 | 0.005 | 18,358 | 56,530 |
| 愛知県 | 愛知県新城市 | 0.923 | 0.222 | 0.115 | 15,756 | 48,559 |
| 長崎県 | 長崎県西海市 | 0.807 | 0.275 | 0.038 | 23,456 | 80,847 |
| 大分県 | 大分県国東市 | 0.890 | 0.117 | 0.057 | 14,466 | 44,104 |

(資料) 市町村一般廃棄物処理システム評価支援ツール令和5年度実績版

第6節 ごみ処理の課題

西海市のごみ処理の現状から、課題を抽出すると次のとおりとなります。

| | |
|-------------------------------------|---|
| <p>課題1 ごみの排出抑制</p> | <p>西海市の1人1日当たりごみ排出量は令和6年度実績で806gとなっており、令和5年度の全国平均値（851g）より45g、長崎県平均値（930g）より124g低く良好な結果となっています。また、西海市における近年の実績は年々減少傾向にあることから、引き続き排出抑制を進めていく必要があります。</p> |
| <p>課題2 リサイクル</p> | <p>西海市のリサイクル率は令和6年度実績で30.9%となっており、令和5年度の全国のリサイクル率（19.5%）より11.4ポイント、長崎県のリサイクル率（15.8%）より15.1ポイント高くなっています。ただし、西海市炭化センターにおける可燃ごみのリサイクル（燃料化）分を除くと、16.1%となり、全国のリサイクル率を3.4ポイント下回っている状況です。</p> <p>このため、資源化物の分別を更に徹底し、今後ともリサイクル関連の施策を推進していく必要があります。</p> <p>西海市の令和6年度のプラスチック類※1の1人1日当たりの収集量は11.13g/人・日となっており、全国平均値15.86g/人・日※2（プラスチック類を収集していない自治体を含む）より4.73g/人・日少なくなっています。プラスチック類のリサイクルを進めていく必要があります。</p> |
| <p>課題3 収集体制</p> | <p>人口減少・少子高齢化による収集効率悪化と、ごみステーションや地区拠点等の維持困難に対応していく必要があります。特に、ごみ出し困難世帯への排出支援策を検討する必要があります。</p> <p>市民アンケートの回答の中でも、ごみステーションまでの距離が遠く、高齢者はごみ出しが困難であるという意見がありました。地域拠点等に関しては当番制に関し、会社員等は出勤時間と当番が重なることに対する不満や高齢化による人員不足で苦労されているところもあります。</p> |
| <p>課題4 可燃ごみ 処理施設</p> | <p>西海市は可燃ごみを、西海市炭化センターで処理を行っていますが、運営管理業務委託期間が令和11年度をもって終了します。昨今の物価・労務費の高騰や、人口減少等によるごみ排出量の減少などにより、今後、現施設での効率的なごみ処理が難しくなっていくことが予測されることから、引き続き西海市炭化センターを運営・維持管理していくか、新たに可燃ごみ処理施設整備を行うか等、あらゆる可能性について検討を行う必要があります。</p> |

※1 プラスチック類：プラスチック製容器包装、白色トレイ及びその他プラスチックの合計

※2 一般廃棄物処理実態調査（令和5年度実績） 環境省

| | |
|-------------------------------|---|
| <p>課題5 最終処分場</p> | <p>西海市では、西海市炭化センター及び西海市リサイクルセンターから発生する処理残渣等を西海市大瀬戸最終処分場で最終処分しています。西海市の最終処分率は令和6年度実績で3.9%となっており、令和5年度の全国平均(8.1%)より4.2ポイント、長崎県の最終処分率(7.2%)より3.3ポイント低くなっています。</p> <p>これは、西海市炭化センターの稼働に伴い最終処分量が少なくなってきたことが要因です。</p> <p>西海市大瀬戸最終処分場は、平成7年4月から供用開始しましたが、埋立残余容量の減少に伴い、埋立容量を確保するため、嵩上げによる延命化を行っています。しかし、令和11年度にその容量が満杯になることが見込まれていることから、今後も適正な処理・処分を継続するため、埋立てる廃棄物(炭化処理残渣等)の再資源化等、更なる延命化対策を検討する必要があります。</p> |
| <p>課題6 広域化</p> | <p>西海市は長崎県の広域化計画により「長崎・西彼ブロック」に属しています。長崎県は、新たに令和9年度を目途に「長期広域化・集約化計画」を策定する予定です。</p> <p>西海市炭化センターに代わる可燃ごみ処理施設の整備については、長崎県の「長期広域化・集約化計画」の動向を考慮しながら検討を行う必要があります。</p> |
| <p>課題7 財政負担の低減</p> | <p>昨今の物価・労務費の高騰や、人口減少等により、人口1人当たりの年間処理経費が増加しています。今後、持続可能なごみ処理を継続していくため、ごみ処理経費の削減や、ごみ処理手数料の見直しにより、財政負担の低減を図る必要があります。</p> |

第3章 人口及びごみ排出量等の将来予測

第1節 人口の将来予測

人口の将来予測は、国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」という。）による将来人口推計を基に予測します。社人研では、全国の市町村別に将来人口推計を行い一般に公表しています（「日本の地域別将来推計人口 令和5（2023）年推計」）。ただし、本推計は5年ごとの推計であるため、推計値のない年度については直線補間により推計を行いました。

また、本推計は2020（令和2）年の国勢調査を基に行われたものであり、近年の実績値と差が生じているため、直近年度（2024（令和6）年度）の各値の比率を用いて推計値の補正を行いました。

表 2-3-1 人口の将来予測結果

| 年度 | 総人口の実績値 (人) | 国立社会保障・人口問題 研究所（社人研） | | 社人研推計 (補正後) (人) |
|-----------|----------------|-------------------------|-------------------|-----------------------|
| | | R5年（2023）年 推計（人） | 間の5年間は 直線補間（人） | |
| 2020（R2） | 27,123 | 26,275 | 26,275 | |
| 2021（R3） | 26,518 | | 25,670 | |
| 2022（R4） | 25,882 | | 25,065 | |
| 2023（R5） | 25,547 | | 24,460 | |
| 2024（R6） | 25,114 | | 23,855 | |
| 2025（R7） | | 23,248 | 23,248 | 24,410 |
| 2026（R8） | | | 22,785 | 23,924 |
| 2027（R9） | | | 22,322 | 23,439 |
| 2028（R10） | | | 21,860 | 22,953 |
| 2029（R11） | | | 21,397 | 22,467 |
| 2030（R12） | | 20,934 | 20,934 | 21,981 |
| 2031（R13） | | | 20,493 | 21,518 |
| 2032（R14） | | | 20,053 | 21,055 |
| 2033（R15） | | | 19,612 | 20,593 |
| 2034（R16） | | | 19,172 | 20,130 |
| 2035（R17） | | 18,731 | 18,731 | 19,668 |
| 2036（R18） | | | 18,313 | 19,229 |
| 2037（R19） | | | 17,895 | 18,790 |
| 2038（R20） | | | 17,477 | 18,351 |
| 2039（R21） | | | 17,059 | 17,912 |
| 2040（R22） | | 16,641 | 16,641 | 17,473 |

備考）社人研推計（補正後）：直線補間値（将来各年度）を、2024（R6）の補間値と実績値の比率（25,114人／23,855人）を用いて補正

第 2 期計画より、本計画の人口予測の方が人口減少が進むと思われ、計画目標年度の令和 17 年度では、第 2 期計画より643人少なくなると予測されます。

表 2-3-2 第 2 期計画と本計画の人口の将来予測の比較

(単位：人)

| 項目 | R1 | R6 | R7 | R12 | R17 |
|-----|--------|--------|--------|--------|--------|
| 前計画 | 27,543 | 25,197 | 24,729 | 22,467 | 20,311 |
| 本計画 | 27,543 | 25,114 | 24,410 | 21,981 | 19,668 |
| 差 | 0 | -83 | -319 | -486 | -643 |

(備考) 太文字は計画時の実績

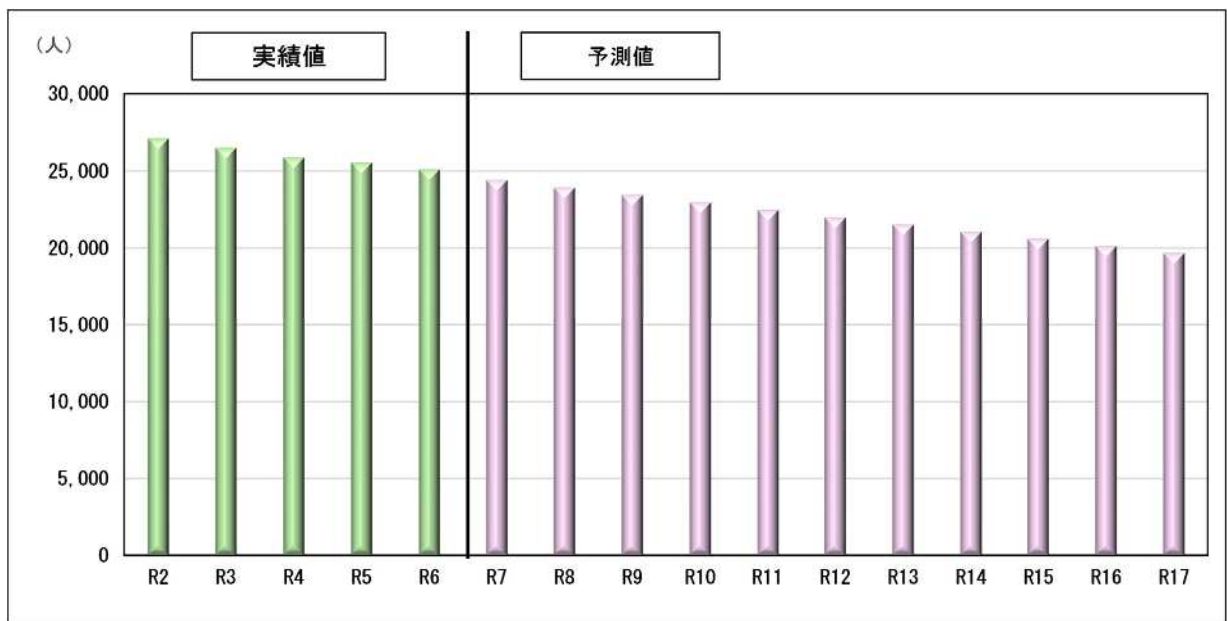


図 2-3-1 人口の将来予測

第2節 ごみ排出量の将来予測

近年のごみ排出量の実態から今後のごみ排出量の予測を行うと、ごみ排出量は減少していくことが予測されます。

表 2-3-3 ごみ排出量の将来予測

| 項目 | 実績 | | | 予測値 | | | |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|
| | R2 | R4 | R6 | R7 | R12 | R17 | |
| 行政区域内人口 | 27,123 | 25,882 | 25,114 | 24,410 | 21,981 | 19,668 | |
| 計画収集人口 | 27,123 | 25,882 | 25,114 | 24,410 | 21,981 | 19,668 | |
| 生活系ごみ | t/年 | 5,931 | 5,525 | 5,081 | 4,941 | 4,227 | 3,622 |
| | t/日 | 16.25 | 15.14 | 13.92 | 13.54 | 11.58 | 9.89 |
| | g/人・日 | 599.1 | 584.8 | 554.3 | 554.6 | 526.8 | 503.1 |
| 事業系ごみ | t/年 | 1,767 | 1,647 | 1,621 | 1,573 | 1,515 | 1,482 |
| | t/日 | 4.84 | 4.51 | 4.44 | 4.31 | 4.15 | 4.05 |
| | g/人・日 | 178.5 | 174.3 | 176.8 | 176.6 | 188.8 | 205.9 |
| 集団回収 | t/年 | 26 | 24 | 18 | 20 | 16 | 14 |
| | t/日 | 0.07 | 0.07 | 0.05 | 0.05 | 0.04 | 0.04 |
| | g/人・日 | 2.6 | 2.5 | 2.0 | 2.2 | 2.0 | 1.9 |
| 汚泥・し渣等 | t/年 | 756 | 745 | 666 | 666 | 612 | 561 |
| | t/日 | 2.07 | 2.04 | 1.82 | 1.82 | 1.68 | 1.53 |
| | g/人・日 | 76.4 | 78.9 | 72.7 | 74.8 | 76.3 | 77.9 |
| ごみ排出量 | t/年 | 8,480 | 7,941 | 7,386 | 7,200 | 6,370 | 5,679 |
| | t/日 | 23.23 | 21.76 | 20.24 | 19.73 | 17.45 | 15.52 |
| | g/人・日 | 856.6 | 840.6 | 805.8 | 808.1 | 794 | 788.9 |

第2期計画では、ごみの年間排出量、1人1日当たり排出量は増加すると予測されましたが、本計画ではごみの年間排出量、1人1日当たり排出量は減少すると予測され、計画目標年度の令和17年度では、第2期計画よりは、ごみの年間排出量は1,266 t、1人1日当たり排出量は145.1 g/人・日減少すると予測されます。

表 2-3-4 ごみ排出量の将来予測の比較

| 項目 | | R1 | R6 | R7 | R12 | R17 |
|-------|-------|--------------|--------------|-------|--------|--------|
| 第2期計画 | t/年 | 8,484 | 8,081 | 7,985 | 7,450 | 6,945 |
| | g/人・日 | 842 | 879 | 885 | 908 | 934 |
| 本計画 | t/年 | 8,484 | 7,386 | 7,200 | 6,370 | 5,679 |
| | g/人・日 | 842 | 805.8 | 808.1 | 794.0 | 788.9 |
| 差 | t/年 | 0 | -695 | -785 | -1,080 | -1,266 |
| | g/人・日 | 0 | -73.2 | -76.9 | -114 | -145.1 |

(備考) 太字は計画時の実績

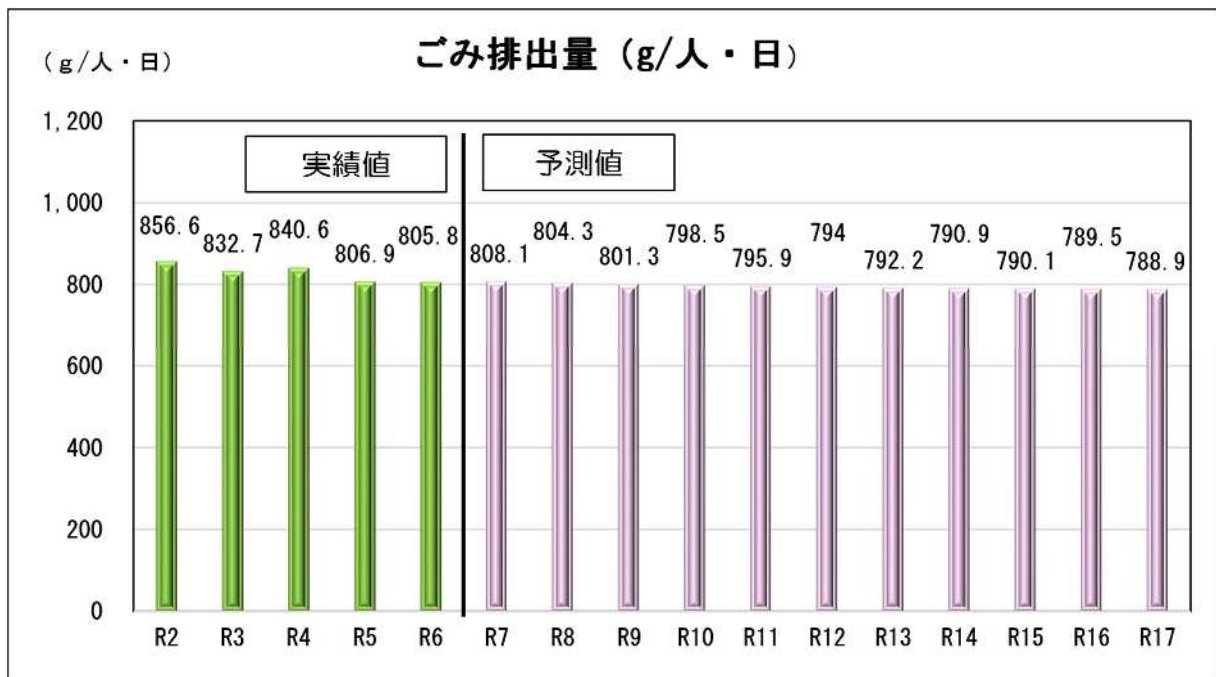
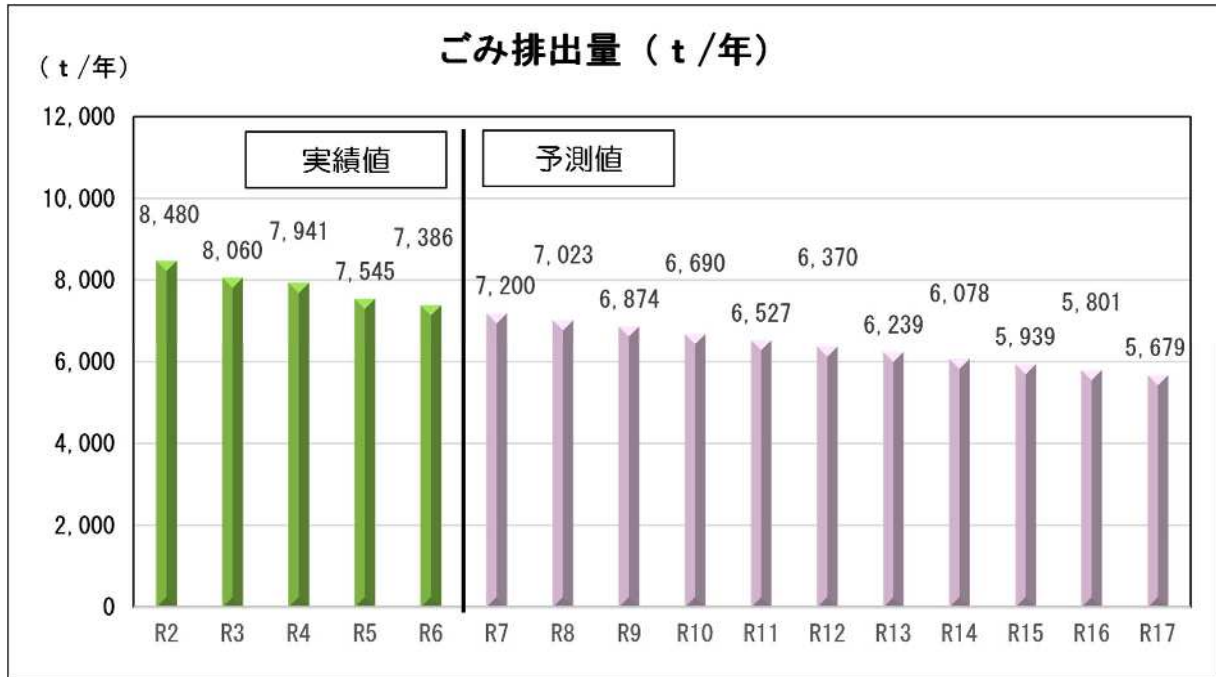


図 2-3-2 ごみ排出量の将来予測

第4章 ごみ減量化等目標

第1節 ごみ減量化等目標

第2期計画で設定されたごみ減量化目標「計画目標年度(令和17年度)及び中間目標年度(令和7年度)の目標値」の達成状況について、現状の最新実績(令和6年度)と比較してみたところ、排出量については中間目標年度より30g少なく、計画目標年度では6g多い状況です。

炭化を除いたリサイクル率は中間目標年度より0.2ポイント低く、計画目標年度より0.6ポイント低く、炭化を含めたリサイクル率は中間目標年度より0.9ポイント低く、計画目標年度より1.3ポイント低くなっています。また、最終処分率は中間目標年度及び計画目標年度より1.3ポイント低い状況であり、計画目標年度にあたる令和17年度においては排出量と炭化を除いたリサイクル率を除き、目標の達成は難しいと判断されます。

本計画は、中間目標年度(令和7年度)までの計画の実施状況や新たな取組、社会状況の変化を踏まえ、令和17年度までの新しい目標を策定し、達成を目指します。

表 2-4-1 現状と第2期計画目標値の比較

| 項目 | 現状値 (令和6年度) | 第2期計画 中間目標値 (令和7年度) | 第2期計画 計画目標値 (令和17年度) | 評価 | | |
|-------------------|----------------|---------------------------|----------------------------|-----------|------------|------------------------|
| | | | | R7 R17 | 達成 未達成 | 30g少ない 6g多い |
| 総排出量 | 806g/人・日 | 836g/人・日 | 800g/人・日 | R7 R17 | 達成 未達成 | 30g少ない 6g多い |
| 1人1日当たりの生活系ごみ排出量※ | 554g/人・日 | 557g/人・日 | 518g/人・日 | R7 R17 | 未達成 未達成 | 3g多い 36g多い |
| 炭化を除いたリサイクル率 | 16.1% | 16.3% | 16.7% | R7 R17 | 未達成 未達成 | 0.2ポイント低い 0.6ポイント低い |
| 炭化を含めたリサイクル率 | 30.9% | 31.8% | 32.2% | R7 R17 | 未達成 未達成 | 0.9ポイント低い 1.3ポイント低い |
| 最終処分率 | 3.9% | 2.6% | 2.6% | R7 R17 | 未達成 未達成 | 1.3ポイント低い 1.3ポイント低い |

※第2期計画の目標値を達成した場合の排出量

| | |
|--|-------------------------------|
| 1 | 1人1日当たりの生活系ごみ排出量の目標(令和17年度目標) |
| <p>1人1日当たりの生活系ごみ排出量を約10%削減する。 (1人1日当たり生活系ごみ排出量： 令和6年度 554g/人・日→令和17年度 498g/人・日 10%削減) ※長崎県の削減計画(令和12年で5%削減)に対し、本計画の目標年度期間が令和17年度であることを鑑み設定した数値。</p> | |

2 リサイクル率の目標（令和17年度目標）

炭化を除いたリサイクル率を 16.7%以上とする。

炭化を含めたリサイクル率を 34.1%以上とする。

（炭化を除いたリサイクル率：令和6年度 16.1%→令和17年度 16.7%）

（炭化を含めたリサイクル率：令和6年度 30.9%→令和17年度 34.1%）

※ごみ排出量の削減、炭化不適物の資源化等によるリサイクル率の向上を想定して設定した数値。

3 最終処分率の目標（令和17年度目標）

最終処分率を 2.6%以下とする。

（最終処分率：令和6年度 3.9%→令和17年度 2.6%）

※炭化不適物を資源化することにより埋立量の削減を想定して設定した数値。

第2節 国等の目標値

国や県においては、廃棄物処理法の基本方針（令和 7 年 2 月）や第五次循環型社会形成推進基本計画（令和 6 年 8 月）、長崎県廃棄物処理計画（令和 8 年 3 月）により国・県の目標値が設定されています。

表 2-4-2 廃棄物処理法の基本方針の一般廃棄物の目標値【国】

| 項目 | 令和 12 年度目標値 |
|--------|---|
| 排出量 | 令和 4 年度比 約9%削減 1人1日当たりの家庭系ごみ排出量：478g |
| リサイクル率 | 約 26%に増加 |
| 最終処分量 | 令和 4年度比 約 5%削減 |

（出典）廃棄物の減量その他その適正な処理に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るための基本的な方針（令和 7 年 2 月、環境省）

表 2-4-3 循環型社会形成推進基本計画の一般廃棄物の目標値【国】

| 項目 | 数値目標【目標年次】 |
|--------------|---------------|
| 一般廃棄物の排出量 | 地域ごと |
| 循環利用量・循環利用率 | 地域ごと |
| 1人1日当たりごみ焼却量 | 約580g【2030年度】 |

（出典）第五次循環型社会形成推進基本計画（令和 6 年 8 月、環境省）

表 2-4-4 長崎県廃棄物処理計画による一般廃棄物の目標値【県】

| 項目 | 令和 12 年度目標値 |
|-------|--|
| 排出量 | 1人1日あたりの家庭系ごみ排出量：496g （令和 6 年度比 約 5 %削減） |
| 最終処分率 | 1人あたりの一般廃棄物の最終処分量：24.2kg/人・年 （令和 6 年度比 約 7 %削減） |

（資料）長崎県廃棄物処理計画（令和 8 年3月、長崎県）

第5章 ごみ処理基本計画

第1節 基本方針

ごみ処理に係る西海市の基本方針を以下のように定めます。

ごみ処理の基本方針

1. 市民・事業者・行政（市）が協働して循環型社会を実現する

市民・事業者・行政が一体となり、ごみ問題解決に向けての取組みを行うことにより、地域に根付いた「循環型社会」を構築していきます。

2. ごみ発生・排出を抑制する施策の継続的实施

これまでに推進してきたごみ発生・排出を抑制するための施策を引き続き実施することにより、2R（Reduce：リデュース、Reuse：リユース）に着実に取組みます。

3. 資源循環のしくみの継続的实施

資源物の分別収集やリサイクルに積極的に取組み、処理・処分しなければならないごみの量を削減します。

4. 域内処理の取組みの促進

一般廃棄物の域内処理を原則とし、西海市で発生・排出したごみは、可能な限り資源化を図り、資源化できないものは適正に処理します。

5. 事業系一般廃棄物の事業者自らの責任における処理の推進

事業者は、事業活動に伴って生じた廃棄物を自らの責任で適正に処理するとともに、廃棄物の発生を抑制し、再生資源の利用を促進する等により、廃棄物の減量に努める義務があります。事業系一般廃棄物についても、事業者自らの責任において処理が推進されるよう取組みを推進します。

第2節 ごみの処理主体

ごみの処理主体については、検討していきますが、必要に応じて見直しを行います。

なお、ごみ処理に係る排出抑制・再資源化に関する総合的な取組みは、西海市が主体となって推進していきます。

表 2-5-1 ごみ処理に関する管理・運営体制

| 区分 | 種類 | | 実施主体 | 運営 |
|-------|-------|---------------------|-----------------------|-----------|
| 収集・運搬 | 生活系ごみ | 可燃ごみ | 西海市 | 委託 |
| | | 不燃ごみ | | |
| 粗大ごみ | | | | |
| 資源物 | | | | |
| | 事業系ごみ | 排出者 (直接搬入又は許可業者) | — | |
| 中間処理 | 可燃ごみ | | 西海市 (西海市炭化センター) | 委託 (運営業務) |
| | 不燃ごみ | | 西海市 (西海市リサイクルセンター) | 直営 |
| | 粗大ごみ | | | |
| | 資源物 | | | |
| 最終処分 | | | 西海市 (西海市大瀬戸最終処分場) | 直営 |

第3節 排出抑制・再資源化計画

排出量の抑制と再資源化を推進していくため、市民、事業者、行政が協働の意識の下、適切な役割分担で取り組むことが重要です。

各主体の役割

市民

市民は、商品購入にあたって、容器包装廃棄物の排出の少ない商品、繰り返し使用できる商品、耐久性に優れた商品及び再生品の選択に努めるとともに、商品の使用にあたってはなるべく長時間使用することに努め、自ら排出するごみ量の抑制に取り組めます。

事業者

事業者は、事業活動によって生じた廃棄物を自らの責任において適正に処理する必要があります。このため、原材料の選択や製造工程を工夫する等により、自ら排出するごみ量の抑制に努めるとともに、自ら再生利用等を行うことによる減量化を行うことで、資源の適正な循環利用に努めます。

行政(市)

市は、ごみの排出抑制に関し、適切に普及啓発や情報提供、環境教育等を行うことにより市民、事業者の自主的な取り組みを促進するとともに、分別収集の推進や再生利用の実施により、一般廃棄物の適正な循環的利用に努めます。

1. 排出抑制

ごみの排出抑制目標の達成には、市民や事業者自身の行動が最も重要となります。

西海市では、指定ごみ袋有料化制度、3きり運動の推進、指定ごみ袋を使用しないコンテナ回収の実施など、既に排出抑制のための施策を実施していますが、今後も、市民や事業者の活動を支援するための施策を行っていきます。

①環境教育の充実

- ・小中学校での環境教育用教材の充実を図ります。
- ・自治会、学校、各種団体等の求めに応じて、ごみ減量のための講習会や説明会を実施します。
- ・主に地域住民を対象とした施設見学会を実施します。

②情報の提供

- ・市ウェブサイトや広報を利用して、ごみ情報を発信します。
- ・イベントなどを利用して、ごみ減量関連事業を紹介します。
- ・市ウェブサイトなどで、事業者の取り組みを紹介します。

③マイバッグ使用推進

- ・マイバッグ使用に関する普及・啓発活動を実施します。

④厨芥類の減量

- ・生ごみ堆肥化容器・電気式生ごみ処理機への補助を継続・充実します。
- ・厨芥類の水切り運動を展開します。

⑤プラスチック類の減量

- ・プラスチック資源循環法の施行により、排出抑制やプラスチック製品のリサイクルなど、プラスチックの3R+Renewableの促進が求められています。プラスチック製容器包装やプラスチック製品の分別・リサイクルについて検討します。

⑥ごみ処理手数料

- ・ごみ処理手数料については、ごみ排出量の動向を見ながら、ごみの減量化に関する目標の達成度合いを勘案し、概ね5年を目処に料金改定の検討を行います。

⑦事業系ごみの減量

- ・事業系ごみについては、中間処理施設へ持ち込まれた際に展開検査を実施し、産業廃棄物や処理困難物の搬入拒否を行います。
- ・多量にごみ（一般廃棄物）を排出する事業者に対する、ごみの減量に関する計画の作成及び提出要請について検討します。
- ・卸・小売業者に対して、ごみの排出抑制に関する各種の自主的な活動を行うよう、要請していきます。

表 2-5-2 市民、事業者、行政の取組み

| 市民の取組み |
|--|
| <p>①ごみになるものは買わない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・容器包装(ビニールやトレイ、紙箱等)に包まれた商品を買うと、容器の部分がごみとなります。買い物の際には、容器包装の少ない物を購入しましょう。 ・野菜などは極力裸売り(ラップに包まれずに売っているもの)のものを購入しましょう。 <p>②マイバッグ使用の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・買い物袋(マイバッグ)を使用することにより、レジ袋分のごみが減ります。 <p>③リターナブルびんの積極利用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リターナブルびん(一升びんやビールびん)は洗うだけで何回も再使用できるため、ごみの削減やエネルギーの節約につながります。 <p>④使い捨て商品の削減</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1回使うとそのままごみとなるような商品の購入は控えましょう。 <p>⑤厨芥類の減量化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・厨芥類は三角コーナーなどで十分水切りを行うことにより、重量を削減することが可能です。また、厨芥類を処理する際のエネルギー節約にもつながります。 ・生ごみ処理器を利用することにより、ごみを大幅に減らすことができます。なお、家庭系収集ごみ(粗大ごみ除く)に対する食品廃棄物の発生量割合は約 30.3%※と推計されています(西海市の令和6年度実績で約 156g/人・日に相当)。 <p>※「令和6年度 食品廃棄物等の発生抑制及び再生利用の促進の取組に係る実態調査報告書」(環境省)</p> <p>⑥計画的な買い物</p> <ul style="list-style-type: none"> ・厨芥類の中には、利用されないまま捨てられる賞味期限切れの食品が含まれています。計画的な買い物を行うことにより、このような賞味期限切れ廃棄を防ぎましょう。 <p>⑦製品の長期使用・中古品の利用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修理により長期間使用したり、中古品を利用したりすることにより、ごみを減らすことが可能です。 <p>⑧使い捨て品の受け取り自粛</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンビニやスーパー等での買い物の際に渡される割りばし、スプーン、フォーク、ストロー等を必要でない場合は受け取りを断るようしましょう。 |

事業者の取組み

①事務所での古紙回収促進

- ・事務所からは、多量の紙ごみが発生します。発生する紙ごみを分別し、古紙回収に回すことで、ごみを大幅に減らすことができます。

②業務用生ごみ処理機の利用

- ・飲食店やスーパーなど、多量の生ごみが発生する事業所では、生ごみ処理機を導入することにより、ごみを大幅に減らすことができます。

③環境マネジメントシステムの認証取得

- ・ISO14000 シリーズやエコアクション 21 などの環境マネジメントシステムを導入し認証を取得することにより、環境保全への効果・エネルギーや廃棄物処理に係るコスト削減、企業のイメージアップが図れます。

④市民のごみ減量化への協力

- ・市民の生活と密接な関係にある販売店などでは、簡易包装の推進やトレイ・牛乳パックの店頭回収、買い物袋持参運動への協力、リターナブルびん・詰め替え製品の積極販売等を推進して下さい。

⑤食品ロスの抑制

- ・スーパー等の小売店などでは、食品の裸売りや食品寄付活動（フードドライブ）等に取り組んでもらい、また、飲食店などでは、食べ残しが出ないように小盛（少量）サイズのメニューを追加してもらえよう関係団体等を通じて情報発信を行っていきます。

行政（市）の取組み

①教育、啓発活動の充実

- ・市民、事業者に対してごみの減量化・再生利用、さらにはごみの適切な出し方に関する啓発を徹底するとともに、啓発が効果的なものとなるよう関係団体とも協力します。

②実勢に応じたごみ処理手数料（ごみ袋等料金）の設定

- ・ごみ処理の有料化を継続するとともに、将来の分別区分や処理体系等の変化に応じて料金体系を見直していきます。

③再生品の使用促進

- ・紙類、文具類等の庁用品に再生品を使用するとともに、公共事業等において廃材及び廃材の再生品等の使用に努めます。

④助成金制度等の施策の継続

- ・生ごみ処理器（機）等購入への助成金制度を継続するとともに、制度を有効に利用してもらうために市民へ情報を提供し認知を広めます。

2. 資源化の推進

西海市では以下の施策を中心として、リサイクルの推進を図ります。

1) 分別収集の充実

西海市では、「資源有効利用促進法」に基づいて、分別収集を行うことで、これまでは「ごみ」として処理されていたものを「資源」として活用していきます。

ごみ分別事典を作成し、市民への周知も行っていきます。

これらの施策を今後とも継続して実施していくとともに、「使用済小型電子機器等の再資源化の促進に関する法律」(小型家電リサイクル法)に基づき、使用済小型電子機器等のリサイクルを促進するための施策を講じていきます。

資源分別収集対象品目

- | | | |
|--------------|-------------|---------|
| ①缶 | ⑤白色トレイ | ⑨雑誌 |
| ②びん | ⑥その他のプラスチック | ⑩段ボール |
| ③ペットボトル | ⑦布類 | ⑪紙パック |
| ④プラスチック製容器包装 | ⑧新聞 | ⑫紙製容器包装 |

なお、家電4品目(エアコン、テレビ、冷蔵庫・冷凍庫、洗濯機・衣類乾燥機)のリサイクルについては、「特定家庭用機器再商品化法」(家電リサイクル法)に基づく適切な回収、再商品化がなされるよう、広報等により周知を図ります。

2) プラスチック類の収集体制の変更

西海市では、A地区及びB地区でプラスチック類(容器包装プラスチック、白色トレイ及びその他プラスチック)を地区拠点方式で収集していますが、資源化量は令和6年度において11.13g/人・日であり、全国平均15.86g/人・日より低くなっています。また、プラスチック類を収集している自治体の資源化量は20g/人・日から40g/人・日が多く、西海市では可燃ごみとして収集されるごみの中に、プラスチック類が多く含まれていると思われる、プラスチック類の収集量を増加させる必要があります。

地区拠点方式からステーション方式に収集方法を変更することにより、地区拠点まで運ぶ必要がなくなり、利便性が向上するために、プラスチック類の収集量の増加が見込まれます。

よって、プラスチック類は、C地区を含む市内全域で令和9年度から指定袋によるステーション方式による収集に変更します。

3) 委託等による処理

西海市では収集した資源物のうち、ペットボトル、プラスチック製容器包装、白色トレイ及びその他のプラスチックについては、民間業者等に委託して資源化を行っています。アルミ缶、スチール缶等は、中間処理した後、民間業者に売却するなどして資源化を行います。

4) 可燃ごみ炭化施設

西海市では、平成 27 年 7 月から可燃ごみについて、西海市炭化センターでの処理を行っており、高いリサイクル率と、少ない最終処分量を実現しています。

今後も、適正な維持管理により施設の安全・安心な運営に努めていきますが、昨今の物価・労務費の高騰や、人口減少等によるごみ排出量の減少等により、現施設での効率的なごみ処理が難しくなっていくことが予測されるため、将来的には、引き続き現施設を運営、維持管理していくか等、あらゆる可能性について検討していきます。

第4節 ごみの排出量の見込み

ごみの排出抑制やリサイクルに関する目標が達成された場合、ごみの排出量は次表のとおりと見込まれます。

表 2-5-3 ごみの排出量の見込み

| 区分 | | | 実績 | | | |
|------------|-------|-----------|--------------|--------------|--------------|-------|
| | | | 令和6年度 | 令和12年度 | 令和17年度 | |
| 形態別 排出量 | 生活系ごみ | | | | | |
| | | 燃ごみ | t/年 | 3,823 | 3,141 | 2,628 |
| | | 燃ごみ | t/年 | 89 | 67 | 57 |
| | | 大ごみ | t/年 | 329 | 252 | 215 |
| | | 源物 | t/年 | 840 | 742 | 685 |
| | | 生活系ごみ(合計) | t/年 | 5,081 | 4,202 | 3,585 |
| | | | g/人・日 | 554.3 | 523.7 | 498.0 |
| | | 事業系ごみ | | | | |
| | | 収集・搬入 | t/年 | 1,621 | 1,515 | 1,482 |
| | | 汚泥・し渣 | t/年 | 666 | 612 | 561 |
| | | 事業系ごみ(合計) | t/年 | 2,287 | 2,127 | 2,043 |
| | | | g/人・日 | 0.2 | 0.3 | 0.3 |
| | | 集団回収 | t/年 | 18 | 16 | 14 |
| | | | g/人・日 | 2.0 | 2.0 | 1.9 |
| 排出量 | 可燃ごみ | t/年 | 6,110 | 5,268 | 4,671 | |
| | 不燃ごみ | t/年 | 89 | 67 | 57 | |
| | 粗大ごみ | t/年 | 329 | 252 | 215 | |
| | 資源物 | t/年 | 858 | 758 | 699 | |
| | 総排出量 | t/年 | 7,386 | 6,345 | 5,642 | |
| | | g/人・日 | 805.8 | 790.8 | 783.8 | |

(備考) 事業系ごみは全て可燃ごみ
 排出量の可燃ごみは、汚泥・し渣等を含む
 排出量の資源物は集団回収を含む

第5節 収集・運搬計画

西海市の生活系ごみ収集・運搬は、委託方式による収集・運搬を行っています。一般廃棄物の収集運搬業については、西海市が西海市以外の者に委託し行わせる場合や、許可業者に行わせる場合であっても、西海市が統括的な責任を有するものです。

これまで西海市で発生する生活系ごみの収集・運搬を担ってきた受託事業者は、収集地域の状況を把握し交通状況に応じた最適な運搬ルートを選定、ごみステーション等を変更した場合の臨機応変な対応、拠点回収で使用するネットの補充対応など業務処理のために必要な機材、人員、資力、経験、能力、信用等の面において十分な資質を有し継続的かつ安定的に収集・運搬が実施できていると判断されることから、引続き既存事業者による収集・運搬を行います。

事業系一般廃棄物の収集・運搬については、収集量の面から現在西海市が許可している収集・運搬業者で今後の収集・運搬に十分に対応できると考えられることから、当分の間は現行の体制を継続することとします。

1. 収集・運搬計画

収集・運搬に関する方向性を以下のとおり定めます。

- ・令和 8 年度までは、これまでの収集体制を継続します。
- ・令和 9 年度から、下表のと通りの収集体制を見直します。
- ・分別収集計画等に対応できる収集・運搬体制を構築します。
- ・分別の徹底を市民に呼びかけます。
- ・施設整備の状況に応じて、適切かつ効率的な収集体制を検討します。

表 2-5-4 分別区分・収集頻度

【A地区、B地区（C地区を除く西海市内）】

| ごみの種類 | | 排出容器等 | 収集方法 | 収集頻度 |
|----------------|----------|----------|----------|------|
| 可燃ごみ | もえるごみ | 指定袋(白) | ステーション方式 | 2回/週 |
| 不燃ごみ | もえないごみ | 指定袋(黄) | | 1回/月 |
| 資源物 | 缶 | 指定袋(緑) | | 2回/月 |
| | びん | 指定袋(緑) | | 1回/月 |
| | ペットボトル | 指定袋(緑) | | 2回/月 |
| | プラスチック類※ | 指定袋(―) | | 1回/週 |
| | 新聞 | ひもで縛る | | 2回/月 |
| | 雑誌 | | | |
| | 段ボール | | | |
| 紙パック | | | | |
| 紙製容器包装 | | | | |
| 粗大ごみ | 粗大ごみ | 指定シール | | 1回/月 |
| 有害ごみ | 電池 | コンテナ | 拠点方式 | 随時 |
| | 蛍光管 | | | |
| その他ごみ（一時多量ごみ等） | | 随時（直接搬入） | | |

※ プラスチック類は、「プラスチック製容器包装（白色トレイを含む）」、「その他プラスチック」、指定袋の色は未定

【C地区（江島、平島）】

| ごみの種類 | | 排出容器等 | 収集方法 | 収集頻度 |
|----------------|----------|----------|----------|------|
| 可燃ごみ | もえるごみ | 指定袋(白) | ステーション方式 | 2回/週 |
| 不燃ごみ | もえないごみ | 指定袋(黄) | | 2回/月 |
| 資源物 | 缶 | 指定袋(緑) | | 2回/月 |
| | びん | 指定袋(緑) | | 2回/月 |
| | ペットボトル | 指定袋(緑) | | 2回/月 |
| | プラスチック類※ | 指定袋(一) | | 1回/週 |
| 粗大ごみ | 粗大ごみ | 指定シール | | 1回/月 |
| 有害ごみ | 電池 | コンテナ | | 1回/月 |
| | 蛍光管 | | | |
| その他ごみ（一時多量ごみ等） | | 随時（直接搬入） | | |

※ プラスチック類は、「プラスチック製容器包装（白色トレイを含む）」、「その他プラスチック」、指定袋の色は未定

2. 計画収集運搬量

ごみの排出抑制やリサイクルに関する目標が達成された場合、ごみの収集運搬量は次表のとおりと見込まれます。

表 2-5-5 計画収集運搬量見込み（目標達成後）

| 区分 | | | 実績 | 目標値 | |
|-------|------|-----|-------|--------|--------|
| | | | 令和6年度 | 令和12年度 | 令和17年度 |
| 生活系 | 可燃ごみ | t/年 | 3,804 | 3,124 | 2,614 |
| | 不燃ごみ | t/年 | 89 | 67 | 57 |
| | 粗大ごみ | t/年 | 329 | 252 | 215 |
| | 資源物 | t/年 | 840 | 742 | 685 |
| 事業系 | 可燃ごみ | t/年 | 1,341 | 1,209 | 1,183 |
| 合計 | | t/年 | 6,403 | 5,394 | 4,754 |
| (日平均) | | t/日 | 17.5 | 14.8 | 13.0 |

第6節 中間処理計画

1. 中間処理計画

収集されるごみについては、西海市炭化センター及び西海市リサイクルセンターで以下のとおり適正に処理を行っていきます。

- 可燃ごみについては、西海市炭化センターにおいて処理し資源化を図ります。処理に伴う残渣は西海市大瀬戸最終処分場で埋立処分します。
- 資源物・不燃ごみ・粗大ごみについては、西海市リサイクルセンターにおいて選別等を行い資源物を回収します。回収した資源物等は民間業者や指定法人により資源化を図ります。
- 資源回収の際に生じた残渣は、西海市炭化センターで処理を行います。
- 処理施設の運営管理にあたっては、関係法令に示されている基準に沿った維持管理、各種定期検査・測定等を行い、施設の適正管理、公害防止、周辺環境の保全等に努めていきます。

将来の西海市のごみ処理のあり方については、西海市炭化センターの運営管理業務委託期間が令和11年度をもって終了すること、昨今の物価・労務費の高騰や、人口減少等によるごみ排出量の減少等により、現施設での効率的なごみ処理が難しくなっていくことが予測されること等から、引き続き西海市炭化センターを運営、維持管理していくか、新たに可燃ごみ処理施設整備を行うか等、あらゆる可能性について検討を行う必要があります。

また、新たな可燃ごみ処理施設の整備に関しては、西海市が、長崎県ごみ処理広域化計画にて、「長崎・西彼ブロック」に属しており、広域化計画について関連自治体と調整を図りながら検討を行う必要があります。

なお、令和12年度以降、長崎県ごみ処理広域化計画により、新たな可燃ごみ処理施設を整備するまでの期間のごみ処理体制についても、検討を行う必要があります。

2. 中間処理量

ごみの排出抑制やリサイクルに関する目標が達成された場合、ごみの中間処理量は次表のとおりと見込まれます。

表 2-5-6 可燃ごみ処理量の見込み（目標達成後）

| 区分 | | 単位 | 実績 | | |
|-------|-----------|-----|-------|--------|--------|
| | | | 令和6年度 | 令和12年度 | 令和17年度 |
| 炭化処理量 | 直接処理量 | t/年 | 6,063 | 5,268 | 4,671 |
| | 残渣物処理量 | t/年 | 47 | 37 | 33 |
| | 合計 | t/年 | 6,110 | 5,305 | 4,704 |
| 生成物量 | 炭化物回収量 | t/年 | 1,095 | 1,018 | 981 |
| | 炭化処理残渣発生量 | t/年 | 200 | 149 | 92 |

表 2-5-7 不燃・粗大・資源物処理量の見込み（目標達成後）

| 区分 | | 単位 | 実績 | | |
|-----|--------|-----|-------|--------|--------|
| | | | 令和6年度 | 令和12年度 | 令和17年度 |
| 搬入量 | 収集不燃ごみ | t/年 | 89 | 67 | 57 |
| | 収集粗大 | t/年 | 329 | 252 | 215 |
| | 収集資源物 | t/年 | 840 | 742 | 685 |
| | 合計 | t/年 | 1,258 | 1,061 | 957 |

表 2-5-8 品目別資源物の見込み（目標達成後）

| 項目 | 単位 | 実績 | | |
|---------|-----|-------|--------|--------|
| | | 令和6年度 | 令和12年度 | 令和17年度 |
| 紙類 | t/年 | 336 | 317 | 244 |
| 金属類 | t/年 | 211 | 172 | 148 |
| ガラス類 | t/年 | 138 | 114 | 98 |
| ペットボトル | t/年 | 61 | 55 | 47 |
| プラスチック類 | t/年 | 102 | 91 | 155 |
| 布類 | t/年 | 0 | 0 | 0 |
| 肥料 | t/年 | 0 | 0 | 0 |
| 飼料 | t/年 | 0 | 0 | 0 |
| 固形燃料 | t/年 | 329 | 268 | 243 |
| 燃料 | t/年 | 0 | 0 | 0 |
| 炭化物 | t/年 | 1,095 | 1,018 | 981 |
| その他 | t/年 | 9 | 9 | 7 |
| 合計 | t/年 | 2,281 | 2,044 | 1,923 |

表 2-5-9 資源化量・率の見込み（目標達成後）

| 区分 | | 単位 | 実績 | | |
|--------|-------------------------|-----|-------|--------|--------|
| | | | 令和6年度 | 令和12年度 | 令和17年度 |
| 資源化量 | 直接資源化量 | t/年 | 328 | 311 | 216 |
| | 中間処理後再生利用量 （炭化物を含む） | t/年 | 1,935 | 1,717 | 1,671 |
| | 中間処理後再生利用量 （炭化物を含まず） | t/年 | 840 | 710 | 608 |
| | 集団回収 | t/年 | 18 | 16 | 14 |
| | 合計（炭化物を含む） | t/年 | 2,281 | 2,044 | 1,923 |
| | 合計（炭化物を含まず） | t/年 | 1,186 | 1,026 | 942 |
| リサイクル率 | 炭化物を含む | % | 16.1 | 16.2 | 16.7 |
| | 炭化物を含まず | % | 30.9 | 32.2 | 34.1 |

第7節 最終処分計画

1. 最終処分計画

西海市では、西海市炭化センターからの処理残渣、西海市リサイクルセンターからの不燃残渣及び西海市汚泥再生処理センターからの処理残渣を西海市大瀬戸最終処分場で埋立処分しています。

西海市大瀬戸最終処分場は、平成7年4月から供用開始しましたが、埋立残余容量の減少に伴い、埋立容量を確保するため、嵩上げによる延命化を行っています。しかし、令和11年度にその容量が満杯になることが見込まれていることから、今後も適正な処理・処分を継続するため、埋立てる廃棄物（炭化処理残渣等）の再資源化等、更なる延命化対策を検討する必要があります。

- ・ごみの排出抑制と資源化を徹底し、最終処分するごみ量を可能な限り削減します。
- ・西海市炭化センターから発生する炭化処理残渣については、受入ごみの分別の徹底や施設の運転・管理を徹底することで、発生量の低減を目指します。
- ・炭化処理残渣等を民間委託により再資源化するなど、埋立てる廃棄物の削減を検討します。

2. 最終処分量

ごみの排出抑制やリサイクルに関する目標が達成された場合、炭化処理残渣等の再資源化により処分量の減少が見込まれ、ごみの最終処分量は次表のとおりと見込まれます。

表 2-5-10 最終処分量の見込み（目標達成後）

| 区分 | 単位 | 実績 | 目標値 | |
|---------|-----|-------|--------|--------|
| | | 令和6年度 | 令和12年度 | 令和17年度 |
| 直接埋立 | t/年 | 89 | 67 | 57 |
| 炭化処理残渣 | t/年 | 200 | 149 | 92 |
| 最終処分量合計 | t/年 | 289 | 216 | 149 |
| 最終処分率 | % | 3.9 | 3.4 | 2.6 |

第8節 広域化計画

西海市は長崎県の広域化計画により「長崎・西彼ブロック」に属しています。

長崎県では、国が通知した「中長期における持続可能な適正処理の確保に向けたごみ処理の広域化及びごみ処理施設の集約化について」に沿って、令和8年度に「ごみ処理広域化・集約化協議会」を設置し、市町等と連携して、令和9年度を目処に2050年度までの「長期広域化・集約化計画」を策定する予定です。

西海市でも、西海市炭化センターに代わる可燃ごみ処理施設の整備については、県の「長期広域化・集約化計画」の動向を考慮しながら検討を行う必要があります。

第9節 その他の計画

1. 環境美化のための体制づくり

西海市の環境を保全していくため、以下のような施策を実施していきます。

1) 散乱ごみ対策

(1) 市民への啓発

ごみのポイ捨てが、美しいまちづくりの上で大きな弊害となっているということの認識や、環境美化への意識向上のため、市広報や市ウェブサイトを利用した啓発活動を行うとともに、県下一斉空きかん等回収キャンペーンなどへの参加を呼びかけます。

(2) 市民活動への支援

市民やボランティア団体等による環境美化活動や地域清掃に対し、支援（回収ごみの適正処理、指定ごみ袋の無料配布等）を行っていきます。

2) 不法投棄防止対策

西海市は市域の半分が山間部で占められている地勢により、不法投棄が行われやすい環境にあります。

不法投棄防止対策として、啓発活動の実施や監視体制の強化により市民・事業者の意識改革を図るとともに、市民や土地管理者への啓発活動、不法投棄防止看板の設置や巡回パトロールを実施することで、不適正処理や不法投棄の防止に努めます。県や警察等の関係機関と連携し、原因者の究明・原状回復を行う体制の構築を検討します。

3) 条例の運用

ごみの散乱防止を定めている「西海市環境美化の推進に関する条例」を、広報等により市民に周知し、散乱ごみや不法投棄ごみの減少を図ります。

2. 施策推進のための体制づくり

廃棄物処理法では、市町村における一般廃棄物の減量対策を実効あるものとするため、廃棄物減量等推進審議会及び廃棄物減量等推進員の制度が設けられています。地域の廃棄物減量等推進員については、地域の一般廃棄物減量、再生利用の促進を図っていくためのリーダーとしての役割が求められています。

今後、西海市におけるごみ処理についても、市民、事業者等の協力によるごみの減量・再資源化が必要であり、本制度を活用することにより、ごみの適正処理が推進できることとなるため、市民、事業者等との協議の場を設けていくよう努めます。

3. 計画の進行管理

排出抑制、再資源化に係る目標を達成するために、目標値の達成状況等を定期的にチェック・評価することで必要に応じて施策の改善を行う等、PDCA サイクルを実施することで、継続的改善と効率的・経済的な施策の展開を図ります。

目標達成状況は、適宜、市民に周知します。



■PDCA サイクルの概念図

4. 事業者の協力

廃棄物の元となる製品、流通容器等の製造、加工、販売等を行う事業者に対して、ごみ減量のため、自主回収ルートの確立、ごみにならない容器の利用促進及び適正処理困難物等の処理施設整備について、国・県等の関係各機関への要請を行っていきます。

また、同時に西海市の販売事業者に対して、過剰包装の自粛や資源物の回収、マイバッグの導入等を積極的に行ってもらえるよう要請を行っていきます。排出事業者に対しては、再資源化等による排出抑制の促進や排出時の分別徹底等について協力の要請や指導を行っていきます。

5. 廃棄物再生事業者の協力

西海市から排出されるごみの減量・再資源化のためには、これらに関連する再生事業者の協力が不可欠です。そのために、現在の体制（民間業者委託による資源化等）を維持しつつ、資源化等を委託している事業者と協力し、更なる資源率の向上に努めます。

6. ごみ処理手数料の見直し

昨今の物価・労務費の高騰や、人口減少等により、人口1人当たりの年間処理経費が増加しています。今後、持続可能なごみ処理を継続していくため、ごみ処理経費の削減や、ごみ処理手数料の見直しにより、財政負担の低減を図る必要があります。

7. 災害廃棄物対策

大規模災害時に発生する災害廃棄物については、西海市災害廃棄物処理計画（令和2年3月）に従い適正な処理を行います。

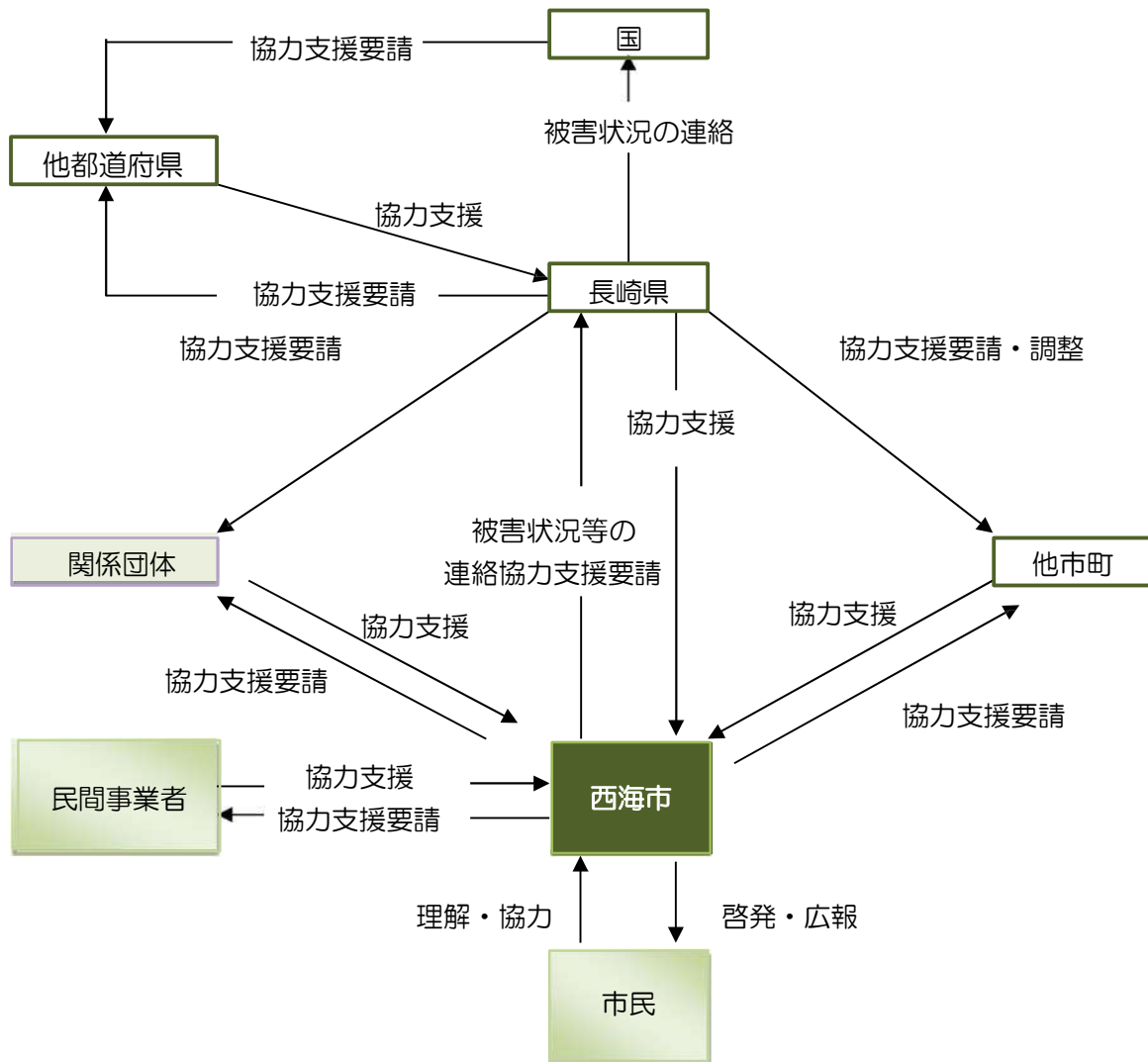
また、西海市単独で対応が困難な場合は、県や近隣市町に協力を要請し、速やかな生活環境の復旧に努めるものとします。

災害時の相互協力体制

①平時から長崎県と定期的に連絡をとるとともに、災害発生時には、災害廃棄物の発生状況や廃棄物処理施設の被災状況、仮置場整備状況など、収集した情報を県と共有します。

②必要に応じ、長崎県を通じて他自治体、民間事業者団体による支援、協力の要請を行います。また、他自治体が被災した場合には、要請に応じて支援を行います。

③平時より、民間の一般廃棄物処理事業者等と災害支援協定を締結することを検討します。



■災害による廃棄物処理の連携体制

8. ごみ出しが困難な世帯に対する支援について

介護・福祉サービス等による生活援助が必要な世帯で、ごみ出しが困難な世帯に対する支援として、ごみ出し支援シール事業を行います。具体的には、介護・福祉サービスの訪問介護利用者に代わって、ヘルパーがごみ出しを行うことができるものです。

また、関係機関と協議を行い、必要に応じてその他の支援策についても検討します。

9. 地球温暖化防止対策

一般廃棄物の処理にあたっては、地域のごみの処理のみならず、地球温暖化防止の観点からの環境保全を心がけます。

西海市炭化センターで製造される炭化物は、石油・石炭等の化石燃料の代替燃料として利用されます。これは二酸化炭素排出量の削減につながり、地球温暖化防止に寄与します。

- ・ 事務所における電気・ガス等のエネルギー使用量削減を徹底します。
- ・ ごみ等の収集運搬に供する車両の運転・走行時には、急発進・急加速・急ブレーキを控える等の効率的な走行を徹底することで燃料消費量を削減します。

また、新規に整備する車両は、低燃費型車両・低公害型車両を原則とします。

第3部 生活排水処理基本計画

第1章 国・県のし尿処理行政の動向

第1節 国におけるし尿処理行政の動向

1. 国の基本方針・計画等

1) 廃棄物処理法の基本方針

廃棄物処理法の基本方針では、し尿及び生活雑排水については、浄化槽及び下水道等の整備状況を勘案しつつ、その衛生的な処理を確保するため、処理体制の維持等を図ることが必要であるとされています。

その対策については、持続的な汚水処理システムの構築に向け、公共下水道、コミュニティ・プラント、農業・漁業・林業集落排水施設、浄化槽のそれぞれの有する特性、経済性等を総合的に勘案して、適切な役割分担の下での計画的な実施を促進することとしています。特に、浄化槽の整備については、みなし浄化槽（いわゆる単独処理浄化槽）から浄化槽（合併処理浄化槽）への転換について、転換費用の支援や広報活動により推進を図るとともに、個別分散型処理システムとして災害に強く早期に復旧できる特性を持つ浄化槽の更なる普及促進のための検討を進めることとしています。

2) 廃棄物処理施設整備計画

廃棄物処理施設整備計画では、し尿及び生活雑排水対策に関する重点目標とその達成のための事業概要を次のとおりとしています。

廃棄物処理施設整備計画（令和5年6月30日閣議決定）

| 目標及び指標 | 事業の概要 |
|---|---|
| し尿及び生活雑排水の処理を推進し、水環境の保全を図る。 | |
| 浄化槽整備区域内の浄化槽人口普及率 58%（2020年度見込み） →76%（2027年度） | 効率的な汚水処理施設整備を進めるため、下水道、農業集落排水施設等との適切な役割分担の下、面的整備の一層の推進を図る。また、地域の状況に応じて高度処理型浄化槽の普及を図る。 |
| 先進的省エネ型浄化槽導入基数 家庭用33万基、中・大型9千基 （2020年度実績） →家庭用75万基、中・大型27千基（2027年度） | 先進的省エネ浄化槽の導入により家庭用浄化槽や中・大型浄化槽の省エネ化を促進するとともに再生可能エネルギーを導入し、浄化槽システム全体の脱炭素化の推進を図る。 |
| 補助指標：浄化槽の省エネルギー化によるCO ₂ 排出削減量 「浄化槽の省エネルギー化」により、2030年度に2013年度の低炭素社会対応型浄化槽より消費電力を26%削減した浄化槽の累積基数を93万基、中・大型浄化槽の省エネ化の累積基数を3.4万基とすることを目標としており、その際のCO ₂ の排出削減見込量は12.3万トンCO ₂ である。 | 先進的省エネ浄化槽を導入するとともに、家庭用浄化槽や中・大型浄化槽の省エネ化を促進し、浄化槽システム全体の低炭素化を図る。 |

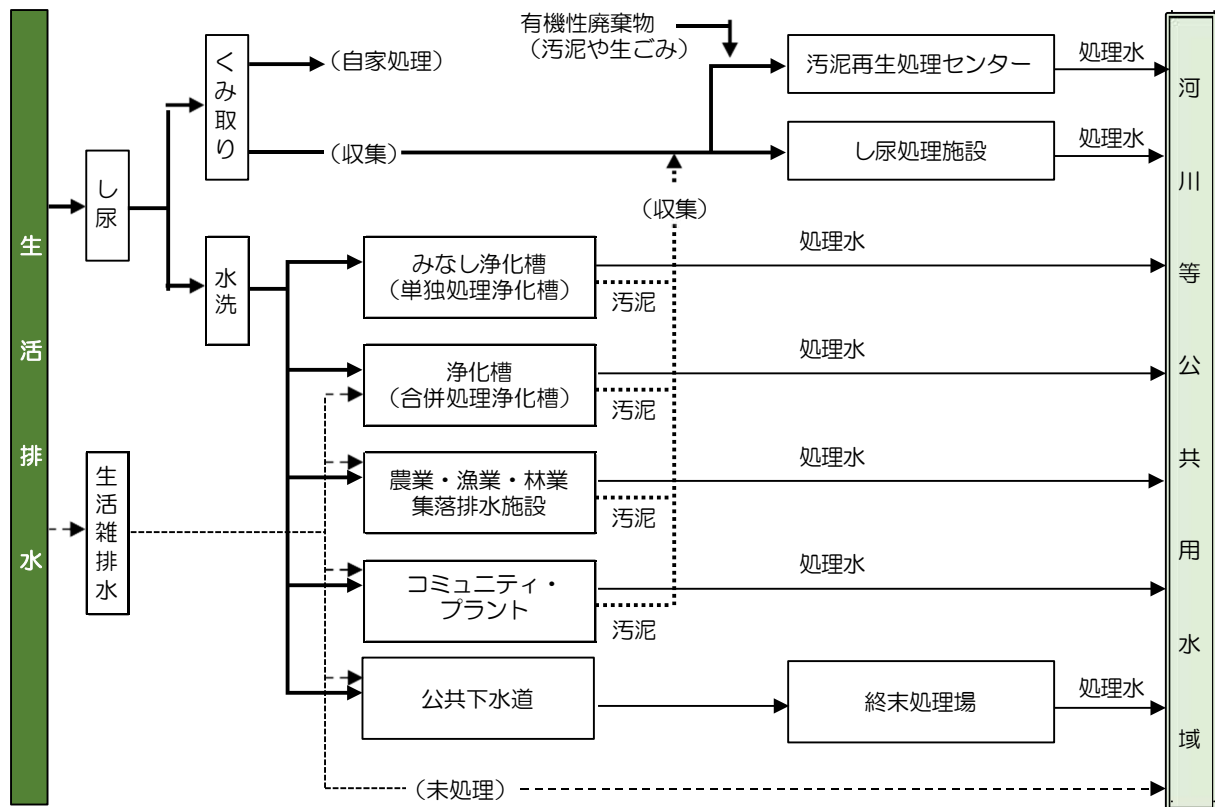
2. 全国のし尿処理の状況

1) 生活排水の処理体系

生活排水は、人が日常生活を送る過程で発生する汚水であり、大きく分けて「し尿」と「生活雑排水（台所・洗濯・浴室等からの排水）」からなり、し尿はさらにトイレの型式によって、「くみ取りし尿」と「水洗トイレ排水」に大別されます。

それらの処理は、「公共下水道」、「コミュニティ・プラント」、「農業・漁業・林業集落排水施設」、「浄化槽（合併処理浄化槽）」などを、地域の実情に応じて単独もしくは複数組み合わせられて行われています。このほか、水洗トイレ排水のみを処理対象とする「みなし浄化槽（単独処理浄化槽）」、くみ取りし尿や浄化槽から排出される汚泥（以下、「浄化槽汚泥」という。）などを処理する「し尿処理施設」、「汚泥再生処理センター」があります。

生活排水の種類別に、主な処理施設を組み合わせた「生活排水の処理体系図」を例示すると次のとおりとなります。



(資料) 日本環境衛生センター

図 3-1-1 生活排水の処理体系（主な処理施設の組み合わせ例）

なお、みなし浄化槽（単独処理浄化槽）は、し尿（水洗トイレ排水）のみを処理し、トイレ以外の生活雑排水は処理の対象としていないため、浄化槽（合併処理浄化槽）に比べて排出される汚濁負荷量が多いことから、浄化槽法の改正によって原則として新設はできなくなっています。また、既設のみなし浄化槽（単独処理浄化槽）についても浄化槽（合併処理浄化槽）への転換が推進されています。

2) 生活排水の処理形態別人口の推移

し尿（水洗トイレ排水）と生活雑排水を合わせて処理している人口は、下水道や合併処理浄化槽等の普及により年々増加しており、総人口に対する割合（汚水衛生処理率）は令和5年度実績で90.4%となっています。

一方、生活雑排水が未処理となっている人口（単独処理浄化槽人口、非水洗化人口）は年々減少しています。

表 3-1-1 生活排水処理形態別人口の推移（全国）

| 区分 | | 年度 | 令和 元年度 | 2年度 | 3年度 | 4年度 | 5年度 |
|------------|--------------|---------|-----------|---------|---------|---------|---------|
| 総人口 | | (千人) | 127,156 | 126,740 | 126,068 | 125,634 | 125,069 |
| 水洗化 人口 | 公共下水道人口 | (千人) | 96,778 | 97,200 | 97,194 | 97,436 | 97,541 |
| | コミュニティプラント人口 | (千人) | 306 | 259 | 193 | 172 | 163 |
| | 集落排水施設等人口 | (千人) | 24,256 | 23,740 | 2,347 | 2,370 | 2,385 |
| | 浄化槽人口 | (千人) | | | 21,176 | 20,755 | 20,370 |
| | (単独) | (千人) | 9,875 | 9,319 | 7,540 | 7,310 | 6,984 |
| | (合併) | (千人) | 14,381 | 14,421 | 12,859 | 13,000 | 12,958 |
| | (その他) | (千人) | - | - | 777 | 445 | 427 |
| 合計 | (千人) | 121,340 | 121,199 | 120,910 | 120,733 | 120,459 | |
| 非水洗化 人口 | 計画収集人口 | (千人) | 5,745 | 5,481 | 5,097 | 4,846 | 4,570 |
| | 自家処理人口 | (千人) | 71 | 60 | 61 | 55 | 40 |
| | 合計 | (千人) | 5,816 | 5,541 | 5,158 | 4,901 | 4,610 |
| 汚水衛生処理率 | | (%) | 87.7 | 88.3 | 89.3 | 89.9 | 90.4 |

- (備考) 1 令和2年度までの「浄化槽人口」には、集落排水施設等人口を含んでいる。
 2 汚水衛生処理率(%)
 令和2年度以前
 $(\text{公共下水道人口} + \text{コミュニティプラント人口} + \text{浄化槽(合併)人口}) \div \text{総人口} \times 100$
 令和3年度以降
 $(\text{公共下水道人口} + \text{コミュニティプラント人口} + \text{集落排水施設等人口} + \text{浄化槽(合併)人口}) \div \text{総人口} \times 100$
 3 四捨五入の関係で、合計が合わない場合がある
 (資料) 環境省 日本の廃棄物処理 (各年度版)

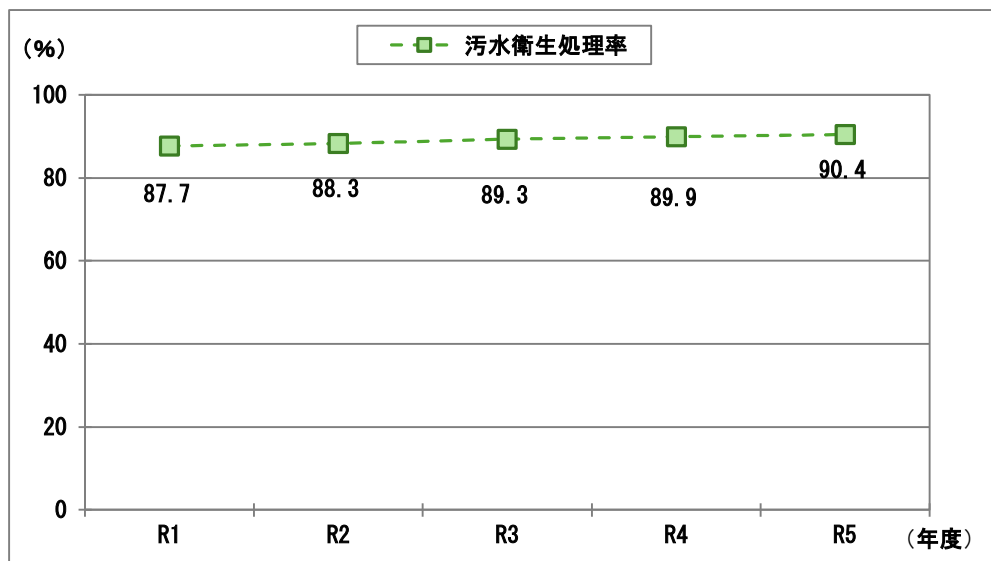
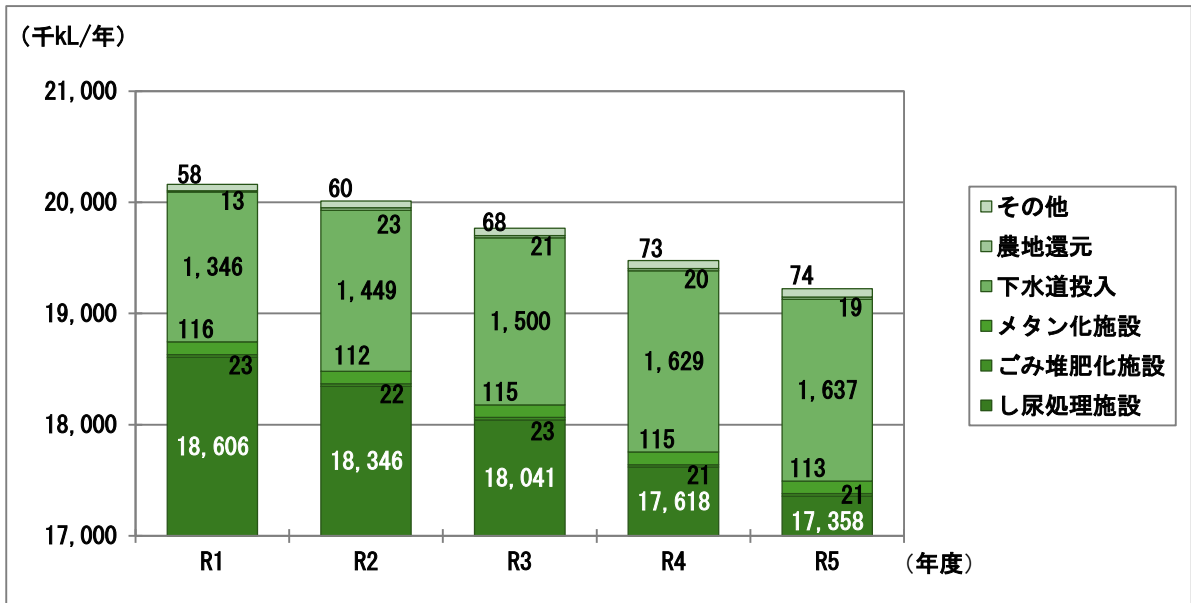


図 3-1-2 汚水衛生処理率の推移（全国）

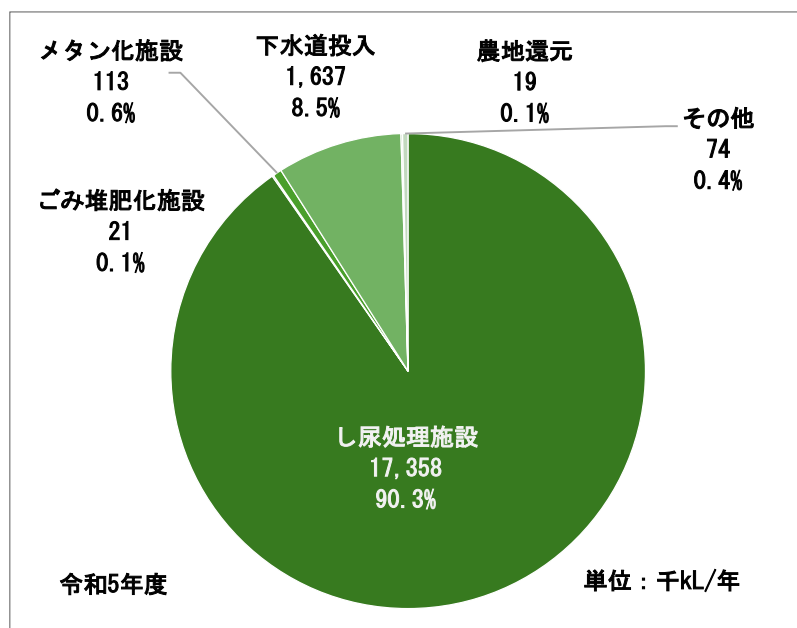
3) し尿・浄化槽汚泥処理の状況

全国で収集・処理されるし尿・浄化槽汚泥は、年々減少傾向で推移しています。これは下水道の普及によるものと考えられますが、その処理内訳（令和5年度実績）を見ると、収集量の90.3%がし尿処理施設（汚泥再生処理センターを含む）で処理されており、残りの8.5%が下水道投入、1.2%がその他（堆肥化施設、メタン化施設、農地還元等）となっています。このように、し尿処理施設は収集し尿・浄化槽汚泥の処理において、なお重要な役割を担っているといえます。



(資料) 環境省 日本の廃棄物処理 (各年度版)

図 3-1-3 し尿・浄化槽汚泥処理状況の推移 (全国)

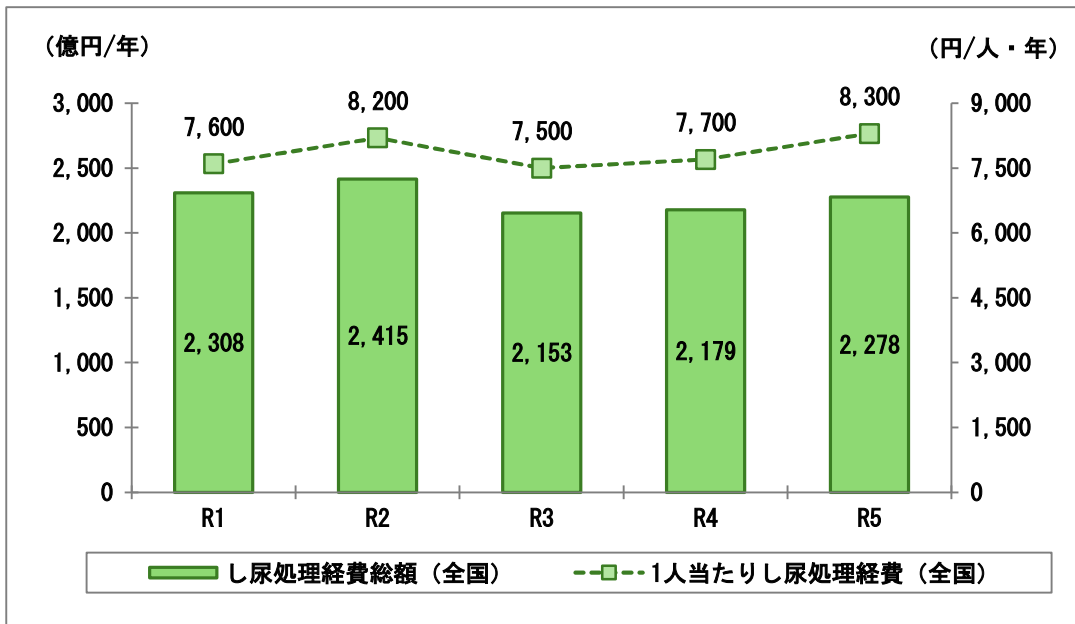


(資料) 環境省 日本の廃棄物処理 (令和5年度版)

図 3-1-4 し尿・浄化槽汚泥処理の内訳 (全国)

4) し尿処理経費の状況

全国におけるし尿処理経費の総額は、令和5年度で2,278億円であり、対象人口1人当りに換算すると約8,300円となっています。



(備考) 1 し尿処理経費総額＝建設改良費＋処理及び維持管理費等＋その他

2 1人当たりし尿処理経費＝

し尿処理経費総額÷し尿処理対象人口（非水洗化（＋集落排水施設等人口）＋浄化槽）

(資料) 環境省 日本の廃棄物処理（各年度版）

図 3-1-5 し尿処理経費の推移（全国）

第2節 長崎県におけるし尿処理行政の動向

1. 長崎県廃棄物処理計画

長崎県が策定している長崎県廃棄物処理計画では、「一般廃棄物の適正処理の推進」の中で、し尿・生活排水処理に関し、次のような取組を進めることとしています。

| | |
|-----------|---|
| ①適正処理への取組 | <ul style="list-style-type: none"> ● し尿・生活排水の適正処理 <ul style="list-style-type: none"> ・ 汚水処理の普及拡大と適切な維持管理を促進します。 ・ し尿処理施設の整備に際しては、メタンガスやリンの回収設備等の資源化設備の導入を推進します。 |
| ②施設整備の施策 | <ul style="list-style-type: none"> ● 汚泥再生処理センターの整備 <ul style="list-style-type: none"> ・ し尿や浄化槽汚泥を衛生的に処理するだけでなく、生ごみ等の有機性廃棄物を同時に処理することで、堆肥やエネルギーを生み出す汚泥再生処理センターの整備を推進します。 |

(資料) 長崎県廃棄物処理計画 (令和8年3月)

2. 長崎県のし尿処理の状況

1) 生活排水の処理形態別人口の推移

長崎県における生活排水処理形態別人口の推移についても、全国の状況と同様に下水道や合併処理浄化槽等の普及によって、し尿（水洗トイレ排水）と生活雑排水を合わせて処理している人口が年々増加しており、総人口に対する割合（汚水衛生処理率）は令和5年度実績で80.3%となっています。

一方、生活雑排水が未処理となっている人口（単独処理浄化槽人口、非水洗化人口）は年々減少しています。

表 3-1-2 生活排水処理形態別人口の推移（長崎県）

| 区分 | 年度 | 令和 | 2年度 | 3年度 | 4年度 | 5年度 |
|---------|-------------------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | | 元年度 | | | | |
| 総人口 | (千人) | 1,351 | 1,338 | 1,322 | 1,305 | 1,288 |
| 水洗化人口 | 公共下水道人口 (千人) | 799 | 794 | 790 | 786 | 782 |
| | コミュニティプラウト人口 (千人) | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 |
| | 集落排水施設等人口 (千人) | 271 | 271 | 28 | 28 | 29 |
| | 浄化槽人口 (千人) | | | 246 | 246 | 246 |
| | (単独) (千人) | 38 | 36 | 27 | 26 | 24 |
| | (合併) (千人) | 233 | 235 | 217 | 217 | 218 |
| | (その他) (千人) | - | - | 3 | 3 | 3 |
| 合計 (千人) | 1,074 | 1,070 | 1,070 | 1,066 | 1,062 | |
| 非水洗化人口 | 計画収集人口 (千人) | 276 | 267 | 251 | 239 | 226 |
| | 自家処理人口 (千人) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 合計 (千人) | 276 | 267 | 252 | 239 | 227 |
| 汚水衛生処理率 | (%) | 76.8 | 77.3 | 78.7 | 79.4 | 80.3 |

- (備考) 1 令和2年度までの「浄化槽人口」には、集落排水施設等人口を含んでいる。
 2 汚水衛生処理率 (%)
 令和2年度以前
 $(\text{公共下水道人口} + \text{コミュニティプラウト人口} + \text{浄化槽(合併)人口}) \div \text{総人口} \times 100$
 令和3年度以降
 $(\text{公共下水道人口} + \text{コミュニティプラウト人口} + \text{集落排水施設等人口} + \text{浄化槽(合併)人口}) \div \text{総人口} \times 100$
 3 四捨五入の関係で、合計が合わない場合がある
 (資料) 環境省 日本の廃棄物処理 (各年度版)

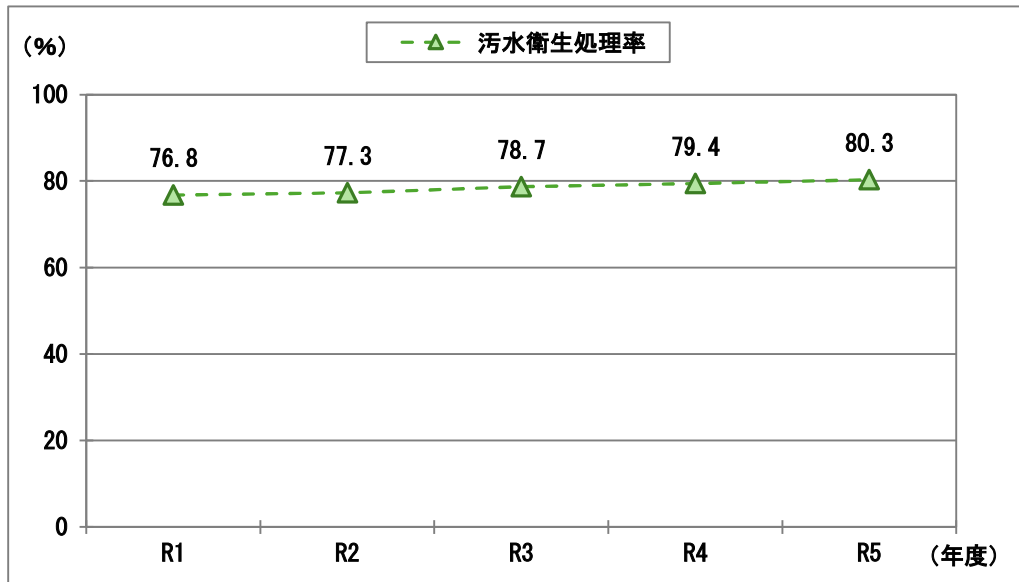
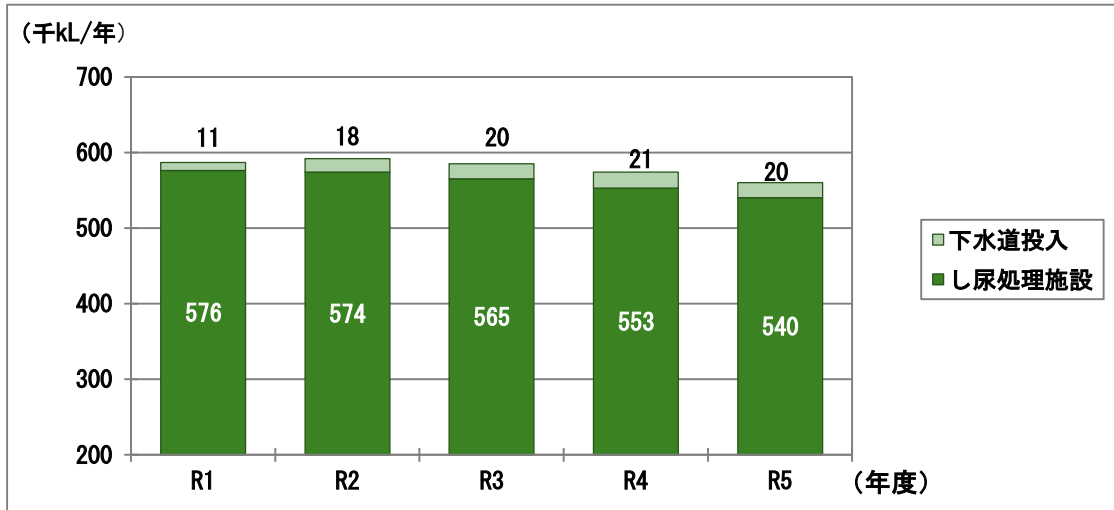


図 3-1-6 汚水衛生処理率の推移（長崎県）

2) し尿・浄化槽汚泥処理の状況

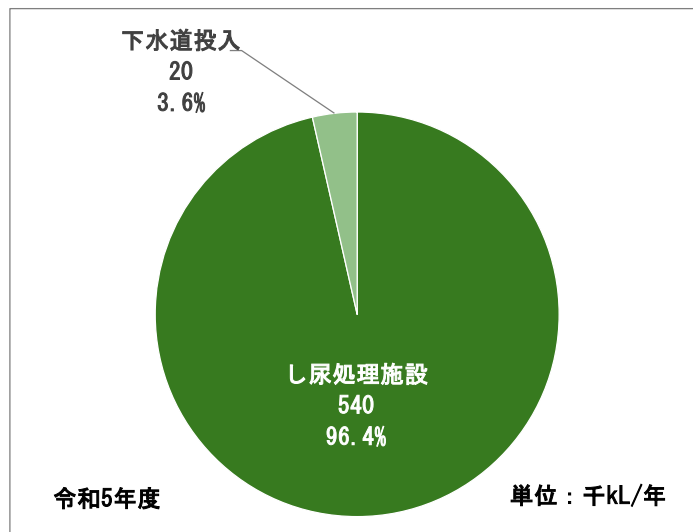
長崎県内で収集・処理されるし尿・浄化槽汚泥は、年々減少傾向で推移しており、令和5年度実績で約56万キロリットルとなっています。

処理の内訳（令和5年度実績）を見ると、収集量の96.4%がし尿処理施設（汚泥再生処理センターを含む）で処理されており、残りの3.6%が下水道投入となっています。



(資料) 環境省 日本の廃棄物処理 (各年度版) 都道府県別し尿処理の現状

図 3-1-7 し尿・浄化槽汚泥処理状況の推移 (長崎県)

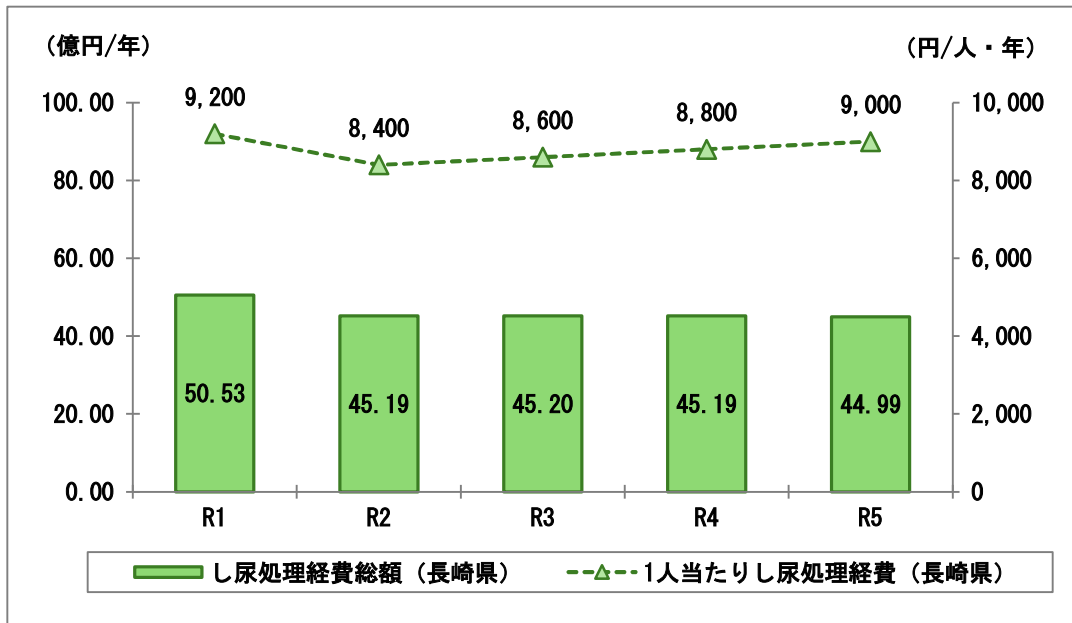


(資料) 環境省 日本の廃棄物処理 (令和5年度版)

図 3-1-8 し尿・浄化槽汚泥処理の内訳 (長崎県)

3) し尿処理経費の状況

長崎県におけるし尿処理経費の総額は、令和5年度で約45億円であり、対象人口1人当りに換算すると約9,000円となっています。



(備考) 1 し尿処理経費総額＝建設改良費＋処理及び維持管理費等＋その他

2 1人当たりし尿処理経費＝

し尿処理経費総額÷し尿処理対象人口(非水洗化(＋集落排水施設等人口)＋浄化槽)

(資料) 環境省 一般廃棄物処理実態調査結果(各年度版)

図 3-1-9 し尿処理経費の推移(長崎県)

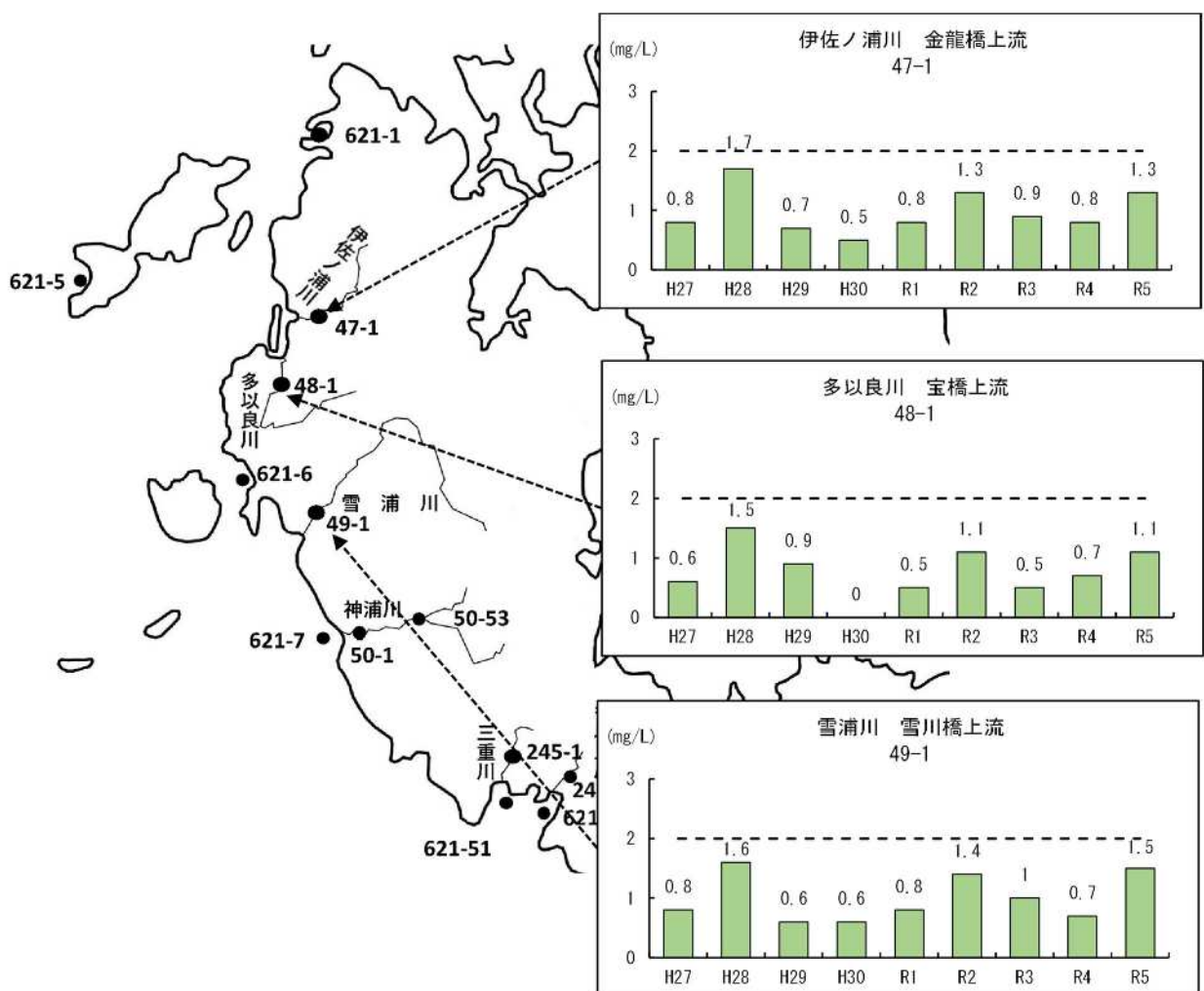
第2章 生活排水処理の現状と課題

第1節 水環境の現況

1. 水環境の現況

長崎県内の河川及び海域は、生活環境に係る環境基準の類型指定を受けた地域です。このうち、西海市に關係する水域は、河川では伊佐ノ浦川、多以良川、雪浦川が、海域では大村湾、西彼海域が、それぞれ環境基準A類型（河川：BODの環境基準値2mg/L以下、海域：CODの環境基準値2mg/L以下）の指定を受けています。

關係河川では、伊佐ノ浦川の金龍橋上流、多以良川の宝橋上流、雪浦川の雪川橋上流で水質監視調査が行われており、いずれの地点も環境基準に適合しています。

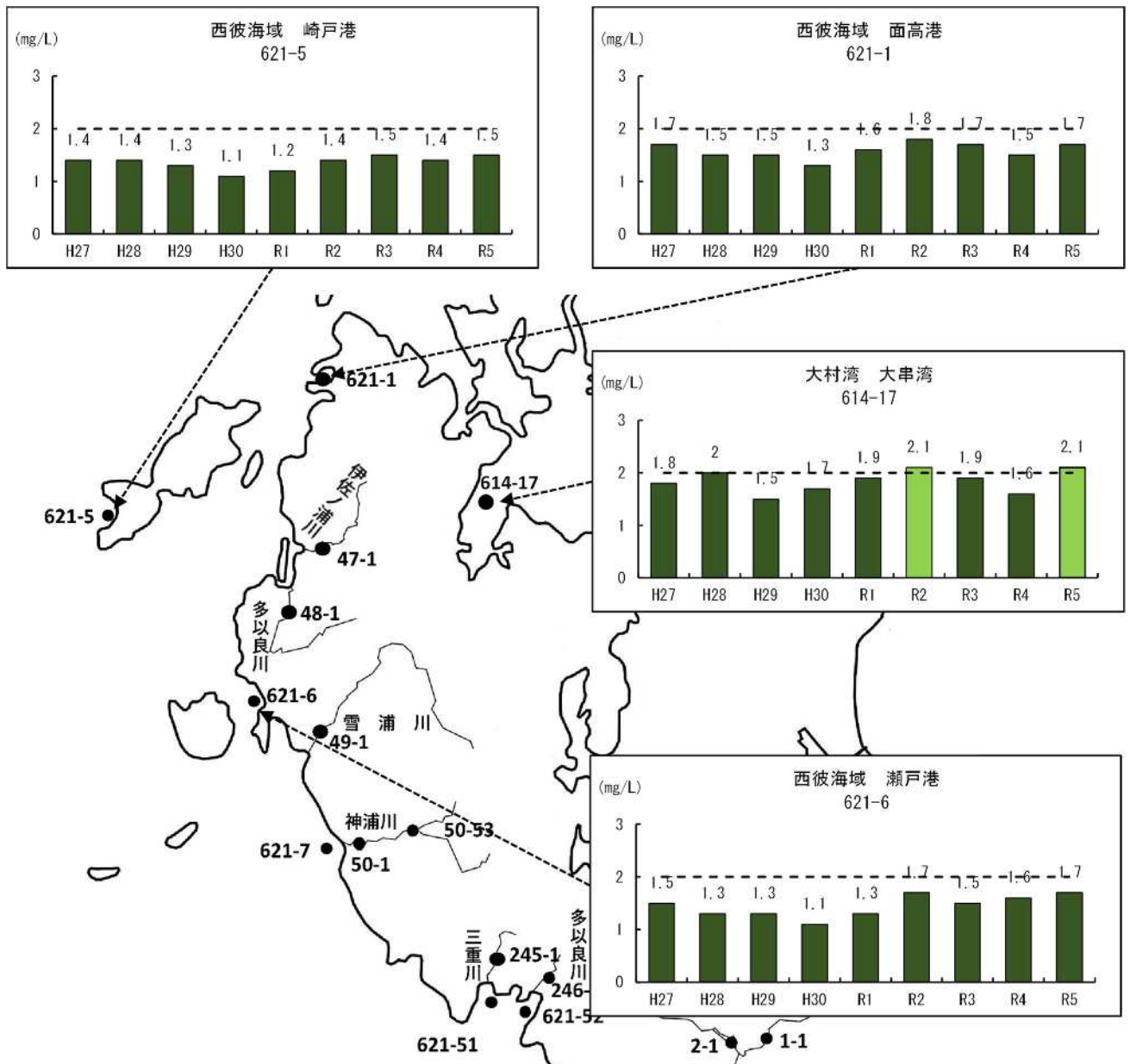


(資料) 長崎県 令和5年度 公共水域及び地下水の水質測定結果 (令和7年3月)

(備考) グラフは BOD 年間 75%値 (※報告下限値未滿 (0.5mg/L) の場合は「0」と表示)

図3-2-1 關係河川の測定地点における水質経年変化

また、関係海域では、西彼海域の崎戸港、面高港、瀬戸港及び大村湾海域の大串湾で水質監視調査が行われており、大串湾で令和2年度と令和5年度に環境基準の超過が見られていますが、それ以外はいずれも環境基準に適合しています。



(資料) 長崎県 令和5年度 公共用水域及び地下水の水質測定結果 (令和7年3月)

(備考) グラフは COD 年間 75%値 (※報告下限値未満 (0.5mg/L) の場合は「0」と表示)

図 3-2-2 関係海域の測定地点における水質経年変化

第2節 生活排水処理の現状

1. 生活排水の処理体系

西海市における生活排水処理は、「特定環境保全公共下水道」（以下「公共下水道」という）、「コミュニティ・プラント」、「農業・漁業集落排水施設」、「合併処理浄化槽」、「単独処理浄化槽」及び「西海市汚泥再生処理センター」で行われています。

西海市汚泥再生処理センターでは、くみ取りし尿のほかに浄化槽汚泥、集落排水施設から排出される汚泥（以下「集落排水汚泥」という。）を処理しており、処理過程で発生する汚泥については脱水後（以下「汚泥再生処理センター汚泥」という。）、炭化物原料として「西海市炭化センター」に搬出しています。なお、集落排水汚泥の一部については堆肥化（農地還元）しています。

また、コミュニティ・プラントから排出される汚泥（以下「コミプラ汚泥」という）については脱水後、「西海市炭化センター」に搬出しています。西海市炭化センターに搬入される各汚泥は、公共下水道終末処理場から排出される汚泥（以下「下水汚泥」という。）や可燃ごみとともに炭化処理を行い、有効利用を図っています。

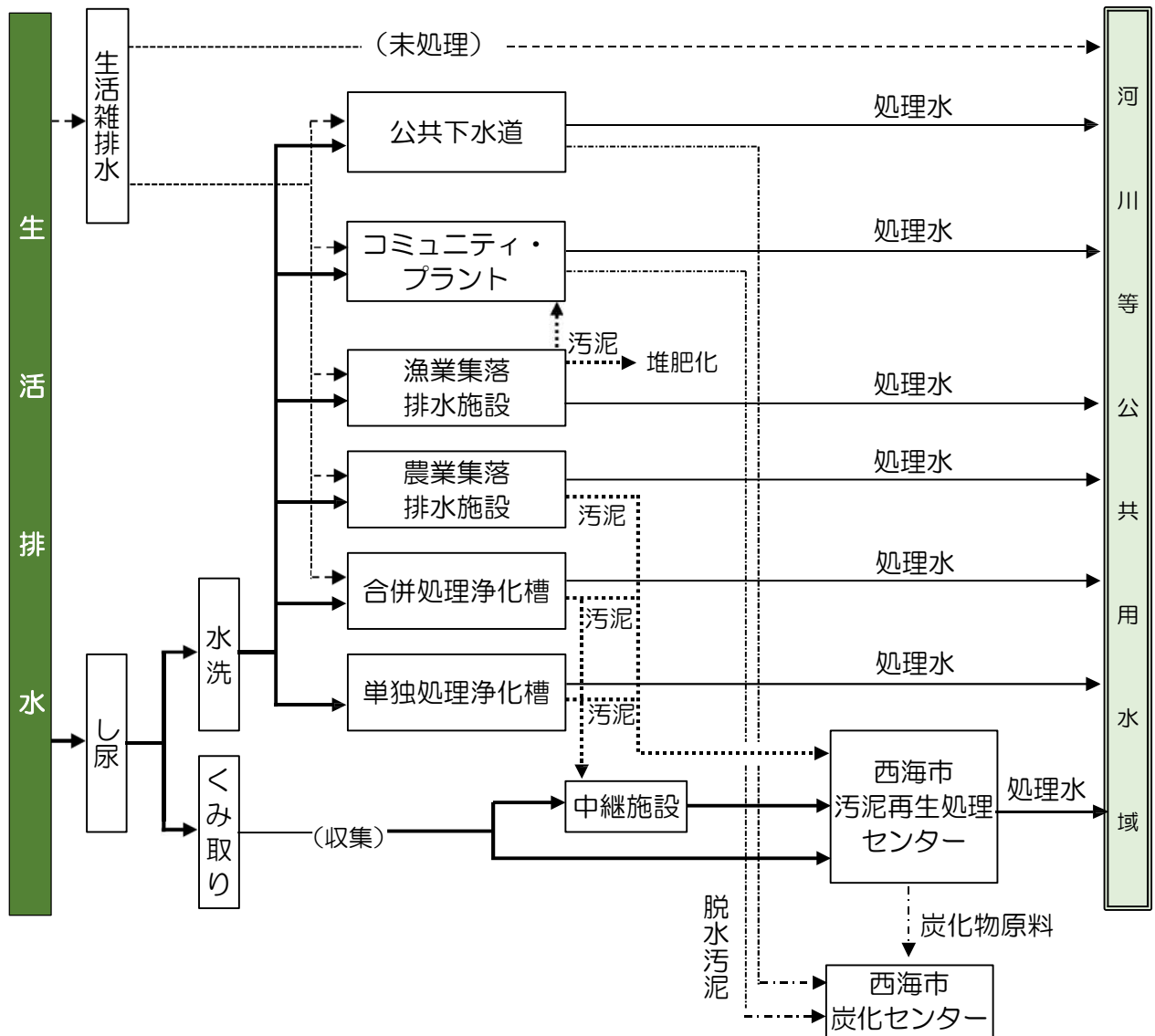


図 3-2-3 西海市における生活排水の処理体系

2. 生活排水の処理形態別人口

生活排水の処理形態別人口の推移をみると、し尿（水洗トイレ排水）と生活雑排水を合わせて処理している人口（以下「水洗化・生活雑排水処理人口」という。）は、公共下水道や合併処理浄化槽の普及に伴って年々増加しており、生活雑排水が未処理となっている人口（単独処理浄化槽人口、非水洗化人口）は減少しています。

その結果、汚水衛生処理率（計画処理区域内人口に対する水洗化・生活雑排水処理人口の割合）は年々向上してきており、令和6年度には77.4%となっていますが、全国（令和5年度90.4%）や長崎県（同80.3%）と比較するとやや低い状況です。

表 3-2-1 西海市における生活排水処理形態別人口の推移

| 区分 | 年度 | 令和 | | | | |
|----------------------------------|-----|--------|--------|--------|--------|--------|
| | | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 |
| 総人口 | (人) | 27,123 | 26,518 | 25,882 | 25,547 | 25,114 |
| 1. 計画処理区域内人口 | (人) | 27,123 | 26,518 | 25,882 | 25,547 | 25,114 |
| 2. 水洗化・生活雑排水処理人口 | (人) | 20,253 | 19,954 | 19,795 | 19,712 | 19,443 |
| (1) 公共下水道人口 | (人) | 2,196 | 2,266 | 2,341 | 2,439 | 2,494 |
| (2) コミュニティプラント人口 | (人) | 3,560 | 3,346 | 3,263 | 3,376 | 3,403 |
| (3) 集落排水施設人口 | (人) | 6,236 | 6,047 | 5,968 | 5,888 | 5,766 |
| (4) 合併処理浄化槽人口 | (人) | 8,261 | 8,295 | 8,223 | 8,009 | 7,780 |
| 3. 水洗化・生活雑排水未処理人口 （単独処理浄化槽人口） | (人) | 302 | 267 | 241 | 222 | 203 |
| 4. 非水洗化人口 | (人) | 6,568 | 6,297 | 5,846 | 5,613 | 5,468 |
| (1) し尿収集人口 | (人) | 6,568 | 6,297 | 5,846 | 5,613 | 5,468 |
| (2) 自家処理人口 | (人) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 5. 計画処理区域外人口 | (人) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 汚水衛生処理率 | (%) | 74.7 | 75.2 | 76.5 | 77.2 | 77.4 |

（備考）汚水衛生処理率（%）：水洗化・生活雑排水処理人口／計画処理区域内人口×100

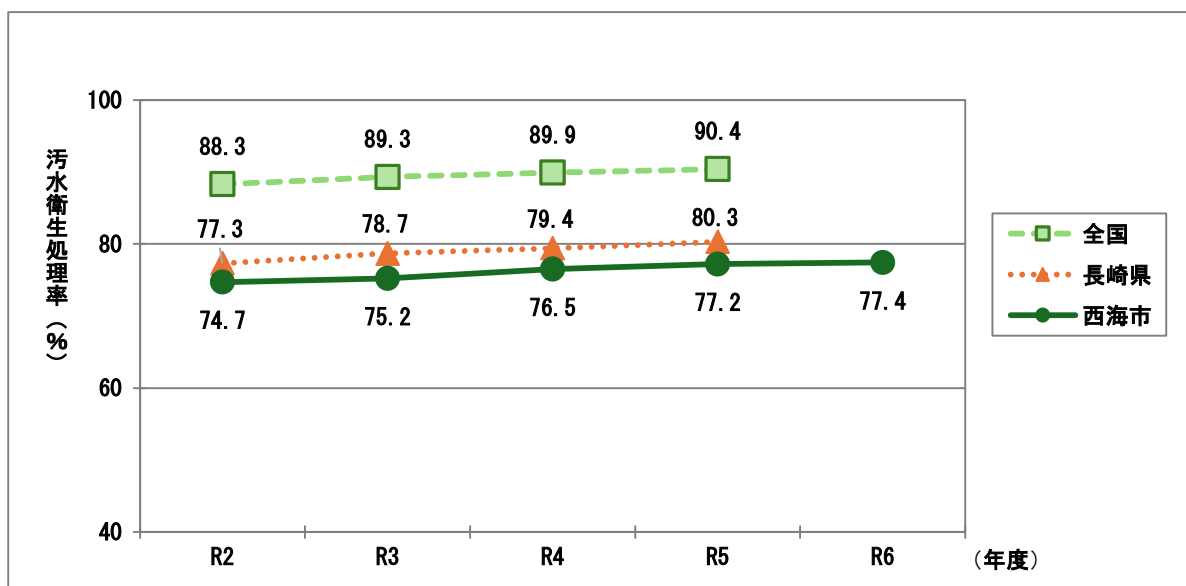


図 3-2-4 汚水衛生処理率の推移

3. 処理施設の状況

西海市では市内各地区の地域特性に応じて、公共下水道、コミュニティ・プラント、農業・漁業集落排水施設、合併処理浄化槽の整備、普及促進を進めています。

1) 公共下水道

公共下水道は、2処理区で整備を進めており、いずれも平成21年3月より供用を開始しています。事業概要は次のとおりです。

表 3-2-2 公共下水道事業の概要

| 項目 | | 処理区 | |
|--------|------|-------------------------|-------------------------|
| | | 大串処理区 | 瀬戸処理区 |
| 事業種別 | | 特定環境保全公共下水道 | 特定環境保全公共下水道 |
| 事業着手年度 | | 平成11年度 | 平成16年度 |
| 全体計画 | 目標年次 | 令和8年度 | 令和8年度 |
| | 処理区域 | 57.63 ha | 78.72 ha |
| | 処理人口 | 1,300 人 | 2,200 人 |
| 認可計画 | 目標年次 | 令和8年度 | 令和8年度 |
| | 処理区域 | 57.63 ha | 78.72 ha |
| | 処理人口 | 1,300 人 | 2,200 人 |
| 下水排除方式 | | 分流式 | 分流式 |
| 終末処理場 | 施設名 | 大串浄化センター | 瀬戸浄化センター |
| | 処理能力 | 1,600 m ³ /日 | 1,900 m ³ /日 |
| | 処理方式 | オキシデーション ディッチ法 | オキシデーション ディッチ法 |
| | 供用開始 | 平成21年3月31日 | 平成21年3月31日 |

2) コミュニティ・プラント

コミュニティ・プラントは、6 地区で整備されており、いずれも供用を開始しています。施設の概要は次のとおりです。

表 3-2-3 コミュニティ・プラントの概要

| 項目 | | 地区 | | | |
|------------|------|-----------------------|-------------------------|----------------------|-------------------|
| | | 内浦 | 真砂 | 楠地 | |
| 町名 | | 大島町 | 大島町 | 大島町 | |
| 事業期間 | | ～昭和 50 年度 | 平成 30 年度～施工中 | 平成 5～6 年度 | |
| 計画面積 | | 6.7 ha | 51.6 ha | 5.3 ha | |
| 計画処理人口 | | 4,000 人 | 2,670人 | 290 人 | |
| 計画汚水量（日最大） | | 800 m ³ /日 | 1,010 m ³ /日 | 82 m ³ /日 | |
| 処理施設 | 処理方式 | 水処理 | 長時間ばっ気方式 | 長時間ばっ気方式 | 長時間ばっ気方式 |
| | | 汚泥処理 | 濃縮後、真砂地域下水処理施設へ搬出 | 脱水後、西海市炭化センターへ搬出 | 濃縮後、真砂地域下水処理施設へ搬出 |
| | 供用開始 | 昭和 50 年度 | 令和 7 年度 | 平成 7 年度 | |

| 項目 | | 地区 | | | |
|------------|------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|------------------|
| | | 塔の尾・太田尾 | 間瀬 | 馬込 | |
| 町名 | | 大島町 | 大島町 | 大島町 | |
| 事業期間 | | 平成 7～9 年度 | 平成 10～14 年度 | 平成 16～19 年度 | |
| 計画面積 | | 23.0 ha | 53.5 ha | 34.2 ha | |
| 計画処理人口 | | 500 人 | 1,900 人 | 1,510 人 | |
| 計画汚水量（日最大） | | 200 m ³ /日 | 990 m ³ /日 | 570 m ³ /日 | |
| 処理施設 | 処理方式 | 水処理 | 長時間ばっ気方式 | 長時間ばっ気方式 | 長時間ばっ気方式 |
| | | 汚泥処理 | 濃縮後、真砂地域下水処理施設へ搬出 | 脱水後、西海市炭化センターへ搬出 | 脱水後、西海市炭化センターへ搬出 |
| | 供用開始 | 平成 9 年度 | 平成 13 年度 | 平成 19 年度 | |

3) 農業・漁業集落排水施設

農業・漁業集落排水施設は、計 13 地区（農業集落排水施設：10 地区、漁業集落排水施設：3地区）で整備されており、いずれも供用を開始しています。施設の概要は次のとおりです。

表 3-2-4 農業集落排水施設の概要（その1）

| 項目 | | 地区 | 平原 | 皆割石 | 小迎 |
|------------|------|------|-----------------------|----------------------|-----------------------|
| 町名 | | | 西彼町 | 西彼町 | 西彼町 |
| 事業期間 | | | 平成 4～7 年度 | 平成 6～9 年度 | 平成 8～13 年度 |
| 計画面積 | | | 26.0 ha | 5.2 ha | 34.9 ha |
| 計画処理人口 | | | 320 人 | 290 人 | 1,950 人 |
| 計画汚水量（日最大） | | | 106 m ³ /日 | 87 m ³ /日 | 591 m ³ /日 |
| 処理施設 | 処理方式 | 水処理 | 沈殿分離槽前置型接触ばっ気方式 | 沈殿分離槽前置型接触ばっ気方式 | 連続流入間欠ばっ気方式 |
| | | 汚泥処理 | 濃縮後、西海市汚泥再生処理センターへ搬出 | 濃縮後、西海市汚泥再生処理センターへ搬出 | 濃縮後、西海市汚泥再生処理センターへ搬出 |
| | 供用開始 | | 平成 8 年度 | 平成 9 年度 | 平成 13 年度 |

| 項目 | | 地区 | 亀浦・風早 | 川内・水浦 | 太田和 |
|------------|------|------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 町名 | | | 西彼町 | 西海町 | 西海町 |
| 事業期間 | | | 平成 10～13 年度 | 平成 5～9 年度 | 平成 6～10 年度 |
| 計画面積 | | | 21.8 ha | 36.1 ha | 55.7 ha |
| 計画処理人口 | | | 980 人 | 1,950 人 | 1,510 人 |
| 計画汚水量（日最大） | | | 323 m ³ /日 | 582 m ³ /日 | 450 m ³ /日 |
| 処理施設 | 処理方式 | 水処理 | 連続流入間欠ばっ気方式 | 回分式活性汚泥法 | 回分式活性汚泥法 |
| | | 汚泥処理 | 濃縮後、西海市汚泥再生処理センターへ搬出 | 濃縮後、西海市汚泥再生処理センターへ搬出 | 濃縮後、西海市汚泥再生処理センターへ搬出 |
| | 供用開始 | | 平成 13 年度 | 平成 10 年度 | 平成 10 年度 |

| 項目 | | 地区 | 横瀬 | 柳 | 多以良 |
|------------|------|------|-----------------------|----------------------|-----------------------|
| 町名 | | | 西海町 | 大瀬戸町 | 大瀬戸町 |
| 事業期間 | | | 平成 7～11 年度 | 平成 4～7 年度 | 平成 8～13 年度 |
| 計画面積 | | | 54.4 ha | 7.0 ha | 20.6 ha |
| 計画処理人口 | | | 1,560 人 | 290 人 | 1,140 人 |
| 計画汚水量（日最大） | | | 468 m ³ /日 | 96 m ³ /日 | 342 m ³ /日 |
| 処理施設 | 処理方式 | 水処理 | 回分式活性汚泥法 | 沈殿分離槽・接触ばっ気方式 | 連続流入間欠ばっ気方式 |
| | | 汚泥処理 | 濃縮後、西海市汚泥再生処理センターへ搬出 | 濃縮後、西海市汚泥再生処理センターへ搬出 | 濃縮後、西海市汚泥再生処理センターへ搬出 |
| | 供用開始 | | 平成 11 年度 | 平成 8 年度 | 平成 12 年度 |

表 3-2-4 農業集落排水施設の概要（その2）

| 項目 | | 地区 | 雪浦 |
|------------|------|------|--------------------------|
| 町名 | | | 大瀬戸町 |
| 事業期間 | | | 平成 11～16 年度 |
| 計画面積 | | | 14 ha |
| 計画処理人口 | | | 1,160 人 |
| 計画汚水量（日最大） | | | 321 m ³ /日 |
| 処理施設 | 処理方式 | 水処理 | 連続流入間欠 ばっ気方式 |
| | | 汚泥処理 | 濃縮後、西海市汚泥再生 処理センターへ搬出 |
| 供用開始 | | | 平成 15 年度 |

表 3-2-5 漁業集落排水施設の概要

| 項目 | | 地区 | 黒瀬 | 大島・塩田 | 江島 |
|------------|------|------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|
| 町名 | | | 大島町 | 大島町 | 崎戸町 |
| 事業期間 | | | 平成 10～12 年度 | 平成 12～18 年度 | 平成 6～10 年度 |
| 計画面積 | | | 13.3 ha | 44.4 ha | 24.0 ha |
| 計画処理人口 | | | 450 人 | 710 人 | 740 人 |
| 計画汚水量（日最大） | | | 148.5 m ³ /日 | 234.3 m ³ /日 | 244.2 m ³ /日 |
| 処理施設 | 処理方式 | 水処理 | 長時間ばっ気方式 | 長時間ばっ気方式 | 長時間ばっ気方式 |
| | | 汚泥処理 | 濃縮後、馬込地域下水 処理施設へ搬出 | 濃縮後、馬込地域下水 処理施設へ搬出 | 堆肥化 地元農地還元 |
| 供用開始 | | | 平成 13 年度 | 平成 18 年度 | 平成 8 年度 |

4) 合併処理浄化槽

西海市では、西海市浄化槽設置整備事業補助金交付要綱に基づき、市内（下水道処理区域を除く市内全域を対象）において浄化槽（合併処理浄化槽）を設置しようとする者に対し、設置に要する費用に相当し、要綱に定める額の範囲内で補助金を交付するなど、浄化槽の普及促進に取り組んでいます。

4. し尿・浄化槽汚泥処理の現状

生活排水のうち、し尿・浄化槽汚泥等については収集・運搬し、汚泥再生処理センターで処理が行われています。ここでは、し尿・浄化槽汚泥等の処理体制や処理の現状について整理します。

1) し尿・浄化槽汚泥の処理体制

(1) 管理・運営体制

し尿・浄化槽汚泥処理に関する管理・運営体制は、次のとおりです。

表 3-2-6 し尿・浄化槽汚泥処理の実施主体

| 区分 | | 実施主体 | 運営 |
|-------|-------|-----------|----------|
| 収集・運搬 | し尿 | 西海市（許可業者） | — |
| | 浄化槽汚泥 | | |
| 中間処理 | し尿 | 西海市 | 委託（運営委託） |
| | 浄化槽汚泥 | | |
| 最終処分 | | 西海市 | 直営 |

(2) し尿・浄化槽汚泥の収集・運搬体制

し尿及び浄化槽汚泥の収集・運搬は、いずれも許可業者によって行われており、し尿については定時収集又は各家庭からの申し込みに基づいて、浄化槽汚泥については各家庭（浄化槽管理者）からの申し込みにより随時収集されています。

表 3-2-7 し尿・浄化槽汚泥の収集・運搬体制

| 項目 | し尿 | 浄化槽汚泥 |
|-----|----|-------|
| 業者数 | 6社 | 7社 |

（備考）令和7年度現在

(3) し尿・浄化槽汚泥の処理体制

市区域内で収集されるし尿及び浄化槽汚泥（集落排水汚泥を含む）は、西海市が管理・運営する各施設で処理を行っています。

表 3-2-8 し尿・浄化槽汚泥の処理体制

| 町名 | し尿 | 浄化槽汚泥 | 集落排水汚泥 | コミプラ汚泥 |
|------------|---------------|-------|--------|-----------|
| 西彼町 | 西海市汚泥再生処理センター | | | — |
| 西海町 | | | | — |
| 大瀬戸町 | | | | — |
| 大島町 | | | | 西海市炭化センター |
| 崎戸町（江島を除く） | — | — | — | — |
| 崎戸町（江島） | — | — | 施設内堆肥化 | — |

(4) し尿処理施設の概要

汚泥再生処理センター及びし尿等中継施設の概要は、次のとおりです。

表 3-2-9 汚泥再生処理センターの概要

| 施設名 | | 西海市汚泥再生処理センター |
|--------|-----|-----------------|
| 所在地 | | 大瀬戸町雪浦小松郷 37 番地 |
| 計画処理能力 | | 74 kL/日 |
| 処理方式 | 水処理 | 高負荷脱窒素処理方式＋高度処理 |
| | 資源化 | 助燃剤化および炭化物原料化 |
| 処理対象区域 | | 西海市全域 |
| 供用開始 | | 平成 25 年 4 月 |



西海市汚泥再生処理センター

表 3-2-10 し尿等中継施設の概要

| 施設名 | 西彼地区 し尿等中継施設 | 西海地区 し尿等中継施設 | 大島・崎戸地区 し尿等中継施設 | 西海市崎戸平島 汚泥再生処理 センター |
|------|--------------------|------------------|--------------------------|---------------------------|
| 所在地 | 西彼町大串郷 818 番地53 | 西海町木場郷 1 番地33 | 大島町 3388 番地 1 | 崎戸町平島 1206 番地 1 |
| 対象区域 | 西彼町 | 西海町 | 大島町 崎戸町 (江島・平島を除く) | 崎戸町平島 |
| 供用開始 | 平成 25 年 7 月 | 平成 25 年 4 月 | 平成 25 年 4 月 | 平成 17 年 4 月 |
| 施設 | 中継タンク 40t×4 基 | 中継タンク 40t×4 基 | 中継タンク 40t×4 基 | |

(備考) 西海市崎戸平島汚泥再生処理センターは、令和 3 年 3 月に休止後、中継施設として活用している。

2) し尿・浄化槽汚泥処理の状況

(1) し尿・浄化槽汚泥の収集・運搬実績

し尿・浄化槽汚泥等の収集・運搬量は、次のとおりです。下水道等の整備や合併処理浄化槽の普及により、し尿は減少、浄化槽汚泥は増加傾向で推移しています。

表 3-2-11 し尿・浄化槽汚泥等の収集・運搬実績

| 区分 | 年度 | 令和 | | | | |
|--------------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| | | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 |
| し尿 | (kL/年) | 9,265 | 9,119 | 8,795 | 8,675 | 8,512 |
| 浄化槽汚泥 | (kL/年) | 13,380 | 13,684 | 13,799 | 13,321 | 13,765 |
| 集落排水汚泥 | (kL/年) | 4,934 | 4,924 | 4,936 | 4,981 | 5,020 |
| コミブラ汚泥(脱水汚泥) | (t/年) | 151 | 153 | 170 | 105 | 133 |
| 汚泥再生処理センター汚泥(脱水汚泥) | (t/年) | 439 | 432 | 411 | 379 | 373 |
| 下水汚泥(脱水汚泥) | (t/年) | 166 | 172 | 165 | 165 | 161 |

(備考) コミブラ汚泥、汚泥再生処理センター汚泥、下水汚泥には各施設で発生する「し渣」を含む

(2) し尿・浄化槽汚泥の処理実績

収集・運搬されたし尿・浄化槽汚泥等の処理実績は、次のとおりです。

①西海市汚泥再生処理センター

し尿、浄化槽汚泥及び集落排水汚泥は、西海市汚泥再生処理センターで処理を行っており、その量は令和6年度で27,297kL/年（1日平均：74.8kL）となっています。経年的には減少傾向で推移しています。

表3-2-12 西海市汚泥再生処理センター（し尿・浄化槽汚泥・集落排水汚泥）の処理実績

| 区分 | | 年度 | | 令和 | | | | |
|---------------------------|---------------|---------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| | | | | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 |
| 西海市 汚泥再生 処理 センター | し尿 | 年間 (kL/年) | | 9,265 | 9,119 | 8,795 | 8,675 | 8,512 |
| | | (1日平均) (kL/日) | | (25.4) | (25.0) | (24.1) | (23.7) | (23.3) |
| | 浄化槽汚泥 | 年間 (kL/年) | | 13,380 | 13,684 | 13,799 | 13,321 | 13,765 |
| | | (1日平均) (kL/日) | | (36.7) | (37.5) | (37.8) | (36.4) | (37.7) |
| | 集落排水汚泥 | 年間 (kL/年) | | 4,934 | 4,924 | 4,936 | 4,981 | 5,020 |
| | | (1日平均) (kL/日) | | (13.5) | (13.5) | (13.5) | (13.6) | (13.8) |
| 合計 | 年間 (kL/年) | | 27,579 | 27,727 | 27,530 | 26,977 | 27,297 | |
| | (1日平均) (kL/日) | | (75.6) | (76.0) | (75.4) | (73.7) | (74.8) | |

(備考) 1 1日平均量 (kL/日) = 年間量 / 年度日数 (365日または366日)

2 四捨五入の関係で、合計が合わない場合がある

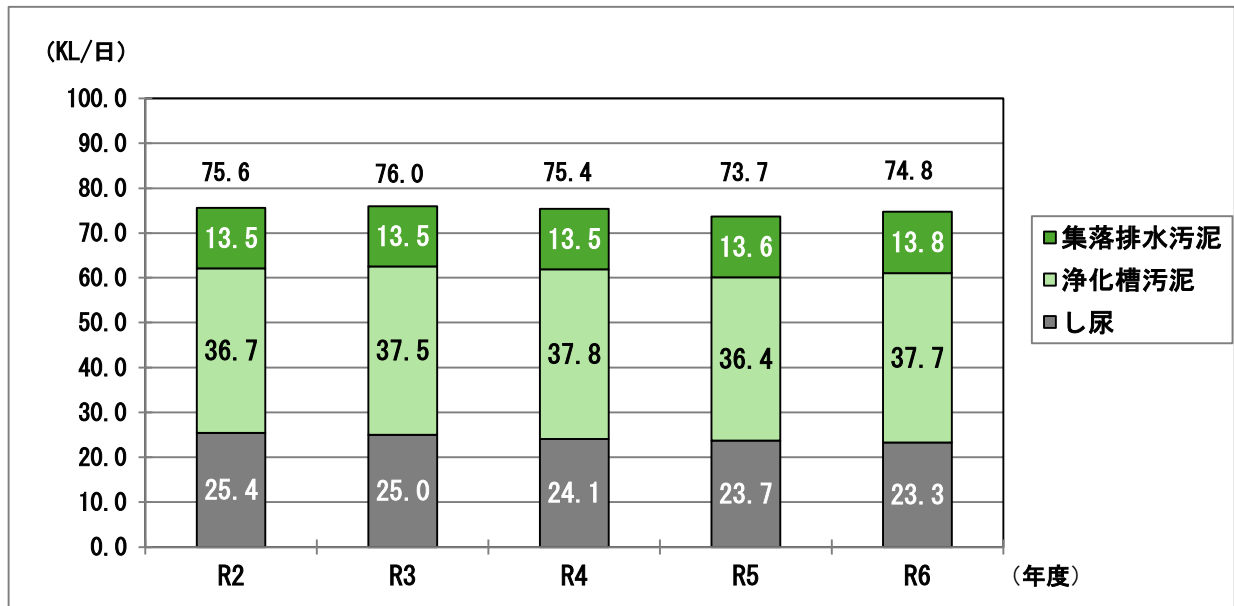


図 3-2-5 西海市汚泥再生処理センター (し尿・浄化槽汚泥・集落排水汚泥) の処理実績〔1日平均量〕

②西海市炭化センター

コミプラ汚泥、汚泥再生処理センター汚泥及び下水汚泥は、西海市炭化センターで処理を行っており、その量は令和6年度で667t/年（1日平均：1,827kg）となっています。

表 3-2-13 西海市炭化センター
（コミプラ汚泥・汚泥再生処理センター汚泥・下水汚泥）の処理実績

| 区分 | | 年度 | | 令和 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 |
|-------------------|------------------|---------------|---------------|---------|---------|---------|---------|---------|----|
| | | 年間 (t/年) | (1日平均) (kg/日) | | | | | | |
| 西海市 炭化 センター | コミプラ汚泥 | 年間 (t/年) | | 151 | 153 | 170 | 105 | 133 | |
| | | (1日平均) (kg/日) | | (414) | (419) | (466) | (287) | (364) | |
| | 汚泥再生処理 センター汚泥 | 年間 (t/年) | | 439 | 432 | 411 | 379 | 373 | |
| | | (1日平均) (kg/日) | | (1,203) | (1,184) | (1,126) | (1,036) | (1,022) | |
| | 下水汚泥 | 年間 (t/年) | | 166 | 172 | 165 | 165 | 161 | |
| | | (1日平均) (kg/日) | | (455) | (471) | (452) | (451) | (441) | |
| 合計 | 年間 (t/年) | | 756 | 757 | 746 | 649 | 667 | | |
| | (1日平均) (kg/日) | | (2,072) | (2,074) | (2,044) | (1,773) | (1,827) | | |

（備考）1 各施設で発生する「し渣」を含む

2 1日平均量 (kg/日) = 年間量 / 年度日数 (365日または366日) × 1000

3 四捨五入の関係で、合計が合わない場合がある

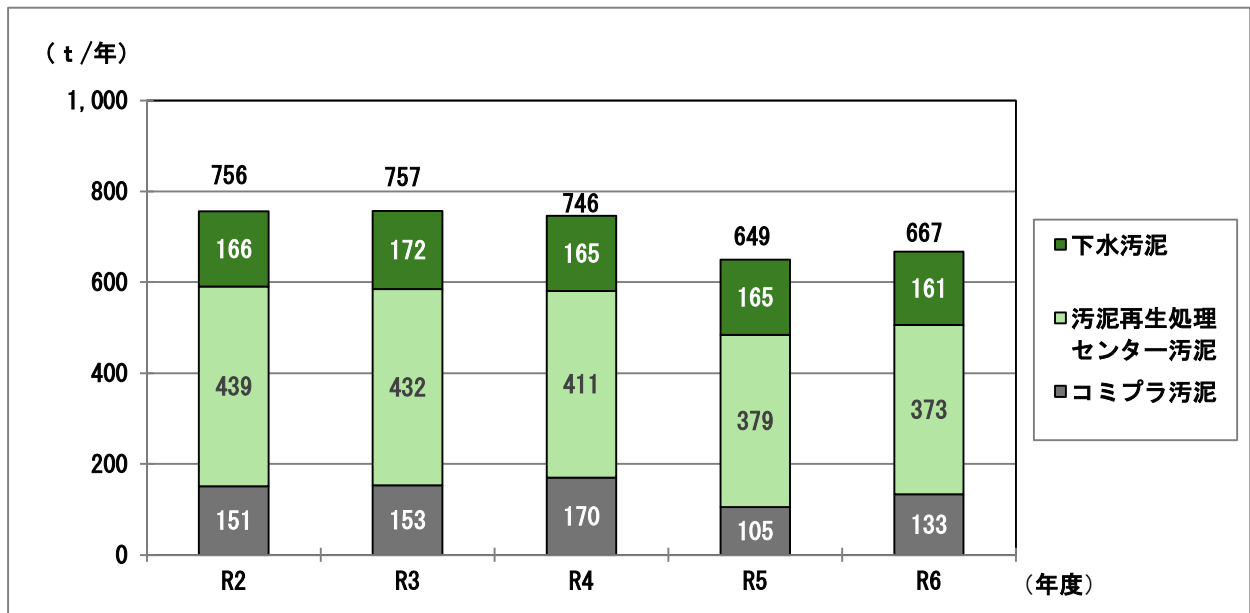


図 3-2-6 西海市炭化センター
（コミプラ汚泥・汚泥再生処理センター汚泥・下水汚泥）の処理実績

(3) し尿処理経費

西海市におけるし尿処理経費の合計は、令和6年度実績で約2億2千万円です。その内、処理及び維持管理費は約1億8千万円です。また、対象人口1人当たりでの年間し尿処理及び維持管理費は約9,300円となっています。

表3-2-14 し尿処理経費の推移

| 項目 | | 年度 | | | | |
|--------|-------------------------|---------|---------|---------|---------|---------|
| | | 令和 R2 | R3 | R4 | R5 | R6 |
| し尿処理経費 | 処理及び維持管理費(千円) | 160,621 | 170,798 | 170,529 | 173,599 | 179,244 |
| | 建設・改良費(千円) | 63,877 | 23,151 | 24,420 | 47,630 | 37,233 |
| | その他(千円) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 合計(千円) | 224,498 | 193,949 | 194,949 | 221,229 | 216,477 |
| | 1人当たりし尿処理及び維持管理費(円/人・年) | 7,500 | 8,200 | 8,400 | 8,800 | 9,300 |

(備考) 1 し尿処理経費合計＝処理及び維持管理費＋建設・改良費＋その他

2 1人当たりし尿処理及び維持管理費＝処理及び維持管理費÷し尿処理対象人口(非水洗化＋浄化槽)

(資料) 環境省 一般廃棄物処理実態調査結果(各年度版)

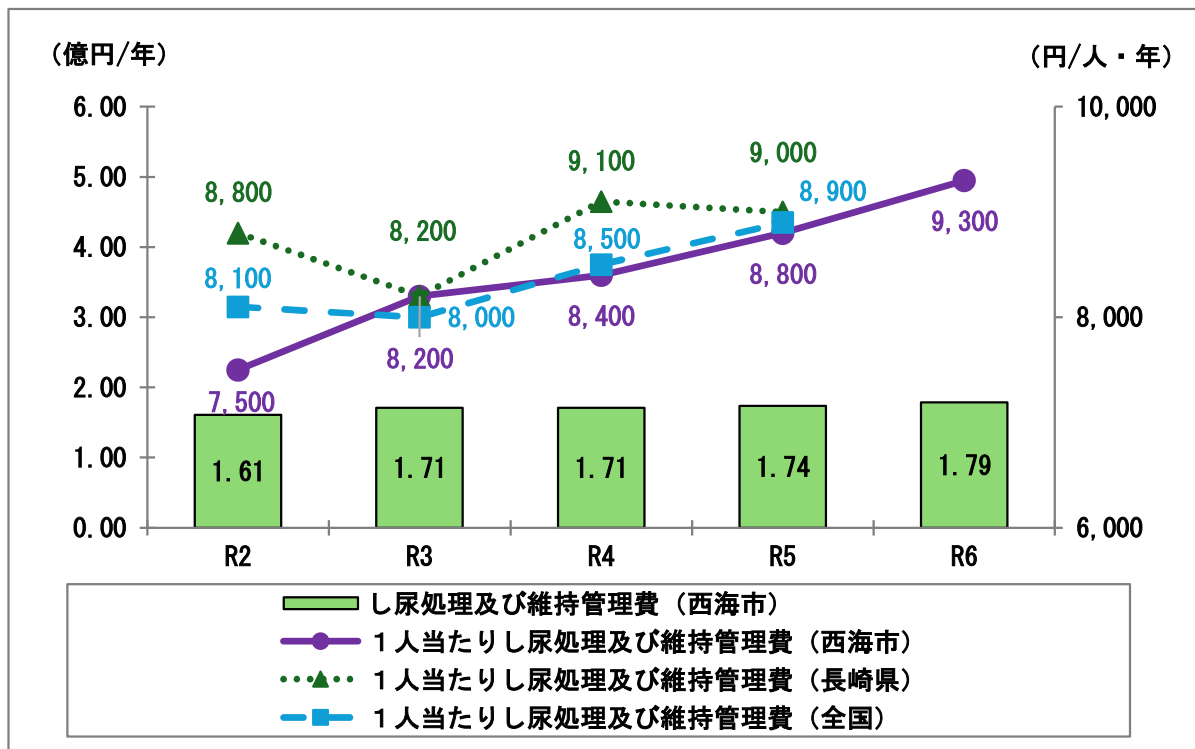


図 3-2-7 し尿処理経費の推移

第3節 生活排水処理の課題

西海市の生活排水処理の現状から、課題を整理すると、次のとおりとなります。

課題1 生活排水対策の推進

西海市の生活排水対策は、地域の実情に応じて、公共下水道、コミュニティ・プラント、農業集落排水、漁業集落排水の整備、合併処理浄化槽の普及促進を図ることにより進めています。その進捗状況を「汚水衛生処理率」で見ると、令和6年度には77.4%となっており、年々向上してきています。

しかし、その一方では人口比で22.6%は、生活雑排水（台所、洗濯、浴室等からの排水）が未処理のまま河川等に排出されていることになり、公共用水域の水質汚濁の原因となっているものと思われます。

このため、引き続き生活排水対策に取り組み、汚水衛生処理率を更に向上させていく必要があります。

課題2 施設の老朽化、処理の効率化を視野に入れた施設更新・統廃合

西海市の生活排水処理施設・し尿処理施設は、現在、公共下水道が2施設、農業・漁業集落排水施設が13施設、コミュニティ・プラントが5施設、汚泥再生処理センターが1施設稼動しています。

これらの施設の中には、老朽化の進行が見られるほか、複数の施設で処理を行っていることで維持管理の面で非効率となっている状況にあります。

これらのことから、老朽施設への対策と市全体としての生活排水・し尿処理の効率化を視野に入れて、施設の更新・統廃合を進めています。

第3章 人口及びし尿・汚泥量の将来予測

第1節 生活排水処理形態別人口の将来予測

生活排水処理形態別人口の将来予測を行うと、次のとおりとなります。

生活排水対策への取り組みによって、総人口（計画処理区域内人口）に対する水洗化・生活雑排水処理人口の割合（汚水衛生処理率）は、向上していくことが見込まれます。

表 3-3-1 生活排水処理形態別人口の予測結果

| 区分 | 年度 | 実績値 | | | 予測値 | | |
|-------------------------------|-----|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| | | R2 | R4 | R6 | R7 | R12 | R17 |
| 総人口 | (人) | 27,123 | 25,882 | 25,114 | 24,410 | 21,981 | 19,668 |
| 計画処理区域内人口 | (人) | 27,123 | 25,882 | 25,114 | 24,410 | 21,981 | 19,668 |
| 水洗化・生活雑排水処理人口 | (人) | 20,253 | 19,795 | 19,443 | 18,966 | 17,334 | 15,633 |
| 公共下水道人口 | (人) | 2,196 | 2,341 | 2,494 | 2,477 | 2,559 | 2,563 |
| コミュニティプラント人口 | (人) | 3,560 | 3,263 | 3,403 | 3,332 | 3,000 | 2,685 |
| 集落排水施設人口 | (人) | 6,236 | 5,968 | 5,766 | 5,695 | 5,419 | 4,849 |
| 合併処理浄化槽人口 | (人) | 8,261 | 8,223 | 7,780 | 7,462 | 6,356 | 5,536 |
| 水洗化・生活雑排水未処理人口 （単独処理浄化槽人口） | (人) | 302 | 241 | 203 | 195 | 166 | 145 |
| 非水洗化人口 | (人) | 6,568 | 5,846 | 5,468 | 5,249 | 4,481 | 3,890 |
| し尿収集人口 | (人) | 6,568 | 5,846 | 5,468 | 5,249 | 4,481 | 3,890 |
| 自家処理人口 | (人) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 計画処理区域外人口 | (人) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 汚水衛生処理率 | (%) | 74.7 | 76.5 | 77.4 | 77.7 | 78.9 | 79.5 |

（備考）汚水衛生処理率（%）：水洗化・生活雑排水処理人口／計画処理区域内人口×100

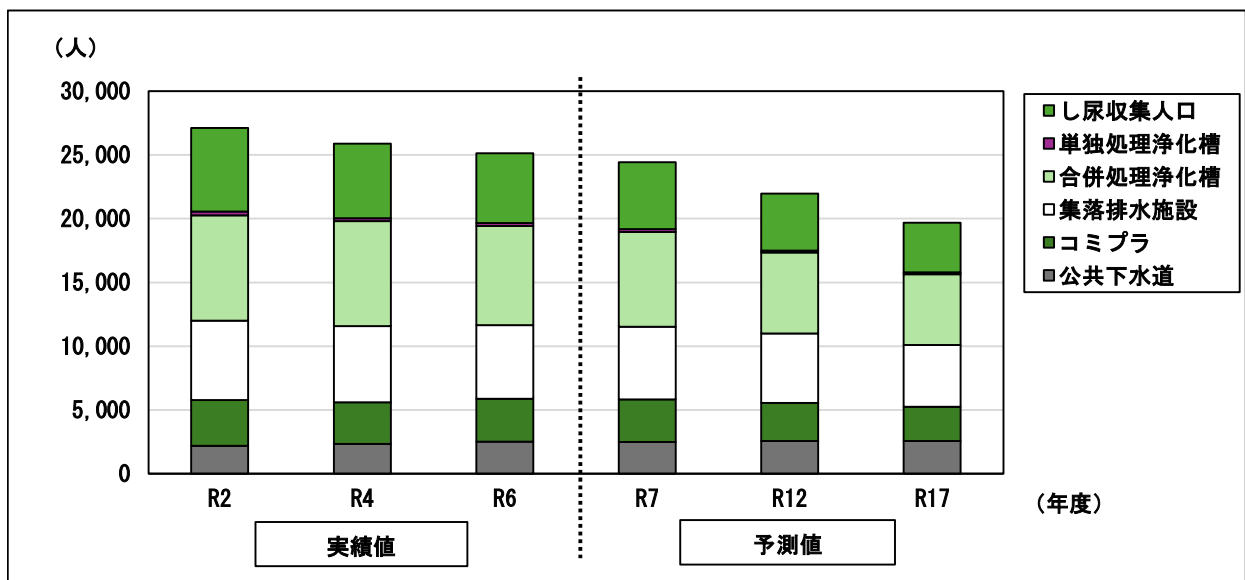


図 3-3-1 生活排水処理形態別人口の予測結果

第2節 し尿・汚泥量の将来予測

前項で予測した生活排水処理形態別人口（し尿収集人口、浄化槽人口等）や実績に基づくし尿、浄化槽汚泥等の1人1日平均排出量を基に、今後のし尿・汚泥量の予測を行うと、次のとおりとなります。

今後は、下水道の整備や浄化槽の普及促進など生活排水対策の進展に伴い、し尿・汚泥量は減少傾向で推移することが見込まれます。

表 3-3-2 し尿・浄化槽汚泥・集落排水汚泥
（西海市汚泥再生処理センター処理対象）の予測結果

| 区分 | 年度 | 実績値 | | | 予測値 | | |
|---------|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| | | R2 | R4 | R6 | R7 | R12 | R17 |
| し尿量 | 年間 (kL/年) | 9,265 | 8,795 | 8,512 | 8,047 | 6,869 | 5,980 |
| | 1日平均 (kL/日) | 25.4 | 24.1 | 23.3 | 22.0 | 18.8 | 16.3 |
| 浄化槽汚泥量 | 年間 (kL/年) | 13,380 | 13,799 | 13,765 | 12,688 | 10,808 | 9,440 |
| | 1日平均 (kL/日) | 36.7 | 38 | 38 | 35 | 30 | 26 |
| 集落排水汚泥量 | 年間 (kL/年) | 4,934 | 4,936 | 5,020 | 4,823 | 4,589 | 4,117 |
| | 1日平均 (kL/日) | 13.5 | 13.5 | 13.8 | 13.2 | 12.6 | 11.2 |
| 合計 | 年間 (kL/年) | 27,579 | 27,530 | 27,297 | 25,558 | 22,266 | 19,537 |
| | 1日平均 (kL/日) | 75.6 | 75.4 | 74.8 | 70.0 | 61.0 | 53.4 |

（備考）四捨五入の関係で、合計が合わない場合がある

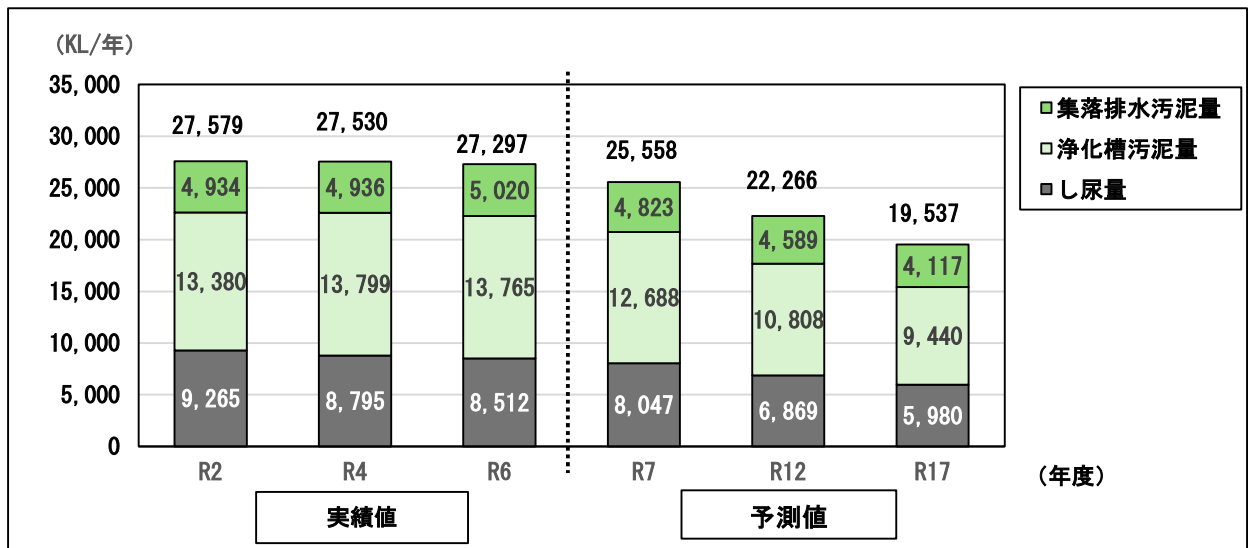


図 3-3-2 し尿・浄化槽汚泥・集落排水汚泥
（西海市汚泥再生処理センター処理対象）の予測結果

表 3-3-3 コミプラ汚泥・汚泥再生処理センター汚泥・下水汚泥量
(西海市炭化センター処理対象) の予測結果

| 区分 | 年度 | 実績値 | | | 予測値 | | |
|---------------|-------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | | R2 | R4 | R6 | R7 | R12 | R17 |
| コミプラ汚泥量 | 年間 (t/年) | 151 | 170 | 133 | 136 | 123 | 110 |
| | 1日平均 (kg/日) | 414 | 466 | 364 | 373 | 337 | 301 |
| 汚泥再生処理センター汚泥量 | 年間 (t/年) | 439 | 411 | 373 | 363 | 316 | 277 |
| | 1日平均 (kg/日) | 1,203 | 1,126 | 1,022 | 995 | 866 | 757 |
| 下水汚泥量 | 年間 (t/年) | 166 | 165 | 161 | 167 | 173 | 174 |
| | 1日平均 (kg/日) | 455 | 452 | 441 | 458 | 474 | 475 |
| 合計 | 年間 (t/年) | 756 | 746 | 667 | 666 | 612 | 561 |
| | 1日平均 (kg/日) | 2,071 | 2,044 | 1,827 | 1,825 | 1,677 | 1,533 |

(備考) 1 各施設で発生する「し渣」を含む

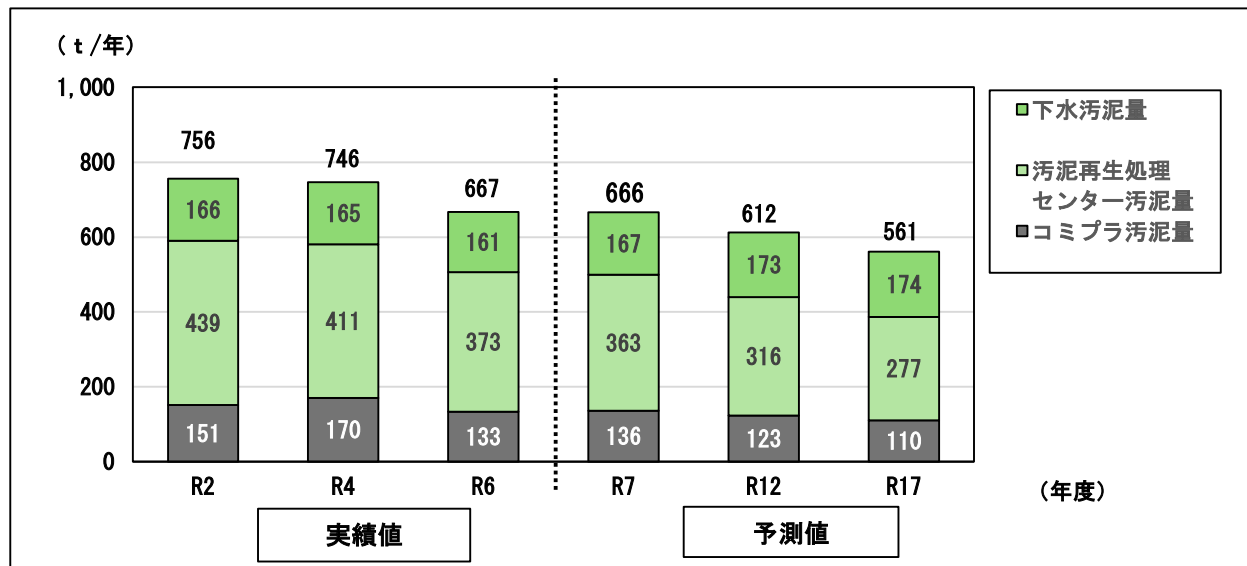


図 3-3-3 コミプラ汚泥・汚泥再生処理センター汚泥・下水汚泥量
(西海市炭化センター処理対象) の予測結果

第4章 生活排水処理基本計画

第1節 生活排水処理計画

1. 生活排水処理の基本方針

西海市では、第2次西海市総合計画（後期基本計画）の基本目標「安心して活躍できるまちづくり」のなかで、“適正な下水処理による安全で快適な環境づくり”に取り組むこととしています。これらも踏まえて、西海市における生活排水処理の適正化に向けての基本方針を、次のように定めます。

生活排水処理の基本方針

1. 下水処理施設の整備

生活排水（し尿及び生活雑排水）の処理対策として、特定環境保全公共下水道、コミュニティ・プラント、農業・漁業集落排水施設、合併処理浄化槽など、地域の実情に応じた下水処理施設の整備を推進します。

2. 水洗化率の向上

汚水処理の必要性や効果について、市ウェブサイトや広報誌を利用し意識啓発を広く行うと共に、集合処理施設への接続に対する融資斡旋制度（利子補給）や合併処理浄化槽の設置に係る補助金制度を周知し、水洗化率の向上を図ります。

3. 施設の更新・統廃合の推進

下水処理施設の維持管理コストの低減及び機能強化を図るため、老朽施設の更新・統廃合を推進します。

4. 単独処理浄化槽から合併処理の転換

単独処理浄化槽を設置している家庭・事業所に対しては、生活排水処理を促進するため、合併処理（公共下水道、コミュニティ・プラント、農業・漁業集落排水施設、合併処理浄化槽）への転換を働きかけていきます。

5. 水環境の保全意識の啓発

日常生活や生産活動における水環境への負荷を低減するため、市民や事業者に対し、水環境にやさしい生活や事業活動に関する情報発信・意識啓発に取り組みます。

2. 生活排水処理計画

1) 生活排水の処理主体

西海市における生活排水（処理施設の種類ごと）の処理主体は、次のようになります。

表 3-4-1 生活排水（処理施設の種類ごと）の処理主体

| 処理施設 | 対象となる生活排水の種類 | 処理主体 |
|-------------|--------------------|--------|
| 公共下水道 | し尿、生活雑排水 | 西海市 |
| コミュニティ・プラント | し尿、生活雑排水 | 西海市 |
| 農業集落排水施設 | し尿、生活雑排水 | 西海市 |
| 漁業集落排水施設 | し尿、生活雑排水 | 西海市 |
| 合併処理浄化槽 | し尿、生活雑排水 | 個人、西海市 |
| 単独処理浄化槽 | し尿 | 個人 |
| し尿処理施設 | し尿 浄化槽汚泥 有機性廃棄物 | 西海市 |

2) 生活排水処理の目標

前章の生活排水処理形態別人口の将来予測結果を基に、次のとおり、生活排水処理の目標とします。

表 3-4-2 生活排水処理の目標

①生活排水処理の目標

| 区 分 | 年 度 | 現況 (令和6年度) | 中間目標年次 | | 計画目標年次 (令和17年度) |
|---------|-----|---------------|---------|----------|--------------------|
| | | | (令和7年度) | (令和12年度) | |
| 汚水衛生処理率 | | 77.4 % | 77.7 % | 78.9 % | 79.5 % |

②水洗化・生活雑排水処理人口

| 区 分 | 年 度 | 現況 (令和6年度) | 中間目標年次 | | 計画目標年次 (令和17年度) |
|---------------|-----|---------------|----------|----------|--------------------|
| | | | (令和7年度) | (令和12年度) | |
| 総人口 | | 25,114 人 | 24,410 人 | 21,981 人 | 19,668 人 |
| 計画処理区域内人口 | | 25,114 人 | 24,410 人 | 21,981 人 | 19,668 人 |
| 水洗化・生活雑排水処理人口 | | 19,443 人 | 18,966 人 | 17,334 人 | 15,633 人 |

③生活排水の処理形態別内訳

| 区 分 | 年 度 | 現況 (令和6年度) | 中間目標年次 | | 計画目標年次 (令和17年度) |
|-------------------------------|-----|---------------|----------|----------|--------------------|
| | | | (令和7年度) | (令和12年度) | |
| 計画処理区域内人口 | | 25,114 人 | 24,410 人 | 21,981 人 | 19,668 人 |
| 水洗化・生活雑排水処理人口 | | 19,443 人 | 18,966 人 | 17,334 人 | 15,633 人 |
| 公共下水道 | | 2,494 人 | 2,477 人 | 2,559 人 | 2,563 人 |
| コミュニティ・プラント | | 3,403 人 | 3,332 人 | 3,000 人 | 2,685 人 |
| 集落排水施設 | | 5,766 人 | 5,695 人 | 5,419 人 | 4,849 人 |
| 合併処理浄化槽 | | 7,780 人 | 7,462 人 | 6,356 人 | 5,536 人 |
| 水洗化・生活雑排水未処理人口 (単独処理浄化槽人口) | | 203 人 | 195 人 | 166 人 | 145 人 |
| 非水洗化人口 | | 5,468 人 | 5,249 人 | 4,481 人 | 3,890 人 |
| し尿収集人口 | | 5,468 人 | 5,249 人 | 4,481 人 | 3,890 人 |
| 自家処理人口 | | 0 人 | 0 人 | 0 人 | 0 人 |
| 計画処理区域外人口 | | 0 人 | 0 人 | 0 人 | 0 人 |

3) 生活排水を処理する区域及び人口

生活排水を処理する区域は、市内全域とし、生活排水処理施設ごとの処理区域及び目標年度における人口（目標達成時）を、次のとおりとします。

表3-4-3 生活排水を処理する区域及び人口

| 施設 | | 処理区 | 町名 | 現在 (令和6年度) | 計画目標年度 (令和17年度) |
|-------------|-----------------|----------------|------|---------------|--------------------|
| 公共下水道 | 特定環境保全 公共下水道 | 大串処理区 | 西彼町 | 2,494 人 | 2,563 人 |
| | | 瀬戸処理区 | 大瀬戸町 | | |
| コミュニティ・プラント | | 内浦 | 大島町 | 3,403 人 | 2,685 人 |
| | | 楠地 | 大島町 | | |
| | | 馬込 | 大島町 | | |
| | | 真砂 | 大島町 | | |
| | | 間瀬 | 大島町 | | |
| | | 塔の尾・太田尾 | 大島町 | | |
| 集落排水施設 | 農業集落排水 | 平原 | 西彼町 | 5,766 人 | 4,849 人 |
| | | 皆割石 | 西彼町 | | |
| | | 小迎 | 西彼町 | | |
| | | 亀浦・風早 | 西彼町 | | |
| | | 川内・水浦 | 西海町 | | |
| | | 太田和 | 西海町 | | |
| | | 横瀬 | 西海町 | | |
| | | 柳 | 大瀬戸町 | | |
| | | 多以良 | 大瀬戸町 | | |
| | | 雪浦 | 大瀬戸町 | | |
| | 漁業集落排水 | 黒瀬 | 大島町 | | |
| | | 大島・塩田 | 大島町 | | |
| | | 江島 | 崎戸町 | | |
| | | 集合処理区を除く 全域 | — | | |

4) 施設整備計画の概要

計画期間における生活排水処理施設の整備計画の概要は、次のとおりです。

なお、大島町内のコミュニティ・プラントについては、一部の施設に老朽化が進行しており、その対策と処理の集約による維持管理の効率化を図るため、施設の統廃合を進めていきます。

表3-4-4 生活排水処理施設の整備計画の概要

| 施設 | 処理区 | 整備計画 | | |
|-------------|------------------------|--------------------------|---------|-------------------------|
| | | | 目標年次 | |
| 公共下水道 | 大串処理区 | 全体計画 | 目標年次 | 令和8年度 |
| | | | 処理区域面積 | 57.63 ha |
| | | | 計画処理人口 | 1,300人 |
| | 瀬戸処理区 | 全体計画 | 目標年次 | 令和8年度 |
| | | | 処理区域面積 | 78.72 ha |
| | | | 計画処理人口 | 2,200人 |
| コミュニティ・プラント | 間瀬 (徳万地区) | — | 目標年次 | 令和10年度 |
| | | | 計画面積 | 32 ha |
| | | | 計画処理人口 | 468人 |
| | 内浦 楠地 馬込 真砂 | 統廃合 新真砂 処理場 に集約 | 目標年次 | 令和11年度 |
| | | | 計画面積 | 51.6 ha |
| | | | 計画処理人口 | 2,670人 |
| | | | 計画処理量 | 1,010 m ³ /日 |
| | 合併処理浄化槽 (浄化槽設置整備事業) | 集合処理区を 除く全域 | 年間40基程度 | |

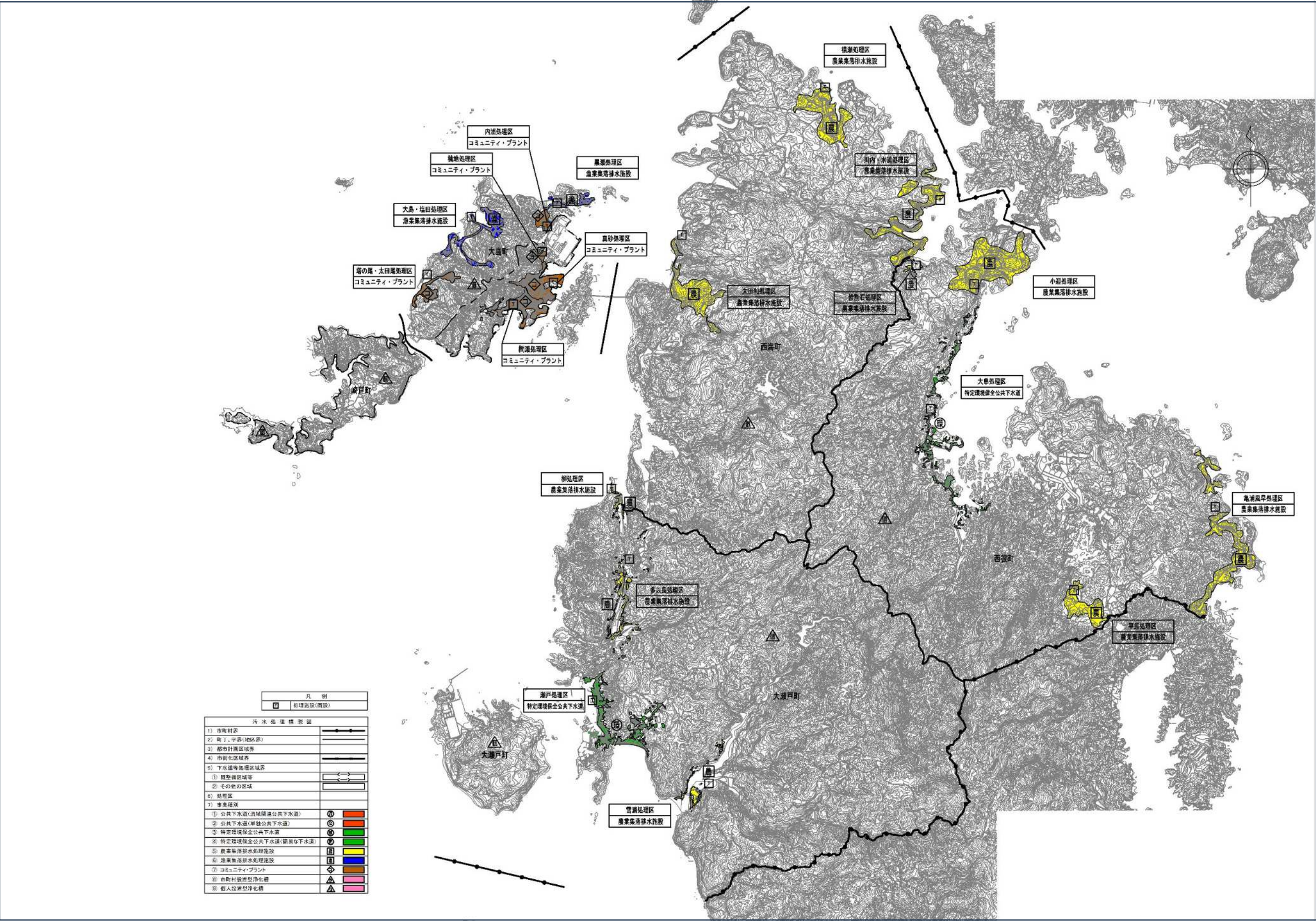


図 3-4-1 汚水処理区図(その1)

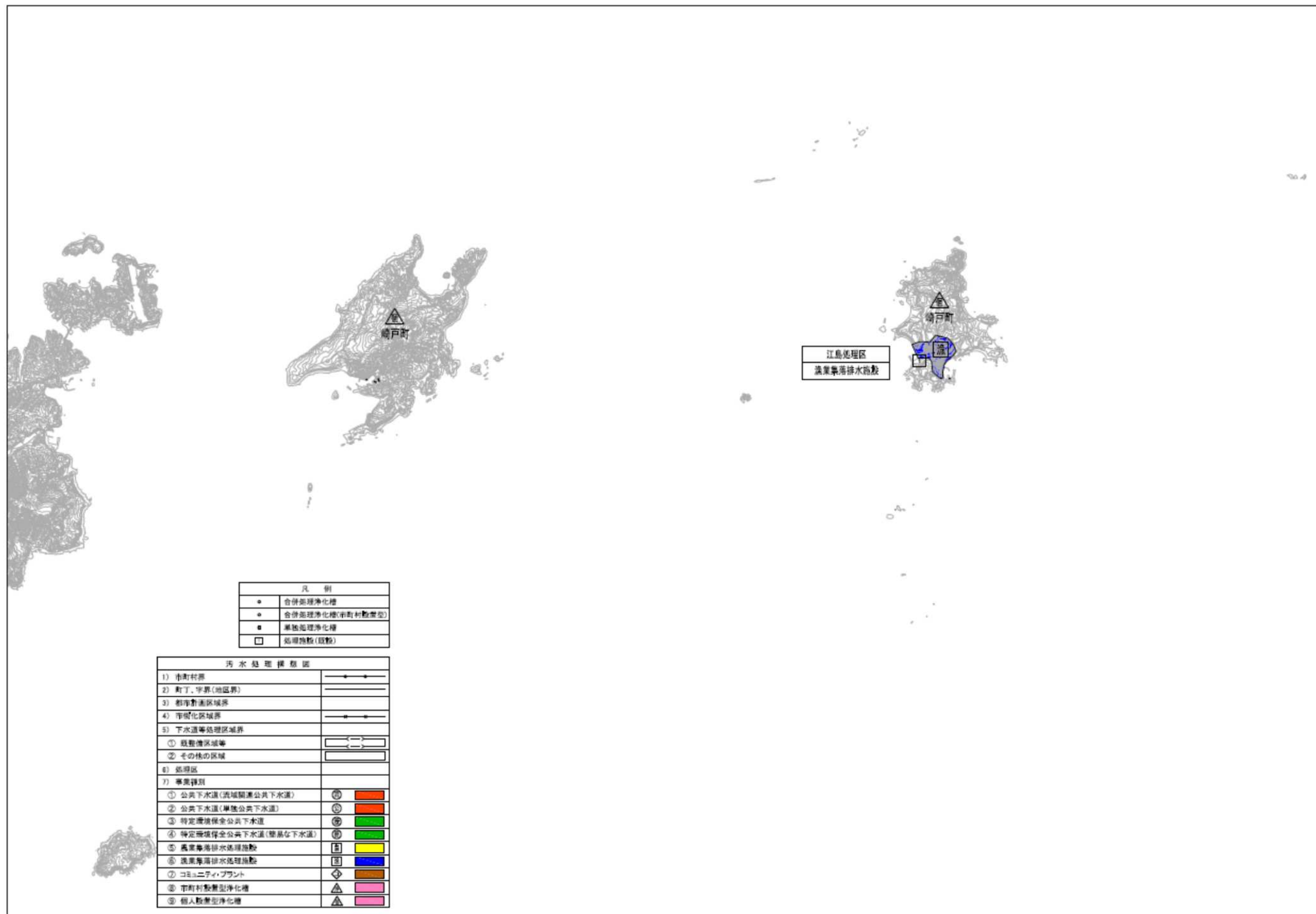


図 3-4-1 汚水処理区図 (その2)

第2節 し尿・浄化槽汚泥の処理計画

1. し尿・浄化槽汚泥処理の基本方針

生活排水処理の基本方針に示したように、今後の生活排水処理は、し尿（水洗トイレ排水）と生活雑排水を合わせて処理する合併型の処理システム（公共下水道や合併処理浄化槽など）が主流となりますが、その一方で、し尿処理施設は合併型の処理システムが普及するまでのくみ取りし尿や、浄化槽等から排出される汚泥の適正処理において、重要な役割を担うものと考えられます。

このような状況を踏まえ、西海市におけるし尿・浄化槽汚泥の適正処理に向けての基本方針を、次のように定めます。

し尿・浄化槽汚泥処理の基本方針

1. 処理対象は、し尿の他、浄化槽汚泥、集落排水汚泥及びコミプラ汚泥とします。
2. 処理に係る費用は、市内各地区からし尿処理施設まで距離による均衡を図ります。
3. し尿処理施設等から排出される汚泥については、資源化して活用します。

2. し尿・浄化槽汚泥の処理計画

し尿・浄化槽汚泥処理の基本方針に基づき、し尿・浄化槽汚泥の処理計画を、次のように定めます。

1) 計画処理区域

計画処理区域は、市内のし尿・浄化槽汚泥収集区域の全域とします。

2) し尿・浄化槽汚泥の処理主体

計画処理区域で収集されるし尿・浄化槽汚泥及び各生活排水処理施設から排出される汚泥の処理・処分については、西海市が主体となって実施していきます。

表 3-4-5 し尿・浄化槽汚泥の処理主体

| 区分 | 種類 | 実施主体 | 運営形態 |
|-------|-------|-----------|----------|
| 収集・運搬 | し尿 | 西海市（許可業者） | — |
| | 浄化槽汚泥 | | |
| 中間処理 | し尿 | 西海市 | 委託（運営委託） |
| | 浄化槽汚泥 | | |
| 最終処分 | | 西海市 | 直営 |

3) 収集・運搬計画

し尿及び汚泥の収集・運搬については、収集量の面からは現在、西海市が許可している市内収集業者で今後の収集についても十分に対応できると考えられることから、当分の間は現行の体制を継続することとします。なお、し尿処理施設への搬入にあたっては、処理の安定化のため、収集運搬業者とも連携を図りながら、搬入量の変動をできるだけ抑制するよう、計画搬入に努めます。

市内各地区からし尿処理施設までの距離による処理費用の均衡を図るため、中継施設へ集約し、中継施設からし尿処理施設までの運搬については、市が実施することとします。

また、し尿処理施設の脱水汚泥、集落排水汚泥及びコミプラ汚泥を西海市炭化センターへ運搬し中間処理を行います。

なお、西海市炭化センターの運営管理業務委託期間が、令和 11 年度をもって終了するため、令和 12 年度以降のごみの中間処理計画に合わせて、し尿処理施設の脱水汚泥、集落排水汚泥及びコミプラ汚泥の収集・運搬計画を検討する必要があります。

4) 中間処理計画

(1) 処理対象物

処理対象物は、計画処理区域内で収集されるし尿・浄化槽汚泥及び各生活排水処理施設から排出される汚泥とします。

(2) 処理対象量

し尿・浄化槽汚泥及び各生活排水処理施設から排出される汚泥の今後の処理量は、将来予測結果より、次のように見込まれます。

表 3-4-6 処理対象量（見込み）

| 区分 | | 年度 | 実績値 | | 予測値 | |
|---------------------------|-------------------|-------------|---------|---------|---------|--------|
| | | | R6 | R7 | R12 | R17 |
| 西海市 汚泥再生 処理 センター | し尿量 | 年間 (kL/年) | 8,512 | 8,047 | 6,869 | 5,980 |
| | | 1日平均 (kL/日) | (23.3) | (22) | (18.8) | (16.3) |
| | 浄化槽汚泥量 | 年間 (kL/年) | 13,765 | 12,688 | 10,808 | 9,440 |
| | | 1日平均 (kL/日) | (37.7) | (34.8) | (29.6) | (25.8) |
| | 集落排水汚泥量 | 年間 (kL/年) | 5,020 | 4,823 | 4,589 | 4,117 |
| | | 1日平均 (kL/日) | (13.8) | (13.2) | (12.6) | (11.2) |
| 合計 | 年間 (kL/年) | 27,297 | 25,558 | 22,266 | 19,537 | |
| | 1日平均 (kL/日) | (74.8) | (70) | (61) | (53.4) | |
| 西海市 炭化 センター | コミプラ汚泥量 | 年間 (t/年) | 133 | 136 | 123 | 110 |
| | | 1日平均 (kg/日) | (364) | (373) | (337) | (301) |
| | 汚泥再生処理 センター汚泥量 | 年間 (t/年) | 373 | 363 | 316 | 277 |
| | | 1日平均 (kg/日) | (1022) | (995) | (866) | (757) |
| | 下水汚泥量 | 年間 (t/年) | 161 | 167 | 173 | 174 |
| | | 1日平均 (kg/日) | 441 | 458 | 474 | 475 |
| 合計 | 年間 (t/年) | 667 | 666 | 612 | 561 | |
| | 1日平均 (kg/日) | (1,827) | (1,825) | (1,677) | (1,533) | |

(備考) コミプラ汚泥、汚泥再生処理センター汚泥、下水汚泥には各施設で発生する「し渣」を含む

(3) 中間処理計画

①適正処理

し尿・浄化槽汚泥及び各生活排水処理施設から排出される汚泥については、引き続き、市が管理する処理施設（西海市汚泥再生処理センター、西海市炭化センター）で適正処理を行います。

②施設の適正管理と機能維持

し尿・汚泥等を適正に処理するため、西海市汚泥再生処理センターの適正な維持管理と処理機能の維持に努めます。西海市炭化センターについても、適正な維持管理と処理機能の維持に努めますが、西海市炭化センターの運営管理業務委託期間が、令和 11 年度をもって終了するため、令和 12 年度以降のごみの中間処理計画に合わせて、し尿・浄化槽汚泥及び集落排水汚泥の処理過程で発生する汚泥（以下「し尿処理汚泥」という。）、コミプラ汚泥、下水汚泥の処理方法について、検討する必要があります。

5) 再資源化計画

(1) 資源化対象物

資源化の対象物としては、し尿処理汚泥、コミプラ汚泥、下水汚泥とします。

(2) 資源化計画

資源化の方法は、現在、し尿処理汚泥については、西海市汚泥再生処理センター内で脱水し、炭化物原料として「西海市炭化センター」に搬出し有効利用を図っていることから、当面は、引き続き現行体制を継続していくこととします。また、し尿・汚泥の処理過程から発生する脱水し渣についても、同様とします。

コミプラ汚泥については、当面は、現行どおり施設内で脱水後、「西海市炭化センター」に搬出し有効利用を図ります。また、下水汚泥についても当面は、現行どおり（西海市炭化センターに搬出し有効利用）とします。

なお、西海市炭化センターの運営管理業務委託期間が、令和 11 年度をもって終了するため、令和 12 年度以降のごみの中間処理計画に合わせて、し尿処理汚泥、コミプラ汚泥、下水汚泥の再資源化方法について、検討する必要があります。

6) 最終処分計画

し尿・浄化槽汚泥及び集落排水汚泥の処理過程で発生する沈砂・細砂については、周辺環境への影響に配慮しつつ西海市大瀬戸最終処分場で適正に埋立処分します。

7) その他の計画（災害時のし尿処理）

地震や水害などの災害時のし尿処理は、西海市災害廃棄物処理計画（令和 2 年 3 月）に基づき、西海市の既存施設で処理することを基本としますが、施設の被災などで処理が困難となった場合に備えて、県や周辺市町、事業者団体との連携体制を構築していくこととします。

資料編

第1編 ごみ編

資料1-1 人口・ごみ排出量等の実績

過去5年間における西海市の人口及び市内で発生するごみの排出量等の実績は以下のとおりです。

1. 人口・ごみ排出量

表 1-1-1 人口 ごみ排出量の実績、その1

| 区分 | | | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | | |
|-----------|-----------|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|-----|
| 人口 | 行政人口 | 人 | 27,123 | 26,518 | 25,882 | 25,547 | 25,114 | | |
| | 計画収集人口 | 人 | 27,123 | 26,518 | 25,882 | 25,547 | 25,114 | | |
| | 自家処理人口 | 人 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | |
| 生活系 | 収集 | 可燃ごみ | t/年 | 4,345 | 4,247 | 4,157 | 3,986 | 3,804 | |
| | | 不燃ごみ | t/年 | 152 | 81 | 83 | 77 | 89 | |
| | | 粗大ごみ | t/年 | 418 | 344 | 304 | 314 | 329 | |
| | | | 可燃性 | t/年 | 415 | 343 | 304 | 314 | 329 |
| | | | 不燃性 | t/年 | 3 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| | | 資源物 | t/年 | 985 | 926 | 953 | 880 | 840 | |
| | | その他のごみ | t/年 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | | 生活系 収集 合計 | t/年 | 5,903 | 5,598 | 5,497 | 5,257 | 5,062 | |
| | 直接搬入 | 可燃ごみ | t/年 | 28 | 26 | 28 | 20 | 19 | |
| | | 不燃ごみ | t/年 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | | 粗大ごみ | t/年 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | | 資源物 | t/年 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | | 生活系 直接搬入 合計 | t/年 | 28 | 26 | 28 | 20 | 19 | |
| | 生活系 合計 | | t/年 | 5,931 | 5,624 | 5,525 | 5,277 | 5,081 | |
| 事業系 | 収集 | 可燃ごみ | t/年 | 1,401 | 1,349 | 1,334 | 1,208 | 1,341 | |
| | | 不燃ごみ | t/年 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | | 粗大ごみ | t/年 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | | 資源物 | t/年 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | | 事業系 収集 合計 | t/年 | 1,401 | 1,349 | 1,334 | 1,208 | 1,341 | |
| | 直接搬入 | 可燃ごみ | t/年 | 366 | 305 | 313 | 388 | 280 | |
| | | 不燃ごみ | t/年 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | | 粗大ごみ | t/年 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | | 資源物 | t/年 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | | 事業系 直接搬入 合計 | t/年 | 366 | 305 | 313 | 388 | 280 | |
| 事業系 合計 | | t/年 | 1,767 | 1,654 | 1,647 | 1,596 | 1,621 | | |
| 集団回収 | 品目別 | 紙類 | t/年 | 25 | 23 | 23 | 22 | 17 | |
| | 金属類 | t/年 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | | |
| | 集団回収 合計 | t/年 | 26 | 24 | 24 | 23 | 18 | | |
| 生活排水処理汚泥等 | | t/年 | 756 | 758 | 745 | 649 | 666 | | |
| 総排出量 | 可燃ごみ | t/年 | 6,140 | 5,927 | 5,832 | 5,602 | 5,444 | | |
| | 不燃ごみ | t/年 | 152 | 81 | 83 | 77 | 89 | | |
| | 粗大ごみ | t/年 | 418 | 344 | 304 | 314 | 329 | | |
| | 資源物 | t/年 | 985 | 926 | 953 | 880 | 840 | | |
| | その他のごみ | t/年 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | | |
| | 集団回収 | t/年 | 26 | 24 | 24 | 23 | 18 | | |
| | 生活排水処理汚泥等 | t/年 | 756 | 758 | 745 | 649 | 666 | | |
| | 総排出量 (合計) | t/年 | 8,480 | 8,060 | 7,941 | 7,545 | 7,386 | | |

(備考) 人口は外国人人口を含む

2. 資源化量

表 1-1-2 資源化量の内訳

| 区分 | | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | |
|----------------|------------------------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| ① 直接資源化量 | 紙類（紙パック、紙製容器包装を除く） | t/年 | 340 | 338 | 344 | 311 | 298 |
| | 紙パック | t/年 | 2 | 3 | 3 | 2 | 2 |
| | 紙製容器包装 | t/年 | 20 | 21 | 20 | 19 | 19 |
| | 布類 | t/年 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | その他 | t/年 | 17 | 14 | 12 | 12 | 9 |
| | 小計（①） | t/年 | 379 | 376 | 379 | 344 | 328 |
| ② 中間処理後再生利用量 | 紙類（紙パック、紙製容器包装を除く） | t/年 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 紙パック | t/年 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 紙製容器包装 | t/年 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 布類 | t/年 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 金属類 | t/年 | 273 | 227 | 219 | 214 | 210 |
| | ガラス類 | t/年 | 150 | 139 | 150 | 143 | 138 |
| | ペットボトル | t/年 | 62 | 62 | 78 | 68 | 61 |
| | 白色トレイ | t/年 | 4 | 3 | 3 | 3 | 3 |
| | 容器包装プラスチック（白色トレイを除く） | t/年 | 96 | 105 | 107 | 96 | 86 |
| | プラスチック類（白色トレイ、容器包装プラスチックを除く） | t/年 | 22 | 15 | 17 | 12 | 13 |
| | 肥料（生ごみ） | t/年 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 飼料 | t/年 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 固形燃料（RDF、RPF） | t/年 | 418 | 344 | 304 | 314 | 329 |
| 燃料（可燃ごみ炭化処理物） | t/年 | 1,328 | 1,325 | 1,235 | 1,168 | 1,095 | |
| 小計（②） | t/年 | 2,353 | 2,220 | 2,113 | 2,018 | 1,935 | |
| ③ 集団回収 | 紙類（紙パック、紙製容器包装を除く） | t/年 | 25 | 23 | 23 | 22 | 17 |
| | 金属類 | t/年 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| | 小計（③） | t/年 | 26 | 24 | 24 | 23 | 18 |
| 資源化量（①+②+③） | | t/年 | 2,758 | 2,620 | 2,516 | 2,385 | 2,281 |
| リサイクル率（炭化物を除く） | | % | 16.9 | 16.1 | 16.1 | 16.1 | 16.1 |
| リサイクル率（炭化物を含む） | | % | 32.5 | 32.5 | 31.7 | 31.6 | 30.9 |

3. 最終処分量

表 1-1-3 最終処分量

| 区分 | | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | |
|--------|-------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 直接埋立処分 | t/年 | 152 | 81 | 83 | 77 | 89 | |
| 処理残さ量 | t/年 | 222 | 204 | 227 | 208 | 200 | |
| | 飛灰 | t/年 | 148 | 141 | 132 | 129 | 131 |
| | 炭化不適物 | t/年 | 74 | 63 | 95 | 79 | 69 |
| 合計 | t/年 | 374 | 285 | 310 | 285 | 289 | |
| 最終処分率 | % | 4.4 | 3.5 | 3.9 | 3.8 | 3.9 | |

4. ごみ処理・処分フロー

令和 6 年度の実績に基づくごみ処理・処分フローは、次の図のとおりです。

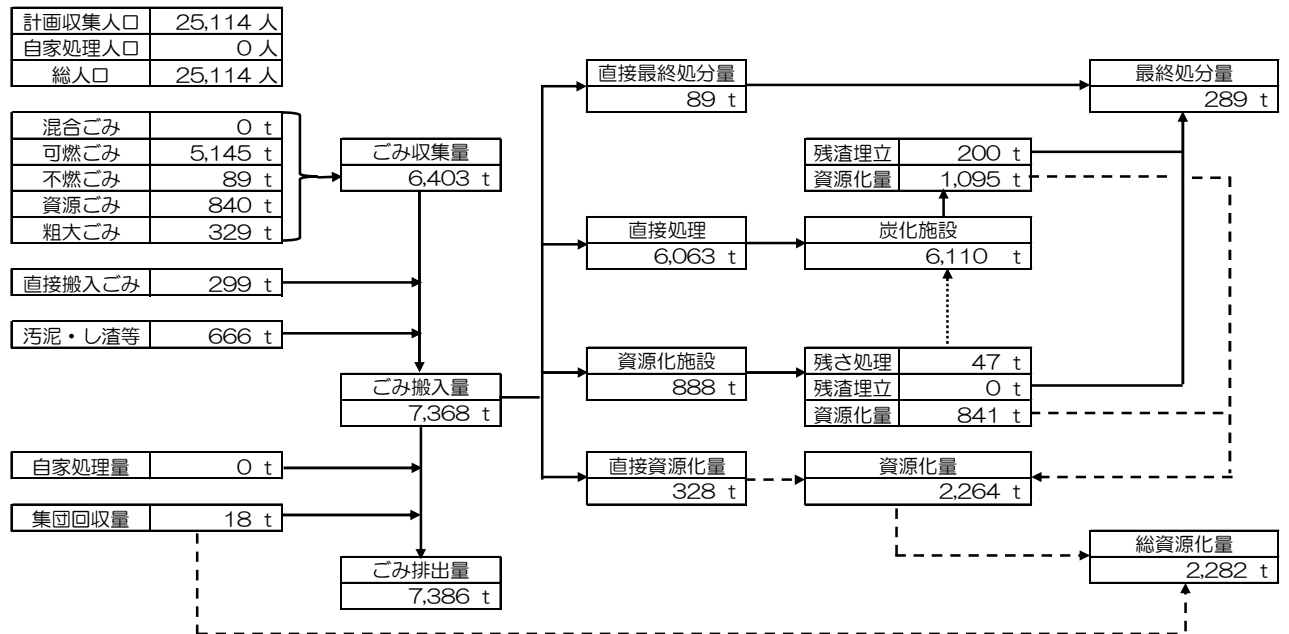


図1-1-1 ごみ処理・処分フロー（令和 6 年度）

資料1-2 人口の将来予測

1. 総人口の将来予測

総人口の将来予測は、国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」という。）による将来人口推計を基に予測します。社人研では、全国の市町村別に将来人口推計を行い一般に公表しています（「日本の地域別将来推計人口 令和5（2023）年推計」）。ただし、本推計は5年ごとの推計であるため、推計値のない年度については直線補間により推計を行いました。

また、本推計は2020（令和2）年の国勢調査を基に行われたものであり、近年の実績値と差が生じているため、直近年度（2024（令和6）年度）の各値の比率を用いて推計値の補正を行いました。

表 1-2-1 総人口の将来予測

| 年度 | 総人口の実績値 (人) | 国立社会保障・人口問題 研究所（社人研） | | 社人研推計 (補正後) (人) |
|-----------|----------------|-------------------------|-------------------|-----------------------|
| | | R5年（2023）年 推計（人） | 間の5年間は 直線補間（人） | |
| 2020（R2） | 27,123 | 26,275 | 26,275 | |
| 2021（R3） | 26,518 | | 25,670 | |
| 2022（R4） | 25,882 | | 25,065 | |
| 2023（R5） | 25,547 | | 24,460 | |
| 2024（R6） | 25,114 | | 23,855 | |
| 2025（R7） | | 23,248 | 23,248 | 24,410 |
| 2026（R8） | | | 22,785 | 23,924 |
| 2027（R9） | | | 22,322 | 23,439 |
| 2028（R10） | | | 21,860 | 22,953 |
| 2029（R11） | | | 21,397 | 22,467 |
| 2030（R12） | | 20,934 | 20,934 | 21,981 |
| 2031（R13） | | | 20,493 | 21,518 |
| 2032（R14） | | | 20,053 | 21,055 |
| 2033（R15） | | | 19,612 | 20,593 |
| 2034（R16） | | | 19,172 | 20,130 |
| 2035（R17） | | 18,731 | 18,731 | 19,668 |
| 2036（R18） | | | 18,313 | 19,229 |
| 2037（R19） | | | 17,895 | 18,790 |
| 2038（R20） | | | 17,477 | 18,351 |
| 2039（R21） | | | 17,059 | 17,912 |
| 2040（R22） | | 16,641 | 16,641 | 17,473 |

備考）社人研推計（補正後）：直線補間値（将来各年度）を、2024（R6）の補間値と実績値の比率（25,114人/23,855人）を用いて補正

資料1-3 ごみ排出量の将来予測

1. 予測手法

ごみ排出量の予測は、過去のごみ排出量の実績を基に、1人1日当たりごみ排出量（g/人・日）、または1日当たりごみ排出量（t/日）を予測し、1人1日当たりごみ排出量の予測結果に対しては地域の将来人口（予測結果）を乗じて行います。

予測の区分は、生活系ごみ、事業系ごみ、集団回収、生活排水処理汚泥に大別します。

推計については、過去の実績に一定の増減が認められる場合は最も近似する回帰式を最小二乗法で求めて行います。

回帰式を求める方法として、「ごみ処理施設構造指針解説」（厚生省水道環境部監修）に示されている式を基本として検討します。ただし、実績値の変動が大きく一定の傾向がない場合（相関係数が低い場合）や現実的でない場合には、過去の平均値又は現況固定により推計値を設定します。

なお、生活排水処理汚泥は、後述する「し尿、浄化槽汚泥の将来予測」における予測値を採用します。

| | | |
|---|----------------|-------------------------------|
| ① | 一次傾向線 | : $y = ax + b$ |
| ② | 二次傾向線 | : $y = ax^2 + bx + c$ |
| ② | 一次指数曲線 | : $y = a \times b^x$ |
| ③ | べき曲線 | : $y = y_0 + a \times x^b$ |
| ④ | 対数曲線 | : $y = a \times \ln(x) + b$ |
| ⑤ | ロジスティック曲線 | : $y = K / (1 + e^{-(a-bx)})$ |
| | x | : 年度（基本年からの経過年数） |
| | y | : x年度（基本年からx年後）の推計値 |
| | y ₀ | : 実績初年度の値 |
| | K | : 過去の実績値から求められる飽和値 |
| | a、b、c | : 最小二乗法により求められる定数 |

傾向線の種類と概要

| 種類 | 概要 |
|----------------|---|
| 一次傾向線 | 将来の発生量は直線的に増加または減少します。 |
| 二次傾向線 | 上または下に凸の曲線で頂上(底)を超えると増加(減少)傾向が続く。長期間の予測式として採用する時は注意を要します。 |
| 一次指数曲線 べき曲線 | 式の係数により曲線の動きは異なるが、将来の発生量は急増(急減)するか、増加(減少)の傾向が徐々に穏やかになります。 |
| 対数曲線 | 将来の発生量の増加(減少)の動きが徐々に緩やかになります。 |
| ロジスティック曲線 | 最初は緩やかに増加(減少)し、その後急激に増加(減少)します。一定値に(上限または下限に)達すると動きはほぼ横ばいとなります。 |

【予測に用いる原単位】

| 予測の区分 | ごみ種 | 単位 |
|-------|------------|-------|
| 総排出量 | 生活系ごみ、集団回収 | g/人・日 |
| | 事業系ごみ | t/日 |

表1-3-1 ごみ排出量の将来予測に用いる実績

| 年度 | 人口 (人) | 生活系ごみ (g/人・日) | 事業系ごみ (t/日) | 集団回収 (g/人・日) |
|----|-----------|------------------|----------------|-----------------|
| R2 | 27,123 | 599.1 | 4.84 | 2.6 |
| R3 | 26,518 | 581.0 | 4.53 | 2.5 |
| R4 | 25,882 | 584.8 | 4.51 | 2.5 |
| R5 | 25,547 | 564.4 | 4.36 | 2.5 |
| R6 | 25,114 | 554.3 | 4.44 | 2.0 |

2. 予測結果

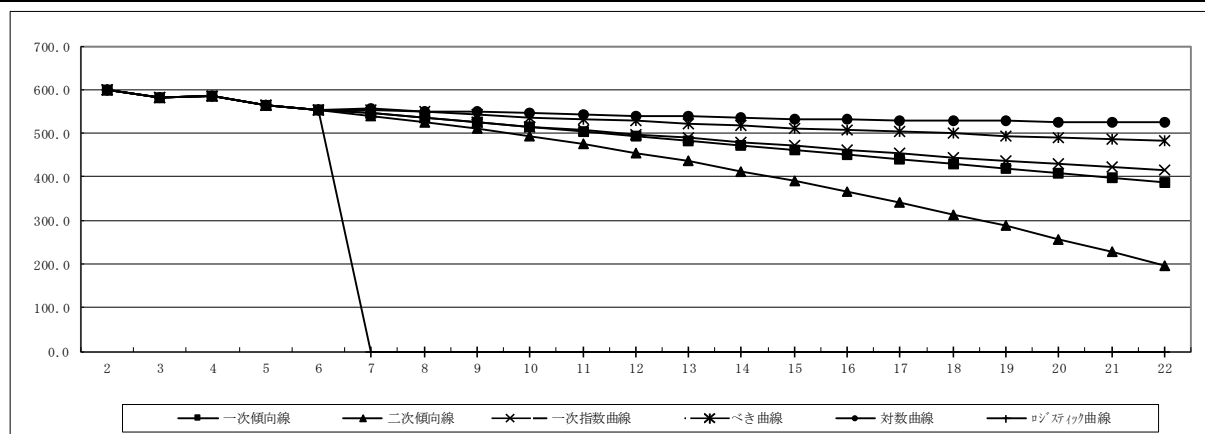
1) 生活系ごみ

生活系ごみ（1人1日当たりの排出量）の予測結果は以下のとおりです。

表 1-3-2 生活系ごみ排出量の将来予測

単位：g/人・日

| 年度 | 実績 | | | | | |
|---------|----------|---------------|----------|--------------|--------------|-----------------------|
| 2 | 599.1 | | | | | |
| 3 | 581.0 | | | | | |
| 4 | 584.8 | | | | | |
| 5 | 564.4 | | | | | |
| 6 | 554.3 | | | | | |
| 回帰式 | 一次傾向線 | 二次傾向線 | 一次指数曲線 | べき曲線 | 対数曲線 | ロジスティック曲線 |
| 7 | 544.86 | 540.76 | 545.47 | 554.57 | 555.38 | - |
| 8 | 534.24 | 526.04 | 535.51 | 548.52 | 551.44 | - |
| 9 | 523.62 | 510.15 | 525.72 | 542.76 | 548.02 | - |
| 10 | 513.00 | 493.09 | 516.11 | 537.25 | 545.01 | - |
| 11 | 502.38 | 474.85 | 506.68 | 531.94 | 542.32 | - |
| 12 | 491.76 | 455.45 | 497.42 | 526.80 | 539.88 | - |
| 13 | 481.14 | 434.87 | 488.33 | 521.82 | 537.65 | - |
| 14 | 470.52 | 413.12 | 479.41 | 516.97 | 535.61 | - |
| 15 | 459.90 | 390.20 | 470.65 | 512.24 | 533.71 | - |
| 16 | 449.28 | 366.11 | 462.05 | 507.62 | 531.95 | - |
| 17 | 438.66 | 340.85 | 453.60 | 503.10 | 530.30 | - |
| 18 | 428.04 | 314.41 | 445.31 | 498.67 | 528.74 | - |
| 19 | 417.42 | 286.81 | 437.18 | 494.32 | 527.28 | - |
| 20 | 406.80 | 258.03 | 429.19 | 490.05 | 525.90 | - |
| 21 | 396.18 | 228.08 | 421.34 | 485.85 | 524.59 | - |
| 22 | 385.56 | 196.96 | 413.64 | 481.71 | 523.34 | - |
| 採用値 | ○ | | | | | |
| 相関係数 | 0.95412 | 0.95615 | 0.95340 | 0.88742 | 0.92359 | - |
| 推計式 | $Y=aX+b$ | $Y=aX^2+bX+c$ | $Y=ab^x$ | $Y=Y_0+aX^b$ | $Y=a\ln X+b$ | $Y=K/(1+e^{-(a-bX)})$ |
| a= | -10.62 | -0.59 | 620.64 | -14.45 | -25.58 | - |
| b= | 619.20 | -5.93 | 0.98 | 0.70 | 601.21 | - |
| c= | - | 611.00 | - | - | - | - |
| Y_0 = | - | - | - | 599.10 | - | - |
| K= | - | - | - | - | - | - |
| X= | t | t | t | 0, 1, 2, ... | 1, 2, 3, ... | t |



直近 5 年間は微減傾向を示しています。極端な減少傾向を示す一次傾向線、二次傾向線を除く式の内、中位を示すべき曲線を採用します。

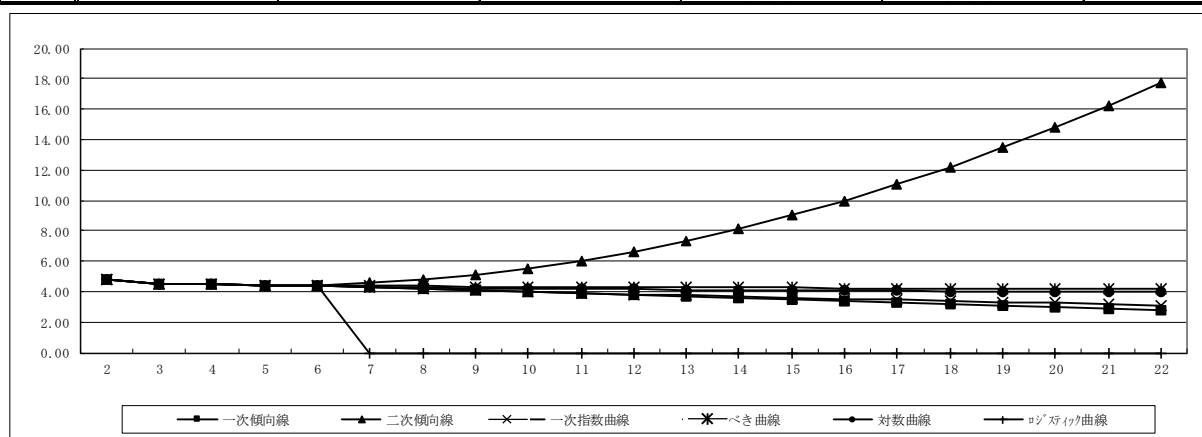
2) 事業系ごみ

事業系ごみ（1日当たりの排出量）の予測結果は以下のとおりです。

表 1-3-3 事業系ごみ排出量の将来予測

単位：t/日

| 年度 | 実績 | | | | | |
|---------|----------|---------------|----------|--------------|--------------|-----------------------|
| 2 | 4.84 | | | | | |
| 3 | 4.53 | | | | | |
| 4 | 4.51 | | | | | |
| 5 | 4.36 | | | | | |
| 6 | 4.44 | | | | | |
| 回帰式 | 一次傾向線 | 二次傾向線 | 一次指数曲線 | べき曲線 | 対数曲線 | ロジスティック曲線 |
| 7 | 4.24 | 4.57 | 4.26 | 4.38 | 4.31 | - |
| 8 | 4.15 | 4.80 | 4.17 | 4.36 | 4.27 | - |
| 9 | 4.05 | 5.12 | 4.08 | 4.34 | 4.24 | - |
| 10 | 3.95 | 5.53 | 3.99 | 4.32 | 4.21 | - |
| 11 | 3.86 | 6.04 | 3.91 | 4.30 | 4.18 | - |
| 12 | 3.76 | 6.64 | 3.83 | 4.29 | 4.15 | - |
| 13 | 3.66 | 7.33 | 3.75 | 4.28 | 4.13 | - |
| 14 | 3.57 | 8.12 | 3.67 | 4.26 | 4.11 | - |
| 15 | 3.47 | 8.99 | 3.60 | 4.25 | 4.09 | - |
| 16 | 3.37 | 9.96 | 3.52 | 4.24 | 4.07 | - |
| 17 | 3.27 | 11.03 | 3.45 | 4.23 | 4.05 | - |
| 18 | 3.18 | 12.19 | 3.37 | 4.22 | 4.04 | - |
| 19 | 3.08 | 13.43 | 3.30 | 4.21 | 4.02 | - |
| 20 | 2.98 | 14.78 | 3.24 | 4.20 | 4.01 | - |
| 21 | 2.89 | 16.21 | 3.17 | 4.19 | 3.99 | - |
| 22 | 2.79 | 17.74 | 3.10 | 4.18 | 3.98 | - |
| 採用値 | | | | | ○ | |
| 相関係数 | 0.84009 | 0.96546 | 0.84596 | 0.73638 | 0.92917 | - |
| 推計式 | $Y=aX+b$ | $Y=aX^2+bX+c$ | $Y=ab^x$ | $Y=Y_0+aX^b$ | $Y=a\ln X+b$ | $Y=K/(1+e^{-(a-bX)})$ |
| a= | -0.10 | 0.05 | 4.93 | -0.31 | -0.27 | - |
| b= | 4.92 | -0.47 | 0.98 | 0.26 | 4.79 | - |
| c= | - | 5.57 | - | - | - | - |
| Y_0 = | - | - | - | 4.84 | - | - |
| K= | - | - | - | - | - | - |
| X= | t | t | t | 0, 1, 2, ... | 1, 2, 3, ... | t |



直近 5 年間は微減傾向を示しています。極端な減少傾向を示す一次傾向線と増加傾向を示す二次傾向線を除く式の内、中位を示す対数曲線を採用します。

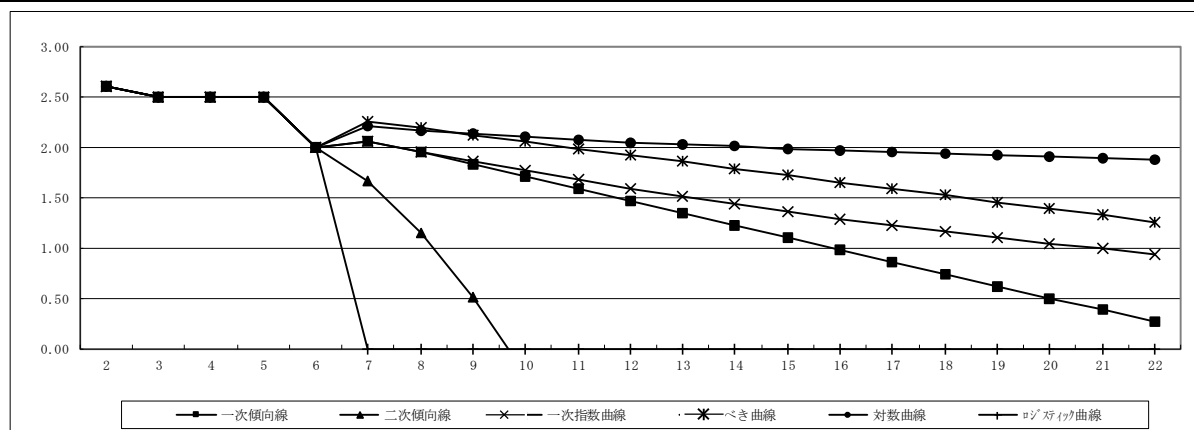
3) 集団回収

集団回収（1人1日当たりの排出量）の予測結果は以下のとおりです。

表 1-3-4 集団回収排出量の将来予測

単位：g/人・日

| 年度 | 実績 | | | | | |
|---------|----------|---------------|----------|--------------|---------------|-----------------------|
| 2 | 2.60 | | | | | |
| 3 | 2.50 | | | | | |
| 4 | 2.50 | | | | | |
| 5 | 2.50 | | | | | |
| 6 | 2.00 | | | | | |
| 回帰式 | 一次傾向線 | 二次傾向線 | 一次指数曲線 | べき曲線 | 対数曲線 | ロジスティック曲線 |
| 7 | 2.06 | 1.66 | 2.06 | 2.25 | 2.20 | - |
| 8 | 1.94 | 1.14 | 1.95 | 2.18 | 2.16 | - |
| 9 | 1.82 | 0.51 | 1.85 | 2.12 | 2.13 | - |
| 10 | 1.70 | -0.24 | 1.76 | 2.05 | 2.10 | - |
| 11 | 1.58 | -1.11 | 1.67 | 1.98 | 2.07 | - |
| 12 | 1.46 | -2.08 | 1.58 | 1.92 | 2.04 | - |
| 13 | 1.34 | -3.17 | 1.50 | 1.85 | 2.02 | - |
| 14 | 1.22 | -4.38 | 1.43 | 1.78 | 2.00 | - |
| 15 | 1.10 | -5.70 | 1.35 | 1.72 | 1.98 | - |
| 16 | 0.98 | -7.13 | 1.28 | 1.65 | 1.96 | - |
| 17 | 0.86 | -8.68 | 1.22 | 1.58 | 1.95 | - |
| 18 | 0.74 | -10.35 | 1.16 | 1.52 | 1.93 | - |
| 19 | 0.62 | -12.12 | 1.10 | 1.45 | 1.92 | - |
| 20 | 0.50 | -14.01 | 1.04 | 1.38 | 1.90 | - |
| 21 | 0.38 | -16.02 | 0.99 | 1.32 | 1.89 | - |
| 22 | 0.26 | -18.14 | 0.94 | 1.25 | 1.88 | - |
| 採用値 | | | | | ○ | |
| 相関係数 | 0.79472 | 0.91218 | 0.78067 | 0.77224 | 0.69487 | - |
| 推計式 | $Y=aX+b$ | $Y=aX^2+bX+c$ | $Y=ab^x$ | $Y=Y_0+aX^b$ | $Y=a \ln X+b$ | $Y=K/(1+e^{-(a-bX)})$ |
| a= | -0.12 | -0.06 | 2.97 | -0.07 | -0.26 | - |
| b= | 2.90 | 0.34 | 0.95 | 0.98 | 2.67 | - |
| c= | - | 2.10 | - | - | - | - |
| Y_0 = | - | - | - | 2.60 | - | - |
| K= | - | - | - | - | - | - |
| X= | t | t | t | 0, 1, 2, ... | 1, 2, 3, ... | t |



直近 5 年間は微減傾向を示しています。令和 6 年度は0.5減少しましたが、令和 3 年度から令和 5 年度の間は変動がありません。よって、減少値が一番少ない対数曲線を採用します。

3) ごみ排出量

ごみ排出量の予測結果は以下のとおりです。

表 1-3-5 ごみ排出量の将来予測

| 項目 | 実績 | | | | | |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|
| | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | |
| 行政区域内人口 | 27,123 | 26,518 | 25,882 | 25,547 | 25,114 | |
| 計画収集人口 | 27,123 | 26,518 | 25,882 | 25,547 | 25,114 | |
| 生活系ごみ | t/年 | 5,931 | 5,624 | 5,525 | 5,277 | 5,081 |
| | t/日 | 16.25 | 15.41 | 15.14 | 14.42 | 13.92 |
| | g/人・日 | 599.1 | 581 | 584.8 | 564.4 | 554.3 |
| 事業系ごみ | t/年 | 1,767 | 1,654 | 1,647 | 1,596 | 1,621 |
| | t/日 | 4.84 | 4.53 | 4.51 | 4.36 | 4.44 |
| | g/人・日 | 178.5 | 170.9 | 174.3 | 170.7 | 176.8 |
| 集団回収 | t/年 | 26 | 24 | 24 | 23 | 18 |
| | t/日 | 0.07 | 0.07 | 0.07 | 0.06 | 0.05 |
| | g/人・日 | 2.6 | 2.5 | 2.5 | 2.5 | 2.0 |
| 汚泥・し渣等 | t/年 | 756 | 758 | 745 | 649 | 666 |
| | t/日 | 2.07 | 2.08 | 2.04 | 1.77 | 1.82 |
| | g/人・日 | 76.4 | 78.3 | 78.9 | 69.4 | 72.7 |
| ごみ排出量 | t/年 | 8,480 | 8,060 | 7,941 | 7,545 | 7,386 |
| | t/日 | 23.23 | 22.08 | 21.76 | 20.61 | 20.24 |
| | g/人・日 | 856.6 | 832.7 | 840.6 | 806.9 | 805.8 |

| 項目 | 予測値 | | | | | | | | | | | |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|
| | R7 | R8 | R9 | R10 | R11 | R12 | R13 | R14 | R15 | R16 | R17 | |
| 行政区域内人口 | 24,410 | 23,924 | 23,439 | 22,953 | 22,467 | 21,981 | 21,518 | 21,055 | 20,593 | 20,130 | 19,668 | |
| 計画収集人口 | 24,410 | 23,924 | 23,439 | 22,953 | 22,467 | 21,981 | 21,518 | 21,055 | 20,593 | 20,130 | 19,668 | |
| 生活系ごみ | t/年 | 4,941 | 4,790 | 4,657 | 4,501 | 4,362 | 4,227 | 4,109 | 3,973 | 3,850 | 3,730 | 3,622 |
| | t/日 | 13.54 | 13.12 | 12.72 | 12.33 | 11.95 | 11.58 | 11.23 | 10.89 | 10.55 | 10.22 | 9.89 |
| | g/人・日 | 554.6 | 548.5 | 542.8 | 537.2 | 531.9 | 526.8 | 521.8 | 517 | 512.2 | 507.6 | 503.1 |
| 事業系ごみ | t/年 | 1,573 | 1,559 | 1,552 | 1,537 | 1,526 | 1,515 | 1,512 | 1,500 | 1,493 | 1,486 | 1,482 |
| | t/日 | 4.31 | 4.27 | 4.24 | 4.21 | 4.18 | 4.15 | 4.13 | 4.11 | 4.09 | 4.07 | 4.05 |
| | g/人・日 | 176.6 | 178.5 | 180.9 | 183.5 | 186.1 | 188.8 | 192 | 195.2 | 198.6 | 202.2 | 205.9 |
| 集団回収 | t/年 | 20 | 19 | 18 | 18 | 17 | 16 | 16 | 15 | 15 | 15 | 14 |
| | t/日 | 0.05 | 0.05 | 0.05 | 0.05 | 0.05 | 0.04 | 0.04 | 0.04 | 0.04 | 0.04 | 0.04 |
| | g/人・日 | 2.2 | 2.2 | 2.1 | 2.1 | 2.1 | 2.0 | 2.0 | 2.0 | 2.0 | 2.0 | 1.9 |
| 汚泥・し渣等 | t/年 | 666 | 655 | 647 | 634 | 622 | 612 | 602 | 590 | 581 | 570 | 561 |
| | t/日 | 1.82 | 1.79 | 1.77 | 1.74 | 1.7 | 1.68 | 1.64 | 1.62 | 1.59 | 1.56 | 1.53 |
| | g/人・日 | 74.8 | 75 | 75.4 | 75.7 | 75.8 | 76.3 | 76.4 | 76.8 | 77.3 | 77.6 | 77.9 |
| ごみ排出量 | t/年 | 7,200 | 7,023 | 6,874 | 6,690 | 6,527 | 6,370 | 6,239 | 6,078 | 5,939 | 5,801 | 5,679 |
| | t/日 | 19.73 | 19.24 | 18.78 | 18.33 | 17.88 | 17.45 | 17.05 | 16.65 | 16.27 | 15.89 | 15.52 |
| | g/人・日 | 808.1 | 804.3 | 801.3 | 798.5 | 795.9 | 794 | 792.2 | 790.9 | 790.1 | 789.5 | 788.9 |

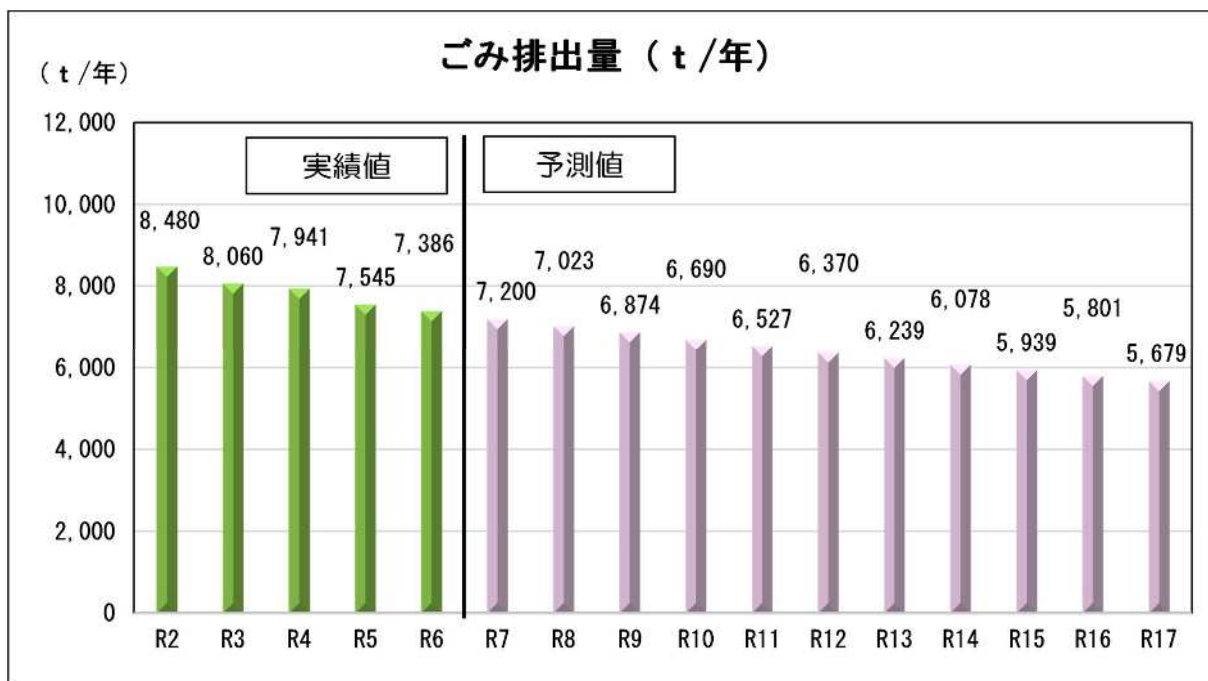


図 1-3-1 ごみ排出量の将来予測結果 (年間量)

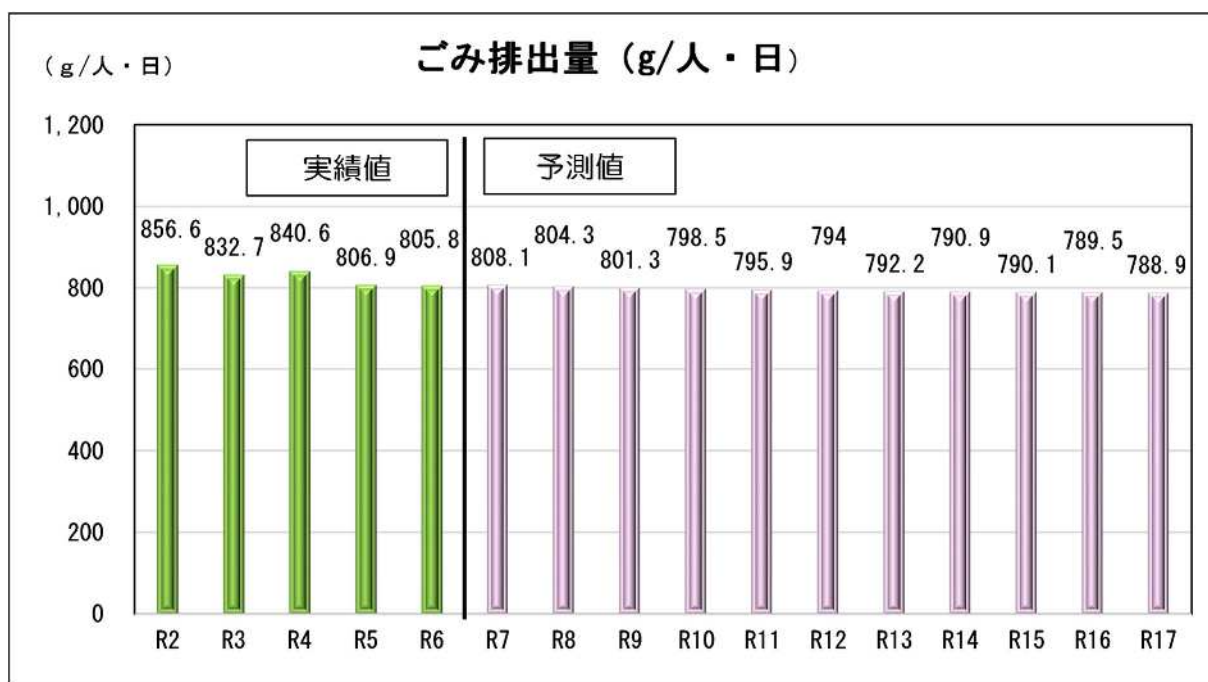


図 1-3-2 ごみ排出量の将来予測結果 (1人1日当たり)

1-3-6 ごみ排出量の将来予測結果（目標達成前）

| 区分 | | 実績 | | | | | 予測値 | | | | | | | | | | | | | |
|-----------|-----------|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|-----|
| | | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | R8 | R9 | R10 | R11 | R12 | R13 | R14 | R15 | R16 | R17 | | | |
| 人口 | 行政人口 | 人 | 27,123 | 26,518 | 25,882 | 25,547 | 25,114 | 24,410 | 23,924 | 23,439 | 22,953 | 22,467 | 21,981 | 21,518 | 21,055 | 20,593 | 20,130 | 19,668 | | |
| | 計画収集人口 | 人 | 27,123 | 26,518 | 25,882 | 25,547 | 25,114 | 24,410 | 23,924 | 23,439 | 22,953 | 22,467 | 21,981 | 21,518 | 21,055 | 20,593 | 20,130 | 19,668 | | |
| | 自家処理人口 | 人 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | |
| 生活系 | 収集 | 可燃ごみ | t/年 | 4,345 | 4,247 | 4,157 | 3,986 | 3,804 | 3,716 | 3,602 | 3,502 | 3,385 | 3,280 | 3,178 | 3,090 | 2,988 | 2,895 | 2,804 | 2,725 | |
| | | 不燃ごみ | t/年 | 152 | 81 | 83 | 77 | 89 | 79 | 77 | 75 | 72 | 70 | 68 | 66 | 64 | 62 | 60 | 58 | |
| | | 粗大ごみ | t/年 | 418 | 344 | 304 | 314 | 329 | 296 | 287 | 279 | 270 | 262 | 254 | 247 | 238 | 231 | 224 | 217 | |
| | | 資源物 | 可燃性 | t/年 | 415 | 343 | 304 | 314 | 329 | 295 | 286 | 278 | 269 | 261 | 253 | 246 | 237 | 230 | 223 | 216 |
| | | | 不燃性 | t/年 | 3 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| | | 資源物 | t/年 | 985 | 926 | 953 | 880 | 840 | 830 | 805 | 782 | 756 | 733 | 710 | 690 | 667 | 647 | 627 | 608 | |
| | | その他のごみ | t/年 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | | 生活系 収集 合計 | t/年 | 5,903 | 5,598 | 5,497 | 5,257 | 5,062 | 4,921 | 4,771 | 4,638 | 4,483 | 4,345 | 4,210 | 4,093 | 3,957 | 3,835 | 3,715 | 3,608 | |
| | 直接搬入 | 可燃ごみ | t/年 | 28 | 26 | 28 | 20 | 19 | 20 | 19 | 19 | 18 | 17 | 17 | 16 | 16 | 15 | 15 | 14 | |
| | | 不燃ごみ | t/年 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | | 粗大ごみ | t/年 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | | 資源物 | t/年 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | | 生活系 直接搬入 合計 | t/年 | 28 | 26 | 28 | 20 | 19 | 20 | 19 | 19 | 18 | 17 | 17 | 16 | 16 | 15 | 15 | 14 | |
| | 生活系 合計 | | t/年 | 5,931 | 5,624 | 5,525 | 5,277 | 5,081 | 4,941 | 4,790 | 4,657 | 4,501 | 4,362 | 4,227 | 4,109 | 3,973 | 3,850 | 3,730 | 3,622 | |
| 事業系 | 収集 | 可燃ごみ | t/年 | 1,401 | 1,349 | 1,334 | 1,208 | 1,341 | 1,255 | 1,244 | 1,238 | 1,227 | 1,218 | 1,209 | 1,207 | 1,197 | 1,191 | 1,186 | 1,183 | |
| | | 不燃ごみ | t/年 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | | 粗大ごみ | t/年 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | | 資源物 | t/年 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | 事業系 収集 合計 | t/年 | 1,401 | 1,349 | 1,334 | 1,208 | 1,341 | 1,255 | 1,244 | 1,238 | 1,227 | 1,218 | 1,209 | 1,207 | 1,197 | 1,191 | 1,186 | 1,183 | | |
| | 直接搬入 | 可燃ごみ | t/年 | 366 | 305 | 313 | 388 | 280 | 318 | 315 | 314 | 310 | 308 | 306 | 305 | 303 | 302 | 300 | 299 | |
| | | 不燃ごみ | t/年 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | | 粗大ごみ | t/年 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | | 資源物 | t/年 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | | 事業系 直接搬入 合計 | t/年 | 366 | 305 | 313 | 388 | 280 | 318 | 315 | 314 | 310 | 308 | 306 | 305 | 303 | 302 | 300 | 299 | |
| 事業系 合計 | | t/年 | 1,767 | 1,654 | 1,647 | 1,596 | 1,621 | 1,573 | 1,559 | 1,552 | 1,537 | 1,526 | 1,515 | 1,512 | 1,500 | 1,493 | 1,486 | 1,482 | | |
| 集団回収 | 品目別 | t/年 | 25 | 23 | 23 | 22 | 17 | 19 | 18 | 17 | 17 | 16 | 15 | 15 | 14 | 14 | 14 | 13 | | |
| | 紙類 | t/年 | 25 | 23 | 23 | 22 | 17 | 19 | 18 | 17 | 17 | 16 | 15 | 15 | 14 | 14 | 14 | 13 | | |
| | 金属類 | t/年 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | | |
| 集団回収 合計 | t/年 | 26 | 24 | 24 | 23 | 18 | 20 | 19 | 18 | 18 | 17 | 16 | 16 | 15 | 15 | 15 | 14 | | | |
| 生活排水処理汚泥等 | | t/年 | 756 | 758 | 745 | 649 | 666 | 666 | 655 | 647 | 634 | 622 | 612 | 602 | 590 | 581 | 570 | 561 | | |
| 総排出量 | 可燃ごみ | t/年 | 6,140 | 5,927 | 5,832 | 5,602 | 5,444 | 5,309 | 5,180 | 5,073 | 4,940 | 4,823 | 4,710 | 4,618 | 4,504 | 4,403 | 4,305 | 4,221 | | |
| | 不燃ごみ | t/年 | 152 | 81 | 83 | 77 | 89 | 79 | 77 | 75 | 72 | 70 | 68 | 66 | 64 | 62 | 60 | 58 | | |
| | 粗大ごみ | t/年 | 418 | 344 | 304 | 314 | 329 | 296 | 287 | 279 | 270 | 262 | 254 | 247 | 238 | 231 | 224 | 217 | | |
| | 資源物 | t/年 | 985 | 926 | 953 | 880 | 840 | 830 | 805 | 782 | 756 | 733 | 710 | 690 | 667 | 647 | 627 | 608 | | |
| | その他のごみ | t/年 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | |
| | 集団回収 | t/年 | 26 | 24 | 24 | 23 | 18 | 20 | 19 | 18 | 18 | 17 | 16 | 16 | 15 | 15 | 15 | 14 | | |
| | 生活排水処理汚泥等 | t/年 | 756 | 758 | 745 | 649 | 666 | 666 | 655 | 647 | 634 | 622 | 612 | 602 | 590 | 581 | 570 | 561 | | |
| | 総排出量 (合計) | t/年 | 8,480 | 8,060 | 7,941 | 7,545 | 7,386 | 7,200 | 7,023 | 6,874 | 6,690 | 6,527 | 6,370 | 6,239 | 6,078 | 5,939 | 5,801 | 5,679 | | |
| | 生活系ごみ | t/年 | 5,931 | 5,624 | 5,525 | 5,277 | 5,081 | 4,941 | 4,790 | 4,657 | 4,501 | 4,362 | 4,227 | 4,109 | 3,973 | 3,850 | 3,730 | 3,622 | | |
| | | t/日 | 16.25 | 15.41 | 15.14 | 14.42 | 13.92 | 13.54 | 13.12 | 12.72 | 12.33 | 11.95 | 11.58 | 11.23 | 10.89 | 10.55 | 10.22 | 9.89 | | |
| | | g/人・日 | 599.1 | 581.0 | 584.8 | 564.4 | 554.3 | 554.6 | 548.5 | 542.8 | 537.2 | 531.9 | 526.8 | 521.8 | 517.0 | 512.2 | 507.6 | 503.1 | | |
| | 事業系ごみ | t/年 | 1,767 | 1,654 | 1,647 | 1,596 | 1,621 | 1,573 | 1,559 | 1,552 | 1,537 | 1,526 | 1,515 | 1,512 | 1,500 | 1,493 | 1,486 | 1,482 | | |
| | | t/日 | 4.84 | 4.53 | 4.51 | 4.36 | 4.44 | 4.31 | 4.27 | 4.24 | 4.21 | 4.18 | 4.15 | 4.13 | 4.11 | 4.09 | 4.07 | 4.05 | | |
| | | g/人・日 | 178.5 | 170.9 | 174.3 | 170.7 | 176.8 | 176.6 | 178.5 | 180.9 | 183.5 | 186.1 | 188.8 | 192.0 | 195.2 | 198.6 | 202.2 | 205.9 | | |
| | 集団回収 | t/年 | 26 | 24 | 24 | 23 | 18 | 20 | 19 | 18 | 18 | 17 | 16 | 16 | 15 | 15 | 15 | 14 | | |
| | | t/日 | 0.07 | 0.07 | 0.07 | 0.06 | 0.05 | 0.05 | 0.05 | 0.05 | 0.05 | 0.05 | 0.04 | 0.04 | 0.04 | 0.04 | 0.04 | 0.04 | | |
| | | g/人・日 | 2.6 | 2.5 | 2.5 | 2.5 | 2.0 | 2.2 | 2.2 | 2.1 | 2.1 | 2.1 | 2.0 | 2.0 | 2.0 | 2.0 | 2.0 | 1.9 | | |
| 生活排水処理汚泥等 | t/年 | 756 | 758 | 745 | 649 | 666 | 666 | 655 | 647 | 634 | 622 | 612 | 602 | 590 | 581 | 570 | 561 | | | |
| | t/日 | 2.07 | 2.08 | 2.04 | 1.77 | 1.82 | 1.82 | 1.79 | 1.77 | 1.74 | 1.7 | 1.68 | 1.64 | 1.62 | 1.59 | 1.56 | 1.53 | | | |
| | g/人・日 | 76.4 | 78.3 | 78.9 | 69.4 | 72.7 | 74.8 | 75 | 75.4 | 75.7 | 75.8 | 76.3 | 76.4 | 76.8 | 77.3 | 77.6 | 77.9 | | | |
| 総排出量 | t/年 | 8,480 | 8,060 | 7,941 | 7,545 | 7,386 | 7,200 | 7,023 | 6,874 | 6,690 | 6,527 | 6,370 | 6,239 | 6,078 | 5,939 | 5,801 | 5,679 | | | |
| | t/日 | 23.23 | 22.08 | 21.76 | 20.61 | 20.24 | 19.73 | 19.24 | 18.78 | 18.33 | 17.88 | 17.45 | 17.05 | 16.65 | 16.27 | 15.89 | 15.52 | | | |
| | g/人・日 | 856.6 | 832.7 | 840.6 | 806.9 | 805.8 | 808.1 | 804.3 | 801.3 | 798.5 | 795.9 | 794 | 792.2 | 790.9 | 790.1 | 789.5 | 788.9 | | | |

資料1-4 ごみ減量化等目標値の設定

ごみ減量化等の目標値については、第2期計画で設定された、ごみ減量化目標の中間目標年度までの達成状況や新たな取り組み、社会状況の変化を踏まえ、令和17年度までの新しい目標を策定します。

1. 1人1日当たりの生活系ごみ排出量の目標値

1人1日当たりの生活系ごみ排出量を約10%削減します。
(令和6年度 554g/人・日→令和17年度 498g/人・日 10%削減)

表 1-4-1 1人1日当たりの生活系ごみ排出量の目標値

| 区分 | 年度 | 人口 (人) | 排出量 | | 1人1日当たり排出量 | |
|-----|---------|-----------|-------|--------|------------|-------------|
| | | | (t/年) | 対R6比 | (g/人・日) | 対R6比 |
| 実績 | R2 | 27,123 | 5,931 | - | 559.1 | - |
| | R3 | 26,518 | 5,624 | - | 581.0 | - |
| | R4 | 25,882 | 5,525 | - | 584.8 | - |
| | R5 | 25,547 | 5,277 | - | 564.4 | - |
| | R6 | 25,114 | 5,081 | - | 554.3 | - |
| 予測値 | R17 予測値 | | 3,622 | -18.1% | 503.1 | +10.2% |
| 目標値 | R17 目標値 | - | 3,585 | -29.9% | 498 | -10% |

2. リサイクル率の増加目標値

炭化を除いたリサイクル率を 16.7%とします。
(炭化を除いたリサイクル率：令和6年度 16.1%→令和17年度 16.7%)
炭化を含めたリサイクル率を 34.1%とします。
(炭化を含めたリサイクル率：令和6年度 30.9%→令和17年度 34.1%)

表 1-4-2 リサイクル率の目標値

| 区分 | 年度 | 資源化量 | | | | リサイクル率 | |
|-----|---------|-------|--------|-------|--------|--------------|--------------|
| | | 炭化を除く | | 炭化を含む | | 炭化を除く (%) | 炭化を含む (%) |
| | | (t/年) | 対R6比 | (t/年) | 対R6比 | | |
| 実績 | R2 | 1,430 | - | 2,758 | - | 16.9 | 32.5 |
| | R3 | 1,295 | - | 2,620 | - | 16.1 | 32.5 |
| | R4 | 1,281 | - | 2,516 | - | 16.1 | 31.7 |
| | R5 | 1,217 | - | 2,385 | - | 16.1 | 31.6 |
| | R6 | 1,186 | - | 2,281 | - | 16.1 | 30.9 |
| 予測値 | R17 予測値 | 863 | -27.2% | 1,754 | -23.1% | 15.2 | 30.9 |
| 目標値 | R17 目標値 | 992 | -16.4% | 1,923 | -9.6% | 16.7 | 34.1 |

3. 最終処分率の目標値

最終処分率を 2.6%とします。
 (令和 6 年度 3.9% → 令和 17 年度 2.6%)

表 1-4-3 最終処分率の目標値

| 区分 | 年度 | 最終処分量 | | 最終処分率 | |
|-----|---------|-------|--------|-------|--------|
| | | (t/年) | 対 R6 比 | (%) | 対 R6 比 |
| 実績 | R2 | 374 | - | 4.4 | - |
| | R3 | 285 | - | 3.5 | - |
| | R4 | 310 | - | 3.9 | - |
| | R5 | 285 | - | 3.8 | - |
| | R6 | 289 | - | 3.9 | - |
| 予測値 | R17 予測値 | 222 | -23.2% | 3.9 | +0.0 |
| 目標値 | R17 目標値 | 149 | -48.4% | 2.6 | -1.3 |

4. ごみ排出量の予測結果

目標達成時のごみ排出量の推計を下表に示します。

表 1-4-4 ごみ排出量の将来予測結果（目標達成時）

| 区分 | | 実績 | | | | | | 目標値 | | | | | | | | | | | |
|-----------|-------------|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|
| | | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | R8 | R9 | R10 | R11 | R12 | R13 | R14 | R15 | R16 | R17 | | |
| 人口 | 行政人口 | 人 | 27,123 | 26,518 | 25,882 | 25,547 | 25,114 | 24,410 | 23,924 | 23,439 | 22,953 | 22,467 | 21,981 | 21,518 | 21,055 | 20,593 | 20,130 | 19,668 | |
| | 計画収集人口 | 人 | 27,123 | 26,518 | 25,882 | 25,547 | 25,114 | 24,410 | 23,924 | 23,439 | 22,953 | 22,467 | 21,981 | 21,518 | 21,055 | 20,593 | 20,130 | 19,668 | |
| | 自家処理人口 | 人 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 生活系 | 収集 | 可燃ごみ | t/年 | 4,345 | 4,247 | 4,157 | 3,986 | 3,804 | 3,712 | 3,594 | 3,483 | 3,354 | 3,239 | 3,124 | 3,025 | 2,910 | 2,807 | 2,705 | 2,614 |
| | | 不燃ごみ | t/年 | 152 | 81 | 83 | 77 | 89 | 79 | 76 | 74 | 72 | 69 | 67 | 65 | 63 | 61 | 59 | 57 |
| | | 粗大ごみ | t/年 | 418 | 344 | 304 | 314 | 329 | 296 | 287 | 279 | 269 | 260 | 252 | 245 | 237 | 229 | 222 | 215 |
| | | | 可燃性 | t/年 | 415 | 343 | 304 | 314 | 329 | 295 | 286 | 278 | 268 | 259 | 251 | 244 | 236 | 228 | 221 |
| | | 不燃性 | t/年 | 3 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| | | 資源物 | t/年 | 985 | 926 | 953 | 880 | 840 | 830 | 805 | 789 | 771 | 756 | 742 | 731 | 716 | 704 | 692 | 685 |
| | | その他のごみ | t/年 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | | 生活系 収集 合計 | t/年 | 5,903 | 5,598 | 5,497 | 5,257 | 5,062 | 4,917 | 4,762 | 4,625 | 4,466 | 4,324 | 4,185 | 4,066 | 3,926 | 3,801 | 3,678 | 3,571 |
| | 直接搬入 | 可燃ごみ | t/年 | 28 | 26 | 28 | 20 | 19 | 20 | 19 | 19 | 18 | 17 | 17 | 16 | 16 | 15 | 15 | 14 |
| | | 不燃ごみ | t/年 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | | 粗大ごみ | t/年 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | | 資源物 | t/年 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 生活系 直接搬入 合計 | t/年 | 28 | 26 | 28 | 20 | 19 | 20 | 19 | 19 | 18 | 17 | 17 | 16 | 16 | 15 | 15 | 14 | |
| | 生活系 合計 | t/年 | 5,931 | 5,624 | 5,525 | 5,277 | 5,081 | 4,937 | 4,781 | 4,644 | 4,484 | 4,341 | 4,202 | 4,082 | 3,942 | 3,816 | 3,693 | 3,585 | |
| 事業系 | 収集 | 可燃ごみ | t/年 | 1,401 | 1,349 | 1,334 | 1,208 | 1,341 | 1,255 | 1,244 | 1,238 | 1,227 | 1,218 | 1,209 | 1,207 | 1,197 | 1,191 | 1,186 | 1,183 |
| | | 不燃ごみ | t/年 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | | 粗大ごみ | t/年 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | | 資源物 | t/年 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 事業系 収集 合計 | t/年 | 1,401 | 1,349 | 1,334 | 1,208 | 1,341 | 1,255 | 1,244 | 1,238 | 1,227 | 1,218 | 1,209 | 1,207 | 1,197 | 1,191 | 1,186 | 1,183 | |
| | 直接搬入 | 可燃ごみ | t/年 | 366 | 305 | 313 | 388 | 280 | 318 | 315 | 314 | 310 | 308 | 306 | 305 | 303 | 302 | 300 | 299 |
| | | 不燃ごみ | t/年 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | | 粗大ごみ | t/年 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | | 資源物 | t/年 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 事業系 直接搬入 合計 | t/年 | 366 | 305 | 313 | 388 | 280 | 318 | 315 | 314 | 310 | 308 | 306 | 305 | 303 | 302 | 300 | 299 | |
| 事業系 合計 | t/年 | 1,767 | 1,654 | 1,647 | 1,596 | 1,621 | 1,573 | 1,559 | 1,552 | 1,537 | 1,526 | 1,515 | 1,512 | 1,500 | 1,493 | 1,486 | 1,482 | | |
| 集団回収 | 品目別 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 紙類 | t/年 | 25 | 23 | 23 | 22 | 17 | 19 | 18 | 17 | 17 | 16 | 15 | 15 | 14 | 14 | 14 | 13 | |
| | 金属類 | t/年 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| 集団回収 合計 | t/年 | 26 | 24 | 24 | 23 | 18 | 20 | 19 | 18 | 18 | 17 | 16 | 16 | 15 | 15 | 15 | 14 | | |
| 生活排水処理汚泥等 | t/年 | 756 | 758 | 745 | 649 | 666 | 666 | 655 | 647 | 634 | 622 | 612 | 602 | 590 | 581 | 570 | 561 | | |
| 総排出量 | 可燃ごみ | t/年 | 6,140 | 5,927 | 5,832 | 5,602 | 5,444 | 5,305 | 5,172 | 5,054 | 4,909 | 4,782 | 4,656 | 4,553 | 4,426 | 4,315 | 4,206 | 4,110 | |
| | | t/日 | 152 | 81 | 83 | 77 | 89 | 79 | 76 | 74 | 72 | 69 | 67 | 65 | 63 | 61 | 59 | 57 | |
| | | g/人・日 | 599.1 | 581.0 | 584.8 | 564.4 | 554.3 | 554.1 | 547.5 | 541.3 | 535.2 | 529.4 | 523.8 | 518.3 | 513.0 | 507.7 | 502.6 | 498.0 | |
| | 不燃ごみ | t/年 | 152 | 81 | 83 | 77 | 89 | 79 | 76 | 74 | 72 | 69 | 67 | 65 | 63 | 61 | 59 | 57 | |
| | | t/日 | 418 | 344 | 304 | 314 | 329 | 296 | 287 | 279 | 269 | 260 | 252 | 245 | 237 | 229 | 222 | 215 | |
| | | g/人・日 | 178.5 | 170.9 | 174.3 | 170.7 | 176.8 | 176.6 | 178.5 | 180.9 | 183.5 | 186.1 | 188.8 | 192.0 | 195.2 | 198.6 | 202.2 | 205.9 | |
| | 粗大ごみ | t/年 | 418 | 344 | 304 | 314 | 329 | 296 | 287 | 279 | 269 | 260 | 252 | 245 | 237 | 229 | 222 | 215 | |
| | | t/日 | 985 | 926 | 953 | 880 | 840 | 830 | 805 | 789 | 771 | 756 | 742 | 731 | 716 | 704 | 692 | 685 | |
| | | g/人・日 | 2.6 | 2.5 | 2.5 | 2.5 | 2.0 | 2.2 | 2.2 | 2.1 | 2.1 | 2.1 | 2.0 | 2.0 | 2.0 | 2.0 | 2.0 | 1.9 | |
| | その他のごみ | t/年 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | | t/日 | 26 | 24 | 24 | 23 | 18 | 20 | 19 | 18 | 18 | 17 | 16 | 16 | 15 | 15 | 15 | 14 | |
| | | g/人・日 | 0.07 | 0.07 | 0.07 | 0.06 | 0.05 | 0.05 | 0.05 | 0.05 | 0.05 | 0.05 | 0.04 | 0.04 | 0.04 | 0.04 | 0.04 | 0.04 | |
| | 集団回収 | t/年 | 26 | 24 | 24 | 23 | 18 | 20 | 19 | 18 | 18 | 17 | 16 | 16 | 15 | 15 | 15 | 14 | |
| | | t/日 | 0.07 | 0.07 | 0.07 | 0.06 | 0.05 | 0.05 | 0.05 | 0.05 | 0.05 | 0.05 | 0.04 | 0.04 | 0.04 | 0.04 | 0.04 | 0.04 | |
| | | g/人・日 | 2.6 | 2.5 | 2.5 | 2.5 | 2.0 | 2.2 | 2.2 | 2.1 | 2.1 | 2.1 | 2.0 | 2.0 | 2.0 | 2.0 | 2.0 | 1.9 | |
| | 生活排水処理汚泥等 | t/年 | 756 | 758 | 745 | 649 | 666 | 666 | 655 | 647 | 634 | 622 | 612 | 602 | 590 | 581 | 570 | 561 | |
| | | t/日 | 2.07 | 2.08 | 2.04 | 1.77 | 1.82 | 1.82 | 1.79 | 1.77 | 1.74 | 1.7 | 1.68 | 1.64 | 1.62 | 1.59 | 1.56 | 1.53 | |
| | | g/人・日 | 76.4 | 78.3 | 78.9 | 69.4 | 72.7 | 74.8 | 75 | 75.4 | 75.7 | 75.8 | 76.3 | 76.4 | 76.8 | 77.3 | 77.6 | 77.9 | |
| | 総排出量 | t/年 | 8,480 | 8,060 | 7,941 | 7,545 | 7,386 | 7,196 | 7,014 | 6,861 | 6,673 | 6,506 | 6,345 | 6,212 | 6,047 | 5,905 | 5,764 | 5,642 | |
| t/日 | | 23.23 | 22.08 | 21.76 | 20.61 | 20.24 | 19.72 | 19.22 | 18.75 | 18.28 | 17.82 | 17.38 | 16.97 | 16.57 | 16.18 | 15.79 | 15.42 | | |
| g/人・日 | | 856.6 | 832.7 | 840.6 | 806.9 | 805.8 | 807.7 | 803.2 | 799.8 | 796.5 | 793.4 | 790.8 | 788.8 | 786.8 | 785.6 | 784.5 | 783.8 | | |

5. 収集運搬量

収集運搬量の推計結果は次表のとおりです。

表 1-4-5 目標達成時の収集運搬量（目標達成時）

| 区分 | | 実績 | 目標値 | | | | | | | | | | | |
|-------|------|-----|-------|-------|-------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| | | | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 | 令和9年度 | 令和10年度 | 令和11年度 | 令和12年度 | 令和13年度 | 令和14年度 | 令和15年度 | 令和16年度 | 令和17年度 |
| 生活系 | 可燃ごみ | t/年 | 3,804 | 3,712 | 3,594 | 3,483 | 3,354 | 3,239 | 3,124 | 3,025 | 2,910 | 2,807 | 2,705 | 2,614 |
| | 不燃ごみ | t/年 | 89 | 79 | 76 | 74 | 72 | 69 | 67 | 65 | 63 | 61 | 59 | 57 |
| | 粗大ごみ | t/年 | 329 | 296 | 287 | 279 | 269 | 260 | 252 | 245 | 237 | 229 | 222 | 215 |
| | 資源物 | t/年 | 840 | 830 | 805 | 789 | 771 | 756 | 742 | 731 | 716 | 704 | 692 | 685 |
| 事業系 | 可燃ごみ | t/年 | 1,341 | 1,255 | 1,244 | 1,238 | 1,227 | 1,218 | 1,209 | 1,207 | 1,197 | 1,191 | 1,186 | 1,183 |
| 合計 | | t/年 | 6,403 | 6,172 | 6,006 | 5,863 | 5,693 | 5,542 | 5,394 | 5,273 | 5,123 | 4,992 | 4,864 | 4,754 |
| (日平均) | | t/日 | 17.5 | 16.9 | 16.5 | 16 | 15.6 | 15.2 | 14.8 | 14.4 | 14 | 13.7 | 13.3 | 13.0 |

6. 炭化施設処理量及び生成物量

炭化施設の処理量及び処理の結果生じる生成物量を予測すると次表のとおりです。

表 1-4-6 目標達成時の炭化施設処理量及び生成物量（目標達成時）

| 区分 | | 単位 | 実績 | 目標値 | | | | | | | | | | |
|-----------|----------------|-----|-------|-------|-------|-------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| | | | | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 | 令和9年度 | 令和10年度 | 令和11年度 | 令和12年度 | 令和13年度 | 令和14年度 | 令和15年度 | 令和16年度 |
| 処理量 | 直接処理量 | t/年 | 5,397 | 5,305 | 5,172 | 5,054 | 4,909 | 4,782 | 4,656 | 4,553 | 4,426 | 4,315 | 4,206 | 4,110 |
| | 生活排水処理汚泥等 | t/年 | 666 | 666 | 655 | 647 | 634 | 622 | 612 | 602 | 590 | 581 | 570 | 561 |
| | リサイクルセンター可燃性残渣 | t/年 | 47 | 42 | 41 | 40 | 39 | 38 | 37 | 36 | 35 | 34 | 33 | 33 |
| | 合計 | t/年 | 6,110 | 6,013 | 5,868 | 5,741 | 5,582 | 5,442 | 5,305 | 5,191 | 5,051 | 4,930 | 4,809 | 4,704 |
| 炭化物回収量 | | t/年 | 1,095 | 1,113 | 1,087 | 1,072 | 1,051 | 1,033 | 1,018 | 1,008 | 991 | 978 | 963 | 981 |
| 炭化処理残渣発生量 | | t/年 | 200 | 204 | 199 | 185 | 173 | 161 | 149 | 138 | 127 | 116 | 104 | 92 |

7. 資源化量の予測結果

資源化量は次表のように推計されます。

表 1-4-7 資源化量の推計結果（目標達成時）

| 区分 | 単位 | 実績 | 目標値 | | | | | | | | | | | |
|-----------------|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-----|
| | | R6 | R7 | R8 | R9 | R10 | R11 | R12 | R13 | R14 | R15 | R16 | R17 | |
| 生活系分別収集分 | 紙類 | t/年 | 319 | 317 | 307 | 307 | 304 | 302 | 302 | 304 | 303 | 303 | 239 | 231 |
| | 金属類 | t/年 | 210 | 200 | 194 | 188 | 182 | 177 | 171 | 166 | 161 | 156 | 151 | 147 |
| | ガラス類 | t/年 | 138 | 134 | 130 | 126 | 122 | 118 | 114 | 111 | 107 | 104 | 101 | 98 |
| | ペットボトル | t/年 | 61 | 64 | 62 | 60 | 58 | 56 | 55 | 53 | 51 | 50 | 48 | 47 |
| | プラスチック類 | t/年 | 102 | 105 | 102 | 99 | 96 | 94 | 91 | 89 | 86 | 83 | 145 | 155 |
| | 布類 | t/年 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 肥料 | t/年 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 飼料 | t/年 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | その他 | t/年 | 9 | 10 | 10 | 9 | 9 | 9 | 9 | 8 | 8 | 8 | 8 | 7 |
| | 小計① | t/年 | 839 | 830 | 805 | 789 | 771 | 756 | 742 | 731 | 716 | 704 | 692 | 685 |
| 集団回収分 | 紙類 | t/年 | 17 | 19 | 18 | 17 | 17 | 16 | 15 | 15 | 14 | 14 | 14 | 13 |
| | 缶類 | t/年 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| | 小計② | t/年 | 18 | 20 | 19 | 18 | 18 | 17 | 16 | 16 | 15 | 15 | 15 | 14 |
| RPF回収量③ | t/年 | 329 | 301 | 294 | 288 | 281 | 274 | 268 | 263 | 257 | 251 | 245 | 243 | |
| 炭化物回収量④ | t/年 | 1,095 | 1,113 | 1,087 | 1,072 | 1,051 | 1,033 | 1,018 | 1,008 | 991 | 978 | 963 | 981 | |
| 合計（炭化物を除く小計①～③） | t/年 | 1,186 | 1,151 | 1,118 | 1,095 | 1,070 | 1,047 | 1,026 | 1,010 | 988 | 970 | 952 | 942 | |
| 合計（炭化物を含む小計①～④） | t/年 | 2,281 | 2,264 | 2,205 | 2,167 | 2,121 | 2,080 | 2,044 | 2,018 | 1,979 | 1,948 | 1,915 | 1,923 | |
| リサイクル率（炭化物を除く） | % | 16.1 | 16.0 | 15.9 | 16.0 | 16.0 | 16.1 | 16.2 | 16.3 | 16.3 | 16.4 | 16.5 | 16.7 | |
| リサイクル率（炭化物を含む） | % | 30.9 | 31.5 | 31.4 | 31.6 | 31.8 | 32.0 | 32.2 | 32.5 | 32.7 | 33.0 | 33.2 | 34.1 | |

（備考）金属類には、炭化不適物の資源化量を含む

8. 最終処分量の予測結果

最終処分量は次表のように推計されます。

表 1-4-8 最終処分量の推計結果（目標達成時）

| 区分 | 実績 | 目標値 | | | | | | | | | | | |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| | | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 | 令和9年度 | 令和10年度 | 令和11年度 | 令和12年度 | 令和13年度 | 令和14年度 | 令和15年度 | 令和16年度 | 令和17年度 |
| 直接埋立処分 | t/年 | 89 | 79 | 76 | 74 | 72 | 69 | 67 | 65 | 63 | 61 | 59 | 57 |
| 処理残さ量 | t/年 | 200 | 204 | 199 | 185 | 173 | 161 | 149 | 138 | 127 | 116 | 104 | 92 |
| | 飛灰 | t/年 | 131 | 126 | 123 | 115 | 108 | 101 | 94 | 87 | 80 | 73 | 65 |
| | 炭化不適物 | t/年 | 69 | 78 | 76 | 70 | 65 | 60 | 55 | 51 | 47 | 43 | 39 |
| 合計 | t/年 | 289 | 283 | 275 | 259 | 245 | 230 | 216 | 203 | 190 | 177 | 163 | 149 |
| 最終処分率 | % | 3.9 | 3.9 | 3.9 | 3.8 | 3.7 | 3.5 | 3.4 | 3.3 | 3.1 | 3.0 | 2.8 | 2.6 |

（備考）最終処分率＝処分量（合計）÷総排出量×100

資料1-5 長崎県内市町村の一般廃棄物処理システム比較分析

標準的な指標1 (偏差値によるレーダーチャート)



| 標準的な指標 | 人口一人一日当たり ごみ総排出量 (kg/人・日) | 廃棄物からの資源 回収率(RDF・セメ ント原料化等除く) (t/t) | 廃棄物のうち最終 処分される割合 (t/t) | 人口一人当たり 年間処理経費 (円/人・年) | 最終処分減量に 要する費用 (円/t) |
|------------------|---------------------------------|--|------------------------------|------------------------------|---------------------------|
| 平均 | 0.927 | 0.144 | 0.058 | 21,618 | 62,627 |
| 最大 | 1.566 | 0.275 | 0.324 | 81,223 | 222,807 |
| 最小 | 0.678 | 0.074 | 0 | 9,482 | 31,799 |
| 標準偏差 | 0.19 | 0.059 | 0.08 | 15,871 | 41,816 |
| 当該市町村実績 (西海市) | 0.807 | 0.275 | 0.038 | 23,456 | 80,847 |
| 偏差値 | 56.3 | 72.2 | 52.5 | 44.3 | 45.6 |

【分析欄】

1. 人口1人1日当たり排出量
人口1人1日当たり排出量は0.807g/人・日であり、県内市町村の中ではやや少なめです。
※順位は 21 市町村 6 位
2. 廃棄物からの資源回収率
廃棄物からの資源回収率は0.275t であり、県内市町村の中では取組みが非常に進んでいます。
※順位は 21 市町村 1 位
3. 廃棄物のうち最終処分される割合
廃棄物のうち最終処分される割合は0.038/t であり、県内市町村の中ではやや取組みが進んでいます。
※順位は 21 市町村 13 位
4. 人口1人当たり年間処理経費
人口1人当たり年間処理経費は23,456円/人・年であり、県内市町村の中ではやや高額となっています。
※順位は 21 市町村 13 位
5. 最終処分減量に要する費用
最終処分減量に要する費用は80,847 円/t であり、県内市町村の中ではやや高額となっています。
※順位は 21 市町村 13 位

| 市町村名 | 人口 | 人口一人一日当たり ごみ総排出量 (kg/人・日) | 廃棄物からの資源 回収率(RDF・セメ ント原料化等除く) (t/t) | 廃棄物のうち最終 処分される割合 (t/t) | 人口一人当たり年 間処理経費 (円/人・年) | 最終処分減量に要 する費用 (円/t) |
|----------|---------|---------------------------------|--|------------------------------|------------------------------|---------------------------|
| 長崎県長崎市 | 393,052 | 0.933 | 0.124 | 0.146 | 11,788 | 38,188 |
| 長崎県佐世保市 | 237,229 | 0.947 | 0.083 | 0.033 | 13,894 | 39,380 |
| 長崎県島原市 | 42,682 | 1.108 | 0.206 | 0.022 | 22,305 | 55,408 |
| 長崎県諫早市 | 134,075 | 0.942 | 0.156 | 0.017 | 17,381 | 49,993 |
| 長崎県大村市 | 98,412 | 0.833 | 0.098 | 0.051 | 10,515 | 31,799 |
| 長崎県平戸市 | 28,620 | 0.851 | 0.184 | 0.045 | 23,107 | 76,019 |
| 長崎県松浦市 | 20,722 | 0.815 | 0.182 | 0.045 | 26,977 | 93,407 |
| 長崎県対馬市 | 27,957 | 1.145 | 0.087 | 0.096 | 44,793 | 118,263 |
| 長崎県杵岐市 | 24,381 | 0.927 | 0.230 | 0.012 | 20,901 | 50,393 |
| 長崎県五島市 | 34,589 | 1.013 | 0.147 | 0.113 | 19,013 | 55,476 |
| 長崎県西海市 | 25,547 | 0.807 | 0.275 | 0.038 | 23,456 | 80,847 |
| 長崎県雲仙市 | 41,324 | 0.985 | 0.150 | 0.012 | 18,737 | 51,895 |
| 長崎県南島原市 | 41,814 | 0.999 | 0.089 | 0.016 | 15,576 | 40,229 |
| 長崎県長与町 | 39,928 | 0.678 | 0.201 | 0.010 | 13,008 | 47,915 |
| 長崎県時津町 | 29,549 | 0.769 | 0.145 | 0.019 | 11,584 | 37,981 |
| 長崎県東彼杵町 | 7,478 | 0.709 | 0.074 | 0.004 | 11,859 | 44,749 |
| 長崎県川棚町 | 13,248 | 0.800 | 0.078 | 0.000 | 9,657 | 32,171 |
| 長崎県波佐見町 | 14,162 | 0.696 | 0.074 | 0.003 | 9,482 | 36,414 |
| 長崎県小値賀町 | 2,201 | 1.030 | 0.234 | 0.324 | 81,223 | 222,807 |
| 長崎県佐々町 | 14,025 | 0.919 | 0.133 | 0.000 | 13,409 | 39,450 |
| 長崎県新上五島町 | 17,220 | 1.566 | 0.080 | 0.215 | 35,317 | 72,388 |

第2編 生活排水編

資料2-1 生活排水処理形態別人口・し尿量等の実績

生活排水の処理形態別人口、し尿・汚泥処理量の実績は、次表のとおりです。

表2-1-1 生活排水の処理形態別人口、し尿・汚泥処理量の実績

| 区分 | 年度 | 実績値 | | | | | |
|----------------------------------|----------------------|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| | | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | |
| 総人口 | (人) | 27,123 | 26,518 | 25,882 | 25,547 | 25,114 | |
| 1. 計画処理区域内人口 | (人) | 27,123 | 26,518 | 25,882 | 25,547 | 25,114 | |
| 2. 水洗化・生活雑排水処理人口 | (人) | 20,253 | 19,954 | 19,795 | 19,712 | 19,443 | |
| (1) 公共下水道人口 | (人) | 2,196 | 2,266 | 2,341 | 2,439 | 2,494 | |
| (2) ミニティ・プラント人口 | (人) | 3,560 | 3,346 | 3,263 | 3,376 | 3,403 | |
| (3) 集落排水施設人口 | (人) | 6,236 | 6,047 | 5,968 | 5,888 | 5,766 | |
| (4) 合併処理浄化槽人口 | (人) | 8,261 | 8,295 | 8,223 | 8,009 | 7,780 | |
| 3. 水洗化・生活雑排水未処理人口 (単独処理浄化槽人口) | (人) | 302 | 267 | 241 | 222 | 203 | |
| 4. 非水洗化人口 | (人) | 6,568 | 6,297 | 5,846 | 5,613 | 5,468 | |
| (1) し尿収集人口 | (人) | 6,568 | 6,297 | 5,846 | 5,613 | 5,468 | |
| (2) 自家処理人口 | (人) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 5. 計画処理区域外人口 | (人) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 汚水衛生処理率 | (%) | 74.7 | 75.2 | 76.5 | 77.2 | 77.4 | |
| 収集・運搬量 | し尿 | (kL/年) | 9,265 | 9,119 | 8,795 | 8,675 | 8,512 |
| | 浄化槽汚泥 | (kL/年) | 13,380 | 13,684 | 13,799 | 13,321 | 13,765 |
| | 集落排水汚泥 | (kL/年) | 4,934 | 4,924 | 4,936 | 4,981 | 5,020 |
| | コミプラ汚泥・し渣 | (t/年) | 151 | 153 | 170 | 105 | 133 |
| | 汚泥再生処理センター 汚泥・し渣 | (t/年) | 439 | 432 | 411 | 379 | 373 |
| | 下水汚泥・し渣 | (t/年) | 166 | 172 | 165 | 165 | 161 |
| 処理量 | 西海市汚泥再生処理センター | (kL/年) | 27,579 | 27,727 | 27,530 | 26,977 | 27,297 |
| | し尿量 | (kL/年) | 9,265 | 9,119 | 8,795 | 8,675 | 8,512 |
| | 浄化槽汚泥量 | (kL/年) | 13,380 | 13,684 | 13,799 | 13,321 | 13,765 |
| | 集落排水汚泥量 | (kL/年) | 4,934 | 4,924 | 4,936 | 4,981 | 5,020 |
| | 西海市炭化センター | (t/年) | 756 | 757 | 746 | 649 | 667 |
| | コミプラ汚泥・し渣量 | (t/年) | 151 | 153 | 170 | 105 | 133 |
| | 汚泥再生処理センター 汚泥・し渣量 | (t/年) | 439 | 432 | 411 | 379 | 373 |
| | 下水汚泥・し渣量 | (t/年) | 166 | 172 | 165 | 165 | 161 |
| 1人1日平均排出量 | し尿 | (L/人・日) | 3.86 | 3.97 | 4.12 | 4.22 | 4.26 |
| | 浄化槽汚泥 | (L/人・日) | 4.28 | 4.38 | 4.47 | 4.42 | 4.72 |
| | 集落排水汚泥 | (L/人・日) | 2.17 | 2.23 | 2.27 | 2.31 | 2.39 |
| | コミプラ汚泥・し渣 | (g/人・日) | 116 | 125 | 143 | 85 | 107 |
| | 下水汚泥・し渣 | (g/人・日) | 207 | 208 | 193 | 185 | 177 |
| 発生原単位 | 汚泥再生処理センター 汚泥・し渣量 | (kg/kL) | 15.9 | 15.6 | 14.9 | 14.0 | 13.7 |

(備考) 1 汚水衛生処理率(%) : 水洗化・生活雑排水処理人口 / 計画処理区域内人口 × 100

2 1人1日平均排出量

- ・し尿(L/人・日) : 年間量 / 年度日数(365日または366日) / し尿収集人口 × 1000
- ・浄化槽汚泥(L/人・日) : 年間量 / 年度日数(365日または366日) / 浄化槽(合併+単独)人口 × 1000
- ・集落排水汚泥(L/人・日) : 年間量 / 年度日数(365日または366日) / 集落排水施設人口 × 1000
- ・コミプラ汚泥・し渣(g/人・日) : 年間量 / 年度日数(365日または366日) / コミプラ人口 × 1000000
- ・下水汚泥・し渣(g/人・日) : 年間量 / 年度日数(365日または366日) / 公共下水道人口 × 1000000

3 汚泥再生処理センター汚泥・し渣量 発生原単位

- ・汚泥・し渣量発生原単位(kg/kL) : 年間量(t/年) / 汚泥再生処理センター処理量(kL/年) × 1000

(資料) 西海市環境政策課

資料2-2 生活排水処理形態別人口の将来予測

1. 生活排水処理形態別人口の将来予測

今後の生活排水処理形態別人口は、別途策定されている「西海市污水处理構想」による将来人口値（表 2-2-1）を基に、今回設定した総人口の将来推計値（表 1-2-1）を用いて補正を行うこととします。補正方法は、次のとおりです。

- ① 西海市污水处理構想での「総人口」を、今回設定した総人口の値に置き換える。
- ② 将来各年度の「污水衛生処理率（％）」は、西海市污水处理構想による各年度の値を適用する。
- ③ 各年度の污水衛生処理率②を、当該年度の総人口（今回設定値）に乗じて、将来各年度の「水洗化・生活雑排水処理人口（＝コミュニティ・プラント人口、合併処理浄化槽人口、公共下水道人口、集落排水施設人口の合計）」を算出する。
- ④ ③で算出した水洗化・生活雑排水処理人口を、「西海市污水处理構想」による当該年度の各人口比率（処理形態別人口／水洗化・生活雑排水処理人口）で按分することによって人口内訳
（コミュニティ・プラント人口、合併処理浄化槽人口、公共下水道人口、集落排水施設人口）を算出する。
- ⑤ 単独処理浄化槽人口は、まず総人口①から水洗化・生活雑排水処理人口③を差し引いて将来各年度の「単独処理浄化槽人口＋し尿収集人口」を算出し、その人口に、「西海市污水处理構想」による当該年度の両者の人口比率（単独処理浄化槽人口／（単独処理浄化槽人口＋し尿収集人口））を乗じて単独処理浄化槽人口とする。
- ⑥ 最後に、し尿収集人口は差し引きとする。
（総人口①－水洗化・生活雑排水処理人口③－単独処理浄化槽人口⑤）

上記の補正による生活排水処理形態別人口の将来推計結果は、次表のとおりとなります。

表2-2-1 西海市下水道事業経営戦略による将来の生活排水処理形態別人口

| | 単位 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | |
|--------------|---------------|--------|--------|----------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|
| | | 実績 | | 経営戦略計画期間 | | | | | | | | | | | | | | |
| 行政人口 | 人 | 26,825 | 26,146 | 25,732 | 25,185 | 24,639 | 24,092 | 23,651 | 23,210 | 22,770 | 22,329 | 21,888 | 21,468 | 21,048 | 20,627 | 20,207 | 19,787 | |
| 処理区域内 | 特定環境保全公共下水道事業 | 人 | 2,196 | 2,266 | 2,239 | 2,267 | 2,291 | 2,289 | 2,318 | 2,344 | 2,345 | 2,367 | 2,386 | 2,383 | 2,399 | 2,413 | 2,405 | 2,414 |
| | 農業集落排水事業 | 人 | 5,569 | 5,411 | 5,507 | 5,440 | 5,396 | 5,348 | 5,321 | 5,292 | 5,237 | 5,203 | 5,166 | 5,066 | 4,967 | 4,868 | 4,769 | 4,670 |
| | 漁業集落排水事業 | 人 | 667 | 636 | 643 | 630 | 616 | 626 | 615 | 603 | 592 | 581 | 569 | 558 | 547 | 536 | 525 | 514 |
| | 地域し尿事業 | 人 | 3,560 | 3,346 | 3,474 | 3,425 | 3,376 | 3,325 | 3,264 | 3,203 | 3,142 | 3,081 | 3,021 | 2,963 | 2,905 | 2,847 | 2,789 | 2,731 |
| | 特定地域生活排水処理事業 | 人 | 1,222 | 1,175 | 1,184 | 1,159 | 1,133 | 1,108 | 1,088 | 1,068 | 1,047 | 1,027 | 1,007 | 988 | 968 | 949 | 930 | 910 |
| | 寄附型浄化槽事業 | 人 | 704 | 659 | 695 | 680 | 665 | 650 | 639 | 627 | 615 | 603 | 591 | 580 | 568 | 557 | 546 | 534 |
| 処理区域外（未水洗化等） | 人 | 12,907 | 12,653 | 11,990 | 11,584 | 11,162 | 10,746 | 10,406 | 10,073 | 9,792 | 9,467 | 9,148 | 8,930 | 8,694 | 8,457 | 8,243 | 8,014 | |

(資料) 西海市下水道事業経営戦略

表2-2-1 を本計画の区分に合わせると、次表の通りになります。

表2-2-2 生活排水処理形態別人口の分類見直し

| | 単位 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | |
|---------------|-------------------------------|--------|--------|----------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|
| | | 実績 | | 経営戦略計画期間 | | | | | | | | | | | | | | |
| 行政人口 | 人 | 26,825 | 26,146 | 25,732 | 25,185 | 24,639 | 24,092 | 23,651 | 23,210 | 22,770 | 22,329 | 21,888 | 21,468 | 21,048 | 20,627 | 20,207 | 19,787 | |
| 水洗化・生活雑排水処理人口 | 公共下水道人口 | 人 | 2,196 | 2,266 | 2,239 | 2,267 | 2,291 | 2,289 | 2,318 | 2,344 | 2,345 | 2,367 | 2,386 | 2,383 | 2,399 | 2,413 | 2,405 | 2,414 |
| | コミュニティプラント人口 | 人 | 3,560 | 3,346 | 3,474 | 3,425 | 3,376 | 3,325 | 3,264 | 3,203 | 3,142 | 3,081 | 3,021 | 2,963 | 2,905 | 2,847 | 2,789 | 2,731 |
| | 集落排水施設人口 | 人 | 6,236 | 6,047 | 6,150 | 6,070 | 6,012 | 5,974 | 5,936 | 5,895 | 5,829 | 5,784 | 5,735 | 5,624 | 5,514 | 5,404 | 5,294 | 5,184 |
| | 合併処理浄化槽人口 | 人 | 14,833 | 14,487 | 13,869 | 13,423 | 7,570 | 7,304 | 7,087 | 6,874 | 6,690 | 6,482 | 6,277 | 6,132 | 5,975 | 5,819 | 5,677 | 5,524 |
| | 水洗化・生活雑排水未処理人口 (単独処理浄化槽人口) | 人 | | | | | 205 | 198 | 192 | 186 | 181 | 176 | 170 | 166 | 162 | 158 | 154 | 150 |
| 非水洗化人口 | し尿収集人口 | 人 | 14,833 | 14,487 | 13,869 | 13,423 | 5,185 | 5,002 | 4,854 | 4,708 | 4,583 | 4,439 | 4,299 | 4,200 | 4,093 | 3,986 | 3,888 | 3,784 |
| | 自家処理人口 | 人 | | | | | 5,185 | 5,002 | 4,854 | 4,708 | 4,583 | 4,439 | 4,299 | 4,200 | 4,093 | 3,986 | 3,888 | 3,784 |
| | 自家処理人口 | 人 | | | | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

表2-2-2の行政人口を、本計画の人口に合わせると、次表の通りになります。

表 2-2-3 生活排水処理形態別人口の将来推計結果

| 区分 | 年度 | 実績値 | | | | | 予測値 | | | | | | | | | | |
|----------------------------------|-----|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| | | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | R8 | R9 | R10 | R11 | R12 | R13 | R14 | R15 | R16 | R17 |
| 総人口 | (人) | 27,123 | 26,518 | 25,882 | 25,547 | 25,114 | 24,410 | 23,924 | 23,439 | 22,953 | 22,467 | 21,981 | 21,518 | 21,055 | 20,593 | 20,130 | 19,668 |
| 1. 計画処理区域内人口 | (人) | 27,123 | 26,518 | 25,882 | 25,547 | 25,114 | 24,410 | 23,924 | 23,439 | 22,953 | 22,467 | 21,981 | 21,518 | 21,055 | 20,593 | 20,130 | 19,668 |
| 2. 水洗化・生活雑排水処理人口 | (人) | 20,253 | 19,954 | 19,795 | 19,712 | 19,443 | 18,966 | 18,647 | 18,328 | 17,986 | 17,662 | 17,334 | 16,989 | 16,654 | 16,318 | 15,971 | 15,633 |
| (1) 公共下水道人口 | (人) | 2,196 | 2,266 | 2,341 | 2,439 | 2,494 | 2,477 | 2,504 | 2,528 | 2,525 | 2,544 | 2,559 | 2,551 | 2,563 | 2,573 | 2,559 | 2,563 |
| (2) ミニエティ・プラント人口 | (人) | 3,560 | 3,346 | 3,263 | 3,376 | 3,403 | 3,332 | 3,265 | 3,199 | 3,132 | 3,066 | 3,000 | 2,937 | 2,874 | 2,811 | 2,748 | 2,685 |
| (3) 集落排水施設人口 | (人) | 6,236 | 6,047 | 5,968 | 5,888 | 5,766 | 5,695 | 5,650 | 5,602 | 5,529 | 5,476 | 5,419 | 5,304 | 5,190 | 5,076 | 4,962 | 4,849 |
| (4) 合併処理浄化槽人口 | (人) | 8,261 | 8,295 | 8,223 | 8,009 | 7,780 | 7,462 | 7,228 | 6,999 | 6,800 | 6,576 | 6,356 | 6,197 | 6,027 | 5,858 | 5,702 | 5,536 |
| 3. 水洗化・生活雑排水未処理人口 (単独処理浄化槽人口) | (人) | 302 | 267 | 241 | 222 | 203 | 195 | 189 | 182 | 177 | 172 | 166 | 162 | 157 | 153 | 149 | 145 |
| 4. 非水洗化人口 | (人) | 6,568 | 6,297 | 5,846 | 5,613 | 5,468 | 5,249 | 5,088 | 4,929 | 4,790 | 4,633 | 4,481 | 4,367 | 4,244 | 4,122 | 4,010 | 3,890 |
| (1) し尿収集人口 | (人) | 6,568 | 6,297 | 5,846 | 5,613 | 5,468 | 5,249 | 5,088 | 4,929 | 4,790 | 4,633 | 4,481 | 4,367 | 4,244 | 4,122 | 4,010 | 3,890 |
| (2) 自家処理人口 | (人) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 5. 計画処理区域外人口 | (人) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 汚水衛生処理率 | (%) | 74.7 | 75.2 | 76.5 | 77.2 | 77.4 | 77.7 | 77.9 | 78.2 | 78.4 | 78.6 | 78.9 | 79 | 79.1 | 79.2 | 79.3 | 79.5 |

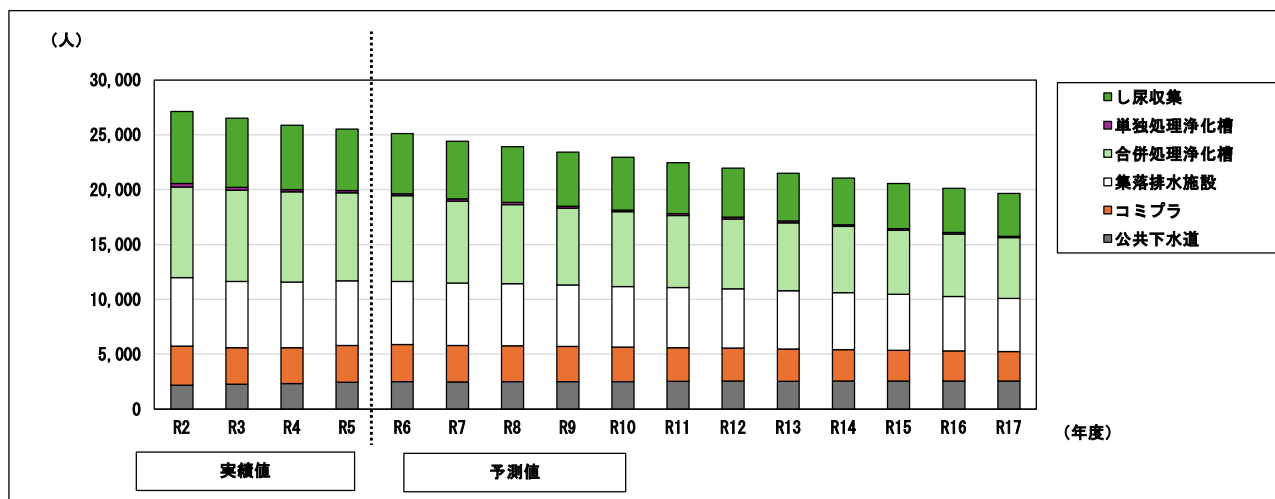


図2-2-1 生活排水処理形態別人口の将来推計結果

資料2-3 し尿・汚泥量の将来予測

1. し尿・汚泥量の予測方法

1) し尿、浄化槽汚泥、集落排水汚泥、コミプラ汚泥、下水汚泥

し尿・浄化槽汚泥量及び集落排水汚泥・コミプラ汚泥・下水汚泥の各汚泥量の将来予測にあたっては、今後のし尿収集人口、浄化槽人口、集落排水施設人口、コミュニティ・プラント人口、公共下水道人口に、それぞれの1人1日平均排出量を乗じて予測を行います。

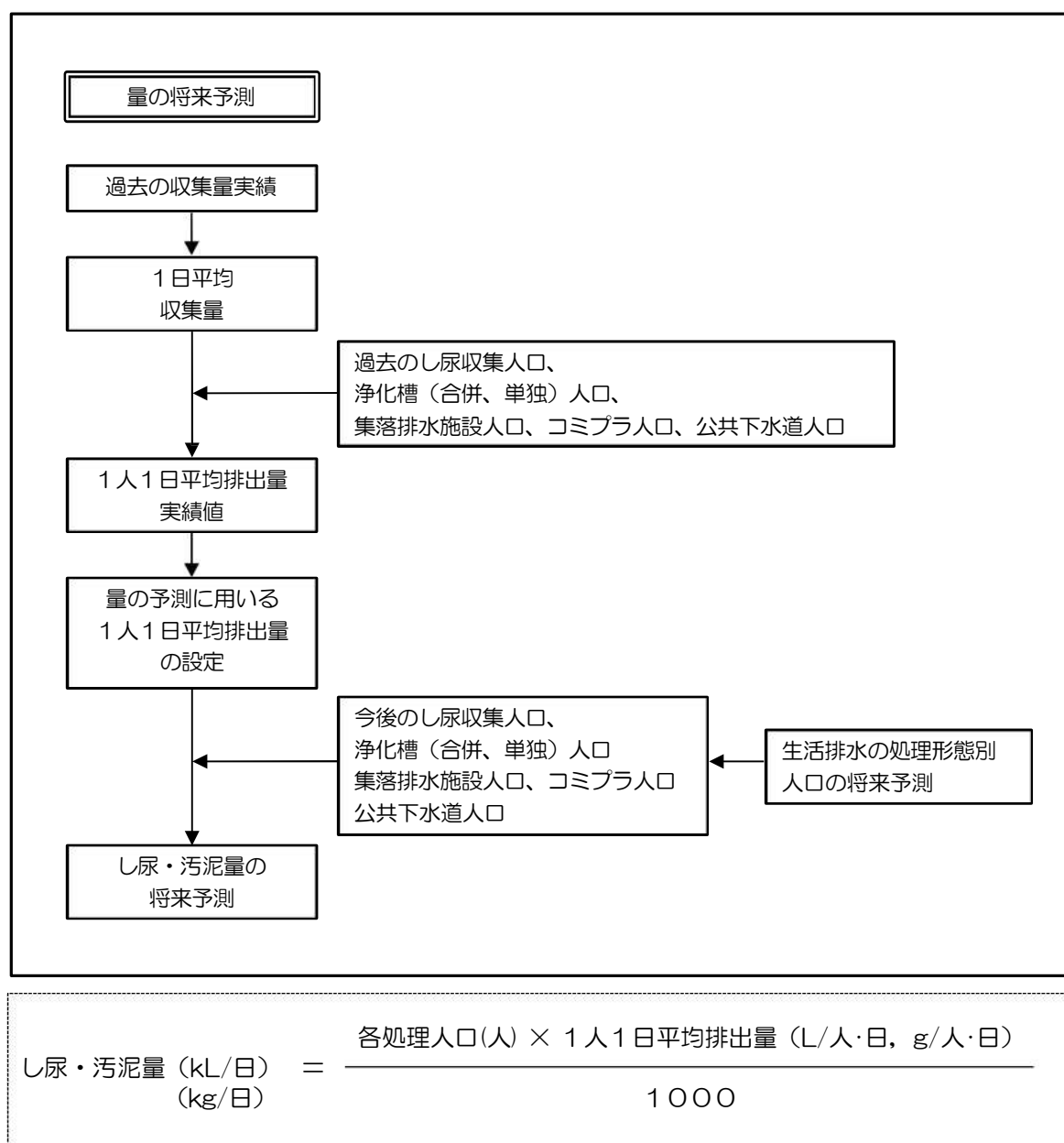


図2-3-1 し尿・汚泥量の予測手順

2) 汚泥再生処理センター汚泥

西海市汚泥再生処理センターでし尿・浄化槽汚泥等の処理後に発生する汚泥量の将来予測は、今後の汚泥再生処理センターにおける要処理量に、これまでの処理実績に基づく汚泥発生量（処理量 1kL 当たりの汚泥発生量、以下「発生原単位」という）を乗じて予測を行います。

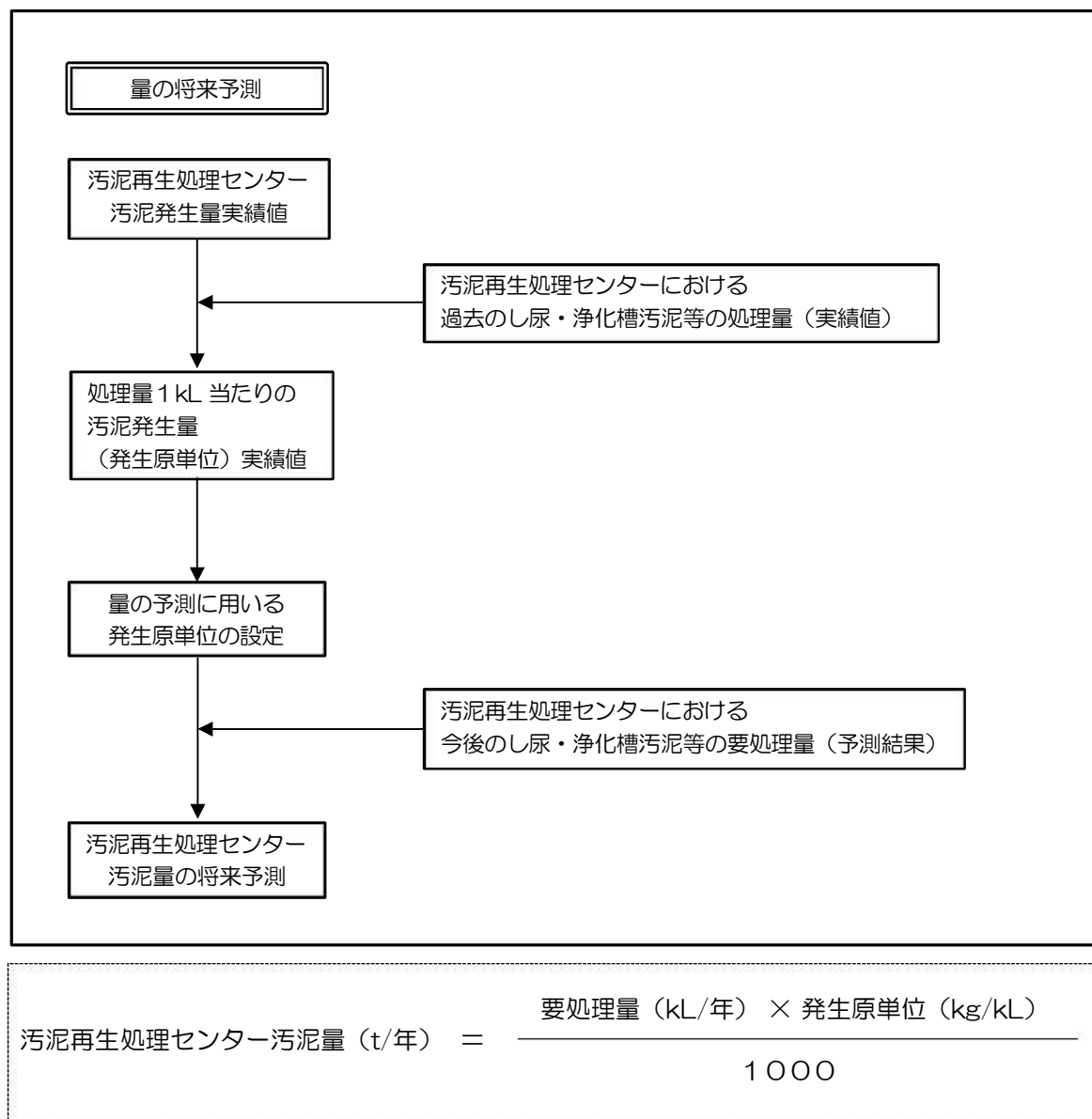


図 2-3-2 汚泥再生処理センター汚泥量の予測手順

2. し尿・汚泥量の将来予測

1) 西海市汚泥再生処理センター処理対象（し尿・浄化槽汚泥・集落排水汚泥）

(1) 将来のし尿収集人口、浄化槽人口、集落排水施設人口

前項の「生活排水処理形態別人口の将来予測」で得られた「し尿収集人口」、「浄化槽人口（合併、単独）」、「集落排水施設人口」を用います。

(2) 1人1日平均排出量

量の将来予測に用いる「1人1日平均排出量」は、過去3年間（令和4年度～令和6年度）の実績の平均値とします。

表 2-3-1 量の予測に用いる1人1日平均排出量

| 区 分 | | 年度 | R4 | R5 | R6 | 採用 |
|---------------|----------------|----|------|------|------|--------|
| | | | | | | 過去3年平均 |
| 1人1日 平均排出量 | し尿 (L/人・日) | | 4.12 | 4.22 | 4.26 | 4.20 |
| | 浄化槽汚泥 (L/人・日) | | 4.47 | 4.42 | 4.72 | 4.54 |
| | 集落排水汚泥 (L/人・日) | | 2.27 | 2.31 | 2.39 | 2.32 |

(3) し尿量・浄化槽汚泥量・集落排水汚泥量の将来予測

前項までに設定した各人口に、それぞれの「1人1日平均排出量」を乗じて、量の将来予測を行うと、表2-3-2、図2-3-3のとおりとなります。

表 2-3-2 西海市汚泥再生処理センター処理対象（し尿・浄化槽汚泥・集落排水汚泥）量の予測結果

| 区 分 | 年度 | 実績値 | | | | | 予測値 | | | | | | | | | | |
|-------------------|--------|---------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| | | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | R8 | R9 | R10 | R11 | R12 | R13 | R14 | R15 | R16 | R17 |
| し尿収集人口 | (人) | 6,568 | 6,297 | 5,846 | 5,613 | 5,468 | 5,249 | 5,088 | 4,929 | 4,790 | 4,633 | 4,481 | 4,367 | 4,244 | 4,122 | 4,010 | 3,890 |
| 浄化槽人口 | (人) | 8,563 | 8,562 | 8,464 | 8,231 | 7,983 | 7,657 | 7,417 | 7,181 | 6,977 | 6,748 | 6,522 | 6,359 | 6,184 | 6,011 | 5,851 | 5,681 |
| 合併処理浄化槽人口 | (人) | 8,261 | 8,295 | 8,223 | 8,009 | 7,780 | 7,462 | 7,228 | 6,999 | 6,800 | 6,576 | 6,356 | 6,197 | 6,027 | 5,858 | 5,702 | 5,536 |
| 単独処理浄化槽 | (人) | 302 | 267 | 241 | 222 | 203 | 195 | 189 | 182 | 177 | 172 | 166 | 162 | 157 | 153 | 149 | 145 |
| 集落排水施設人口 | (人) | 6,236 | 6,047 | 5,968 | 5,888 | 5,766 | 5,695 | 5,650 | 5,602 | 5,529 | 5,476 | 5,419 | 5,304 | 5,190 | 5,076 | 4,962 | 4,849 |
| 1人1日 平均 排出量 | し尿 | (L/人・日) | 3.86 | 3.97 | 4.12 | 4.22 | 4.26 | 4.20 | 4.20 | 4.20 | 4.20 | 4.20 | 4.20 | 4.20 | 4.20 | 4.20 | 4.20 |
| | 浄化槽汚泥 | (L/人・日) | 4.28 | 4.38 | 4.47 | 4.42 | 4.72 | 4.54 | 4.54 | 4.54 | 4.54 | 4.54 | 4.54 | 4.54 | 4.54 | 4.54 | 4.54 |
| | 集落排水汚泥 | (L/人・日) | 2.17 | 2.23 | 2.27 | 2.31 | 2.39 | 2.32 | 2.32 | 2.32 | 2.32 | 2.32 | 2.32 | 2.32 | 2.32 | 2.32 | 2.32 |
| 日平均 排出量 | し尿 | (KL/日) | 25.4 | 25.0 | 24.1 | 23.7 | 23.3 | 22.0 | 21.4 | 20.7 | 20.1 | 19.5 | 18.8 | 18.3 | 17.8 | 17.3 | 16.8 |
| | 浄化槽汚泥 | (KL/日) | 36.7 | 37.5 | 37.8 | 36.4 | 37.7 | 34.8 | 33.7 | 32.6 | 31.7 | 30.6 | 29.6 | 28.9 | 28.1 | 27.3 | 26.6 |
| | 集落排水汚泥 | (KL/日) | 13.5 | 13.5 | 13.5 | 13.6 | 13.8 | 13.2 | 13.1 | 13.0 | 12.8 | 12.7 | 12.6 | 12.3 | 12.0 | 11.8 | 11.5 |
| | 合計 | (KL/日) | 75.6 | 76.0 | 75.4 | 73.7 | 74.8 | 70.0 | 68.2 | 66.3 | 64.6 | 62.8 | 61.0 | 59.5 | 57.9 | 56.4 | 54.9 |
| 年間 排出量 | し尿 | (KL/日) | 9,265 | 9,119 | 8,795 | 8,675 | 8,512 | 8,047 | 7,800 | 7,577 | 7,343 | 7,102 | 6,869 | 6,713 | 6,506 | 6,319 | 6,147 |
| | 浄化槽汚泥 | (KL/日) | 13,380 | 13,684 | 13,799 | 13,321 | 13,765 | 12,688 | 12,291 | 11,932 | 11,562 | 11,182 | 10,808 | 10,566 | 10,248 | 9,961 | 9,696 |
| | 集落排水汚泥 | (KL/日) | 4,934 | 4,924 | 4,936 | 4,981 | 5,020 | 4,823 | 4,784 | 4,757 | 4,682 | 4,637 | 4,589 | 4,504 | 4,395 | 4,298 | 4,202 |
| | 合計 | (KL/日) | 27,579 | 27,727 | 27,530 | 26,977 | 27,297 | 25,558 | 24,875 | 24,266 | 23,587 | 22,921 | 22,266 | 21,783 | 21,149 | 20,578 | 20,045 |

(備考) 1 し尿量(日平均) = し尿収集人口 × し尿の1人1日平均排出量 (L/人・日) / 1000

2 浄化槽汚泥量(日平均) = 浄化槽(合併+単独)人口 × 浄化槽汚泥の1人1日平均排出量 (L/人・日) / 1000

3 集落排水汚泥量(日平均) = 集落排水施設人口 × 集落排水汚泥の1人1日平均排出量 (L/人・日) / 1000

※年間量は、その年度の日数(365日または366日)を乗じて算出

※年間量は、その年度の日数(365日または366日)を乗じて算出

※年間量は、その年度の日数(365日または366日)を乗じて算出

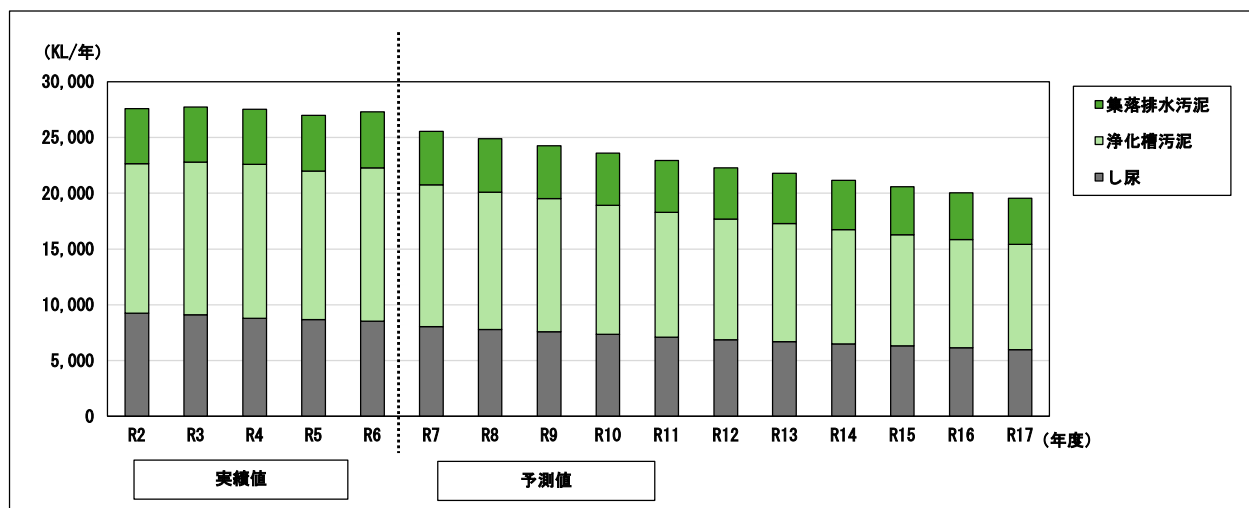


図 2-3-3 西海市汚泥再生処理センター処理対象（し尿・浄化槽汚泥・集落排水汚泥）量の予測結果

2) 西海市炭化センター処理対象（コミプラ汚泥・汚泥再生処理センター汚泥・下水汚泥）

(1) 将来のコミプラ人口、公共下水道人口

前項の「生活排水処理形態別人口の将来予測」で得られた「コミュニティ・プラント人口」、「公共下水道人口」を用います。

(2) 将来の汚泥再生処理センター要処理量

前項の「西海市汚泥再生処理センター処理対象（し尿・浄化槽汚泥・集落排水汚泥）」で得られた「年間排出量（合計）」を用います。

(3) 1人1日平均排出量、発生原単位

量の将来予測に用いる「1人1日平均排出量」、「発生原単位」は、過去3年間（令和4年度～令和6年度）の実績の平均値とします。

表 2-3-3 量の予測に用いる1人1日平均排出量、発生原単位

| 区 分 | | 年度 | R4 | R5 | R6 | 採用 過去3年平均 |
|---------------|-----------------------------|----|------|------|-----|--------------|
| | | | | | | |
| 1人1日 平均排出量 | コミプラ汚泥・し渣 (g/人・日) | | 143 | 85 | 107 | 112 |
| | 下水汚泥・し渣 (g/人・日) | | 193 | 185 | 177 | 185 |
| 発生原 単位 | 汚泥再生処理センター 汚泥・し渣 (kg/kL) | | 14.9 | 14.0 | 137 | 14.2 |

(4) コミプラ汚泥量・汚泥再生処理センター汚泥量・下水汚泥量の将来予測

前項までに設定した各人口にそれぞれの「1人1日平均排出量」を乗じて、または汚泥再生処理センター要処理量に「発生原単位」を乗じて、量の将来予測を行うと、表2-3-4、図2-3-4のとおりとなります。

表 2-3-4 西海市炭化センター処理対象（コミプラ汚泥・汚泥再生処理センター汚泥・下水汚泥）量の予測結果

| 区分 | 年度 | 実績値 | | | | | 予測値 | | | | | | | | | | |
|--------------------|--------------|---------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| | | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | R8 | R9 | R10 | R11 | R12 | R13 | R14 | R15 | R16 | R17 |
| コミプラ人口 | (人) | 3,560 | 3,346 | 3,263 | 3,376 | 3,403 | 3,332 | 3,265 | 3,199 | 3,132 | 3,066 | 3,000 | 2,937 | 2,874 | 2,811 | 2,748 | 2,685 |
| 公共下水道人口 | (人) | 2,196 | 2,266 | 2,341 | 2,439 | 2,494 | 2,477 | 2,504 | 2,528 | 2,525 | 2,544 | 2,559 | 2,551 | 2,563 | 2,573 | 2,559 | 2,563 |
| 1人1日 平均排出量 | コミプラ汚泥・し渣 | (g/人・日) | 116 | 125 | 143 | 85 | 107 | 112 | 112 | 112 | 112 | 112 | 112 | 112 | 112 | 112 | 112 |
| | 下水汚泥・し渣浄化槽汚泥 | (g/人・日) | 207 | 208 | 193 | 185 | 177 | 185 | 185 | 185 | 185 | 185 | 185 | 185 | 185 | 185 | 185 |
| 日平均 排出量 | コミプラ汚泥・し渣 | (kg/日) | 414 | 419 | 466 | 287 | 364 | 373 | 364 | 358 | 351 | 342 | 337 | 328 | 321 | 315 | 307 |
| | 下水汚泥・し渣浄化槽汚泥 | (kg/日) | 455 | 471 | 452 | 451 | 441 | 458 | 463 | 467 | 468 | 471 | 474 | 473 | 474 | 477 | 474 |
| 年間 排出量 | コミプラ汚泥・し渣 | (t/年) | 151 | 153 | 170 | 105 | 133 | 136 | 133 | 131 | 128 | 125 | 123 | 120 | 117 | 115 | 112 |
| | 下水汚泥・し渣浄化槽汚泥 | (t/年) | 166 | 172 | 165 | 165 | 161 | 167 | 169 | 171 | 171 | 172 | 173 | 173 | 173 | 174 | 173 |
| 汚泥再生 処理 センター | 要処理量 | (KL/年) | 27,579 | 27,727 | 27,530 | 26,977 | 27,297 | 25,558 | 24,875 | 24,266 | 23,587 | 22,921 | 22,266 | 21,783 | 21,149 | 20,578 | 20,045 |
| | 汚泥・し渣発生原単位 | (kg/KL) | 15.9 | 15.6 | 14.9 | 14.0 | 13.7 | 14.2 | 14.2 | 14.2 | 14.2 | 14.2 | 14.2 | 14.2 | 14.2 | 14.2 | 14.2 |
| | 汚泥・し渣 日平均量 | (kg/日) | 1,203 | 1,184 | 1,126 | 1,036 | 1,022 | 995 | 967 | 943 | 918 | 890 | 866 | 844 | 822 | 800 | 781 |
| | 汚泥・し渣 年間量 | (t/年) | 439 | 432 | 411 | 379 | 373 | 363 | 353 | 345 | 335 | 325 | 316 | 309 | 300 | 292 | 285 |
| 日平均排出量 合計 | (kg/日) | 2,072 | 2,074 | 2,044 | 1,774 | 1,827 | 1,826 | 1,794 | 1,768 | 1,737 | 1,703 | 1,677 | 1,645 | 1,617 | 1,592 | 1,562 | 1,533 |
| 年間排出量 合計 | (t/年) | 756 | 757 | 746 | 649 | 667 | 666 | 655 | 647 | 634 | 622 | 612 | 602 | 590 | 581 | 570 | 561 |

(備考) 1 コミプラ汚泥・し渣量(日平均) = コミプラ人口 × コミプラ汚泥・し渣の1人1日平均排出量(L/人・日) / 1000

2 下水汚泥・し渣量(日平均) = 公共下水道人口 × 下水汚泥・し渣の1人1日平均排出量(L/人・日) / 1000

3 汚泥再生処理センター汚泥・し渣量(年間量) = 要処理量(kL/年) × 汚泥・し渣発生原単位(kg/kL) / 1000

※年間量は、その年度の日数(365日または366日)を乗じて算出

※年間量は、その年度の日数(365日または366日)を乗じて算出

※日平均量は、その年度の日数(365日または366日)で除して算出

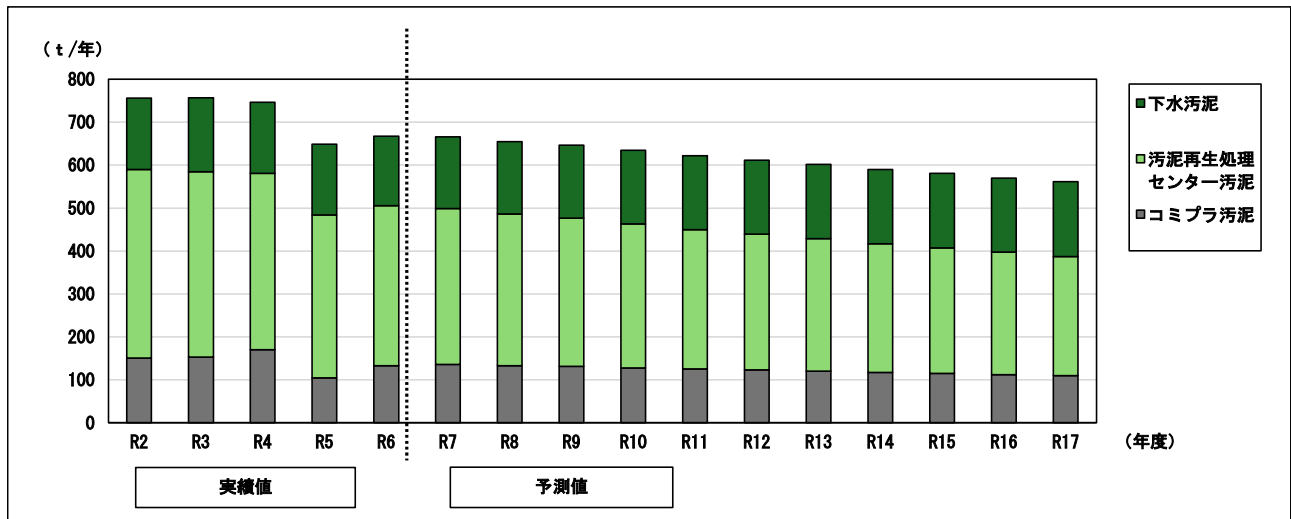


図 2-3-4 西海市炭化センター処理対象
(コミプラ汚泥・汚泥再生処理センター汚泥・下水汚泥) 量の予測結果

第3編 市民アンケート 調査報告書（概要）

市民アンケートの調査結果（概要）

2. ごみの種類について

Q7 現在のごみの種類（6種類17分別）について Q8 やや不満、不満とお答えした方へのご質問（複数回答化）

| | 回答数 | 割合 |
|------|-----|--------|
| 満足 | 181 | 24.7% |
| やや満足 | 99 | 13.5% |
| 普通 | 298 | 40.6% |
| やや不満 | 122 | 16.6% |
| 不満 | 31 | 4.2% |
| 無回答 | 3 | 0.4% |
| 合計 | 734 | 100.0% |

| やや不満・不満の内容 | 回答数 | 割合 |
|------------------|-----|--------|
| ごみの種類(分別項目)が多すぎる | 109 | 56.5% |
| ごみの種類(分別項目)が少ない | 2 | 1.0% |
| 分別が難しい | 56 | 29.0% |
| その他 | 26 | 13.5% |
| 合計 | 193 | 100.0% |

ごみの種類に関する主な意見

- ・回収頻度が極端に少ない
- ・分別がわからない品目がある
- ・高齢者は加齢とともに分別が困難になる

Q9 現在の分別の他に増やした方がいい項目がありますか。

| 分別に増やしたい項目 | 回答数 | 割合 |
|------------|-----|--------|
| ない | 599 | 81.6% |
| ある | 89 | 12.1% |
| 無回答 | 46 | 6.3% |
| 合計 | 734 | 100.0% |

増やしたい主な項目は以下の通り

- ・廃油、廃食油【47】
- ・家電製品、小型家電製品【7】
- ・リチウムイオン電池【5】

3. ごみの収集方法について

Q10 収集方法について Q11 ごみステーションについてお尋ねします。（複数回答可）

| | 回答数 | 割合 |
|------|-----|--------|
| 満足 | 238 | 32.4% |
| やや満足 | 115 | 15.7% |
| 普通 | 304 | 41.4% |
| やや不満 | 53 | 7.2% |
| 不満 | 16 | 2.2% |
| 無回答 | 8 | 1.1% |
| 合計 | 734 | 100.0% |

| ごみステーションについて | 回答数 | 割合 |
|-----------------------|-----|--------|
| そのままよい | 578 | 76.6% |
| ごみステーションが少ない(増やしてほしい) | 59 | 7.8% |
| ごみステーションが小さい | 60 | 7.9% |
| その他 | 58 | 7.7% |
| 合計 | 755 | 100.0% |

ごみステーションに関する主な意見

- ・ごみステーションが遠い
- ・月曜日は特にごみが多く溢れている
- ・駐車スペースがあるステーションに集中する
- ・ごみステーションの鉄扉が重い。特に高齢者には開閉が困難で危険
- ・雨対策が必要、屋根がない
- ・カラス、ネコ、イノシシの被害がある。網目を小さくする等の対策が必要
- ・ごみ出しの日じゃない日に出す人がいる
- ・中に入れずに外に出している、ごみの分別が悪くよく残されている
- ・月に1度でも日曜日にどこかで1日中受け付けてほしい
- ・回収が早すぎて間に合わない時がある

Q12 拠点回収でプラスチック製容器包装・白色トレイ・その他のプラスチック・有害ごみ（電池、蛍光管）を回収していますが、拠点回収を利用していますか。

| 拠点回収の利用 | 回答数 | 割合 |
|----------|-----|--------|
| 利用している | 511 | 69.6% |
| 時々利用している | 126 | 17.2% |
| 利用していない | 74 | 10.1% |
| 知らない | 17 | 2.3% |
| 無回答 | 6 | 0.8% |
| 合計 | 734 | 100.0% |

Q13 12で「利用している」、「時々利用している」と回答した方へ伺います。現在の拠点回収について、どの程度満足していますか。

| 拠点回収の満足度 | 回答数 | 割合 |
|----------|-----|--------|
| 満足 | 189 | 29.7% |
| やや満足 | 101 | 15.9% |
| 普通 | 214 | 33.6% |
| やや不満 | 93 | 14.6% |
| 不満 | 32 | 5.0% |
| 無回答 | 8 | 1.3% |
| 合計 | 637 | 100.1% |

Q14 Q13で「やや不満」、「不満」と回答した方へお尋ねします。拠点回収についてやや不満、不満と思う理由は何ですか。

| やや不満、不満の内容 | 回答数 | 割合 |
|---------------------|-----|--------|
| 収集頻度が少ない | 25 | 21.9% |
| 拠点まで距離があり、持って行くのが大変 | 34 | 29.8% |
| 分別区分が多い。分別が大変。 | 13 | 11.4% |
| その他 | 37 | 32.5% |
| 無回答 | 5 | 4.4% |
| 合計 | 114 | 100.0% |

主な意見は以下の通り

- ・回収時間が早い
- ・前日夕方がよい
- ・24時間車で受け付ける場所が欲しい
- ・拠点回収場所がせまい
- ・容器に入りきれない
- ・当番をするのが大変
- ・高齢化による人員不足
- ・もっと区分を増して（有害ごみ等）リサイクルする
- ・拠点回収方式を廃止し、ステーション方式が良い
- ・無人回収ステーションが欲しい

Q15 Q12で「時々利用している」、「利用していない」、「知らない」と回答した方へ伺います。プラスチックごみはどのように処分していますか。（複数回答可）

| プラスチックごみの処分 | 回答数 | 割合 |
|----------------------|-----|--------|
| もえるごみとして処分している | 133 | 55.9% |
| リサイクルセンターへ持ち込みをしている | 27 | 11.3% |
| スーパーなどの無人回収場所を利用している | 63 | 26.5% |
| その他 | 15 | 6.3% |
| 合計 | 238 | 100.0% |

プラスチックごみの処分方法。

- ・プラスチックごみとして出している
- ・コープで回収してもらう
- ・白色トレイ、プラスチックはスーパーに持ち込む
- ・寮内のゴミ捨て場で回収
- ・職場に持ち込み
- ・焼却

Q16 Q12で「時々利用している」、「利用していない」、「知らない」と回答した方へ伺います。有害ごみ（電池、蛍光管）はどのように処分していますか。（複数回答可）

| 有害ごみの処分 | 回答数 | 割合 |
|-----------------------|-----|--------|
| もえないごみとして処分している | 84 | 39.8% |
| リサイクルセンターへ持ち込みをしている | 33 | 15.6% |
| 家電量販店などの無人回収場所を利用している | 47 | 22.3% |
| その他 | 47 | 22.3% |
| 合計 | 211 | 100.0% |

有害ごみ（電池、蛍光管）の処分方法。

- ・ごみステーションへ持って行っている
- ・家に置いている
- ・寮で収集
- ・長崎市内へ持込
- ・実家に持って行き捨ててもらっている
- ・職場で処分

Q17 プラスチック製容器包装の収集について、「拠点回収方式」から「ステーション回収方式（ごみ袋方式）」への変更することとなった場合どう思いますか。

| | 回答数 | 割合 |
|-------|-----|--------|
| 賛成 | 249 | 34.0% |
| やや賛成 | 142 | 19.4% |
| わからない | 131 | 17.9% |
| やや反対 | 84 | 11.5% |
| 反対 | 112 | 15.3% |
| 無回答 | 15 | 2.0% |
| 合計 | 733 | 100.1% |

Q18 Q17で「賛成」、「やや賛成」と回答した方に伺います。その理由はどうしてですか。（複数回答可）

| 賛成、やや賛成の理由 | 回答数 | 割合 |
|--------------------|-----|--------|
| ステーションに出せるので便利である | 291 | 41.1% |
| ごみの分別がしやすくなる | 77 | 10.9% |
| ごみが出しやすくなる | 155 | 21.9% |
| 当番に出なくていいので負担がなくなる | 161 | 22.7% |
| その他 | 24 | 3.4% |
| 合計 | 708 | 100.0% |

ステーション回収方式に賛成の理由

- ・拠点まで遠い、ステーションは近い
- ・当番の人に捨てる物を見られなくていい
- ・出勤時間の都合や高齢化により、当番が困難
- ・当番の人がらくになる（悪天候、回収日が土曜日）
- ・自治会の負担が減る、自治会未加入者が利用しやすい
- ・月2回の回収では家に置き場がない
- ・ゴミ袋をプラ包装に入れて出せるようにしてほしい

Q19 Q17で「やや反対」、「反対」と回答した方に伺います。その理由はどうしてですか。（複数回答可）

| 反対、やや反対の理由 | 回答数 | 割合 |
|---------------|-----|--------|
| ごみ袋料金の負担が増える | 135 | 41.8% |
| 拠点回収方式で満足している | 91 | 28.2% |
| 分別が悪くなる | 71 | 22.0% |
| 地域コミュニティがなくなる | 14 | 4.3% |
| その他 | 12 | 3.7% |
| 合計 | 323 | 100.0% |

ステーション回収方式に反対の理由

- ・スペース的にせまい
- ・ごみ袋の負担金額が心配
- ・拠点回収の場所が少し遠いので今後歩けるか心配
- ・ステーションと拠点と2箇所にして欲しい
- ・分別がますます悪くなるのでは？
- ・もえるごみ、プラスチック一緒に出してしまう
- ・地域の調整が困難になる（当番等）
- ・捨てる側、回収する側にとって効率的かがわからない

Q20 現在の粗大ごみのステーション収集方式について、どの程度満足していますか。

| 粗大ごみのステーション 収集方式 | 回答数 | 割合 |
|---------------------|-----|--------|
| 満足 | 192 | 26.2% |
| やや満足 | 126 | 17.2% |
| 普通 | 332 | 45.2% |
| やや不満 | 54 | 7.4% |
| 不満 | 22 | 3.0% |
| 無回答 | 8 | 1.1% |
| 合計 | 734 | 100.1% |

Q21 Q20で「満足」、「やや満足」と回答した方に伺います。

| 満足、やや満足の理由 | 回答数 | 割合 |
|-------------|-----|-------|
| 収集場所が近いので便利 | 259 | 55.2% |
| 収集の手続きが簡単 | 115 | 24.5% |
| 粗大ごみ手数料が安い | 86 | 18.3% |
| その他 | 9 | 1.9% |
| 合計 | 469 | 99.9% |

粗大ごみのステーション回収方式に満足な理由

- ・腰が悪く重い物を遠くまで運べないから
- ・崎戸まで行かなくていい
- ・手数料を少し値上げしても良いと思う
- ・あまり出さない

Q22 Q20で「やや不満」、「不満」と回答した方に伺います。

| 不満、やや不満の理由 | 回答数 | 割合 |
|-------------|-----|--------|
| 収集場所が遠いので不便 | 20 | 18.9% |
| 収集日が少ない | 31 | 29.2% |
| 粗大ごみ手数料が高い | 29 | 27.4% |
| その他 | 26 | 24.5% |
| 合計 | 106 | 100.0% |

粗大ごみのステーション回収方式に不満な理由

- ・年齢や障害により重いものを1人で運べない
- ・大きく重いものが多く、距離が遠いため搬送が困難
- ・家の部屋まで取りに来てほしい、料金も取って
- ・収集場所が狭い
- ・駐車できるところに粗大ゴミは集まるので改善してほしい
- ・シールを買いに行くのが手間
- ・シールを販売している所がわからない
- ・粗大ゴミシール代が高い
- ・雨の日に出せないこと
- ・前日に出せるようにしてほしい

Q23 現在、古紙（段ボール、雑誌ほか）はどうやって捨てていますか。

| 古紙（段ボール、雑誌ほか） の処分 | 回答数 | 割合 |
|------------------------|-----|-------|
| ごみステーションに出している | 486 | 69.6% |
| 古紙回収庫に入れている（大瀬戸地区のみ） | 45 | 6.4% |
| 地区や婦人会等の回収へ出している（集団回収） | 25 | 3.6% |
| 古紙回収業者に出している（無人回収場所含む） | 55 | 7.9% |
| もえるごみに入れている | 49 | 7.0% |
| その他 | 24 | 3.4% |
| 無回答 | 14 | 2.0% |
| 合計 | 698 | 99.9% |

古紙の処分方法

- ・リサイクルBOX
- ・リサイクルセンターへ持ち込み
- ・大島のセンターに持って行っている
- ・地区拠点場へ持ち込み
- ・お店（スーパー、農産直売所）に持って行っている
- ・よその回収場所に持っていく
- ・職場に持ち込み
- ・寮内の回収場所に捨てている
- ・段ボールは燃やす、雑誌は出す
- ・家で燃やしている

4. ごみを出す回数（収集頻度）について

Q24 もえるごみは、週2回収集されているが。

| もえるごみの処分 | 回答数 | 割合 |
|-------------|-----|-------|
| そのままがいい | 630 | 85.8% |
| 週3回に増やしてほしい | 84 | 11.4% |
| 週1回に減らしてもよい | 2 | 0.3% |
| その他 | 9 | 1.2% |
| 無回答 | 9 | 1.2% |
| 合計 | 734 | 99.9% |

もえるごみの収集頻度

- 夏は臭いが気になるので増やして欲しい
- 曜日を変更して欲しい

Q25 缶は、月2回収集されているが。

| 缶の処分 | 回答数 | 割合 |
|-------------|-----|--------|
| そのままがいい | 602 | 82.0% |
| 月3回に増やしてほしい | 89 | 12.1% |
| 月1回に減らしてもよい | 32 | 4.4% |
| その他 | 4 | 0.5% |
| 無回答 | 7 | 1.0% |
| 合計 | 734 | 100.0% |

缶の収集頻度

- 夏場は増やしてほしい

Q26 ペットボトルは、月2回収集されているが。

| ペットボトルの処分 | 回答数 | 割合 |
|-------------|-----|--------|
| そのままがいい | 582 | 79.3% |
| 月3回に増やしてほしい | 109 | 14.9% |
| 月1回に減らしてもよい | 25 | 3.4% |
| その他 | 8 | 1.1% |
| 無回答 | 10 | 1.4% |
| 合計 | 734 | 100.1% |

ペットボトルの収集頻度

- 夏場は増やしてほしい
- 毎週集めたら良い
- 回収BOXを利用

Q27 びんは、月1回収集されているが。

| びんの処分 | 回答数 | 割合 |
|-------------|-----|--------|
| そのままがいい | 604 | 82.3% |
| 月2回に増やしてほしい | 118 | 16.1% |
| その他 | 5 | 0.7% |
| 無回答 | 7 | 1.0% |
| 合計 | 734 | 100.1% |

びんの収集頻度

- 月1回でも良い
- 偶数月だけでもよいと思う。あまり瓶は捨てません
- ゴミステーションにいつでも置けるスペースが欲しい

Q28 もえないごみは、月1回収集されているが。

| もえないごみの処分 | 回答数 | 割合 |
|-------------|-----|--------|
| そのままがいい | 494 | 67.3% |
| 月2回に増やしてほしい | 224 | 30.5% |
| その他 | 5 | 0.7% |
| 無回答 | 11 | 1.5% |
| 合計 | 734 | 100.0% |

もえないごみの収集頻度

- 2か月に1回でよい
- 瓶と同じく偶数月で良いと思う。あまり出さないの
- もっと減らしてもよい

Q29 粗大ごみは、月1回収集されているが。

| 粗大ごみの処分 | 回答数 | 割合 |
|-------------|-----|--------|
| そのままがいい | 576 | 78.5% |
| 月2回に増やしてほしい | 134 | 18.3% |
| その他 | 9 | 1.2% |
| 無回答 | 15 | 2.0% |
| 合計 | 734 | 100.0% |

粗大ごみの収集頻度

- ・2～3か月に1回でよい
- ・偶数月でも良いと思う
- ・もっと減らしてもよい
- ・長期連休のあと、GW明けや年始に回収して欲しい
- ・粗大ごみをだせない。もっていけない。
- ・電話申し込みで個別収集してほしい

Q30 古紙類（段ボール、雑誌等）は、月2回収集されているが。

| 古紙類の処分 | 回答数 | 割合 |
|-------------|-----|--------|
| そのままがいい | 621 | 84.6% |
| 月3回に増やしてほしい | 56 | 7.6% |
| 月1回に減らしてもよい | 35 | 4.8% |
| その他 | 9 | 1.2% |
| 無回答 | 13 | 1.8% |
| 合計 | 734 | 100.0% |

古紙類の収集頻度

- ・毎週が良い
- ・雨の日の収集もお願いします
- ・今のまま業者の回収
- ・古紙回収に出しているので実感がありません
- ・利用していない

Q31 布類は、月2回収集されているが。

| 布類の処分 | 回答数 | 割合 |
|-------------|-----|--------|
| そのままがいい | 620 | 84.5% |
| 月3回に増やしてほしい | 29 | 4.0% |
| 月1回に減らしてもよい | 64 | 8.7% |
| その他 | 8 | 1.1% |
| 無回答 | 13 | 1.8% |
| 合計 | 734 | 100.1% |

布類の収集頻度

- ・2～3か月に1回でよい
- ・もえるごみで出させて欲しい
- ・必要性を感じないので不要
- ・収集しなくても良いと思う

Q32 拠点回収でプラスチック製容器包装・白色トレイ・その他プラスチック・有害ごみ（電池、蛍光灯）は、月2回収集されているが

| プラスチック製容器包装・白色トレイ・その他 プラスチック・有害ごみの処分 | 回答数 | 割合 |
|---|-----|--------|
| そのままがいい | 581 | 79.2% |
| 月3回に増やしてほしい | 57 | 7.8% |
| 毎週1回に増やしてほしい | 40 | 5.4% |
| 月1回に減らしてもよい | 25 | 3.4% |
| その他 | 22 | 3.0% |
| 無回答 | 9 | 1.2% |
| 合計 | 734 | 100.0% |

プラ、有害ごみの収集頻度

- ・拠点回収なしでステーションにしてほしい
- ・週1ごみステーション回収をお願いしたい
- ・ごみステーション回収にして月2回にしてほしい
- ・回数はそのままでステーション回収にして欲しい。
- ・当番がないようにしてほしい、増えればそのまま
- ・プラも5週目に取ってほしい（3週空きたまる）
- ・有害ごみだけになったら月1回に減らしてもよい
- ・分別しにくい、市のように専用の袋がほしい
- ・塩田地区は月1回なので2回にしてほしい
- ・汚れたままで悪臭がひどい方が多いので可燃物が良い

5. ごみ減量化について

Q33 生ごみの処分方法について。

| 生ごみの処分方法について | 回答数 | 割合 |
|------------------------------|-----|--------|
| 水切りをしないでそのままもえるごみに出している | 53 | 7.5% |
| 水切りネットなどで水切りをしてもえるごみに出している | 593 | 83.6% |
| もえるごみには出さなくて肥料等で使用している | 27 | 3.8% |
| 電気式生ごみ処理機を使用してもえるごみに出している | 3 | 0.4% |
| 生ごみ処理機(コンポスト)を使って肥料として使用している | 16 | 2.3% |
| その他 | 7 | 1.0% |
| 無回答 | 10 | 1.4% |
| 合計 | 709 | 100.0% |

生ごみの処分方法について

- 水切りをして袋（ビニール袋、紙袋等）
- 場合により水を切ったり、そのままですべて出しています
- 生ごみの袋で出している
- 畑の隅に捨てています

Q34 廃食油のリサイクルについてどう思いますか。

| 廃油のリサイクルについて | 回答数 | 割合 |
|-----------------------|-----|--------|
| 今のままでいい | 536 | 73.0% |
| 回収してリサイクル燃料などに活用してほしい | 156 | 21.3% |
| その他 | 18 | 2.5% |
| 無回答 | 24 | 3.3% |
| 合計 | 734 | 100.1% |

廃食油のリサイクルについて

- 油など簡単に回収できる方法があれば回収希望
- 業者が取にくる日が決まっていればリサイクルしたい
- 費用対効果次第
- 廃食油はリサイクルという手段もありだとは思っている
- ガソリンスタンドで引き取ってもらっている。無料で。
- 実際問題として、面倒くさい

Q35. ごみの収集等について、改善すべきと思うことや困ったこと

■ マナー・ルールについて

- ルールを守らない人を指導してほしい
- ゴミ収集日を全市民に周知を徹底してほしい。
- ゴミ出しのルールが守られていない世帯も多く、地域住民が困っている。継続した啓発活動が必要と思います。
- 自分の組合のゴミステーションに入れずに、通勤中のゴミステーションに入れている人がいるので各組合の人に徹底してもらいたい
- 収集できない物が入っている袋に黄色いシールがはられていますが、いつまでもそのままなのが時々あります。見かねて何度か持ち帰り、収集しなおした事があります。
- 粗大ごみを出したら地域の方が自宅に持って帰ったのを見ました。ごみに出したのを持って帰っていいの？
- 外国人のゴミの出し方等、トラブルがないよう指導・教育を徹底してもらいたい
- 近所でたまにごみ焼きをして煙を発生させているお宅があります。火事が心配です。条例等で厳しく禁止していただきたい。

■ 分別について

- 西海市は分別も面倒くさいし、当番など他の市に比べて大変だと思う。もう少しゆるくしていただきたいです。
- 中身を見られたくないのに黒いビニールをかぶせて出したら持っていかなかった。透明の袋を重ねて出しているが、中身が分からないのは変わらない。黒がだめな理由が分からない。
- 家庭ごみ分別辞典について、各家庭に1冊は再度配布してほしい

■ 増やしてほしい品目について

- 電気製品、冷蔵庫、テレビ、洗濯機等の回収が市で行えないか（山、畑等に不法投棄されている）
- 家電の回収をして家電量販店に回収のお願いをしてほしい。連携してほしい。

- ・リチウムイオン電池の製品を市で回収していただくと助かります
- ・金属や鉄くず等回収をしてほしい
- ・雑草の出し方。市既定の袋でなく半透明の袋でも可能にしてほしい。
- ・廃食油の回収の仕方を（時々）考えてほしい

■ステーションについて

- ・ステーションが遠い。歳をとったり足が不自由になったりしたら行けない。
- ・ステーションを増やすよりも行きやすいようにしてほしい。駐車場がなくて行きにくい。
- ・ステーションのもえるごみ収集ボックスを現状より大きくしてほしい
- ・ゴミステーションにゴミが入りきらずあふれています。動物にあらされ散乱するので回収かごを増やしてほしい。特に人口が増えているところに希望します。
- ・一箇所にゴミが集中して出る時がある。ゴミステーションの看板がわからない人がいるのでは？
- ・分別や回収日の問題で回収されないゴミが、ステーションに残ったままになっている、その対処を考えてほしい
- ・ゴミが長期で収集場所に放置されている場合は、地域へ連絡するように収集業者との連絡体制を考慮して欲しい
- ・回収されず残されたゴミは、近くの人が持ち帰り出しなおすはめになります。最後は市で回収してもらえませんか。ステーション近くの人々の善意にたよりすぎでは？
- ・ゴミステーションは市が管理してほしい。自治会に入っていない者と入っている者との立場と市が言うのであれば市が管理すべき。
- ・カラスや猫の被害で周囲が汚れる（ごみ量が多い時）。個人でネットを持参したこともある。
- ・指定袋ではない袋に入れて置いている方がいる。防犯カメラなどを設置してほしい。不審物などがあった場合どのような対応をするのか心配。
- ・ふた扉が重すぎて開けてしまうと閉めるのに手が届かない人もいる。ステーションを交換する時がきたら横に開く扉も考えていただけたらありがたい。

■拠点回収について

- ・月2回のプラ当番は、年齢も高くなったりメンバーが減ったりしてたいへん！
- ・高齢化が進み当番に出られない人が増えてきて困っています。多くの人から早くステーション方式にならないかといった声が聞かれます。
- ・拠点回収の当番をなくしてほしい。地区によっては人が減り、高齢化も進んでいて負担になっている。
- ・共働き世帯にとって拠点回収の当番制は苦になります。
- ・拠点回収をやめて欲しい。仕事がある人もいるのに何故住民がやらなければいけないのか！西海市で雇った人をそれぞれの拠点に配置すべき！
- ・仕事をしているので当番で立つのは本当に大変です。当番の人にも家庭のゴミを見られ、プライバシーの問題にもならないのかな？と思います。
- ・市役所職員も拠点回収に立ち合ってもらいたいです。現状を見てください。

■プラスチックごみについて

- ・プラごみをもえるごみと一緒にの袋で出せるようにした方がいい。高齢者で一人暮らしの方の分別を少しでも減らした方がいい。
- ・プラスチック類ももえるゴミとして焼却できれば火力アップにもつながり良いのでは
- ・プラごみは日常の中でも多くあるので拠点回収では足りない。ステーション回収にしてほしい。
- ・プラ製品が多様化してきてプラではないものもあり、回収されていないことがある。表示の見直し、文字よりも写真が良い場合もあるかなと思います。
- ・プラスチック製容器包装を入れる折りたたみの袋が、1人で組み立てるのが大変です
- ・プラスチックごみについてもアパート単位での拠点对応を検討ください。
- ・新たな集合住宅が建設されるときに、プラごみのステーション設置について強い行政指導をお願いしたい

■粗大ごみについて

- ・粗大ごみを有料で家まで回収に来てもらえたらうれしいです。高齢女性のためステーショ

ンまで運べない。

- ・高齢者宅へ粗大ごみの出張回収があってもいいと思う。（有料・低価格で）

■古紙類について

- ・古紙類回収の日に雨が降った場合どうしたらいいかわからない。地区でプレハブ的な場所（入れておける場所）があれば天候関係なく出せていいのでは？
- ・雨の日の紙類の対応が徹底、周知ができていないのではと感じます
- ・ダンボールのひもでしばるのは難しいです。ガムテープでまとめていいようお願いしたい。

■回収時間について

- ・朝8時締め切りは早いと感じる（9時までが良い）
- ・高齢で、自分でごみを持って行けないためヘルパー等に依頼したいが、曜日の都合がつかない。どのタイミングでも出していいように考えてほしい。

■回収場所について

- ・収集場所が遠く年々出るのがつらい。もう少し収集場所を増やしてほしい。
- ・無人回収箱がプラ製品などにも活用されたら良いのでは。西海町には紙の回収箱もない。缶やびんもそういう場所を活用してはどうでしょうか。

■回収頻度について

- ・燃えるゴミよりもプラゴミの量が多いので回数を増やしてほしい
- ・夏場は生ゴミがにおうので、週3回に増やしてほしい
- ・缶、ペットボトルは夏場と冬場では量も違う。夏場には回数を増やし冬場は回数を減らすことも一考かと思う。
- ・粗大ゴミ回数を増やしてほしい
- ・年始のもえるごみの回収をすぐにしてほしいです。年で1番ゴミが多いときに出せなくて毎年困ります。
- ・年末年始も回収してほしい
- ・回収を増やせば経費がかかる

■ごみ袋について

- ・ごみ袋の料金が高いです。自宅敷地内で焼却したり周辺へ放置したり、問題も出ています。
- ・ごみ袋の無料券等があったらいい（年金生活）
- ・もえるごみの指定袋は(小)の半分程度の(極小)があると重宝します(小では大き過ぎることが多々あります)。
- ・もえないごみの袋はもう少し大きくしてほしい
- ・ゴミ袋がすぐ破れる。何とかして欲しい。

■センターについて

- ・仕事の都合上こまめに捨てる事ができません。リサイクルセンターを活用したりしていますが、できるなら土曜日を終日営業していただくと助かります。
- ・リサイクルセンターへの大型ゴミの持ち込みは本人でないといけないと受け付けてくれない。高齢で行けない場合があるため、予約や委任状などで対応してほしい。
- ・クリーンセンターに持って行っても、分別がとて厳しすぎる。こんなふうだから不法投棄が増えたりする。

■リサイクルについて

- ・ペットボトルや瓶などリサイクル出来るものはポイント化にし、市をあげて取り組んで欲しい
- ・収集したゴミがどうリサイクルされているか、もっと情報を発信してほしいです

■最終処分場について

- ・次の埋め立て候補地もコストを掛けずに炭化センターの近くが良いと思います。将来世代に金食い虫は残したくありません。
- ・ごみの最終処分場の建設予定地は見直しをしてもらいたい。老朽化や自然災害に合うことも想定し、水源の上部に設置する事は絶対にやめるべき。

■お礼

- ・ごみ収集の方、いつも大変だと思えます。ありがとうございます。

- 回収をしてくださる人にありがたいと思っています（特に雨の日など）
- 時々回収する方が袋にシールをはって置いて行くのですが、一週間そのままの時もあります。でもいつの間にかなくなっています。回収業者の方が持って行ってくださるとしたら、ありがとうございます。
- 以前はゴミ袋がよく裂けていましたが、市議の方が各家庭に聞きに来られ改善していただきました。この場を借りてお礼を伝えさせてください。大変助かりました。

■クレーム

- 新聞・ダンボール等が回収されなかったことがあります。扇風機をもえないゴミとして指定の袋に入れて出したところ、回収されませんでした。ルールに従って処理しているのに不誠実です。
- 収集車のマナーが悪いので注意してほしい！歩道に止めたり車線をまたいだり酷い！
- ゴみ収集車が危険な運転をしていることがあった。運転手もあいさつも謝罪もないしもう少し気を付けてほしい。
- リサイクルセンター職員の対応が悪い。もう少し指導してほしい。センター内の流れがわかりにくく、少し間違えただけで横柄、機嫌が悪い。
- リサイクルセンター等の対応が悪い時があった。16時直前で門前払いでした。もう少し柔軟に対応してほしい。

■その他

- 自治会とゴミ出しが密接に関わりすぎていて息苦しいです。
- 終活の一つとして荷物（遺品）を減らす工夫についてセミナーがあってもいいと思います
- 生ゴミ処理機（コンポスト）の補助（購入）を増やしてほしい→生ごみの減量化
- 根本はゴミの減量をする事です。丁寧に説明会を行い、「ゴミの減量」に理解を頂き新しいゴミシステムをしてはどうでしょうか。